

日本女子体育大学 | 2023年度

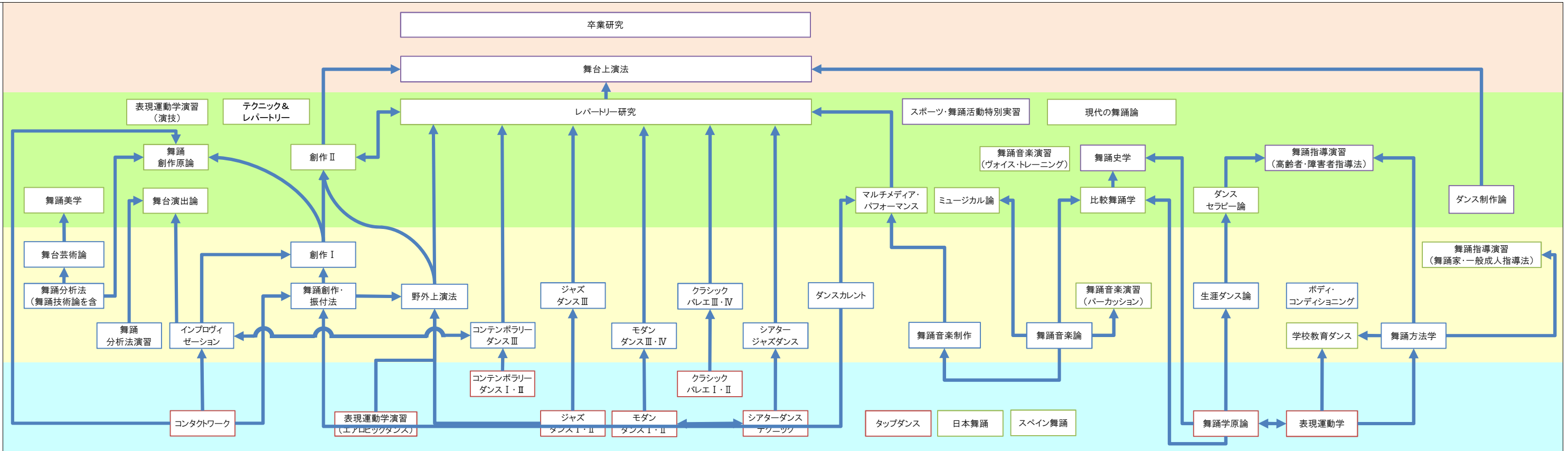
シラバス



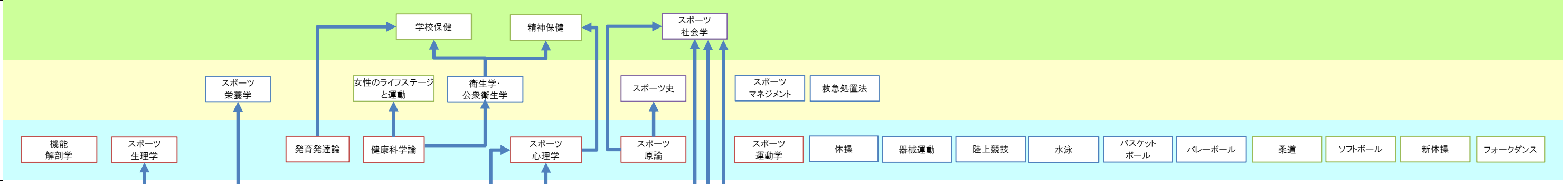
Japan Women's College of Physical Education

ダンス学科 カリキュラムマップ

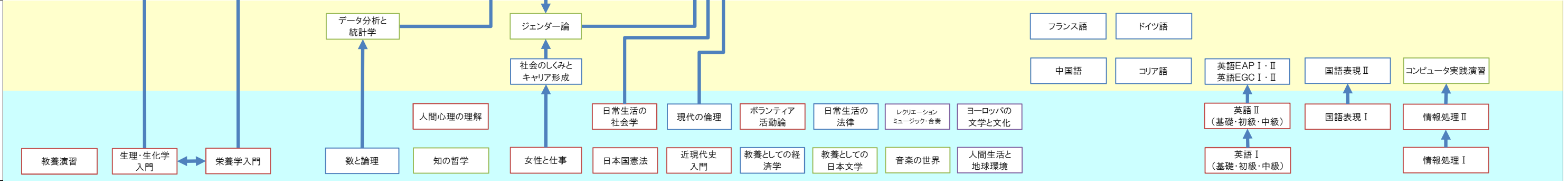
専門基礎教育・専門教育科目



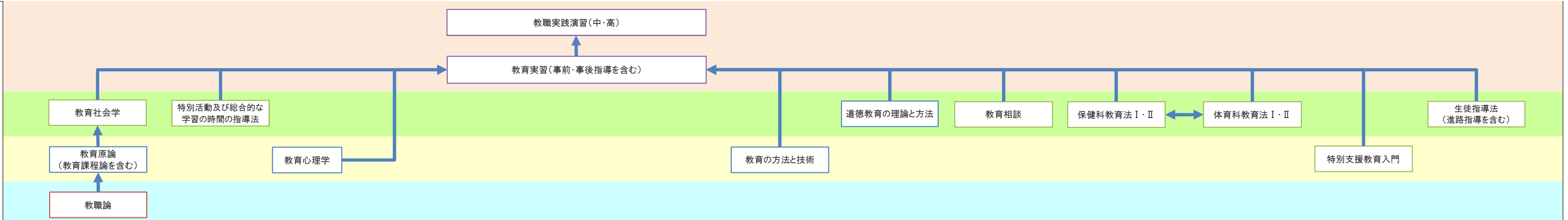
体育関連科目



教養科目



教職科目



ダンス学科 科目ナンバー

1桁目：学科コード (S=スポーツ科学科, D=ダンス学科, H=健康スポーツ学科, C=子ども運動学科) / 2～4桁目：分野コード / 5桁目：授業レベル / 6～7桁目：枝番

分類	基礎科目 (100番台)		初級科目 (200番台)		応用科目 (300番台)		上級科目 (400番台)		
	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	
必修科目	日本国憲法	DLR101	国語表現 II	DLR201					
	女性と仕事	DLR102							
	教養演習	DLR103							
	情報処理 I	DLR104							
	情報処理 II	DLR105							
	国語表現 I	DLR106							
	英語 I (基礎)	DLR107							
	英語 I (初級)	DLR108							
	英語 I (中級)	DLR109							
	英語 II (基礎)	DLR110							
	英語 II (初級)	DLR111							
	英語 II (中級)	DLR112							
	選択科目	栄養学入門	DLE101	英語 E A P I	DLE201				
		生理・生化学入門	DLE102	英語 E G C I	DLE202				
		近現代史入門	DLE103	英語 E A P II	DLE203				
		人間心理の理解	DLE104	英語 E G C II	DLE204				
ボランティア活動論		DLE105	ドイツ語	DLE205					
日常生活の社会学		DLE106	フランス語	DLE206					
教と論理		DLE107	中国語	DLE207					
現代の倫理		DLE108	韓国語	DLE208					
日常生活の法律		DLE109	社会のしくみとキャリア形成	DLE209					
教養としての経済学		DLE110	データ分析と統計学	DLE210					
知の哲学		DLE111	ジェンダー論	DLE211					
教養としての日本文学		DLE112	コンピュータ実践演習	DLE212					
音楽の世界		DLE113							
人間生活と地球環境		DLE114							
ヨーロッパの文学と文化		DLE115							
レクリエーションミュージック・合奏		DLE116							
必修科目	スポーツ運動学	DBR101	スポーツ栄養学	DBR201					
	スポーツ生理学	DBR102	女性のライフステージと運動	DBR202					
	スポーツ原論	DBR103							
	スポーツ心理学	DBR104							
	機能解剖学	DBR105							
	モダンダンス I	DBR106							
	モダンダンス II	DBR107							
	クラシックバレエ I	DBR108							
	クラシックバレエ II	DBR109							
	ジャズダンス I	DBR110							
	ジャズダンス II	DBR111							
	コンテンポラリーダンス I	DBR112							
	コンテンポラリーダンス II	DBR113							
選択科目	健康科学論	DBE101	舞踊分析法 (舞踊技術論を含む)	DBE201	比較舞踊学	DBE301			
	発育発達論	DBE102	生涯ダンス論	DBE202	舞踊美学	DBE302			
	表現運動学演習 (エアロビックダンス)	DBE103	衛生学・公衆衛生学	DBE203	舞踊創作原論	DBE303			
	体操	DBE104	スポーツマネジメント	DBE204	ミュージカル論	DBE304			
	器械運動	DBE105	救急処置法	DBE205	学校保健	DBE305			
	陸上競技	DBE106	スポーツ史	DBE206	精神保健	DBE306			
	水泳	DBE107	舞踊音楽演習 (パーカッション)	DBE207	表現運動学演習 (演技)	DBE307			
	バスケットボール	DBE108			舞踊音楽演習 (ヴォイス・トレーニング)	DBE308			
	バレーボール	DBE109			スポーツ社会学	DBE309			
	新体操	DBE110							
	フォークダンス	DBE111							
	ソフトボール	DBE112							
	柔道	DBE113							
必修科目	表現運動学	DMR101	舞踊創作・振付法	DMR201					
	舞踊学原論	DMR102	舞踊方法学	DMR202					
	シアターダンステクニック	DMR103	舞台芸術論	DMR203					
			舞踊音楽論	DMR204					
			創作 I	DMR205					
			野外上演法	DMR206					
選択科目	タップダンス	DME101	ボディ・コンディショニング	DME201	舞台演出論	DME301	舞台上演法	DME401	
	コンタクト・ワーク	DME102	舞踊分析法演習	DME202	現代の舞踊論	DME302	卒業研究	DME402	
	スペイン舞踊	DME103	舞踊音楽制作	DME203	ダンスセラピー論	DME303			
	日本舞踊	DME104	ダンスカレント	DME204	マルチメディア・パフォーマンス	DME304			
			モダンダンス III	DME205	レパートリー研究	DME305			
			モダンダンス IV	DME206	創作 II	DME306			
			クラシックバレエ III	DME207	テクニク&レパートリー	DME307			
			クラシックバレエ IV	DME208	舞踊史学	DME308			
			ジャズダンス III	DME209	ダンス制作論	DME309			
			シアタージャズダンス	DME210	舞踊指導演習 (高齢者・障害者指導法)	DME310			
			コンテンポラリーダンス III	DME211	スポーツ・舞踊活動特別実習	DME311			
			インプロヴィゼーション	DME212					
			舞踊指導演習 (舞踊家・一般成人指導法)	DME213					
			学校教育ダンス	DME214					
教職科目	教職論	DTE101	教育原論 (教育課程を含む)	DTE201	道德教育の理論と方法	DTE301	教職実践演習 (中・高)	DTE401	
			教育心理学	DTE202	教育社会学	DTE302	教育実習 (事前・事後指導を含む)	DTE402	
			教育の方法と技術	DTE203	教育相談	DTE303			
			特別支援教育入門	DTE204	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	DTE304			
					生徒指導法 (進路指導を含む)	DTE305			
					保健科教育法 I	DTE306			
					保健科教育法 II	DTE307			
					体育科教育法 I	DTE308			
					体育科教育法 II	DTE309			

【卒業認定方針と科目の関連性】

スポーツ科学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ方法	各種運動・スポーツ種目の基本的な技能や戦術を理解するとともに身につけ、実践することができる
⑦	スポーツコンディショニング	スポーツの技能・競技力を最大限に発揮できる身体的・心理的条件を整えるコンディショニングの知識・理論を身につけ実践できる
⑧	スポーツコーチング	競技力を向上させるトレーニング理論や実践的なプログラミング・コーチング理論を身につけ実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

ダンス学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	ダンス芸術	ダンスの身体技能を合理的に構築し、質の高いダンスとして表現できる 作品創作や振付方法、演出方法に関する知識と理論を修得し、高度な表現の実現に応用できる
⑦	ダンス教育	多様な対象に適したダンスの学習目的に応じた内容・方法に関する知識と理論を修得し、幅広くダンス指導に応用できる
⑧	ダンス・マネジメント	ダンス上演やダンス学習を支える環境の管理および方法に関する知識と理論を修得し、実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

健康スポーツ学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ教育	教員として質の高い保健体育の授業を実践し、運動部活動では児童生徒の心身の実態に則した適正な指導を行うことができる。また、地域のスポーツ指導者として地域住民のニーズと実態に応じたスポーツ活動を提供し指導できる
⑦	健康運動指導	健康や体力について専門的に学び、多様な対象者に健康体力の保持・増進を目的とした健康運動指導を行うことができる
⑧	スポーツマネジメント	地域活動やNPO及びビジネスとしてのスポーツなどの効果的な仕組み作りやその運営を行うことができる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

子ども運動学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学習・学問に必要な基礎的スキルの修得
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術の向上
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーの向上
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等への応用力の向上
⑤	キャリア教育	学生の将来に関わる実学的資質の育成
⑥	子どもの運動能力や感性	子どもの運動能力や感性を育てるための働きかけ方を学ぶ
⑦	子どもの健康と発達	子どもの心身の健康に関わる理論や実践方法を学ぶ
⑧	子育て支援	保育を広くとらえ、特別な配慮を必要とする子どもや保護者などへの支援の理論と方法を学ぶ

科目名	日本国憲法				担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR101・DLR101	HLR101・CLR101	卒業認定方針との関連	④	
【到達目標】							
日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
憲法に関する基礎的事項・理論について		理論や学説等を理解し自らまとめて説明できる。		憲法に関する理論や学説を教科書や配布資料を参照しながら説明することができる。		理解が不十分で説明できない。	
憲法に関する研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら自ら説明することができる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
憲法の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について自らの意見を示すことができる。		知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で自らの意見を述べることができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション、なぜ憲法を学ぶか。憲法とはどのような法か。				第9回 社会権			
【到達目標】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 (2) 憲法がどのような法であるのかを理解する。				【到達目標】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
第2回 日本における憲法の歴史				第10回 労働権・労働基本権			
【到達目標】 (1) 大日本帝国憲法の制定過程と、その内容について理解する。 (2) 日本国憲法の制定過程とその基本原則について、大日本帝国憲法と比較しつつ理解する。				【到達目標】 (1) 労働権と労働基本権について理解する。 (2) 公務員の労働基本権に対する制約について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
第3回 基本的人権総論				第11回 象徴天皇制			
【到達目標】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権の種類を理解する。 (3) 基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。				【到達目標】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民民主主義の関係について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書第1章・第11章を熟読する。(4.0hr)			
第4回 法の下での平等				第12回 国会			
【到達目標】 (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。				【到達目標】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民民主権の関係について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
第5回 精神的自由権①				第13回 内閣			
【到達目標】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。				【到達目標】 (1) 行政権の概念について理解する。 (2) 内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
第6回 精神的自由権②				第14回 裁判所①			
【到達目標】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。				【到達目標】 (1) 司法権の概念について理解する。 (2) 司法権の限界について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
第7回 精神的自由権③				第15回 裁判所②			
【到達目標】 (1) 表現の自由の重要性を理解する。 (2) 表現の自由に対する規制について理解する。				【到達目標】 (1) 司法権の独立について理解する。 (2) 違憲審査制について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
第8回 経済的自由権							
【到達目標】 (1) 経済的自由権には具体的にどのようなものがあるかを理解する。 (2) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (3) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。							
【授業時間外学習】 教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事例について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。							
【教科書・参考書など】							
「【合格水準】教職のための憲法 第2版」志田陽子 編著、法律文化社、2023							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。							

科目名	女性と仕事					担当者
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		卒業認定方針との関連	③⑤
【到達目標】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら課題を発見し自律的に思考することによって、4年間の学生生活に取り組み姿勢を確固たるものにする。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、教養高き社会人の基礎を培うとともに、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。						
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 本講義の目的と狙いを理解し、現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を、具体的に書きまとめてみる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)			第9回 社会を知る(7) 講演⑥ 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			
第2回 自己理解と自己分析 【到達目標】 自己理解や自己分析を行う。 【授業時間外学習】 性格・適性診断及びレジリエンス診断を行う。(4.0hr)			第10回 社会を知る(7) 講演⑥ 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			
第3回 社会を知る(1) (ライフプランと資金管理) 【到達目標】 自己のライフイベントと金銭的な面からキャリア形成について考える。業界や業種について知る。 【授業時間外学習】 ライフイベント表・家計予算表を作成する。(4.0hr)			第11回 日本の労働市場と女性 【到達目標】 日本における女性を取り巻く現状や労働問題の概要を知る。 【授業時間外学習】 男女共同参画に関する最新の情報を調べる。(4.0h)			
第4回 社会を知る(2) (女性のワークキャリア) 【到達目標】 社会人基礎力やコミュニケーション能力を高める方法を知る。 【授業時間外学習】 自分が実践すべき具体的事項(マングラチャート)を作成する。(4.0hr)			第12回 基礎知識(1) 雇用保険 【到達目標】 雇用保険制度の概要を学ぶとともに、雇用保険の主な給付(求職者給付、育児介護休業給付等)とその内容を理解する。 【授業時間外学習】 育児休業中・介護休業中の経済支援について調べる。(4.0h)			
第5回 社会を知る(3) 講演① 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			第13回 女性のライフコース 【到達目標】 現代の日本の状況について政府統計等のデータを用いて学ぶとともに、自分自身の将来のライフコースを考える。 【授業時間外学習】 結婚と家族をめぐる基礎データについて調べる。(4.0h)			
第6回 社会を知る(4) 講演② 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			第14回 女性とキャリア 【到達目標】 キャリアと職業の違いから、仕事と人生のバランスについて考える。 【授業時間外学習】 キャリアの転機と折り合いの付け方について調べる。(4.0h)			
第7回 社会を知る(6) 講演③ 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			第15回 女性とキャリア 【到達目標】 多様な女性のキャリア・パターンについて理解するとともに、自己のキャリア形成について考えをまとめる。 【授業時間外学習】 これまでの学修を踏まえ、自己のキャリア形成についてまとめる。(4.0hr)			
第8回 社会を知る(6) 講演④ 【到達目標】 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。 【授業時間外学習】 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			※本シラバスは、令和4年度の内容です。 令和5年度の内容に差し替えが発生する予定です。			
【学習上の留意点】 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し理解を深めていく。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を提供する。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートを提出し授業の達成度を確認する。 授業回により、学生はプレゼンテーション資料を作成し、授業の理解度を確認する。						
【教科書・参考書など】 【オンライン授業の場合】 キャリア・ノート(各自)						
【成績評価方法】 対面授業の場合もオンライン授業の場合も評価方法は変わらない。 原則として、授業への出席・参加(50%)、学期内のレポート・課題(50%)で評価する。						

科目名	教養演習					担当者
英文名	Preparations for Academic Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		卒業認定方針との関連	①③④
【到達目標】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの上昇、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
アカデミック・スキルズについて		スキルズを習得し活用できる		ハンドブック等を参照しながら活用できる		習得が不十分で活用できない
ソーシャル・スキルズについて		スキルズを習得し活用できる		ハンドブック等を参照しながら活用できる		習得が不十分で活用できない
レポート・プレゼンテーションについて		やり方を習得し自分で行うことができる		ハンドブック等を参照しながら行うことができる		習得が不十分で行うことができない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 アイスブレイク 【到達目標】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)			第9回 レポート・論文作成の技術(1) 【到達目標】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第2回 私の学生生活 【到達目標】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。 【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)			第10回 レポート・論文作成の技術(2) 【到達目標】 レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第3回 日本女子体育大学を知る(1) 【到達目標】 日本女子体育大学の創業者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 創業者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			第11回 プレゼンテーションの技術 【到達目標】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。 【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)			
第4回 日本女子体育大学を知る(2) 【到達目標】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。 【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			第12回 専門への架け橋 【到達目標】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)			
第5回 話し合いの技術 【到達目標】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第13回 レポート・プレゼンテーション① 【到達目標】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第6回 ノートテイクの技術 【到達目標】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。 【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第14回 レポート・プレゼンテーション② 【到達目標】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第7回 データを読む技術 【到達目標】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。 【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第15回 レポート・プレゼンテーション③ 【到達目標】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。 【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)			
第8回 データをまとめる技術 【到達目標】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「K」法を習得する。 【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。 【オンライン授業の場合】 担当教員の指示に従って毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン上の演習で行ったスキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。						

科目名	情報処理 I			担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希・阿南 大		
英文名	Information Literacy I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104	卒業認定方針との関連	②③		
【到達目標】 ICT (Information & Communication Technology) の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメールの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
PCを利用するために必要最低限な知識		PCの利用で問題点などを判断できる知識の習得	Web上のマナー・著作権・ネットの仕組みの理解		利用するためのネットの仕組みや注意点の無理解		
アプリケーションの大学生としての標準的スキル		与えられた課題を思考・判断して取り組む力の取得	Officeアプリの標準的なスキルの取得		大学生としての標準的スキルの未取得		
周辺機器の標準的な利用方法		周辺機器を自律的に使いこなせる能力の取得	ファイルと保存、プリンタなどの設定方法の取得		周辺機器の利用と設定に支障のあるレベル		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 インターネットについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。 (2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第9回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第2回 情報倫理と著作権 【 到達目標 】 (1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。 (2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第10回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第3回 メディアリテラシーとWebコミュニケーション 【 到達目標 】 (1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。 (2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第4回 情報化社会の問題と情報セキュリティ 【 到達目標 】 (1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。 (2)情報セキュリティの必要性と対策を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第5回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第6回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第7回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第8回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画(ドロー系コンテンツ)を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要な情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスが所有していることが望ましい。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面・オンライン授業共通】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	情報処理II			担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希・阿南 大		
英文名	Information Literacy II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105	卒業認定方針との関連		②③	
【到達目標】 「情報処理I」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Excelでは、データの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。さらに、ネットワークコンピューティング、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
PCを実用的に利用できる高度な知識		実際に発生する問題の解決・判断と知識の習得	WebやPCの利用に関する問題意識と適切な判断と知識の取得		WebやPC利用上の適切さ・知識の欠如		
アプリケーションの実際の問題を解決する力		実際の問題へのPC、ネットによる高度な解決能力の取得	PCアプリの実用的課題に対し自律的に計画できる能力		PCアプリによる実際の問題への解決能力の欠如		
周辺機器を含めたPCの総合的な利用		高度なファイル管理やクラウドの設定の理解	ファイル管理・ネットワーク機器・クラウドの設定の標準的理解		ファイル管理・ネットワーク機器の利用知識の欠如		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 情報ツールとネットワーク・コンピューティング 【到達目標】 (1)情報端末機器とWebについての理解する。 (2)情報ツール、Wifiについて理解する。 (3)クラウド(Cloud)について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第9回 数値データのビジュアル化 【到達目標】 (1)分析に適したグラフを理解する。 (2)分析結果をグラフで表現する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第2回 パソコンの構成と周辺機器 【到達目標】 (1)パソコンの構成を理解する。 (2)パソコンの周辺機器の用途や機能について理解する。 (3)パソコンの設定について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第10回 データベースのデータの活用 【到達目標】 (1)データベースについて理解する。(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 (2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第3回 文書作成の方法(応用) 【到達目標】 (1)高度なワード文書の作成に必要な機能を理解する。 (2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。 (3)校閲、参考資料の機能を理解し、操作方法を修得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第11回 マルチメディアデータの取込と編集 【到達目標】 (1)知的財産権について理解する。 (2)マルチメディアのファイルについて理解する。 (3)マルチメディアをPCで取込む方法や編集ソフトの利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第4回 ビジュアル表現の方法(応用)1 【到達目標】 (1)目的・用途に合わせた表や図形の編集方法を習得する。 (2)画像編集ソフトの活用を修得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第12回 スライドを使ったプレゼンテーション1 【到達目標】 (1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。 (2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第5回 ビジュアル表現の方法(応用)2 【到達目標】 (1)複雑な図形表現の方法を習得する。 (2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第13回 スライドを使ったプレゼンテーション2 【到達目標】 (1)スライドの作成を完了する。 (2)プレゼンテーションを行うための資料作成を行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第6回 ビジュアル表現の方法(応用)3 【到達目標】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第14回 スライドを使ったプレゼンテーション3 【到達目標】 (1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う。 (2)他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第7回 数値データの分析1 【到達目標】 (1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。 (2)絶対参照の利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第15回 ファイル管理とPCの設定 【到達目標】 (1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。 (1)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第8回 数値データの分析2 【到達目標】 (1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。 (2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 「情報処理I」で学んだ事を踏まえて、アプリケーションのスキルアップをするとともに、ネットワーク・コンピューティングの仕組みと活用についての実践的知識を習得することで、専門科目、卒業研究などに活用可能な知識を得ることを目標とする。							
【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Officeが使用できるデバイスが所有していることが望ましい。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	国語表現 I		担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106	卒業認定方針との関連		②
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。 						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった
批判的思考力を養う		十分な批判的思考力を習得できた		批判的思考力を習得できた		批判的思考力を身につけられなかった
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）			第9回 文章力を身につける①（レポートの書き方）			
【到達目標】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。			【到達目標】 ・構成について学ぶ。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）			第10回 文章力を身につける②（成文化）			
【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。			【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。			
【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使うようにする(4.0hr)			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）			第11回 文章力を身につける③（接続詞）			
【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。			【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。			
【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）			第12回 文章力を身につける④（文構造）			
【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。			【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。			
【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)			
第5回 国語力（知識）を身につける④（手紙・メール）			第13回 文章力を身につける⑤（反論）			
【到達目標】 ・手紙のマナーや書き方について理解を深める。 ・Eメールのマナーや書き方について理解する。			【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。			
【授業時間外学習】 実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)			
第6回 読解力を身につける①（文章整理・長文読解）			第14回 文章力を身につける⑥（修正）			
【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整理問題に取り組む。			【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第7回 読解力を身につける②（要約）			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題			
【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。			【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。			
【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析）						
【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。						
【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。						
【オンライン授業の場合】						
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】						
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。						
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織 [ほか] 著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%						
【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀 岳彦		
英文名	English I (Elementary)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】							
この授業では英語の基礎を確認・再学習し、その応用演習を行う。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を復習・確認する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて英語になじむための活動や、各自がこれから自立して英語を学習していけるようになるための演習を取り入れる。							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の基礎的な語彙・文法を習得する		授業で学習した語彙・文法が身についている		授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている		授業で学習した語彙・文法が習得できていない	
基礎的な英文を理解し、表現する		授業で学習した英文を辞書・ノートで理解・表現できる		授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる		授業で学習した英文を理解・表現できない	
主体的な英語学習を行う		授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う		自発的な学習を自分のペースで行う		自発的な学習姿勢が身につけていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施				第9回 英語基礎総合演習⑨			
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった能力が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第2回 英語基礎総合演習①				第10回 英語基礎総合演習⑩			
【到達目標】 プレテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 日常生活における英語の質問文を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第3回 英語基礎総合演習②				第11回 英語基礎総合演習⑪			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 日常生活における英語の質問文を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第4回 英語基礎総合演習③				第12回 英語基礎総合演習⑫			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「専門」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第5回 英語基礎総合演習④				第13回 英語基礎総合演習⑬			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「専門」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第6回 英語基礎総合演習⑤				第14回 英語基礎総合演習⑭			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分のスポーツ・ダンスなどの「経験」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第7回 英語基礎総合演習⑥				第15回 英語基礎総合演習⑮			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分のスポーツ・ダンスなどの「経験」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第9回から第15回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第8回 英語基礎総合演習⑦							
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第2回から第7回までの総復習を行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【教科書・参考書など】							
担当教員の指示に従うこと。 辞書を持参すること(電子辞書可)。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。							
【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	英語 I (初級)		担当者	カーリン 清佳		
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108	卒業認定方針との関連		②
【到達目標】						
この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っているようになるための学習指導も取り入れる。						
【ルーブリック (学修の到達レベル)】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
英語の語彙・表現		語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング		英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現		簡単な英語を使用して英語で表現できる。		辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。		理解が不十分で英語で表現できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施						
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分は何のような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)						
第2回 英語初級総合演習①						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第3回 英語初級総合演習②						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第4回 英語初級総合演習③						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第5回 英語初級総合演習④						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第6回 英語初級総合演習⑤						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第7回 英語初級総合演習⑥						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
第8回 英語初級総合演習⑦						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。						
【教科書・参考書など】						
担当教員の指示に従うこと。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	中村大輔		
英文名	English I (Intermediate)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109	卒業認定方針との関連	②		
【到達目標】 この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。							
【ルーブリック(学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語基礎知識の強化		高校レベル以上の英語基礎知識を習得できる		高校レベルでの未習得知識を習得できる		高校レベルでの未習得知識を習得できない	
英語receptive skillsの熟達		授業外でlistening・readingを基礎レベルで運用できる		授業内でlistening・readingを基礎レベルで運用できる		reading・speakingを基礎レベルで運用できない	
自学習の促進		授業外で積極的に英語を学習する意欲を持つ		授業外で英語を予習する意欲を持つ		授業外で英語を学習する意欲を持たない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施 【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)				第9回 英語中級総合演習⑨ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第2回 Introduction 英語中級総合演習① 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第10回 英語中級総合演習⑩ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第3回 英語中級総合演習② 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第11回 英語中級総合演習⑪ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第4回 英語中級総合演習③ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第12回 英語中級総合演習⑫ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第5回 英語中級総合演習④ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第13回 英語中級総合演習⑬ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第6回 英語中級総合演習⑤ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第14回 英語中級総合演習⑭ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
第7回 英語中級総合演習⑥ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				第15回 英語中級総合演習⑮ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習(4.0 hr)			
第8回 英語中級総合演習⑦ 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)							
【学習上の留意点】 予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常点(出席・授業内活動など)50%、試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 平常点(出席)50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	英語Ⅱ（基礎）				担当者	加賀岳彦	
英文名	English II (Elementary)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR110・DLR110	HLR110・CLR110	卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、英語の理解力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立して英語を学習していけるようになるための演習を行う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の基礎的な語彙・文法を習得する		授業で学習した語彙・文法が身についている		授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている		授業で学習した語彙・文法が習得できていない	
基礎的な英文を理解し、表現する		授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる		授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる		授業で学習した英文を理解・表現できない	
主体的な英語学習を行う		授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う		自発的な学習を自分のペースで行う		自発的な学習姿勢が身につけていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業説明および英語基礎総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていきけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 英語のさまざまな丁寧表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第2回 英語基礎総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第10回 英語基礎総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 英語のさまざまな丁寧表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第3回 英語基礎総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第11回 英語基礎総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「助言」を求める・与える英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第4回 英語基礎総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第12回 英語基礎総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「助言」を求める・与える英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第5回 英語基礎総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第13回 英語基礎総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「意見」を述べるための英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第6回 英語基礎総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第14回 英語基礎総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「意見」を述べるための英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第7回 英語基礎総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第15回 英語基礎総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第9回から第15回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)			
第8回 英語基礎総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第1回から第8回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 辞書を持参すること（電子辞書可）。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。							
【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	英語Ⅱ（初級）		担当者	カーリン 清佳		
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111	卒業認定方針との関連		②
【到達目標】						
この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていただけるようになるための学習指導も引き続き行う。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
英語の語彙・表現		語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング		英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現		簡単な英語を使用して英語で表現できる。		辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。		理解が不十分で英語で表現できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 イントロダクション・英語初級総合演習①			第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨			
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身に付ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 英語初級総合演習②			第10回 英語初級総合演習⑩			
【到達目標】 英語で学習した内容について復習しながら、さらに理解を深める。 英語の特徴について復習する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語初級総合演習③			第11回 英語初級総合演習⑪			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語初級総合演習④			第12回 英語初級総合演習⑫			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語初級総合演習⑤			第13回 英語初級総合演習⑬			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語初級総合演習⑥			第14回 英語初級総合演習⑭			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語初級総合演習⑦			第15回 英語初級総合演習⑮			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)			
第8回 英語初級総合演習⑧						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。						
【教科書・参考書など】						
担当教員の指示に従うこと。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	中村大輔		
英文名	English II (Intermediate)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112	卒業認定方針との関連	②		
【到達目標】 この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
発展的英語知識の獲得		初歩的な学術英語表現を獲得できる		日常生活における発展的英語表現を獲得できる		高校レベル以上の知識を獲得できない	
英語productive skillsの熟達		授業外でspeaking・writingを基礎レベルで運用できる		授業内でspeaking・writingを基礎レベルで運用できる		speaking・writingを基礎レベルで運用できない	
自立学習におけるテーマの発展		自ら興味を抱いたテーマを継続的に学習できる		授業で扱ったテーマを自ら継続的に学習できる		授業で扱ったテーマを継続的に学習できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 Introduction 英語中級総合演習① 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第9回 英語中級総合演習⑨ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第2回 英語中級総合演習② 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第10回 英語中級総合演習⑩ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第3回 英語中級総合演習③ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第11回 英語中級総合演習⑪ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第4回 英語中級総合演習④ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第12回 英語中級総合演習⑫ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第5回 英語中級総合演習⑤ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第13回 英語中級総合演習⑬ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第6回 英語中級総合演習⑥ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第14回 英語中級総合演習⑭ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
第7回 英語中級総合演習⑦ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				第15回 英語中級総合演習⑮ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習（4.0 hr）			
第8回 英語中級総合演習⑧ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）							
【学習上の留意点】 予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常点（出席・授業内活動など）50%、試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 平常点（出席）50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	国語表現Ⅱ		担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric II					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 ・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。 						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった
アカデミック・ライティングについて		理解して活用できた		理解できた		理解できなかった
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）			第9回 アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方）			
【到達目標】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。			【到達目標】 ・構成について学ぶ。 ・構成メモ（設計図）を書く。			
【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。（4.0hr）			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）			第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化）			
【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 ・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。			【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 ・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。			
【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使うようにする（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）			第11回 文章力を身につける①（接続詞）			
【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 ・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。			【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 ・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使うようにする。			
【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。（4.0hr）			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）			第12回 文章力を身につける②（文構造）			
【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 ・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。			【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 ・修飾語について理解する。			
【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。（4.0hr）			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。（4.0hr）			
第5回 読解力を身につける①（文章整理・長文読解）			第13回 文章力を身につける③（反論）			
【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整理問題に取り組む。 ・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。			【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。（4.0hr）			
第6回 読解力を身につける②（専門的な文章を読む）			第14回 文章力を身につける④（修正）			
【到達目標】 ・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。			【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえて、レポートがより良くなるように修正する。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。（4.0hr）			
第7回 読解力を身につける③（要約）			第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて			
【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 ・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。			【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。			
【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。（4.0hr）			【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。（4.0hr）			
第8回 読解力を身につける④（根拠の検討、分析）						
【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 ・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。						
【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。（4.0hr）						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならWeblioなどを利用することを推奨）。						
【オンライン授業の場合】						
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】						
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科目名	栄養学入門			担当者	古泉 佳代・大村 恵利		
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		卒業認定方針との関連	①	
【到達目標】 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
食生活を取り巻く環境に関する基礎事項		食生活を取り巻く環境を理解し、自らの言葉で説明できる		食生活を取り巻く環境を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		食生活を取り巻く環境を理解できない	
食生活と健康に関する基礎事項		栄養素に関する基礎事項を理解し、自らの言葉で説明できる		栄養素に関する基礎事項を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		栄養素に関する基礎事項を理解できない	
食生活と文化に関する基礎事項		フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、自らの言葉で説明できる		フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		フードリテラシー、味わい、食文化を理解できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 カイダンス・食生活と社会環境 【到達目標】 (1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。 (2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。 【授業時間外学習】 毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第9回 食生活と健康④食生活と健康 【到達目標】 (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。 (3)栄養バランスの良い食事をするために重要な点についてディスカッションできる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 食を取り巻く環境の変化 【到達目標】 (1)フードシステムの複雑化にともなっている食生活の課題を認識する。 【授業時間外学習】 食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第10回 食生活と健康⑤たんばく質 【到達目標】 (1)たんばく質の種類、代謝を理解できる。 (2)たんばく質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 食料の供給と課題 【到達目標】 (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。 【授業時間外学習】 フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第11回 食生活と健康⑥ビタミン・ミネラル・水 【到達目標】 (1)ビタミン・ミネラルの種類、代謝を理解できる。 (2)水の出納を理解できる。 (3)ビタミン、ミネラル、水の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析 【到達目標】 (1)食品由来の有害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその有害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方や3つの構成要素について理解する。 【授業時間外学習】 食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第12回 食生活と健康⑦食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度 【到達目標】 (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。 (3)飲み物の糖度について理解できる。(4)糖質の摂取方法について考え、ディスカッションできる。 【授業時間外学習】 健康により根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度 【到達目標】 (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。 (3)食品の安全性やフードシステムについて、ディスカッションできる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第13回 食生活と文化⑧食物のおいしさ 【到達目標】 (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 (2)おいしさの要因を理解することができる。 (3)おいしさについて、ディスカッションできる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 食生活と健康⑧食物と栄養（栄養バランス） 【到達目標】 (1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第14回 食生活と文化⑨日本の食文化・共食の現代的課題 【到達目標】 (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。 (2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 食生活と健康⑨炭水化物 【到達目標】 (1)炭水化物の種類、代謝を理解できる。 (2)炭水化物の種類を理解することができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第15回 食育とフード・リテラシー 【到達目標】 (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)			
第8回 食生活と健康⑩食物と栄養（脂質） 【到達目標】 (1)脂質の種類、代謝を理解できる。 (2)脂質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。受講生は、授業前までにPhollyにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。授業内では、教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけでなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。 講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。							
【教科書・参考書など】 教科書 編著者 金子佳代子・松島悦子「白熱教室 食生活を考える」(アイ・ケイコーポレーション出版) 参考資料は、適宜配布する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は60%、レポート(1題)の評価を10%、理解度テストを30%、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤拓也		
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		卒業認定方針との関連	①	
【到達目標】 生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
知識・理解に関する観点		講義内容を単元ごとでなく、複数の単元をリンクさせて理解することができる。		講義内容を単元ごとに理解することができる。		講義内容を理解できていない。	
思考・判断に関する観点		講義内容を自身の生活や運動時などの具体例を挙げながら、自分の言葉で説明できる。		講義内容を講義で上げた例を使って説明できる。		講義内容に関して例を挙げられない。	
関心・意欲に関する観点		講義内容に新しさや面白さを発見して、自分でそれを活かす想像ができる、また疑問を持つことができる。		講義内容を実際にあてはめることができる、また疑問を持つことができる。		講義内容を実際にあてはめることができない、また疑問を持たない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション・概論 【到達目標】 講義の進め方、生理学や生化学とはどんなことを理解する。日常生活やスポーツ・ダンス時における生理応答を考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第9回 ホルモン (1) 【到達目標】 筋肥大や興奮、血糖値の調節に関するホルモンを理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 筋 (1) 【到達目標】 筋の種類・構造、筋線維タイプ、筋収縮の種類を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第10回 ホルモン (2) 【到達目標】 性ホルモンや月経を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 筋 (2) 【到達目標】 筋の損傷・痛み、トレーニングや食事による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第11回 血液 【到達目標】 血液の成分や役割、運動による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 神経 【到達目標】 神経の種類、運動に関係する自律神経、運動神経・感覚神経を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第12回 骨 【到達目標】 骨の構造、運動や年齢による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 呼吸 【到達目標】 呼吸の仕組み、運動時の変化、最大酸素摂取量を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第13回 脂肪 【到達目標】 脂肪の種類や代謝、測定法を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 循環 (1) 【到達目標】 心臓や血管の役割、運動による変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第14回 体温 【到達目標】 暑熱環境や寒冷環境下におけるヒトの体温調節を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 循環 (2) 【到達目標】 運動時や運動後の血流・血圧の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第15回 睡眠 【到達目標】 睡眠時の生理応答、睡眠が運動パフォーマンスに及ぼす影響を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 代謝 【到達目標】 エネルギー代謝の種類と特徴、乳酸の役割、糖と脂肪の利用を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を用いて、口頭でその詳細を説明して講義を進める。講義内では、質疑応答や設問解答による発言、生理学的な実験に関する映像資料の視聴、生理学的測定等を行い理解を深める。また、講義終了時に小レポート、翌回開始時に小テストを実施する。 【オンライン授業の場合】 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を配布する。配信動画は2種類あり、ひとつは資料に沿って具体例を示しながら内容を説明する講義動画、もうひとつはテーマに沿った実験動画である。毎講義後、復習問題と講義の感想・質問を提出する。 【共通】 本講義の理解には、講義内容を自身の経験や実際のスポーツ・ダンス時の身体を想像すること、学んだことを他者(友人や家族など)に話をするのが大切である。							
【教科書・参考書など】							
特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。「筋」や「持久力」に関する書籍も非常に有益である。また、自身の専門とする運動に関する書籍にある「運動生理学」に関する内容も大変有益である。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 講義各回での発言・レポートを30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 講義各回での課題を30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。社会的状況等により筆記試験が実施できない場合は、最終レポート課題となる。また、その場合は成績評価法の一部を変更する可能性がある。							

科目名	近現代史入門			担当者	山本唯人		
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		卒業認定方針との関連	④	
【到達目標】 「開かれて」いるけれど、「壊れやすい」社会ができるまで—新・近現代史入門 いまの社会は、多様なひとびとの参加に「開かれている」という特徴を持っています。それは、外に「開かれている」がゆえに、かたちを変えやすく、今あるものは「壊れていく」ということでもあります。「昔」はそうではありませんでした。日本は外国に対して「閉じて」いて、それゆえに、長く安定した時代が続きました。みなさんにとって、どちらの方が「よい」社会ですか？わたしたちが生きる「近現代」の社会は、壊れやすいけれど、多様なものに開かれた社会です。なぜ、どのように、誰がそんな社会を作ったのか？この質問を出発点に、日本の近現代史を学んでいきます。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
近現代史を学ぶための知識を身に付ける。		標準的な近現代史のテキストが、参考書なしでも読める。		標準的な近現代史のテキストが、参考書を使いながら読める。		標準的な近現代史のテキストが、参考書を使っても読めない。	
読み、書き、発表する能力・技術を身に付ける。		自分の力で、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。		アドバイスを受ければ、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。		アドバイスを受けても、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できない。	
知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		自分の力で、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		アドバイスを受ければ、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		アドバイスを受けても、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 イントロダクション 【到達目標】 この講義のテーマ、進め方、評価方法を説明します。受講を希望する方は必ず出席してください。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第9回 議会ができるまで (1) 自由民権運動 【到達目標】 ひとびとに「開かれた政治」のコアにあるのが議会です。議会が誰がどのように作ったのか。自由民権運動からの流れを学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 「現代」はいつからか—ワークショップ 【到達目標】 「現代」はいつからかをテーマにしたワークショップを開催します（教員の出題するテーマを授業中に考えワークシートに答えを書き出して共有します）。歴史学習のイメージをつかんでください。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第10回 議会ができるまで (2) 大日本帝国憲法の成立 【到達目標】 議会の開設を定めた法が、大日本帝国憲法です。「開かれた政治」をつくるという視点から日本で最初の憲法を読み直しましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 幕末・維新のはじまり—喜望峰から見た風景 【到達目標】 それまで鎖国で「閉じて」いた日本が、どのように「開かれた社会」に移行したか。世界の目線から見えていきます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第11回 普通選挙を求めて (1) 日露戦争と日比谷焼き討ち事件 【到達目標】 すべての成人に選挙権を与える制度が普通選挙です。日本ではアジア太平洋戦争後の日本国憲法で成立しましたが、その出発点は日露戦争後の日比谷焼き討ち事件にさかのぼると言われます。原点を見ることで、人びとの側からの普通選挙の理由を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 資料を読む—『ペリー提督日本遠征記』 【到達目標】 歴史を学ぶとは、資料からその時代を生きたひとの声を読み取ることです。実際にやってみましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第12回 普通選挙を求めて (2) 第一次世界大戦と米騒動 【到達目標】 普通選挙をもたらした次の大きなインパクトは米騒動です。民主化の原動力という視点で米騒動を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 黒船来航 (1) 黒船と交渉したひと 【到達目標】 黒船が「来た」ことは知っていても、黒船と「交渉したひと」を知っている人は少ないでしょう。そのひとの姿勢・ふるまいから社会の「開き方」を学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第13回 アジア太平洋戦争の前と後 (1) アジア太平洋戦争 【到達目標】 アジア太平洋戦争について学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 黒船来航 (2) 国際法の二重構造 【到達目標】 日本は「開国」はしましたが、戦争はしませんでした。世界には「法」があるという視点からその理由を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第14回 アジア太平洋戦争の前と後 (2) 日本国憲法 【到達目標】 日本国憲法について学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 開国への道 (1) 【到達目標】 開くべきか、そうでない方がよいのか。なぜ「開く」という意見が有力になったのかを、幕府内部の議論を参考に考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				第15回 まとめ 【到達目標】 全体をふりかえります。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 開国への道 (2) 日米和親条約 【到達目標】 国を「開いた」結果、どうなったのか。日米和親条約の条文を読みながら、確かめましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。授業のはじめに前回の話題をフィードバックし、ふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「日本」などのテーマに関心のあるみなさんの参加を歓迎します。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。テーマは同じですが、オンラインの講義と、みなさまから出していたワークシートを通じてやりとりします。ワークシートは負担が重くなりすぎないように配慮します。							
【教科書・参考書など】 教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ワークシートと期末レポートで評価します。ワークシート40%、期末レポート60%で評価します。 【オンライン授業の場合】 ワークシートと期末レポートで評価します。ワークシート40%、期末レポート60%で評価します。							

科目名	人間心理の理解			担当者	三好昭子		
英文名	Personality Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104	卒業認定方針との関連	③		
【到達目標】 本講義は、人間の心と行動についてデータに基づき偏りなく、論理的に考えることができるようになることを目的とする。人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかをふまえ、それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心（パーソナリティや知能を含む）をどのようにとらえ、研究してきたのかを理解し説明できるようになる。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深め日常生活に活かすことができるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
人間心理に関する重要キーワードや理論について		自分の言葉で説明できる。		ノートや参考書を参考にしながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
人間心理についてデータに基づき偏りなく論理的に考える		自分自身でデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。		解説があればデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。		解説があってもデータに基づき偏りなく論理的に考えることができない。	
人間心理に関する重要キーワードや理論により自己洞察を深め日常生活に活かす		自分自身で自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。		適切な教示があれば自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。		適切な教示があっても自己洞察を深め日常生活に活かすことができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 心理学とは 【到達目標】 (1)心理学の定義を説明することができる。 (2)人間心理を科学的に研究するということを理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 心理学という学問についての課題を行う。(4.0hr)				第9回 パーソナリティ④構造論 【到達目標】 (1)フロイトの構造論について理解し説明することができる。 (2)レヴィンの構造論について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 構造論に関する課題を行う。(4.0hr)			
第2回 感覚・知覚 【到達目標】 (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解し説明することができる。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 人間の感覚・知覚についての課題を行う。(4.0hr)				第10回 防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解 【到達目標】 (1)防衛機制に基づく個人差について理解し説明することができる。 (2)投影法を実施し、自己分析することができる。 【授業時間外学習】 防衛機制に基づく個人差と投影法に関する課題を行う。(4.0hr)			
第3回 対人認知・印象形成 【到達目標】 (1)印象形成の特徴を理解し説明することができる。 (2)対人認知の歪みについて理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 印象形成と対人認知に関する課題を行う。(4.0hr)				第11回 知能とは何か 【到達目標】 (1)知能の定義について理解し説明することができる。 (2)知能テストについて理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 知能と知能テストに関する課題を行う。(4.0hr)			
第4回 態度変容 【到達目標】 (1)態度変容に影響を与える要因について理解し説明することができる。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について説明することができる。 【授業時間外学習】 態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)				第12回 知能の発達 【到達目標】 (1)行動遺伝学について理解し説明することができる。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)			
第5回 グループダイナミクス(集団力学) 【到達目標】 (1)向社会的行動(思いやり)について理解し説明することができる。 (2)他者への同調・服従について理解し説明することができる。 (3)他者への同調・服従がまねく危険性について説明することができる。 【授業時間外学習】 向社会的行動や同調・服従に関する課題を行う。(4.0hr)				第13回 アイデンティティとは 【到達目標】 (1)アイデンティティとは何かを理解し説明することができる。 (2)自分のアイデンティティについて自己洞察を深めることができる。 【授業時間外学習】 アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)			
第6回 恋愛 【到達目標】 (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解し説明することができる。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。 【授業時間外学習】 恋愛に関する課題を行う。(4.0hr)				第14回 アイデンティティからの人間理解 【到達目標】 (1)アイデンティティを求める人間の傾向について理解し説明することができる。 (2)アイデンティティから恋愛を説明することができる。 【授業時間外学習】 アイデンティティ概念の応用に関する課題を行う。(4.0hr)			
第7回 パーソナリティ①類型論 【到達目標】 (1)クレッチマーの類型論について理解し説明することができる。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。 【授業時間外学習】 類型論に関する課題を行う。(4.0hr)				第15回 アイデンティティを超えて 【到達目標】 (1)自我感覚の拡大について理解し説明することができる。 (2)真の自己実現について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 自我感覚の拡大と自己実現に関する課題を行う。(4.0hr)			
第8回 パーソナリティ②特性論 【到達目標】 (1)共通特性について理解し説明することができる。 (2)ギルフォードの特性論について理解し説明することができる。 (3)Big Fiveについて理解し自己分析することができる。 【授業時間外学習】 特性論に関する課題を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを幸いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。また授業で学んだ知識を日常生活で活かせるようグループワークをおこなうことがあるため積極的に受講することが求められる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業動画は授業日の前日に、本学ポータルサイトの Google Drive 上にアップロードし、ポータルサイトから配信する。資料は授業の前日まではPhollyの「参考資料」にアップロードする。資料をプリントアウトし、実際の教室での授業のように、ノートを作ることができる体勢で受講すること。出席は、Phollyの「アンケート課題」の提出によって確認する。次回の授業動画で「アンケート課題」の解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを幸いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。学んだことを日々の生活に活かせるよう考えながら受講することが求められる。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 2020 『心理学 第5版補訂版』 東京大学出版会							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名	ボランティア活動論			担当者	森田 恵		
英文名	Citizenship Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105	卒業認定方針との関連		④	
【到達目標】 東日本大震災や全国で起こる災害、2021年の東京オリンピック・パラリンピック等あらゆる場面でボランティアの存在が欠かせないものとなっている。また持続可能な社会に向けた地球規模の課題解決においても一人ひとりの取り組みが求められている。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。時間外学習として実際にボランティア活動を体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの市民性を高め、社会に貢献する人材となることが、本講義の最終的なねらいである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ボランティアと市民社会についての理解と関係性		ボランティアや市民が活動する望ましい市民社会のあり方について自分ごととして独自の考えを展開できている		ボランティアや市民活動の現状と相互の関係性について説明できる		理解が不十分で説明できない	
SDGsなどの社会課題に関する基本的な知識と情報		右記に加えてSDGsに代表される社会問題への対策について幅広い情報収集と分析ができています		SDGsとは何か、およびSDGsに代表される社会問題の現状について説明できる		理解が不十分で説明できない	
社会課題に取り組む多様なアクターの意義と役割		ボランティア活動の実践を通して、社会課題への取組の意義を体得し、市民として実生活に応用できる		NPO、NGOなど市民活動の多様なアクターの取組と役割について説明できる。		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）/市民と市民社会 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを理解する。 (2)市民及び市民社会について理解する。 (3)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。(4.0hr)				第9回 社会課題⑥ 日本の子どもの貧困 【到達目標】 (1)日本における子どもの貧困の状況について理解する。 (2)地域の取り組み事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 子どもの貧困についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
第2回 ボランティアの役割と背景 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 実施できそうなボランティア活動の情報収集を行い、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第10回 社会課題⑦ 共生社会 【到達目標】 (1)障がいの社会モデルについて説明できる。 (2)当事者理解に対する自身の傾向を知る。 【授業時間外学習】 共生社会についてさらに調べて学習を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
第3回 ボランティアを支えるNPO 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始めるためのステップを理解する。 (2)ボランティアを支えるNPOなどのしくみを理解する。 (3)ボランティア活動計画書の目的と書き方を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第11回 社会課題⑧ 災害救援ボランティア 【到達目標】 (1)災害救援ボランティア活動の概要について理解する。 (2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について説明できる。 【授業時間外学習】 防災対策についてさらに調べて学修を展開する。ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)			
第4回 ボランティア活動のための自己理解 【到達目標】 (1)ボランティア活動における対人関係の側面を理解する (2)自分自身を理解し、ボランティア活動の実践における自身の課題を明確にする 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書を完成させ、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第12回 ボランティア活動体験と報告(1) 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
第5回 社会課題⑨ スマホから考えるSDGs 【到達目標】 (1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。 (2)なぜSDGsが必要なのか、どういった仕組みなのかを説明できる。 【授業時間外学習】 SDGsに関する情報収集を行う。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第13回 ボランティア活動体験と報告(2) 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
第6回 社会課題⑩ 児童労働の実現(オンデマンド授業) 【到達目標】 (1)映像を通じて児童労働の現状を理解する。 【授業時間外学習】 児童労働についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第14回 ボランティア活動体験と報告(3) 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
第7回 社会課題⑪ 児童労働から考える子どもの権利 【到達目標】 (1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。 (2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。 【授業時間外学習】 子どもの権利条約について調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				第15回 再考 市民社会のなかの私(学習目標到達度の検証) 【到達目標】 (1)授業で取り上げたトピックを振り返り、市民社会と自身の関わりについて言語化できる。 【授業時間外学習】 関心の高いトピックにおける自分自身の今後の関わり方について情報収集をして検討を進める			
第8回 社会課題⑫ 課題解決としてのフェアトレード 【到達目標】 (1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する (2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。 【授業時間外学習】 フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントや映像等を用いて学修を進める。本授業は、日常生活および自分自身との向き合いを大切にするため、グループワークやディスカッションへの積極的な参加と自己洞察を求める。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験発表(学生によるプレゼンテーション)、活動レポートの作成および相互評価によるフィードバックを行う。各テーマの理解度テストを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容が変更される場合は事前にアナウンスする。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い別途指示する。出席は、各授業回の課題の期限内提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題、理解度テスト70%、ボランティア活動発表およびレポート30%として評価する。合格基準は60%以上である。							
【オンライン授業の場合】 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。合格基準は60%以上である。							

科目名	日常生活の社会学			担当者	田北康成		
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		卒業認定方針との関連	④	
【到達目標】 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみることを目的とする。授業内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを授業のねらいとしている。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	社会学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	社会学の研究知見の実生活への応用に関する事項	研究知見を修得し自らの判断で実生活に積極的に応用できる。	知見の応用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら活用することができる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直す習慣を身につける。 (3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」という国の好きなおとこ、きらいなおとこを考えておく。(4.0hr)			第9回 グローバル社会とエスニシティ (1) 【到達目標】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)				
第2回 社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか 【到達目標】 (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 【授業時間外学習】 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)			第10回 グローバル社会とエスニシティ (2) 【到達目標】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」の好きなおとこ、きらいなおとこをまとめておく。(4.0hr)				
第3回 社会で生きる「私」と家族 【到達目標】 相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。 「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。 家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)			第11回 グローバル社会とエスニシティ (3) 【到達目標】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)海外にルーツをもつ隣人とどのように共生していくか、考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：海外に旅行／移住／留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)				
第4回 性の多様なあり方考える 【到達目標】 (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解けるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)			第12回 グローバル社会とエスニシティ (4) 【到達目標】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「国境」と往來の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)				
第5回 社会で生活するための社会学—労働・産業・消費— 【到達目標】 (1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。 (2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どもの時になりたかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)			第13回 「宗教」から社会をとらえる 【到達目標】 (1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。 (2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)				
第6回 「格差」の社会学 【到達目標】 (1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。 (2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：どのくらいの給料なら満足できるかを考えておく。(4.0hr)			第14回 社会の中のメディア メディアが動かす社会 【到達目標】 (1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。 (2)それぞれのメディアがどのように情報を媒介し、コミュニケーションを成立させているかの理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「評判」や「ロコミ」と、自分の判断とどちらを大事にするか、まとめておく。(4.0hr)				
第7回 生活空間としての地域社会について考える (1) 【到達目標】 (1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。 (2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。 【授業時間外学習】 予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)			第15回 逸脱行動と社会問題・犯罪社会学 【到達目標】 (1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。 (2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)				
第8回 生活空間としての地域社会について考える (2) 【到達目標】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報紙を調べておく。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、社会的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いただるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Pholly上でレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のなかから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に匿名で紹介したり、回答したりすることがある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンドで実施する場合の授業内容（各授業回の動画と動画内で使用するパワーポイント資料）については、Phollyを通して配信・配布する。対面授業のスケジュールに従い、同一曜日授業開始正午をめぐって本学ポータルサイトPholly上で公開することとし、翌週前日正午まで掲載するので、その期間に視聴、課題提出を行ってほしい。							
【教科書・参考書など】 教科書は不使用。 参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。 ①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』見洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（40％）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（60％）との総合点で評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 【オンライン授業の場合】 各回のレスポンスシートの評価合計（100％）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しないことがある）。 ※合格基準はいずれも60％である。							

科目名	数と論理				担当者	水野有希	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		卒業認定方針との関連	③	
【到達目標】 これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている特殊な計算手法や、集合、論理バズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	数学的思考の基本的な概念や原理・法則に関する事項	基本的な概念や原理・法則を十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を教科書等を参照しながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。			
	数学的思考を活用した考察に関する事項	数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現で自ら説明できる。	資料等を参照しながら事象を考察し、数学的な表現で説明できる。	数学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。			
	体育・スポーツに係る問題の探求に関する事項	数学的思考で論理的論拠に基づいた判断や、問題解決の過程を自ら説明できる。	資料等を参考に、問題解決に向けた判断や解決までの過程を説明できる。	数学的思考を用いて問題解決に向けた判断や考察が不十分で、解決に至らない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 計算の基礎1、整数の基礎 【到達目標】 (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)			第9回 空間図形 【到達目標】 (1) 平面図形の応用と展開図について学ぶ。 (2) 立体図形の面積や断面図、体積について学ぶ。 【授業時間外学習】 図形の面積や体積の求め方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第2回 計算の基礎2、平方根 【到達目標】 (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 実数および平方根の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第10回 比の計算 【到達目標】 (1) 比の算出方法について復習する。 (1) 割合と値段について学ぶ。 (2) 定価・原価・損益について学ぶ。 【授業時間外学習】 百分率や歩合の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第3回 方程式1 【到達目標】 (1) 1次方程式、連立方程式について学ぶ。 (2) 2次方程式について学ぶ。 【授業時間外学習】 方程式の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第11回 特殊算 【到達目標】 (1) 仕事算について理解する。 (2) 濃度・速さについて理解する。 【授業時間外学習】 濃度・速さの公式や計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第4回 方程式2、関数1 【到達目標】 (1) 2次方程式を復習し、応用を修得する。 (2) 比例と反比例、1次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 比例反比例、1次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第12回 場合の数と確率 【到達目標】 (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。 【授業時間外学習】 順列と組み合わせの公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第5回 関数2 【到達目標】 (1) 1次関数を復習し、応用を修得する。 (2) 2次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 2次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第13回 集合と命題 【到達目標】 (1) 集合（全体集合、補集合、共通部分、和集合）について学ぶ。 (2) 対偶、三段論法的应用について学ぶ。 【授業時間外学習】 集合や命題の対偶の考え方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第6回 関数3 【到達目標】 (1) 2次関数を復習し、応用を学習する。 (2) 2次不等式について学ぶ。 【授業時間外学習】 2次不等式の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第14回 推論と表や資料の読み取り 【到達目標】 (1) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 (2) 表や資料から命題の真・偽について判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 推論の考え方、表や資料の見方について予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
第7回 数列 【到達目標】 (1) 関数の領域（不等式）、応用について学ぶ。 (2) 等差数列、等比数列について理解し、応用について学ぶ。 【授業時間外学習】 関数の領域（不等式）、数列の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			第15回 数理論理の応用と実践 【到達目標】 (1) 教授や公務員試験、SPIなどの過去問を確認する。 (2) これまで学んだ内容について確認する。 【授業時間外学習】 これまで学んだ問題について予習、過去問の復習をする。(4.0hr)				
第8回 平面図形 【到達目標】 (1) 関数と平面図形の応用について学ぶ。 (2) 平行線と角、円周角の定義について学ぶ。 【授業時間外学習】 平面図形の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に理解度の確認のため、20分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをしますので、間違えた人は必ず復習をしてください。 【対面授業の場合】 講義は指定の教室で実施します。毎回授業日前日までに授業プリントを配布し、授業時に公式や法則の説明や解説した後に確認課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料は授業テキスト、解説動画、確認課題のフォームとし、対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに授業テキストを、当日の9:00に解説動画と確認課題のフォームを本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に確認課題を提出し、出席は各授業の確認課題の提出によって確認します。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行う確認課題50%、期末試験50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(週週に出すことや、研究室に持っていくこと)は、いかなる理由であっても認めません。 【オンライン授業の場合】 毎回行う確認課題（第1回～第14回）50%、確認試験（試験は第15回に実施）50%として評価します。確認課題や確認試験は、指定された期日までに提出してください。							

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村俊介		
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		卒業認定方針との関連	④	
【到達目標】							
倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしにしの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
倫理的思考のもつ特質に関する事項		行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を理解し、その枠組みで考え意見を表明することができる。		行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を、資料等を見ながら説明することができる。		倫理的思考のもつ特質の理解が不十分で、その枠組みの中で考えることができない。	
主要な倫理学説・基本原則の考察		各概念に基づく道徳的な善悪導出の機構を理解し、その問題点を含め意見を述べることができる。		各概念に基づく善悪導出の機構を理解し、その観点から道徳現象を説明することができる。		各概念の理解が不十分で、その視点から道徳現象を捉えることができない。	
現代的諸課題(応用倫理)の考察		各論の倫理的問題の所在を理解し、自ら考え意見を表明することができる。		各論の倫理的問題の所在を、資料等を見ながら説明することができる。		各論の倫理的問題の所在の理解が不十分で、自らの思考に取り入れることができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき 【到達目標】 倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)				第9回 環境倫理：未来に対する責任 【到達目標】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第2回 「善」とは何かという問：定義 【到達目標】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【到達目標】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第3回 普遍化可能性1：社会契約 【到達目標】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第11回 生命倫理1：人間の尊厳 【到達目標】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第4回 普遍化可能性2：自由意志 【到達目標】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第12回 生命倫理2：生殖医療 【到達目標】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【到達目標】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【到達目標】 科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第6回 功利の原理(2)：他者危害の原則 【到達目標】 功利の原理が下敷きにする自由主義的な行為原則のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第14回 倫理的相対主義 【到達目標】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第7回 正義：自由と平等 【到達目標】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差(是正)原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第15回 規範なき時代とニヒリズム 【到達目標】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第8回 自然と文明：道具的理性批判 【到達目標】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに討評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原理的に考えることを求めますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの方を見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に記載されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	日常生活の法律			担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		卒業認定方針との関連	④
【到達目標】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法の習得も目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
日常生活に密接な法律の基礎的事項・理論について		理論や学説を理解し自らまとめて説明できる。	理論や学説を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
日常生活に密接な法律の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。		
日常生活に密接な法律の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参照しながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【到達目標】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)				第9回 家族と法律③ 【到達目標】 (1) 実際の親子関係不存確認訴訟の事例について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)		
第2回 アルバイトと法律① 【到達目標】 (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)				第10回 表現物と法律① 【到達目標】 (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。 【授業時間外学習】 実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)		
第3回 アルバイトと法律② 【到達目標】 (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。 【授業時間外学習】 ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)				第11回 表現物と法律② 【到達目標】 (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。 【授業時間外学習】 著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr)		
第4回 恋愛関係と法律① 【到達目標】 (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)				第12回 ペットの飼育と法律① 【到達目標】 (1) 法律における「ペット」の位置づけを理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。 【授業時間外学習】 遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)		
第5回 恋愛関係と法律② 【到達目標】 (1) DV防止法について理解する。 【授業時間外学習】 DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				第13回 ペットの飼育と法律② 【到達目標】 (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼主の責任について理解する。 【授業時間外学習】 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)		
第6回 恋愛関係と法律③ 【到達目標】 (1) リベンジポルノ防止法について理解する。 【授業時間外学習】 リベンジポルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				第14回 人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方 【到達目標】 (1) 日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。 (2) 取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。 【授業時間外学習】 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)		
第7回 家族と法律① 【到達目標】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 夫婦に関する法的問題について理解する。 【授業時間外学習】 婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr)				第15回 日々の暮らしと法律 【到達目標】 (1) マンションをめぐる法的問題について理解する。 (2) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)		
第8回 家族と法律② 【到達目標】 (1) 法的な親子関係の発生について理解する。 (2) 嫡出否認や親子関係不存確認訴訟について理解する。 【授業時間外学習】 嫡出否認と親子関係不存確認との違いを整理する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事例について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が増えた場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。						
【教科書・参考書など】 この授業では、教科書等の指定はない。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。						

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋信勝		
英文名	Introductory Economics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110	卒業認定方針との関連		④	
【到達目標】							
目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
経済学の基礎の修得		経済学の基礎を修得し、具体例を挙げて説明できる。		教科書等を参照して、経済学の基礎を説明できる。		経済学の基礎の修得が不十分であり、説明できない。	
経済学的視点の修得		経済学的視点にもとづいて経済社会を理解し、説明できる。		経済学的視点にもとづいて身近な生活を理解し、説明できる。		経済学的視点の修得が不十分であり、経済社会と生活の理解がままならず説明できない。	
経済学的視点の活用		経済社会の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。		身近な生活の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。		経済学的視点にもとづいて、経済問題に関する見解を示せない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 経済学への誘い（1） 【到達目標】 市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)				第9回 有効需要論（2） 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)			
第2回 経済学への誘い（2） 【到達目標】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)				第10回 IS-LM分析（1） 【到達目標】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)			
第3回 企業と経済 【到達目標】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)				第11回 IS-LM分析（2） 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)			
第4回 GDPと三面等価の原則 【到達目標】 ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)				第12回 国際収支と為替レート（1） 【到達目標】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードの比較生産費説）。(4.0hr)			
第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【到達目標】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)				第13回 国際収支と為替レート（2） 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)			
第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)				第14回 戦後の日本経済 【到達目標】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)			
第7回 インフレとデフレ 【到達目標】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)				第15回 授業の総復習と問題演習 【到達目標】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)			
第8回 有効需要論（1） 【到達目標】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書き、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生は筆記ノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。 【オンライン授業の場合】 授業はオンデマンド方式とする。コンテンツは、対面授業の配置曜日の前日までに本学のポータルサイトにアップロードする。コンテンツは1週間後に消去する。出席回数は、ポータルサイトを介した各授業回のワークシートあるいはミニレポートの提出をもって、確認する。※詳細は初回授業時に説明する。							
【教科書・参考書など】 教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】問題演習（30%）と期末試験（70%）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回のワークシートあるいはミニレポート（80%）と、期末レポート（20%）にもとづいて評価する。 対面とオンラインのいずれの形式においても、単位付与の基準は60%である。※詳細は初回授業時に説明する。							

科目名	英語EAP I			担当者	中村大輔		
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201	卒業認定方針との関連	②		
【到達目標】 <p>学術論文を理解するためには語彙・文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では学術語彙リスト掲載語彙やcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英文論理構造の理解		自分の専門分野の論文の論理構造を把握できる		身近な社会問題に関する論文の論理構造を把握できる		topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない	
英語reading skillsの習得		初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる		reading skillsへの意識が高められる		reading skillsを理解できない	
学術語彙リスト掲載語彙の獲得		学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる		学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる		学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 導入 【到達目標】 授業の進め方・学習の仕方を理解する。 授業担当者が提示する英語初期演習を行う。 【授業時間外学習】 「意味の類推」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				第9回 英文読解演習 (8) 【到達目標】 メインアイデアに関するサポート情報を発見できるようになる。 【授業時間外学習】 句に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)			
第2回 英文読解演習 (1) 【到達目標】 単語の意味を推測できるようになる。 【授業時間外学習】 「パラグラフのトピック」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				第10回 英文読解演習 (9) 【到達目標】 句を理解し、使用頻度の高い句を発見できるようになる。 【授業時間外学習】 「対比」に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
第3回 英文読解演習 (2) 【到達目標】 パラグラフのトピックを発見できるようになる。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 【授業時間外学習】 「接辞」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				第11回 英文読解演習 (10) 【到達目標】 対比構造を理解できるようになる。 【授業時間外学習】 「因果関係」に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
第4回 英文読解演習 (3) 【到達目標】 接辞の意味を理解し、単語の意味を類推できるようになる。 比較的長めの文章の構造を把握できるようになる。 【授業時間外学習】 代名詞に関する問題演習を行う。(4.0hr)				第12回 英文読解演習 (11) 【到達目標】 テキストにおける因果関係を把握できるようになる。 【授業時間外学習】 時系列に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
第5回 英文読解演習 (4) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 【授業時間外学習】 パラグラフのメインアイデアに関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				第13回 英文読解演習 (12) 【到達目標】 出来事を時系列に沿って理解できるようになる。 【授業時間外学習】 速読に関する問題演習を行う。(4.0hr)			
第6回 英文読解演習 (5) 【到達目標】 パラグラフのメインアイデアを把握できるようになる。 【授業時間外学習】 コロケーションに関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				第14回 英文読解演習 (13) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 【授業時間外学習】 第9回以降の総復習を行う。(4.0hr)			
第7回 英文読解演習 (6) 【到達目標】 コロケーションを理解し、テキストに出現するコロケーションを発見できる。 【授業時間外学習】 ここまでの総復習を行う(4.0hr)				第15回 英文読解演習 (14) 【到達目標】 第9回以降の3章分の総復習を行い、理解度・習熟度を見る。 【授業時間外学習】 総復習から見えてきた各自の課題点をもう一度復習する。(4.0hr)			
第8回 英文読解演習 (7) 【到達目標】 ここまでの総復習を行い、理解度・習熟度を見る。 【授業時間外学習】 メインアイデアとサポートの関係に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 <ul style="list-style-type: none"> 講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。 授業には辞書を携帯すること。 履修者のレベルは英語1・2（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。 【オンライン授業の場合】 <ul style="list-style-type: none"> 上記の内容を、オンデマンド形式で受講し、毎回課題を提出することになる。 							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常点（出席・授業内活動など）50%、期末試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 平常点（出席）50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	英語EGCI			担当者	渡邊浩子		
英文名	English for General Communication I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
SPEAKING		伝えたい内容を80%以上伝えることができる。		伝えたい内容を50%以上伝えることができる。		伝えたい内容を伝えることができない。	
LISTENING		内容を80%以上理解できる。		内容を50%以上理解できる。		内容をほぼ理解できない。	
VOCABULARY		語義を英語で説明できる。		語義を日本語で説明できる。		語義を知らない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus (4.0hr)				第9回 Is that right? 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)			
第2回 Hello 【到達目標】 Speaking about yourself 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)				第10回 Backchanneling 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
第3回 Small Talk 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				第11回 How about you? 【到達目標】 Previewing vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第4回 That's a lovely T-shirt. 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				第12回 Showing interest 【到達目標】 Discussing your interest 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第5回 Compliments 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				第13回 Reading a storoy 【到達目標】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading preparation (4.0hr)			
第6回 Pardon 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
第7回 I really enjoyed it. 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第8回 Information 【到達目標】 Answering with additional information 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! 【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.							
【教科書・参考書など】 <i>Keep talking</i> , K.Murata, Kirihara Shoten							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% 【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%							

科目名	英語EAP II			担当者	カーリン 清佳		
英文名	English for Academic Purposes II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】							
この授業では語彙・リスニング・リーディング学習を通して、総合的な英語力の向上を目指す。また、様々なトピックについて学ぶことで、視野を広げ多様性を受容する素地を作る。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の語彙・表現		語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。	
英語のリスニング・リーディング		英語の活動内容が理解できる。		教科書・辞書を参照しながら英語の活動内容が理解できる。		教科書・辞書を参照しても、英語の活動内容が理解できない。	
英語を使用したコミュニケーション		自分の考えを英語で表現できる。		辞書や資料等を参考にしながら、自分の考えを英語で表現できる。		理解が不十分で自分の考えを英語で表現できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 英語演習（1）				第9回 英語演習（9）			
【到達目標】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。				【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 英語演習（2）				第10回 英語演習（10）			
【到達目標】 英語I・IIで学習した内容について復習する。 英語の特徴について復習する。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語演習（3）				第11回 英語演習（11）			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語演習（4）				第12回 英語演習（12）			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語演習（5）				第13回 英語演習（13）			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語演習（6）				第14回 英語演習（14）			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語演習（7）				第15回 英語演習（15）			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 授業全体のふり返しを行う。 今後の学習目標を設定する。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)			
第8回 英語演習（8）							
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。							
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。							
【教科書・参考書など】							
プリントを配布します。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。							

科目名	英語EGC II			担当者	渡邊 浩子		
英文名	English for General Communication II						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 This course (English for General Communication II) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
SPEAKING		伝えたい内容を80%以上伝えることができる。		伝えたい内容を50%以上伝えることができる。		伝えたい内容を伝えることができない。	
LISTENING		内容を80%以上理解できる。		内容を50%以上理解できる。		内容をほぼ理解できない。	
VOCABULARY		語義を英語で説明できる。		語義を日本語で説明できる。		語義を知らない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus (4.0hr)				第9回 Requests 【到達目標】 Practising polite requests 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第2回 Thank you so much 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)				第10回 Invitations 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
第3回 Thanking 【到達目標】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				第11回 Saying "no" 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
第4回 Excuse me, but... 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				第12回 Softeners 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
第5回 Complaints 【到達目標】 Listening in context 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				第13回 Reading a Story 【到達目標】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation (4.0hr)			
第6回 This is my fault 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
第7回 Apologies 【到達目標】 Practising vocabulary 【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
第8回 I'd rather not say 【到達目標】 Dealing with undesirable questions 【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!							
【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.							
【教科書・参考書など】 <i>keep talking</i> , K. Murata, Kirihara Shoten							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%							
【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%							

科目名	ドイツ語		担当者	藤由順子		
英文名	German Language					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】 初級レベルの基礎知識を確実なものにする。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
基本的なドイツ語運用に必要な文法の理解		ドイツ語の言語的特徴を理解し運用する。		資料を参照しながらドイツ語を運用する。		理解が不十分で説明できない。
ドイツ語圏の文化・言語に対する関心の向上		文化・言語への関心を自学へ導き発展させる。		文化・言語への関心を自学へ導く。		ドイツ語の文化・言語に関心がない。
ドイツ語で表現		自分のことや意見を表現できる。		資料を参照しながら自分のことや意見を表現できる		理解が不十分で全く表現できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベットの確認			第9回 前置詞の格支配			
【到達目標】 音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。 あいさつやとっさの一言が言える。			【到達目標】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。			
【授業時間外学習】 アルファベットの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 例文を覚える。(4.0hr)			
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認			第10回 助動詞			
【到達目標】 日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。 初めて見る地名や人名を正確に発音できる。			【到達目標】 話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 例) 私は～できる／～したい／～しなければならない。			
【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)			
第3回 ドイツ語の文構造／自己紹介(1)			第11回 否定表現			
【到達目標】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。 例) 私は～出身です／～を専攻しています。			【到達目標】 否定冠詞を使つての否定文を作る。 否定詞を用いた否定文の法則をしる。 例) 兄弟はいない／～を知らない			
【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分に関連した否定文を作ってみる。(例：私は魚を食べない、等) (4.0hr)			
第4回 ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る			第12回 疑問文			
【到達目標】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 例) 父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。			【到達目標】 疑問、質問を相手に行うことができる。 疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使ったりする。			
【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)			
第5回 冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞			第13回 映画鑑賞(1)			
【到達目標】 英語のa, an, the, my と異なる、冠詞の役目を確認する。 「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。			【到達目標】 ドイツ語フレーズやアクセントに意識を置いてドイツ映画を観る。 ドイツ人の仕事や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。			
【授業時間外学習】 自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。(4.0hr)			
第6回 複数形			第14回 映画鑑賞(2)			
【到達目標】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。 自分のよく使うような単語の複数形を調べて、表現する。 例) 私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。			【到達目標】 ドイツの社会・歴史的背景を映画から読み取る。			
【授業時間外学習】 単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 映画を見て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)			
第7回 数詞(1)			第15回 理解度の確認と補足説明			
【到達目標】 1から12までを確実に言う。13から20までの法則を押さえる。 頻度や回数、継続、曜日を表す。(頻繁に、5回、日曜日には、等) 時刻を表現する。			【到達目標】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。			
【授業時間外学習】 自分のスケジュールを表してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)			
第8回 人称代名詞						
【到達目標】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。						
【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ※半期しかないで、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。						
【対面授業の場合】 発音練習を自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は実施します。これらを受けて次回授業にフィードバックを行いますので、間違いや指摘されたより適切な表現をしっかりと確認して、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【オンライン授業の場合】 音声データを用いて発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。授業資料は、授業スケジュールに従い授業実施曜日・開始時刻にPhollyにて配信します。オンデマンド授業だからこそ、受講生の自学の理解度を確保するために毎回、課題を実施します。欠かさず提出するよう心がけてください。また、この課題提出は出席確認に用います。みなさんは課題提出を、授業に関する質問や感想を書き添える機会にしてください。後日配信されるフィードバックを参考に、間違いの箇所や、より適切な表現をしっかりと確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【教科書・参考書など】 『お菓家で学ぶドイツ語』小野森都子 平山茂樹 藤由順子著 (朝日出版社) 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト40%、試験結果を60%として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド授業時の課題提出・積極的な取組姿勢を50%、試験結果を50%として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。						

科目名	フランス語		担当者	森本悠人		
英文名	French					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206	卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】						
はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらい、シャンソンや映画のフランス語を通して文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れる。それによって、フランス語を使う人々の表現世界を理解することを目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
フランス語にかなする基本的な知見について		フランス語の成り立ちを説明できる		教科書を参照すればフランス語の成り立ちを説明できる		フランス語の成り立ちを説明できない
フランス語の発音と綴り字の規則について		規則を理解し、自立的に運用できる		教科書等を参照すれば発音が理解できる		理解が不十分であり、発音できない
フランス語の文法事項について		名詞の性数を理解し、動詞の活用を運用できる		辞書等を用いれば名詞の性数、動詞の活用が理解できる		動詞の活用や名詞の性数が理解できない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション：挨拶・アルファベ・綴りと発音、フランスとフランス文化			第9回 フランス語の文法②			
【到達目標】 (1)フランス語の挨拶やアルファベ、綴り、発音に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。			【到達目標】 (1)名詞・形容詞の性数一致を理解する。 (2)冠詞の用法を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の成り立ち」を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法②」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力			第10回 フランス語の文法③と小説『美女と野獣』			
【到達目標】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。			【到達目標】 (1)物語で使用される動詞の時制を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランスとフランス語圏」を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法③」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第3回 フランス語の童謡①			第11回 小説『美女と野獣』の読解①			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランスのシャンソンの背景や表現を理解する。			【到達目標】 (1)動詞の過去形を理解する。 (2)顔出単語を把握する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の童謡①ポイント解説」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第4回 フランス語の童謡②			第12回 小説『美女と野獣』の読解②			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランス語の特徴的な読み方の規則を理解する。			【到達目標】 (1)前置詞を理解する。 (2)前置詞と定冠詞の縮約を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の童謡②ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第5回 フランス語の文法①			第13回 楽曲「La belle et la bête」で学ぶ聞き取り			
【到達目標】 (1)フランス語の基本的な構造を理解する。 (2)主語、動詞の活用を理解する。			【到達目標】 (1)聞き取りの発音上のポイントを把握する。 (2)聞き取りと文法の関係を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法①」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第4回 『レ・シャンゼリゼ』とフランス語の綴り字			第14回 映画『美女と野獣』の場面を再現する			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランス語の発音と綴り字の規則を理解する。			【到達目標】 (1)指定された場面をスクリプトを元に再現する。			
【授業時間外学習】 プリント「『レ・シャンゼリゼ』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			
第5回 『Ce rêve bleu』とフランス語の母音・子音			第15回 授業のまとめ			
【到達目標】 (1)歌の表現世界の理解。 (2)フランス語の特徴的な発音や有声音と無声音の違いを理解する。			【到達目標】 (1)名詞・冠詞・形容詞、動詞、前置詞について文法をまとめる。 (2)発音の規則をまとめる。			
【授業時間外学習】 プリント「『Ce rêve bleu』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業を振り返り、自分なりのまとめを行う(4.0hr)			
第6回 映画『美女と野獣』の鑑賞						
【到達目標】 (1)フランス映画の表現世界の理解。 (2)フランス語の会話のリズムをつかむ。						
【授業時間外学習】 プリント「『美女と野獣』の一部訳・ポイント解説」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 半期の授業なので、毎回集中して授業に臨むこと。授業内容に則した課題を出すので、授業を欠席しないこと。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式とオンデマンド方式の両方を活用して授業を実施する。授業内容は授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。						
【教科書・参考書など】 授業時に適宜プリント配布						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 試験結果60%、復習・予習課題20%、小テスト20%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点で、それらを総合的に評価する。また、最終授業時に最終課題を提出することになる。最終まとめ課題40%、復習・予習課題40%、小テスト20%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	中国語		担当者	道上峰史		
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】						
本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語の文法や漢字に慣れてもらうため、受講生には基礎的な課題を出します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
初歩の中国語を読んで理解できる。		動詞や形容詞を用いた表現や、完了形を用いた中国語の文章を、全て理解できる。		動詞や形容詞を用いた基本的な中国語の短文が理解できる。		中国語の文章が理解できない。
初歩の中国語の文章を作成できる。		日常生活で用いる単語を使いながら、中国語で自己紹介をすることができる。		定型句を用いて短文を駆使して、中国語で自己紹介をすることができる。		中国語の作文ができない。
初歩の中国語の発音ができる。		講義で学習した中国語の単語を、全て正しく発音できる。		基本的な中国語の単語を正しく発音できるようにする。		正しく中国語の発音ができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション：中国語について			第9回 基礎構文（Ⅲ）：形容詞がある構文の応用			
【到達目標】 (1)言語としての中国語の特性を理解する。			【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。			
【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第2回 発音の基礎：発音記号と四声			第10回 基礎構文（Ⅳ）：完了形			
【到達目標】 (1)言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。			【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)完了形がある構文を習得する。			
【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発音する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字			第11回 基礎構文（Ⅳ）：完了形の応用			
【到達目標】 (1)中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。			【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)完了形がある構文の否定形、疑問形を習得する。			
【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第4回 基礎構文（Ⅰ）：是の構文			第12回 作文：自己紹介			
【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)是を使った構文を習得する。			【到達目標】 (1)自分について紹介する文章を作る。			
【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)			
第5回 基礎構文（Ⅰ）：是の構文の応用			第13回 作文：日常の表現			
【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。			【到達目標】 (1)日常表現をするための語彙を増やす。			
【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)			
第6回 基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文			第14回 中国の文化（Ⅰ）：中国文化と中国語Ⅰ			
【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)目的語がある構文を習得する。			【到達目標】 (1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2)中国語の語彙を増やす。			
【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第7回 基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文の応用			第15回 中国の文化（Ⅱ）：中国文化と中国語Ⅱ			
【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。			【到達目標】 (1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2)中国語の語彙を増やす。			
【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第8回 基礎構文（Ⅲ）：形容詞がある構文						
【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)形容詞がある構文を習得する。						
【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。参加学生が中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。それだけでなく、普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更はしません。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料です。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載します。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
【教科書・参考書など】 講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価します。さらに全授業回終了時点で中国語の文章作成を課して評価します。各授業回の総合評価を60%、全授業終了後の文章作成の評価を40%とし、あわせて100%として評価します。合格基準は60%です。						

科目名	コリア語			担当者	李 美 賢		
英文名	Korean language						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】							
韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
韓国語の初級レベルに達するための参加意欲		欠席ゼロで、学習に関する質問を積極的にする		欠席ゼロで、質問に対する答えを積極的にする		何度の欠席、目線を合わせず他のことをする	
韓国語の初級レベルの話す能力		自分の意見をきれいな発音で上手に話せる		勇気を出して自分の意見を積極的に言おうとする		呼ばれても何も答えようとならない	
韓国語の初級レベルの理解力		フレーズの聞き取りや書き取りができる		フレーズの書き取りより聞き取りができる		フレーズの聞き取り、書き取りが全くできない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か				第9回 日常生活の表現：疑問表現			
【到達目標】 (1)言語としての韓国語の特性を理解する。 (2)文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3)ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)			
第2回 ハングルの発音：基本母音				第10回 日常生活の表現：否定表現			
【到達目標】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)			
第3回 ハングルの発音：子音（1）				第11回 日常生活の表現：用言の表現（1）			
【到達目標】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)			
第4回 ハングルの発音：子音（2）				第12回 日常生活の表現：用言の表現（2）			
【到達目標】 (1)ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)			
第5回 ハングルの発音：合成母音				第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形			
【到達目標】 (1)合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)			
第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶				第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1）			
【到達目標】 (1)文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)			
第7回 日本語のハングルの表記				第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2）			
【到達目標】 (1)日本語のハングル表記を習得する。 (2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)			
第8回 日常生活の表現：肯定表現							
【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1-2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】							
「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞旻）著（白水社）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	八 田 益 之		
英文名	Career, Business and Social System						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209	卒業認定方針との関連		④⑤	
【到達目標】 大学卒業後の社会には、今までのようなレールがありません。どんな情報を手がかりにするか、誰を信頼するか、どの組織の一員として生きてゆくのかは、自分で考え、決め、行動することが求められます。「キャリア」とはそんな自己決定の足あとです。この講義では、そのための基礎知識としての「社会のしくみ」を理解します。個人やグループで、実際の社会における課題をとりあげて、自分なりに考えてみることを軸に、興味関心を広げ、就職活動・進路選択につなげていきます。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
①「社会のしくみ」を理解する		会社・団体に学生なりの提案を評価される	会社・団体の立場から社会を見ることができる	「お客様」の受け身な立場で社会を眺めているだけ			
②自身の「キャリア形成」を考える		自分が貢献できそうな相手・状況などを考えられている	自分の興味関心、得意不得意、などを客観視できている	「好きか嫌い」しか考えていない			
③進路選択への一歩を踏み出す		興味ある仕事につくための必要要素と、自分の今のギャップを理解し、具体的に行動している	興味ある仕事について調べ始めている	将来を何も考えず、今熟中していることもない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 3つの学修到達目標について 【到達目標】 ①社会のしくみを理解する②自身のキャリア形成を考える ③進路選択への一歩を踏み出す これら当講義のゴールを説明します。みなさんの将来の希望なども調査します。 【授業時間外学習】 上記3つの目標を自分なりに考える(4.0hr)				第9回 ロジカルシンキングの基本 【到達目標】 集めた情報を整理するための論理思考について、マンドラチャート、ロジックツリー、因果関係と相関関係、など各種手法を説明。また論理思考の鍛え方、その限界について、理解します。 【授業時間外学習】 論理思考の実践(4.0hr)			
第2回 進路選択の2大基本：①自己理解と②相手の理解について 【到達目標】 よくある悩み：「好きなことを仕事にしたい」「やりたいことがわからない」などについて、日本の雇用制度の特徴、就職活動の実態を踏まえて、理解します。その上で、進路選択の基本となる「相手の理解」について考えていきましょう。 【授業時間外学習】 やりたいこと、好きなこと、について自分なりに考える(4.0hr)				第10回 アイデアの伝え方、プレゼンテーション 【到達目標】 「頭はいいのに伝え方が下手」「できなかった人ほど教えるのがうまい」と感じた経験はありませんか？考えを相手に伝える基本技法を理解しましょう。映画『プラダを着た悪魔』（例）などを使い、物語の基本パターンも理解します。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションを考える(4.0hr)			
第3回 社会に必要なコミュニケーションについて 【到達目標】 日本の就活では「コミュニケーション能力」が重要といわれます。なぜなのか？日本企業と法制度の特徴、学生と仕事でのコミュニケーションの違い、などを理解します。 【授業時間外学習】 自分自身のコミュニケーションの経験、特徴、課題を考える。(4.0hr)				第11回 チームビルディング・コーチング 【到達目標】 グループワークをより効果的にするためのチームビルディング手法、とくに傾聴、質問などの手法を踏まえたコーチングについて理解し、実践します。 【授業時間外学習】 グループでのチームビルディング体験(4.0hr)			
第4回 コミュニケーション 実践編 【到達目標】 自分のコミュニケーションのクセを「タイプ分け」「優位感覚」などの手法をもとに振り返ります。対立する場面などを、いろいろな技法を使ってどうするか、理解を深めます。 【授業時間外学習】 具体的なコミュニケーション課題について考える。(4.0hr)				第12回 チームワーク体験の振り返り 【到達目標】 グループワークなどの実際の自分自身が行ったチームビルディング体験を振り返ります。自分や他者についての理解を深めましょう。 【授業時間外学習】 グループワーク体験を振り返る(4.0hr)			
第5回 企業を知るための方法 【到達目標】 Webの活用（就活サイト、さまざまな企業情報サイト）、人の活用（OGや直接コンタクト）の基本を理解し、インターンなど「現場」の体験についてのアンテナも立てていきましょう。 【授業時間外学習】 自分の関心ある分野について具体的に調べてみる(4.0hr)				第13回 学歴社会について 【到達目標】 就職の「学歴フィルター」という言葉があります。その実態、対応法を理解します。現実には、ウェブテスト、OGなど人脈や情報力、転職、など学歴の壁はあったとしても超えられます。まずは、ウェブテストから理解していきましょう。 【授業時間外学習】 受検してみる(4.0hr)			
第6回 企業の課題を解決する 【到達目標】 企業はどのような「課題」を抱えているのか？ 大学生の立場からどのような「貢献」ができるか？過去の学生コンテストでの高評価提案を分析し、問題のパターン別の考え方を理解します。 【授業時間外学習】 自分なりに企業課題を考える(4.0hr)				第14回 社会で本当に必要な「国語」と「算数」について 【到達目標】 高校までの国語と、社会（と就活）で必要な国語との違い、共通点 高校までの数学と、社会（と就活）に必要な数学的思考との違い、共通点を理解することが、ウェブテスト対策にもつながります。基本を再確認しましょう。 【授業時間外学習】 受検結果を振り返る(4.0hr)			
第7回 アイデアの出し方 【到達目標】 クリエイティブシンキング、デザインシンキングなど、アイデアの出し方のパターンを理解し、一人で考える、グループで考える、など実践していきます。 【授業時間外学習】 グループワーク（※グループワーク実施時期はテーマに合わせて調整）(4.0hr)				第15回 学生生活アクションプラン 【到達目標】 では、あなたはどうか？学年別、時期別に、進路に向けた具体的な行動を考えていきましょう。 【授業時間外学習】 最終レポート作成を行う(4.0hr)			
第8回 調査方法の基本 【到達目標】 文字情報（ネット検索、AI検索、本）、数字情報（量的調査）、人や現場の情報（質的調査）、といった調査方法の基本を理解します。 【授業時間外学習】 各種調査の実践(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業・オンライン授業ともに共通】 「みなさん一人一人が何をやるか？」を自分なりに見出しってもらうための、受講者全員が主体的に参加する「アクティブ・ラーニング」方式の講義です。みなさんの時々の反応を受けて進捗を修正していきます。そのため毎回ごとで取り扱う内容も変更されます（その都度告知します）が、全15回トータルでの学びの内容は保ちます。上記の「授業時間外学習」は、グループワークとして行う場合があります。成果を確認しながら実施時期や内容を調整していきます。 【オンライン授業の場合】 上記の講義を、動画配信によるオンデマンド講義形式で行います。「動画を受け身で見ているだけの講義」ではありません。オンラインの場合のグループワークは、①複数名のグループを組む（履修者の一覧表などを大学内専用ネットワーク内で公表します） ②時間を合わせグループワークを進める ③成果物を講義内で紹介、という方式を予定しています。							
【教科書・参考書など】 講義ごとにオンライン配信、もしくは紙の資料として配布します。（ノートは紙もしくはパソコン等で用意してください）							
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業ともに共通】 覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたこと、を基本的に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。具体的な成績評価は、①講義後の小レポート（オンライン提出中心）50%、②グループワークでの成果物20%、③最終レポート30%、の配分とします。							

科目名	データ分析と統計学				担当者	水野有希	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		卒業認定方針との関連	③	
【到達目標】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方や統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
統計学の基本的事項・理解に関する事項		基本的な概念や原理・法則を体系的に十分に理解し、自ら説明できる。		基本的な概念や原理・法則を資料等を参照しながら説明できる。		基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。	
統計学の実践的な活用に関する事項		事象を適切な分析から考察し、統計学的な表現を用いて自ら説明できる。		資料等を参照し、事象を分析し、統計学的な表現を用いて説明できる。		統計学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。	
体育・スポーツ研究の科学的根拠に関する事項		統計学的思考を用いて根拠に基づいた分析や論理的に考察を自ら説明できる。		資料等を参考に、根拠に基づいた分析や論理的に考察を説明できる。		根拠に基づいた分析が不十分で科学的根拠が説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 統計の心構え、ビックデータとAI 【到達目標】 (1)世の中にある情報（データ）にどのようなものがあるか理解する。 (2)データの特徴や分析により、様々な課題解決につながることを理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。（4.0hr）				第9回 平均と分散の推定と区間推定 【到達目標】 (1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。（4.0hr）			
第2回 データの種類・尺度水準、度数分布表とヒストグラム 【到達目標】 (1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。 (2)データの特徴にはばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（尺度水準）の復習をする。（4.0hr）				第10回 t検定（対応あり） 【到達目標】 (1)平均の差の検定の種類を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。（4.0hr）			
第3回 データのばらつきを数値に表すには 【到達目標】 (1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。 (2)代表値とばらつきを関数を使って算出する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。（4.0hr）				第11回 t検定（対応なし） 【到達目標】 (1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のないt検定）の復習をする。（4.0hr）			
第4回 散布図と相関、相関係数 【到達目標】 (1)散布図を作成し、パターンを理解する。 (2)相関係数の求め方を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（相関係数）の復習をする。（4.0hr）				第12回 分散分析（一元配置） 【到達目標】 (1)実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。（4.0hr）			
第5回 回帰直線 【到達目標】 (1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（回帰直線）の復習をする。（4.0hr）				第13回 分散分析（二元配置） 【到達目標】 (1)実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。（4.0hr）			
第6回 アンケート作成 【到達目標】 (1)アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。（4.0hr）				第14回 カイ二乗検定 【到達目標】 (1)仮説検定の考え方を理解する。 (2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。（4.0hr）			
第7回 仮説検定と有意差について 【到達目標】 (1)推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。 (2)確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 提出課題の復習をする。（4.0hr）				第15回 実践課題 【到達目標】 (1)実際のデータを使って分析を行います。 【授業時間外学習】 分析方法と表とグラフについて復習する。（4.0hr）			
第8回 正規分布とその他の分布 【到達目標】 (1)どのような分布があるかを学ぶ。 (2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（正規分布）の復習をする。（4.0hr）							
【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイス所有していることが条件です。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行われる確認課題（講義中に出すもの）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 【オンライン授業の場合】 毎回行われる確認課題（第1回～第14回）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。確認課題や実践課題は、指定された期日までに提出してください。							

科目名	知の哲学			担当者	宇多村俊介		
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		卒業認定方針との関連		①③
【到達目標】							
この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を論理的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解読するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	知をめぐる問題の所在と接近法	問題の所在を理解し、知へ接近する道程を多角的に説明することができる。	知の成立条件や知へ到る思考の過程を、資料等を見ながら説明することができる。	理解が不十分で、従前の意識と思考の枠組みから出ることができない。			
	思考の諸技能と明晰な言語使用	批判的思考の諸要件と諸段階を理解し、実践することができる。	批判的思考の諸要件と諸段階を、資料等を見ながら運用を試みることができる。	原則や概念の理解が不十分で、各諸技能を運用することができない。			
	知への視角と現代の知の諸相に関する事項	各主題の観点から世界や自己のあり様を分析し意見を述べるができる。	資料等を参照しながら、各主題の観点に基づいて事例を考えることができる。	各主題への理解が不十分で、新しい視点を事例の分析と思考に取り入れることができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ				第9回 感情：感情と認識			
【到達目標】 哲学的な問のもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。				【到達目標】 感情の三つの極態を弁別し、それぞれの認識の三能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を省みることができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の〈検討課題〉に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第2回 知の成立条件と定義：必要条件と十分条件				第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準			
【到達目標】 定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を考察することができる。				【到達目標】 行為の一段階として思考を捉える視点からプラグマティズムの守則を理解し、観念や言明を明晰化する手法として適用することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第3回 意味と明晰さ：曖昧と漠然				第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我			
【到達目標】 ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。				【到達目標】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考察することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第4回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型				第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知			
【到達目標】 立論(論証)の構造と、そこに体现される推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。				【到達目標】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と成立条件、および限界について考察することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第5回 立論の解剖学：樹形図の方法				第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法			
【到達目標】 複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。				【到達目標】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁				第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学			
【到達目標】 対話的な討論の枠組みのなかで立論の目的を把握し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別して理解することができる。				【到達目標】 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考				第15回 知の主體的責任と知的誠実性			
【到達目標】 成功する立論の充たすべき諸要件に対する違反として欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。				【到達目標】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。			
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第8回 知覚経験と認識：現象と実在							
【到達目標】 知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験のもつ限界と知覚経験の記述の客観性の諸条件について考察することができる。							
【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5〜6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して理解し、実地に適用する心構えで下さい。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に記載されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】授業内の課題ミニレポート40%、定期試験60%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	教養としての日本文学		担当者	石元みさと		
英文名	Introduction to Japanese Literature					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112	卒業認定方針との関連		①④
【到達目標】						
現代日本の児童文学作品を通時的・共時的に概観し、児童文学の変化を考察し、マンガやアニメなどの他ジャンルとの関わりにも目を配り、児童文学というジャンルの可能性について検討する授業である。						
現代児童文学の状況とその作品に関心を持ち、分析するための基本的な知識を得ることを目標とする。また、関わりのある他ジャンルにも視野を広げ、起こっている現象や問題に意識的になり、自分なりの解釈・分析をできるようにすることを目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
現代児童文学の状況とその作品について		背景やジャンルなども含め総合的に説明できる。	基本的な知識を説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
関心を持つ作品について		自分なりの解釈・分析ができる。	先行論をもとにした解釈・分析ができる。	先行論の理解はできる。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ガイダンス			第9回 1990年代の児童文学 アジアン・ファンタジー2			
【到達目標】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。 明治から昭和までの児童文学の歴史を学ぶ。			【到達目標】 1990年代の児童文学としてアジアン・ファンタジーの隆盛について学ぶ。『月の影 影の海』を取り上げる。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第2回 童話伝統批判			第10回 ボーダーレス化する児童文学			
【到達目標】 『少年文学宣言』と『子どもと文学』について学び、それまでの児童文学観との違いを理解する。			【到達目標】 1990年代に広がったボーダーレスな作品について学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第3回 現代児童文学の誕生			第11回 作品を分析する1			
【到達目標】 現代児童文学のはじまりとされる『だれも知らない小さな国』について学ぶ。			【到達目標】 『デューク』を取り上げ、作品を詳細に分析する。ドラマ版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第4回 1960年代の児童文学			第12回 作品を分析する2			
【到達目標】 1960年代の児童文学として『龍の子太郎』を取り上げ、創作民話について理解する。			【到達目標】 『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のテーマについて考える。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第5回 1970年代の児童文学			第13回 作品を分析する3			
【到達目標】 1970年代の児童文学として『屋根裏の遠い旅』を取り上げ、「反・行きて帰りし物語」となっている構成について学ぶ。			【到達目標】 『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のモチーフを分析する。映画版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第6回 タブーの崩壊			第14回 児童文学とメディアミックス			
【到達目標】 1970年代後半から80年代にかけて起こった「タブーの崩壊」という現象について理解する。その作品の一つとして「デブの四、五日」を取り上げる。			【到達目標】 『DIVE!!』を取り上げ、近年盛んに行われているメディアミックスについて考える。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第7回 1980年代の児童文学			第15回 まとめ			
【到達目標】 1980年代の児童文学作品として『ズッコケ三人組』を取り上げ、エンターテインメントについて理解する。			【到達目標】 これまで扱った作品を振り返り、自分なりの解釈・分析をする。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 1990年代の児童文学 アジアン・ファンタジー1						
【到達目標】 1990年代の児童文学としてアジアン・ファンタジーの隆盛について学ぶ。『空色勾玉』を取り上げる。						
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
・毎時間、授業内で小レポート（作品の感想）を課す。その提出をもって出席とみなす。						
・読み書きの自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。						
・小テスト、最終レポートを課す。						
【オンライン授業の場合】						
・動画配信の授業とする。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。						
【教科書・参考書など】						
教科書 授業時にレジュメを配布する。取り上げる作品のダイジェストを配布するが、できる限り事前に作品全体に目を通してから授業に臨んでほしい。						
参考書 授業時に適宜紹介する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】						
・毎回の課題提出(30%)・小テスト(20%)、最終レポート(50%)						
【オンライン授業の場合】						
・毎回の課題提出(オンライン実施30%)・小テスト(オンライン実施20%)、最終レポート(オンライン実施50%)						

科目名	音楽の世界			担当者	森 立 子		
英文名	The World of Music						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113	卒業認定方針との関連		④⑤	
【到達目標】 西洋音楽の基礎的知識を学びつつ、さらに世界のさまざまな音楽にも視野を広げ、音楽と現代社会がどのように関わっているのか、あるいは関わりうるのかについて考察を進める。履修者は、解説された事項を理解するとともに、音楽と社会との関わりについて自分自身の体験にも照らしながら論じることが求められる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
音楽の基礎的知識について		授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる		それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる		それぞれの概念の意味が理解できない	
音楽と社会との関わりについて		自分独自の方法論で分析ができる		授業で説明された分析が理解できる		授業で説明された分析が理解できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 序説～人間と音楽 【到達目標】 人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか。いくつかの例を基に考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第9回 音階とは何か 【到達目標】 音階の定義を学び、異なる音階に基づく音楽がもたらす聴覚的效果について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第2回 さまざまな楽器(1) 【到達目標】 楽器の分類法について学び、体鳴楽器、気鳴楽器について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第10回 音楽と記録(1) 【到達目標】 さまざまな種類の楽譜とその用途について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第3回 さまざまな楽器(2) 【到達目標】 弦鳴楽器、電鳴楽器について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第11回 音楽と記録(2) 【到達目標】 録音、再生技術の歴史について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第4回 声(1) 【到達目標】 歌唱における各種の発声法について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第12回 西洋音楽の歴史(1) 【到達目標】 西洋音楽史の時代区分を確認し、バロック時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第5回 声(2) 【到達目標】 西洋音楽の声種について、その実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第13回 西洋音楽の歴史(2) 【到達目標】 古典派、ロマン派時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第6回 音楽材としてのノイズ 【到達目標】 ノイズを素材としていかに音楽を構成することが出来るのか、実例を鑑賞しながら考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第14回 西洋音楽の歴史(3) 【到達目標】 近代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第7回 環境と音楽(1) 【到達目標】 「環境音楽」の歴史的展開について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				第15回 日本における西洋音楽の受容 【到達目標】 日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
第8回 環境と音楽(2) 【到達目標】 「サウンド・スケープ」の理念とその実践例について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントカードの提出を求める。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。また提出されたコメントの内容を踏まえて、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課し、このミニ・レポートの提出をもって出席とする。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各授業回で課すコメントカードの内容60%、学期末レポート40%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回で課すミニ・レポート60%、学期末レポート40%の割合で評価する。							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新		
英文名	Gender Issues						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211	卒業認定方針との関連		③④	
【到達目標】							
本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせて、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ジェンダーに関する基礎的知識		知識を理解し、現実社会の課題の理解に応用できる		知識について、配布資料等を参照しながら説明することができる		知識を十分に説明できない	
スポーツ場面におけるジェンダー課題について		課題について理解し、それについての自らの意見を述べるることができる		課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べるることができる		課題の理解が不十分で、意見を述べることができない	
教育場面におけるジェンダー課題について		課題について理解し、それについての自らの意見を述べるることができる		課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べるることができる		課題の理解が不十分で、意見を述べることができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 インTRODクシヨソ				第9回 近代スポーツとジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数(GGI)を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。				(1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。			
【授業時間外学習】授業内で提示するジェンダー・ギャップ指数のレポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で得意な参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内容のうち、「プライド宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)			
第2回 フェミニズムの歴史				第10回 保健体育科教育とジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 (3)現代における男性とフェミニズムの関係を理解する。				(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。 (3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。			
【授業時間外学習】授業内で提示する参考文献のうち、男性学に関する文献を読み、現代のフェミニズムの特徴を理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、保健体育科教育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか				第11回 セクシュアル・マイノリティと学校教育			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 (3)スポーツ場面における男女共同参画に関する取り組みを知る。				(1)セクシュアル・マイノリティと学校をめぐる近年の社会的動向を把握する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。			
【授業時間外学習】内閣府男女共同参画局HPより、第5次男女共同参画基本計画の説明資料を閲覧し、どのような分野でどのような課題があるのかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識				第12回 スポーツにおけるセクシュアル・マイノリティ			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)当事者の仲間としてできること、大切にすべきことを理解する。				(1)セクシュアル・マイノリティとスポーツをめぐる世界的な動向を把握する。 (2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。 (3)日本スポーツ協会による指導者への啓発・情報提供の取組の概要を知る。			
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように描かれているかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内で提示する日本スポーツ協会のハンドブックを読み、授業内容とあわせ、指導者として知っておくべき事柄を理解する。(4.0hr)			
第5回 「リアリティ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方				第13回 メディアとスポーツとジェンダーと			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (2)性感染症の現状について理解する。 (3)アスリートと生理に関する課題と社会的な動向について知る。				(1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 (3)メディアコンテンツの分析ツールについて知る。			
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)				【授業時間外学習】『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)			
第6回 実は身近なデートDV				第14回 スポーツと人権			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。				(1)トランスジェンダーのアスリートの競技参加に伴う課題を知る。 (2)DSDs(性分化疾患)のアスリートの競技参加に伴う課題を知る。			
【授業時間外学習】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)				【授業時間外学習】トランスジェンダーのアスリートの競技参加に関するIOCのルールについて、その変遷をまとめる。(4.0hr)			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界				第15回 日常生活世界に見るジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 (3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。				(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)クオータ制の概要と、政治や学術などの場面におけるその必要性を理解する。 (3)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。			
【授業時間外学習】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「1総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内で提示する男女共同参画白書令和5年版(Web版)の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日							
【到達目標】							
(1)日本における女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。							
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
パワーポイントを提示しながらの講義形式で行います。必要に応じ、映像資料等も使用する予定です。毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを複数回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回以降の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式で実施します。形式は対面授業の場合と同様です。動画と配布資料をポータルサイトのGoogle Drive上にアップします。対面授業のスケジュールに基づき、前日の17時にアップし、1週間掲載する予定です。出席はポータルサイトの「この呼出・連絡を読みました」ボタンを押すことによって確認します。							
【教科書・参考書など】							
教科書 特指定しない。 参考書 『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・来田草子著(2018)ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著(2016)八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著(2013)ミネルヴァ書房							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。※試験は試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】							
理解度を確認するためのリアクションペーパーに代わるミニレポート3回と、全授業回終了後にまとめるレポートを実施する。リアクションペーパー30%、まとめるレポート70%で評価する。							

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水野有希		
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology						
単位数	2	科目区分・必修／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE212・DLE212	HLE212・CLE212	卒業認定方針との関連	②③④	
【到達目標】							
<p>会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、画像処理、関数の応用やデータベース操作を身に付け、ホームページや資料作成などの様々な手法による情報発信技術について学びます。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
情報技術や情報倫理の基本的事項		情報発信を通して、情報の科学的な見方・考え方を自ら説明できる。		情報の科学的な見方・考え方を、資料等を参考に説明できる。		情報の科学的な見方・考え方の理解が不十分で説明できない。	
情報発信技術の実践的活用に関する事項		Webやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術を修得し、自ら説明できる。		資料等を参照してWebやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術が説明できる。		情報発信・情報収集の技術の修得が不十分で説明できない。	
体育・スポーツ研究のための情報技術活用に関する事項		論文・プレゼン資料作成の高度なスキルを修得し、自ら説明できる。		論文・プレゼン資料作成に必要なスキルを修得し、資料等を参考に説明できる。		論文・プレゼン資料作成に必要なスキルの修得が不十分で説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 情報技術について				第9回 クラウドの活用：アンケート調査の基礎			
【到達目標】 (1)情報技術とは何かを理解する。 (2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。				【到達目標】 (1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成、集計技術を理解する。 (2)アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。 (※ グループワークを行います)			
【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)			
第2回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について				第10回 クラウドの活用：アンケート調査の応用			
【到達目標】 (1)インターネットの仕組みを理解する。 (2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。				【到達目標】 (1)クラウドを用いたデータ集計やデジタルデータの扱い方を理解する。 (2)回収したデジタルデータの整理方法について学ぶ。			
【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第3回 レポート・論文作成の基礎				第11回 データベースの基本操作			
【到達目標】 (1)レポートや論文の体裁や作成の注意点などを理解する。 (2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。				【到達目標】 (1)データベースとは何かについて学ぶ。 (2)質的データと量的データの違いを理解する。 (3)フィルターやピボットの操作について学ぶ。			
【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第4回 レポート・論文作成の応用				第12回 グラフの作成			
【到達目標】 (1)注釈、図表番号、目次の作成技術を学ぶ。 (2)レポートや論文に添付する抄録や要約について学ぶ。				【到達目標】 (1)基本的なグラフについて復習し、グラフの応用技術を学ぶ。 (2)目的に応じた、効果的なグラフの作成について学ぶ。			
【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第5回 スライドデザインの技術				第13回 Excelの上級			
【到達目標】 (1)見やすい、わかりやすい、訴求力の高い資料作成について学ぶ。 (2)画像処理アプリケーションソフトについて学び、効果的な資料作成技術を修得する。				【到達目標】 (1)Excel関数の応用(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2)データの特徴を捉えるためのデータ整理技術や簡単な統計処理について学ぶ。			
【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第6回 ホームページ作成の基礎				第14回 資料作成の基礎			
【到達目標】 (1)Googleサイトを利用したホームページの作成技術を理解する。 (2)ホームページ作成におけるマナーや問題点を理解する。				【到達目標】 (1)officeアプリを互換し、資料(報告書)を作成する。 (2)既存の情報(公的機関、論文など)を活用した効果的な資料作成技術を修得する。			
【授業時間外学習】 さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第7回 ホームページ作成の実践				第15回 資料作成の応用			
【到達目標】 (1)画像データの編集技術について学ぶ。 (2)ホームページを作成・公開までの一連の作業を修得する。				【到達目標】 (1)TP0に応じた資料作成技術を習得する。 (2)情報発信方法について「振り返り」をして、効果的な情報発信技術を学ぶ。 (※ プレゼンをし、評価および振り返りを行います)			
【授業時間外学習】 さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第8回 クラウドについて							
【到達目標】 (1)GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 (2)クラウドを活用するメリット・デメリットを理解する。							
【授業時間外学習】 本日の授業内容の復習と次回授業のアンケート項目を考える。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
【対面授業の場合】							
講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は一部変更(グループワークやプレゼン)がありますが、ほぼ同じ内容で進めます。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Officeが使用できるデバイスを所有していることが条件です。							
【教科書・参考書など】							
資料を配付します。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
毎回行われる確認課題(講義中に提出)40%、HP・グループワーク課題(第7,9回)20%、最終レポート40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							
【オンライン授業の場合】							
毎回行われる確認課題(第1回～第14回)60%、資料の評価+最終レポート(第15回)40%として評価します。確認課題や最終レポートは、指定された期日までに提出してください。							

科目名	人間生活と地球環境			担当者	鈴木信夫		
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114	卒業認定方針との関連	④		
【到達目標】							
環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
原始地球の形成と、環境の変化に関して		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
生物の出現にともなう地球環境の変化に関して		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
人類誕生後、人間が他の生物に与えてきた影響について		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション				第9回 温室効果ガス			
【到達目標】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。				【到達目標】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。			
【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)			
第2回 原始地球の環境(1)				第10回 崩れる生態系			
【到達目標】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。				【到達目標】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。			
【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)			
第3回 原始地球の環境(2)				第11回 リサイクル法(1)			
【到達目標】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。				【到達目標】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。			
【授業時間外学習】 ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
第4回 恐竜の絶滅				第12回 リサイクル法(2)			
【到達目標】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。				【到達目標】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。			
【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)			
第5回 人為圧による野生生物の絶滅				第13回 リサイクル法(3)			
【到達目標】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。				【到達目標】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。			
【授業時間外学習】 ネット等でドードー・リョウコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
第6回 酸性雨				第14回 環境監査(1)			
【到達目標】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。				【到達目標】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。			
【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)			
第7回 水問題				第15回 環境監査(2)			
【到達目標】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。				【到達目標】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。			
【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)			
第8回 温室効果ガス							
【到達目標】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。							
【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】							
教科書は特に使用せず、プリントを配布(オンデマンドの場合は、Pholly上にPDF資料をアップ)する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】小レポートの達成度を100%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀 岳彦		
英文名	European Literature and Culture						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115	卒業認定方針との関連		④	
【到達目標】							
ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ヨーロッパの歴史の時系列的な流れ		時系列的な流れを理解し説明できる		時系列的な流れをノート等を参照しながら理解し説明できる		時系列的な流れの理解が不十分で説明できない	
各時代におけるヨーロッパ文学の特徴		各時代の文学の特徴を理解し説明できる		各時代の文学の特徴をノート等を参照しながら理解し説明できる		各時代の文学の特徴の理解が不十分で説明できない	
授業で学習したヨーロッパの文化的な諸側面		諸側面を理解し説明できる		諸側面をノート等を参照しながら理解し説明できる		諸側面の理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第9回 ヨーロッパ中世の文学 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第10回 ルネサンスの文学① 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要箇所を精読を通して考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第11回 ルネサンスの文学② 【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掘む。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第12回 宗教改革 【到達目標】 宗教改革(Reformation)は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 ユダヤ=キリスト教① 『旧約聖書』 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要箇所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱って表現していったのか、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 ユダヤ=キリスト教② 『新約聖書』 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要箇所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				第15回 ヨーロッパの現代文学 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 ヨーロッパ中世の文化 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業時に配布する資料・テキストをしっかりと読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。 【オンライン授業の場合】 上記の内容をオンデマンド方式で行う。毎回、テキスト・資料・動画がオンラインで配信され、受講生はそれらを用いて毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出することになる。							
【教科書・参考書など】 授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	レクリエーションミュージック・合奏		担当者	今角夏織		
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		卒業認定方針との関連	④⑤
【到達目標】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル	
楽譜についての基礎的な知識について		自ら楽譜を読み、演奏することができる。	楽譜を読み解く際、教員のサポートを得ながら演奏することができる。		楽譜を用いて演奏することが出来ない。	
合奏への参加方法・演奏の習熟		自分の担当する楽器の、その曲における役割を理解し、音楽に対して創意工夫が出来る。	楽器の正しい扱いや発音の原理を理解し、演奏に参加出来る。		楽器の演奏方法を習得できず、合奏に参加出来ない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入 【到達目標】 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			第9回 ボディーパーカッション② 【到達目標】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。 【授業時間外学習】 第8回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル 【到達目標】 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。 【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)			第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識② 【到達目標】 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。 【授業時間外学習】 第9回で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【到達目標】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)			第11回 リコーダー選指③/トーンチャイム導入 【到達目標】 リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。 【授業時間外学習】 これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)			
第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入 【到達目標】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)			第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム① 【到達目標】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			
第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー選指① 【到達目標】 グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。 【授業時間外学習】 学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)			第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー① 【到達目標】 トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの奏法；タンギングの復習をする。(4.0hr)			
第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【到達目標】 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。 【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)			第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー② 【到達目標】 トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。 【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。(4.0hr)			
第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表) 【到達目標】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 第6回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			第15回 リコーダー&トーンチャイム(発表) 【到達目標】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。 【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)			
第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー選指② 【到達目標】 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発音する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。 【授業時間外学習】 リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。 【オンライン授業の場合】 教科の特性上、オンライン形式での授業は不可能であるため、状況によって90分授業を45分ずつに分け、学生の登校を分散させた上での授業を実施する。 その際はプリント等で課題を配布し評価する。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。						

科目名	スポーツ運動学			担当者	石 塚 浩		
英文名	Sport Movement Theory						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR101		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ運動学の基礎的理論・事項について		理論を理解し、実践場面を想定して説明が可能		理論を教科書等の参照により、説明が可能		理解が不十分で、説明が不可能	
スポーツ運動学の研究知見について		研究知見を利用し、実践場面を想定して説明が可能		研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能		研究知見の理解が不十分で、説明は不可能	
スポーツ運動学の実践への応用について		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場面を想定して説明が可能		理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能		理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 運動技能の構造 【到達目標】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性 【到達目標】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第2回 技術や戦術と専門的体力の関係 【到達目標】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第10回 運動の構造（局面構造に着目して）（1） 【到達目標】 運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第3回 運動技能と発育発達との関係 【到達目標】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に変化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。 【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)				第11回 運動の構造（リズム構造に着目して）（2） 【到達目標】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術 【到達目標】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層 【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第5回 戦術に関する要因とその具体例（1） 【到達目標】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層 【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第6回 戦術に関する要因とその具体例（2） 【到達目標】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層 【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第7回 技術練習の方法 【到達目標】 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得 【到達目標】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第8回 戦術練習の方法 【到達目標】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補助資料である。配信は、対面授業スケジュールに従い、同一曜日の0:00頃に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間程度掲載する。出席は、各授業回におけるキーワードの記載と課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】							
教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）および配布プリント 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】全体の20%は回数配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80%はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された課題の評価、全授業回数終了時点での試験の実施、から評価を行う。それぞれの評価配分は授業課題30%・テスト70%である。合格基準は60%以上である。							

科目名		スポーツ生理学		担当者	星川佳広		
英文名		Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR102		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
<p>私たちの身体の諸機能のうち、スポーツ・ダンスなど身体運動と関係が深い神経系、筋系、呼吸系、循環系、内分泌系、体温調節などについて、その生理学的な仕組みの基礎を学ぶ。運動に対して身体がどのように応答するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）と身体はどのように変化するかに関して、ダンスの実践や指導、体育教師に必要な生理学的理解の基礎を作る。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ生理学の基礎的知識		知識を理解し、自らの言葉で説明できる		知識を理解し、資料等を見ながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
スポーツ生理学の専門的知識		知識を理解し、自らの言葉で説明できる		知識を理解し、資料等を見ながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
スポーツ生理学の基礎・専門的知識の応用事例		ダンス指導の様々な事象への応用事例を考えることができる		授業で紹介されたダンスへの応用事例が理解できる		理解が不十分で応用事例がわからない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 スポーツ生理学とは何か 【到達目標】 スポーツ生理学の概要と本講義における学習到達目標を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料、教科書に基づきスポーツ生理学の概要を復習する。教科書第1章の予習をする。(4.0hr)				第9回 スポーツと代謝、栄養① 【到達目標】 異化と同化、運動中のエネルギー基質利用について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)			
第2回 スポーツと骨格筋・神経① 【到達目標】 骨格筋・神経の解剖、生理について理解を深める。特に筋が収縮する仕組みと筋線維組成について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)				第10回 スポーツと代謝、栄養② 【到達目標】 運動に関係する栄養成分の働きと特性の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)			
第3回 スポーツと骨格筋・神経② 【到達目標】 神経系からの指令を受けた筋が収縮し、運動が発現する仕組みについて理解する。脳が筋を調節し、巧みに動く仕組みについて理解する 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)				第11回 スポーツと内分泌・ストレス 【到達目標】 運動やストレスに対する内分泌系応答とトレーニングによる変化について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第6章の予習をする。(4.0hr)			
第4回 スポーツとエネルギー供給機構 【到達目標】 エネルギーを生み出す仕組みとその種類について理解し、トレーニングに応用できる。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第2章の予習をする。(4.0hr)				第12回 スポーツと体組成 【到達目標】 体組成の概念と無酸素性、有酸素性トレーニングの効果について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第10章の予習をする。(4.0hr)			
第5回 スポーツと呼吸① 【到達目標】 運動時の呼吸機能の変化と調節機構について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)				第13回 スポーツと発育発達 【到達目標】 身体サイズの発育および諸機能の発達について概要を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第11章の予習をする。(4.0hr)			
第6回 スポーツと呼吸② 【到達目標】 最大酸素摂取量、最大酸素消費について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)				第14回 スポーツと体温調節 【到達目標】 体温調節の仕組みとパフォーマンスへの影響について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第12章の予習をする。(4.0hr)			
第7回 スポーツと循環① 【到達目標】 循環系の解剖、生理について理解を深める。特に心臓の役割と運動中の応答について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)				第15回 スポーツと身体不活動 【到達目標】 運動不足や身体不活動が及ぼす身体諸機能への影響を理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。(4.0hr)			
第8回 スポーツと循環② 【到達目標】 運動中の血圧応答、トレーニングに利用できる心拍数の変化について理解する。 【授業時間外学習】 講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 教科書と図表スライドを用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する課題がある。適宜、理解度確認の小テストを行い、授業内でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で行う。授業内容は授業回数が増えた場合でも大幅には変更しない。教科書と図表スライドを音声入りパワーポイント動画で説明する。動画及び資料は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし配信する。各授業回に課題があり、その提出によって出席を確認する。適宜、理解度確認の小テストを行う。質問は課題とともに受付、動画内でフィードバックする。 【対面形式】【オンライン形式】 ともに情報量が多いため、講義に加えて、教科書を繰り返し読むことが必須である。							
【教科書・参考書など】							
「スポーツ生理学」富樫健二編（化学同人）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 定期試験（試験は試験期間中に別途実施する）30%、小テスト20%、毎回の課題提出50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 小テスト45%、毎回の課題提出55%で評価する。 なお、両形式ともに良好な出席状況は、当然の前提である。							

科目名	スポーツ原論			担当者	都 筑 真		
英文名	Principle of Sports						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		スポーツ科学科	専門基礎・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR103		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
古代から現代に至るまでのスポーツや体育に関する歴史や哲学を概観しながら、これまでのスポーツや体育のあり様や諸問題について理解し、説明できるようになる。これまでのスポーツや体育のあり様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育のあり方について自らの考えを表明できるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス				第9回 体育の理念の変遷			
【 到達目標 】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。				【 到達目標 】 (1)体育の理念の変化について理解し、説明することができる。 (2)体育において求められる人間像の変化について理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第2回 古代のスポーツ				第10回 社会変化と今後の体育			
【 到達目標 】 (1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。 (2)古代のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【 到達目標 】 (1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、説明することができる。 (2)社会やスポーツ需要の変化を踏まえ、今後の体育のあり方について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第3回 中世のスポーツ				第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナルリズム			
【 到達目標 】 (1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。 (2)中世のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【 到達目標 】 (1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を理解し、説明することができる。 (2)スポーツのグローバリゼーションの長所や問題点について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第4回 近代のスポーツ①				第12回 スポーツと政治			
【 到達目標 】 (1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解し、説明することができる。 (2)イギリスで近代スポーツが発展した理由について自らの考えを表明できる。				【 到達目標 】 (1)スポーツ界が掲げる「政治的中立」という理想と現実について理解し、説明することができる。 (2)スポーツと政治の関係について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第5回 近代スポーツ②				第13回 スポーツとドーピング			
【 到達目標 】 (1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解し、説明することができる。 (2)近代スポーツが国際的に普及した意義について自らの考えを表明できる。				【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるドーピング問題と反ドーピングの取り組みを理解し、説明することができる。 (2)ドーピング問題の解決に向けて自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第6回 近代オリンピックの創始				第14回 スポーツとジェンダー			
【 到達目標 】 (1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解し、説明することができる。 (2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解し、説明することができる。				【 到達目標 】 (1)スポーツにおける男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解し、説明することができる。 (2)性の多様なあり方がスポーツにもたらす課題について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題				第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動			
【 到達目標 】 (1)近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解し、説明することができる。 (2)近代オリンピックが戦争やボイコットなどと関係する理由について自らの考えを表明できる。				【 到達目標 】 (1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解し、説明することができる。 (2)今後の「生涯スポーツ」推進策について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的							
【 到達目標 】 (1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解し、説明することができる。 (2)体育は何を目的として行われているのかを理解し、説明することができる。							
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈		
英文名	Sport Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR104	卒業認定方針との関連	⑦		
【到達目標】							
スポーツ心理学に関連する理論や研究知見および最新の研究成果に関わる基礎的事項を理解し説明できる。また、スポーツ競技者やダンサーとその指導者、健康運動活動に取り組む人々とその指導実践担当者、さらに、幼児を対象に運動あそび等を通じて発達を支援する保育者として、学修したスポーツ心理学の知見を有効に活用できる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ心理学の基礎的事項・理論について		理論を理解し自らまとめて説明できる。		理論を教科書等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
スポーツ心理学の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
スポーツ心理学の研究知見の活用に関する事項		知見の活用を具体的に提案できる。		知見の活用法を理解しており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 スポーツ心理学概説				第9回 スポーツ傷害・障害と選手の心理			
【到達目標】 (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1) スポーツ選手の傷害・障害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害・障害の予防及び対処の方法を説明できる。 (3) リハビリテーションの心理的留意事項を理解し、効果的な取り組みの方法を説明できる。			
【授業時間外学習】 復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第2回 スポーツと不安				第10回 スポーツとバーンアウト			
【到達目標】 (1) 不安には状態不安と特性不安が仮想的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を理解し説明できる。 (3) 不安と覚醒水準の関係を理解し、競技場面の緊張の調整に対する活用法を説明できる。				【到達目標】 (1) スポーツ選手のバーンアウトや体育学習者の学修性無力感の発症機序を説明できる。 (2) バーンアウトや学習性無力感に陥らないための対処法を、具体的に提案できる。			
【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験と整理）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。（4.0hr）			
第3回 スポーツとストレス				第11回 スポーツとキャリアアトランジション			
【到達目標】 (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 (2) 競技場面のストレス状況を解消するための認知的評価と対処行動の活用法を説明できる。				【到達目標】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 (2) 引退後の自らのキャリア形成に関する展望を具体的に立案し提示できる。			
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。（4.0hr）			
第4回 スポーツと動機づけ（1）				第12回 スポーツとライフスキル			
【到達目標】 (1) 動機づけ、欲求、誘因について理解し、説明できる。 (2) 内発的動機づけおよび外発的動機づけを理解し、それぞれの理論的背景を説明できる。 (3) 自己決定理論を理解し、スポーツ活動を適正に実施するための活用法を説明できる。				【到達目標】 (1) スポーツ活動により獲得される心理社会的スキルの内容を説明できる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに一般化することを理解し、その影響要因を説明できる。 (3) ライフスキルの形成に寄与するスポーツ活動の在り方を理解し、指導法を提案できる。			
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気高める方法を考える）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第5回 スポーツと動機づけ（2）				第13回 スポーツとジェンダー			
【到達目標】 (1) 期待値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) 動機づけの諸理論を活用したスポーツ場面のやる気高める方法について説明できる。				【到達目標】 (1) ジェンダーの概念、LGBTQなどの基本的事項を理解し、説明できる。 (2) スポーツ活動場面のジェンダー問題や課題を具体的に説明できる。 (3) スポーツ活動に関わるジェンダー問題の課題解決について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第6回 スポーツと運動学習				第14回 スポーツと摂食障害			
【到達目標】 (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 練習方法の種類について理解し、練習内容・手順について具体的に提案できる。				【到達目標】 (1) 摂食障害の一般的な症状について理解し、説明することができる。 (2) 国内外のスポーツ選手の摂食障害の実態とその原因を理解し、説明できる。 (3) スポーツ競技者の摂食障害を防ぐための認知・行動的留意事項を提案できる。			
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説、文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。（4.0hr）			
第7回 運動学習とフィードバック				第15回 スポーツ心理学研究法			
【到達目標】 (1) 練習の違い（ブロックとランダム）、文脈干渉効果、ガイダンス仮説を説明できる。 (2) フィードバックの種類と方法を理解し、説明できる。 (3) 運動学習の理論的背景に基づいた効果的な練習法を考案し説明することができる。				【到達目標】 (1) 心理学研究法（質問紙法、面接法、事例研究法）の違いを理解し、説明できる。 (2) 量的研究で用いられる統計分析の種類を理解し、使用目的を説明することができる。 (3) 度数分布、平均、標準偏差を求め、標本の特徴をまとめ、説明することができる。			
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（自分の心理的競技能力のレベルを測定する）に取り組む。（4.0hr）				【授業時間外学習】 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。（4.0hr）			
第8回 スポーツと心理的競技能力							
【到達目標】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) 自らの心理的競技能力を把握し、向上のための方法を具体的に提案できる。							
【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者は、指摘された重要事項を整理しながら記録すると共に、集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのノートの作成を目指さなければならない。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。特に、復習課題では、授業で説明された理論や心理学的知見を、スポーツの活動や指導の実践場面で具体的にどのように活用するのか、自らの考えをまとめ説明することが課題となる。したがって、授業以外の時間を有効に使い、学修事項の理解を深め、知識としての定着を図る努力が必要である。復習課題に対する回答には、評価とコメントを付しフィードバックするので、受講者は内容を確認の上、以降の自らの学修の参考にしなければならない。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更は行わない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、学生支援課より指示された曜日の9:00に行う。配信先は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上であり、掲載期間は1週間とする。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。復習課題及び予習課題の提示および回答の確認は、Phollyを用いて行う。内容は、「対面授業の場合」と同じである。							
教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、適宜、参考資料を配付する。各授業回の復習課題を毎回評価し（予習課題は確認のみ）、15回の授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに期末課題を実施し（対面授業の場合は期末テスト）、15回予習・復習課題の総合評価（50%）と期末課題（50%）を合わせて成績評価（100%）を算出する。合格基準は60%である。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各授業回の予習課題と復習課題を毎回評価し、15回の授業終了時点でそれらの総合的評価を行う。さらに期末課題を実施し（対面授業の場合は期末テスト）、15回予習・復習課題の総合評価（50%）と期末課題（50%）を合わせて成績評価（100%）を算出する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名	機能解剖学			担当者	永野 康 治		
英文名	Functional Anatomy						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR105		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動、および筋の走行、機能を学び、身体の動きを関節運動と筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、身体の構造や動きを骨格や筋機能の面から理解することで、自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に活かし、さらには運動を指導する立場において効率的な評価、処方、指導ができるようになることである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
全身の骨格について		骨格の形状やその特徴を関連付け、正しく選択、記述することができる。		骨格の形状やその特徴を資料を参考にして、正しく選択、記述することができる。		骨格の形状やその特徴を正しく選択、記述できない。	
全身の関節について		関節の構造や関節運動を関連付け、正しく選択、記述することができる。		関節の構造や関節運動を資料を参考にして、正しく選択、記述することができる。		関節の構造や関節運動を正しく選択、記述できない。	
スポーツ活動・指導への応用		機能解剖学の内容を、自らのスポーツ活動・指導にて実践し、見解を示すことができる。		機能解剖学の内容の一部を、自らのスポーツ活動・指導にて実践することができる。		機能解剖学を、自らのスポーツ活動・指導にて実践できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 機能解剖学概論（機能解剖学の基礎）				第9回 関節の構造と関節運動 上肢1			
【到達目標】 (1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項や用語の定義を説明できる。 (2)全身の骨格を概観し、全身の骨の名称とその位置を同定できる。				【到達目標】 (1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)肩甲胸郭関節の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 全身の骨の名称とその位置を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第2回 上肢の骨格1：鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨				第10回 関節の構造と関節運動 上肢2			
【到達目標】 (1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨の形状を図示できる。 (2)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)肘関節、前腕、手関節、指節間関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨の特徴を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第3回 上肢の骨格2：尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨				第11回 関節の構造と関節運動 下肢1			
【到達目標】 (1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨の形状を図示できる。 (2)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)股関節、脛骨大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)肘関節の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)肘関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨の特徴を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第4回 下肢の骨格1：寛骨、大腿骨、膝蓋骨				第12回 関節の構造と関節運動 下肢2			
【到達目標】 (1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨の形状を図示できる。 (2)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)膝蓋大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 寛骨、大腿骨、膝蓋骨の特徴を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第5回 下肢の骨格2：脛骨、腓骨、足根骨				第13回 関節の構造と関節運動 下肢3			
【到達目標】 (1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨の形状を図示できる。 (2)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)足関節、足部を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)足関節、足部の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)足関節、足部の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 脛骨、腓骨、足根骨の特徴を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第6回 体幹の骨格1：脊柱、頸椎				第14回 関節の構造と関節運動 体幹1			
【到達目標】 (1)体幹(脊柱、頸椎)の骨の形状を図示できる。 (2)体幹(脊柱、頸椎)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)体幹(脊柱、頸椎)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)頸部、胸腰部の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)や構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 脊柱、頸椎の特徴を覚える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第7回 体幹の骨格2：胸椎、腰椎、仙骨、肋骨				第15回 関節の構造と関節運動 体幹2			
【到達目標】 (1)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の骨の形状を図示できる。 (2)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の代表的な骨指標を同定できる。 (3)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の特徴を説明できる。				【到達目標】 (1)胸郭(肋椎関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。 (2)(呼吸)胸郭運動の運動と作用する筋肉を関係づける。 (3)胸郭の構造や筋機能の特徴を説明できる。			
【授業時間外学習】 胸椎、腰椎、仙骨、肋骨の特徴を覚える。骨格についての復習課題に取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)			
第8回 関節の構造と関節運動 概論							
【到達目標】 (1)関節の大まかな構造と種類を説明できる。 (2)関節運動の定義と実際の運動を結びつける。 (3)肩甲上腕関節を例に、関節の構造と運動を説明できる。							
【授業時間外学習】 各関節運動と実際の運動を一致させて覚える。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業開始時にその日の内容に関するクイズを出題するので積極的に参加し、基礎知識を確認する。授業は配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。その際に使用したプレゼンテーション資料はWeb上に公開するので、復習に用いること。授業の中盤、および終了時に理解度確認テストを行い内容を整理する。また、復習用の課題を1、7、13回目に提示し、課題に取り組みことで知識の定着を図る。その際の回答、質問はWeb上から入力し、授業中にフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の内容を説明したプリントである(プリント内に授業動画、授業プリント、前回授業の質問に対する回答などへのリンクを示す)。配信は、対面授業のスケジュールに従い、9:00までにPholly上にアップする。出席は、各授業回の理解度確認テストの提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】							
教科書：特に指定しない 参考書：アナトミカルキネシオロジー(メディカルサイエンスインターナショナル) 筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】課題20%、期末試験(試験は試験期間中に別途実施)80% 【オンライン授業の場合】理解度確認テスト(毎回)60%、期末レポート40%							

科目名	モダンダンス I			担当者	坂本 秀子	
英文名	Modern Dance I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR106		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】 本授業では、身体の正しい使い方を理解し、基本的な技術を習得する。また様々な質を持つコンビネーションを体験し、実力を高めていく。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
ダンスの基礎的な身体技能の修得について		基礎的な技能が十分修得できている。		基礎的な技能がおおよそ修得できている。		基礎的な技能が不十分で実施できない。
ダンス表現の実現について		動きがダンス表現として成立している。		ダンス表現としてはやや不十分な点がある。		ダンスの表現として成立していない。
ダンスに関する知識と理論について		知識や理論を自ら説明できる。		知識や理論を資料を見ながら説明できる。		知識や理論が理解できていない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎の講座について理解する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第9回 習作：グループワーク1 【到達目標】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第2回 基礎技術の確認 【到達目標】 床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第10回 習作：グループワーク2 【到達目標】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第3回 コンビネーション1 【到達目標】 脚上げの基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第11回 習作：グループワーク3 【到達目標】 グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第4回 コンビネーション2 【到達目標】 ターン系の基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第12回 発表、再検討 【到達目標】 改善する箇所を相談し、修正する事によってより深く動きの本質を理解する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第5回 コンビネーション3 【到達目標】 ジャンプ系の基礎技術を確認し習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第13回 グループワーク、踊り込み練習 【到達目標】 複数回練習する事によって、考案したフレーズをなめらかに踊れるようになる。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第6回 コンビネーション4 【到達目標】 その他の動きの基礎技術を習得する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第14回 発表、評価 【到達目標】 発表、評価を通して、動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第7回 コンビネーション1、2の発展、応用 【到達目標】 複合された動きをマスターする。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				第15回 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等 【到達目標】 ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)		
第8回 コンビネーション3、4の発展、応用 【到達目標】 複合された動きをマスターする。 【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。 【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート20%、テスト60%、授業への取り組み方・参加度20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎時間のレポート40%（メール添付）、期末のレポート60%（メール添付）として評価する。						

科目名	モダンダンスⅡ			担当者	松山善弘		
英文名	Modern Dance Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR107		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
様々な運動単位から発展してきたコンビネーションやレパトリーの学習を通して、イメージと連鎖した表現、技術の習得を目指す。空間、リズム、流れを意識して、イメージに相応しい作品を作る。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	基礎体力	柔軟性・体幹・筋力などの基礎を100%マスターしている。	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が70%以上ある。	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が30%以下しかない。			
	技能（テクニック）	必要なテクニックを100%マスターしている。	基礎的なテクニックが70%以上ある。	基礎的なテクニックが30%以下しかない。			
	表現力	発展した表現のテクニックがある。	作品を理解し、それに合わせた表現ができる。	作品を理解しているが、上手く表現することができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用）				第9回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習1			
【到達目標】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めて本授業について理解する。				【到達目標】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第2回 身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）1				第10回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習2			
【到達目標】 身体のセンターについて理解し意識を高める。				【到達目標】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第3回 身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）2				第11回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習3			
【到達目標】 身体のセンターについて理解し意識を高める。				【到達目標】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第4回 身体のセンターに対する意識を高める（エクササイズ）3				第12回 重心の移動を意識したコンビネーションの練習4			
【到達目標】 身体のセンターについて理解し意識を高める。				【到達目標】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第5回 骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）1				第13回 グループワーク1			
【到達目標】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。				【到達目標】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第6回 骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）2				第14回 グループワーク2			
【到達目標】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。				【到達目標】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第7回 骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）3				第15回 グループ作品の発表と評価			
【到達目標】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。				【到達目標】 グループ作品の発表と評価を通して動きの習熟度を確認する。			
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)				【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)			
第8回 骨盤に対する意識を高める（エクササイズ）4							
【到達目標】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。							
【授業時間外学習】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 ダンスをする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。 出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】レポート20%、テスト60%、授業への取り組み方・参加度20%の割合で総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	クラシックバレエ I			担当者	渡辺 碧・曹 叡永		
英文名	Classical Ballet I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門基礎・必修				
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR108		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
あらゆる舞踊の基礎となるバレエの基礎技法を正しく理解、体得し、品格のある健康な美しい身体を作り上げる。実践的なバレエの解剖学について学び、バレエにおける正しい身体と筋肉の使い方について理解する。バーでは組み合わせた基礎動作から身体配置を中心に学び、センターでは連続の動きの中でポジションを守ることの至難さ、音楽と動きの融合を実現させ、空間芸術を追究する。さらに、バレエの基本3原則であるアン・ドゥオール、アプロン、エレベーションについて理解し、動きの中で常に意識すること、実践できることを最終目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
バレエの基礎技法への理解		バレエの基礎技法を正しく理解し、そして正確にかつ美しく実施することができる。		バレエの基礎技法を理解し、実施することが出来る。		バレエの基礎技法への理解が不十分で、実施できない。	
身体配置への理解		正しい身体配置を理解し、1つ1つの動作に必要な骨や筋肉の部分を意識して踊ることが出来る。		正しい身体配置を理解し、動作に必要な骨や筋肉を意識して踊ることが出来る。		正しい身体配置への理解が不十分である。または理解する気がない。	
バレエの基本3原則への理解と実施		バレエの基本3原則を正しく理解し、実施することが出来る。また説明することが出来る。		バレエの基本3原則を理解し、実施することが出来る。		バレエの基本3原則への理解が不十分であるため、実施することが出来ない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 クラス分け				第9回 エクササイズ(応用)④			
【 到達目標 】 全員でバレエ能力テストを受け、上・中・初級にクラス分けをする。その際にそれぞれの今後の課題について検討し、理解をする。				【 到達目標 】 バー、センターエクササイズを通して、今までの基礎的要素をいかに応用し、より複雑なムーブメントにつなげていけるかを体験する。			
【授業時間外学習】 テストの出来なかった部分の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第2回 オリエンテーション				第10回 エクササイズ(応用)④			
【 到達目標 】 それぞれのクラスで、前期を通しての目標を確認するとともに、授業における取り組みの意識を向上させる。				【 到達目標 】 各エクササイズにおいて、バレエにおける正しい身体配置、バレエの基本3原則を意識しながら、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることを理解する。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第3回 身体配置(アライメント)の認識①				第11回 エクササイズ(応用)④			
【 到達目標 】 バレエにおける正しい身体配置(アライメント)について理解する。特に骨盤の正しい配置を認識する。また、骨盤周辺の筋肉の使い方についても理解する。				【 到達目標 】 応用編のまとめとして、バレエのどの動きにおいても、正しい身体配置とバレエの基本3原則を意識して、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第4回 身体配置(アライメント)の認識②				第12回 練習課題と反復練習④			
【 到達目標 】 バレエにおける正しい身体配置(アライメント)について理解する。特に背骨の正しい配置と使い方について認識する。また、背骨周辺の筋肉の使い方(上体の表現)についても理解する。				【 到達目標 】 半期のまとめである練習課題を習い、振付を覚える。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第5回 アン・ドゥオール、アプロン、エレベーションについて				第13回 練習課題と反復練習④			
【 到達目標 】 これまでのバレエにおける正しい身体配置(アライメント)に基づき、バレエの基本3原則である、①アン・ドゥオール(ターン・アウト)、②アプロン、③エレベーションについて理解し、実践する。				【 到達目標 】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第6回 エクササイズ(基礎)①				第14回 練習課題と反復練習④			
【 到達目標 】 身体の正しいアライメントを踏まえ、バレエの基本3原則を意識した上で、実際に基本的なバレエレッスンおよびセンターエクササイズを体験する。				【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第7回 エクササイズ(基礎)②				第15回 課題の発表と今後の検討			
【 到達目標 】 前回までの復習を通して、体験にとどまらず、今まで習ってきた要素をいかにエクササイズの中で実践していくかについて検討し、それを基に実践していく。				【 到達目標 】 課題を発表し、第2回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。自分の中のバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第8回 エクササイズ(基礎)③							
【 到達目標 】 これまでのまとめとして、基礎的なエクササイズの中で身体を正しく使い、バレエの基本3原則を意識しながら動いているかを確認する。							
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第15回の「課題の発表と今後の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】							
「バレエ用語辞典」(川路明編著/東京堂出版)など、必要な資料は適宜配布します。							
【成績評価方法】							
実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート(課題提出)40%を総合的に評価する。オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	クラシックバレエⅡ			担当者	渡辺 碧・曹 咲永		
英文名	Classical Ballet Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1			専門基礎・必修			
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR109		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
クラシックバレエⅠで学んだことを復習するとともに、より確実に自分のものとして体得することを目標とする。バレエ用語についても取り上げ、ただ単にバレエの動きを体得するだけでなく、用語の名前や意味を正しく理解し、その上で動きを体現出来ることで、より深くバレエを理解することを目指す。バレエの基本3原則であるアン・ドゥオール、アブロン、エレベーションについて理解し、動きの中で常に意識すること、正しく実践できることを最終目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
	基礎技法の再認識	同科目Ⅰで学んだ内容を踏まえ、バレエの基礎技法を継続して正しく実施出来る。		同科目Ⅰで学んだ内容を踏まえ、バレエの基礎技法を正しく実施出来る。		バレエの基礎技法への理解が不十分で、基礎技法の実施が十分にできない。	
	身体配置とバレエの基本3原則への更なる理解	身体配置と3原則への理解を更に深め、動きの中で継続して実施することが出来る。		身体配置と3原則を理解し、実施することが出来る。		身体配置と3原則への理解が不十分である。または理解する気がない。	
	バレエ用語への理解	バレエ用語について正しく意味を理解し、動きを実施できる。		バレエ用語の意味と動きについて正しく理解できる。		バレエ用語の意味についての理解が不十分である。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)①				第9回 練習課題と反復練習①			
【到達目標】 クラシックバレエⅠの評価を踏まえ、この授業を通しての目標、自分への今後の課題を認識するとともに、さらなる上達のための意識を高める。				【到達目標】 半期のまとめとして練習課題を習い、振付を覚える。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)②				第10回 練習課題と反復練習②			
【到達目標】 クラシックバレエⅠで行った内容(特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則)についてもう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく踊ることが出来る。特に骨盤の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。				【到達目標】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力ができる。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第3回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)③				第11回 練習課題と反復練習③			
【到達目標】 クラシックバレエⅠで行った内容(特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則)について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合わせて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。				【到達目標】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分への課題を見つけることが出来る。また、その課題の改善に向けた努力が出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力が出来る。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第4回 エクササイズ(クラシックバレエⅠの復習とその応用)④				第12回 練習課題と反復練習④			
【到達目標】 クラシックバレエⅠで行った内容(特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則)について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合わせて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に骨盤と背骨の身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。				【到達目標】 練習課題を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。バレエの基本3原則を意識して正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第5回 エクササイズとバレエ用語学習①				第13回 課題の発表			
【到達目標】 バーやセンターレッスンで用いられるバレエ用語について、内容や意味を理解する。				【到達目標】 課題を発表し、初回授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第6回 エクササイズとバレエ用語学習②				第14回 バレエ用語の確認			
【到達目標】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語と動きを関連させて理解することが出来る。				【到達目標】 これまで学んできたバレエ用語が正しく理解出来ているかを、バレエ用語と実際の動きを通して確認する。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第7回 エクササイズとバレエ用語学習③				第15回 理解度の確認と今後の目標の検討			
【到達目標】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。バレエの流派によって、バレエ用語が異なることを理解する。				【到達目標】 半期を通して、また、1年間を通して、それぞれの成長を確認するとともにクラシックバレエの重要性を理解する。自分の中におけるバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。			
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)			
第8回 エクササイズとバレエ用語学習④							
【到達目標】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。また逆に、動きからもバレエ用語が理解出来、その意味を答えることが出来る。							
【授業時間外学習】 毎時間の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第13回の「課題の発表」、第15回の「理解度の確認と今後の目標の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】							
「バレエ用語辞典」(川路明編著/東京堂出版)など、必要な資料は適宜配布します。							
【成績評価方法】							
実技テスト60%、バレエ用語確認テスト20%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート20%を総合的に評価する。オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	ジャズダンス I			担当者	石川 浩子		
英文名	Jazz Dance I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR110		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】 ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させ、それを踏まえた上で、幅広いシーンで対応可能な技術を習得する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
基礎体力		柔軟性・体幹・筋力などの基礎を100%マスターしている		柔軟性・体幹・筋力などの基礎が70%以上ある		柔軟性・体幹・筋力などの基礎が30%以下しかない	
技能（テクにニック）		必要なテクニックを100%マスターしている		基礎的なテクニックを70%以上ある		基礎的なテクニックが30%以下しかない	
表現力		発展した表現のテクニックがある		作品を理解し、それに合わせた表現ができる		作品を理解しているが、上手く表現することができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得 クロスフロアー① 【到達目標】 正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。 特にアイソレーションに特化した練習 ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第9回 ジャズダンスコンビネーション②-3 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第2回 基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得 クロスフロアー② 【到達目標】 正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。 特にアイソレーションに特化した練習 ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第10回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第3回 ジャズダンスコンビネーション①-1 【到達目標】 邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第11回 ジャズダンスコンビネーション③-1 【到達目標】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさを習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第4回 ジャズダンスコンビネーション①-2 【到達目標】 邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第12回 ジャズダンスコンビネーション③-2 【到達目標】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさを習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第5回 ジャズダンスコンビネーション①-3 【到達目標】 邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第13回 ジャズダンスコンビネーション③-3 【到達目標】 洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさを習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第6回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第14回 ジャズダンスコンビネーション（最終テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第7回 ジャズダンスコンビネーション②-1 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第15回 前期ジャズダンスについての復習・レポート作成 【到達目標】 前期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体や動きの変化等を、全員で話し合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第8回 ジャズダンスコンビネーション②-2 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】（コロナウイルス感染拡大による授業形態変更の場合のみ） オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 基本的には対面授業のみ行う。 【対面授業の場合】 出席、実技試験、授業への積極性などを総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】（コロナウイルス感染拡大による授業形態変更の場合のみ） 出席、画面での実技試験、授業への積極性を総合的に判断する。							

科目名	ジャズダンスⅡ			担当者	石川 浩子		
英文名	Jazz Dance Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR111		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】 ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させ、それを踏まえた上で、幅広いシーンに対応可能な技術を習得する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
基礎体力		柔軟性・体幹・筋力などの基礎を100%マスターしている		柔軟性・体幹・筋力などの基礎が70%以上ある		柔軟性・体幹・筋力などの基礎が30%以下しかない	
技能（テクニック）		必要なテクニックを100%マスターしている		基礎的なテクニックが70%以上ある		基礎的なテクニックが30%以下しかない	
表現力		発展した表現のテクニックがある		作品を理解し、それに合わせた表現ができる		作品を理解しているが、上手に表現することができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ジャズダンスコンビネーション④-1 【到達目標】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第9回 ジャズダンスコンビネーション⑥-1 【到達目標】 洋楽（メディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 （ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする） 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第2回 ジャズダンスコンビネーション④-2 【到達目標】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第10回 ジャズダンスコンビネーション⑥-2 【到達目標】 洋楽（メディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 （ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする） 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第3回 ジャズダンスコンビネーション④-3 【到達目標】 邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第11回 ジャズダンスコンビネーション⑥-3 【到達目標】 洋楽（メディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。 （ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはNGとする） 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第4回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション④に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第12回 ジャズダンステクニック復習 【到達目標】 前期・後期で学んだジャズダンスのテクニックを復習する。 クロスフロア形式で練習する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第5回 ジャズダンスコンビネーション⑤-1 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第13回 ジャズダンステクニックテスト 【到達目標】 ジャズダンスのテクニックを、クロスフロア形式でテストをする。 できなかった場合には、できるまで追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第6回 ジャズダンスコンビネーション⑤-2 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第14回 ジャズダンスコンビネーション（最終テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション⑥に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第7回 ジャズダンスコンビネーション⑤-3 【到達目標】 洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グループ感」を習得する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				第15回 後期ジャズダンスについての復習・レポート 【到達目標】 後期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体や動きの変化等を、全員で話し合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)			
第8回 ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする 【到達目標】 コンビネーション⑤に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。 【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】 （コロナウイルス感染拡大による授業形態変更の場合のみ） オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 基本的には対面授業のみ行う。 【対面授業の場合】 出席、実技試験、授業への積極性などを総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 （コロナウイルス感染拡大による授業形態変更の場合のみ） 出席、画面での実技試験、授業への積極性を総合的に判断する。							

科目名	コンテンポラリーダンス I			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Contemporary Dance I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー		DBR112	卒業認定方針との関連		⑥
【到達目標】							
本授業では主にリリーステクニック、フロアーテクニックの基礎の習得を行い、骨格の構造を意識した体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、空間認識などについての理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための基礎知識、技術の習得を目的とする。また、作品鑑賞レポートを通して、コンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
フロアーテクニックの理解と習得		床の性質と身体の構造を理解し、合理的に床を利用した動きや発展した動きに適応できる。		床の性質と身体の構造を理解し、フロアーを用いた基礎的な動きができる。		床の性質と身体の構造の理解が不足し、基礎的な動きが合理的に出来ない。	
身体のアライメントの理解		身体のアライメントの構造や性質を理解し、身体を制御し表現に繋げることができる。		身体のアライメントの構造や性質を理解し、基礎的な動きにおいて身体を制御できる。		身体のアライメントの構造や性質への理解が不十分で、自分の身体の制御が困難。	
リリーステクニックの理解		フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解し、それが十分に体现できる。		フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解し、体现できる。		フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解が不十分で全く体现できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション				第9回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用②			
【到達目標】 コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第2回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 導入				第10回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用③			
【到達目標】 基本エクササイズの流れを習得する。 フロアーテクニックと体のアライメントを用いたエクササイズを体験する。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第3回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎①				第11回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用④			
【到達目標】 基本エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通して、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第4回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎②				第12回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用⑤			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第5回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎③				第13回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎①			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第6回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎④				第14回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎②			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解、動きの質の変化などへの意識を高める。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第7回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 基礎⑤				第15回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ 基礎③			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解、動きの質の変化などへの意識を高める。			
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)			
第8回 フロアーテクニックと体のアライメントの理解 応用①							
【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。							
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態にて授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台に段階的に難易度が上がっていくため、個々での知識、技術の整理、復習が必要となる。							
【オンライン授業の場合】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況により、オンライン形式で、オンデマンドとライブ形式を組み合わせ授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポーグルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科目名	コンテンポラリーダンスⅡ			担当者	岩淵多喜子	
英文名	Contemporary Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1				専門基礎・必修	
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR113		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】						
<p>本授業では、コンテンポラリーダンスⅠで習得した基礎的なエクササイズに加え、より複雑で長めのフレーズを行う事により、動きの繋ぎの処理や流れ、ダイナミクスの変化等についての理解を深める。また、パートナーワークやコンタクト、動きの質等についての基礎知識、技術を習得し、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また、作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。</p>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
フロアーテクニクの習得と応用		フロアーテクニクのシステムについて十分に理解し、応用的な動きにも対応できる。	フロアーテクニクについてのシステムについて充分理解し、標準的な動きは不安なく行うことができる。	フロアーテクニクの理解が充分でなく、標準的な動きの体現ができない。		
身体のアライメントの理解と応用		身体のアライメントの構造や性質を理解し、身体を制御し発見的な動きにも利用することができる。	身体のアライメントの構造や性質を理解し、標準的な動きにおいて身体を制御できる。	身体のアライメントの構造や性質への理解が不十分で、標準的な動きの体現が出来ない。		
リリーステクニクの理解		リリーステクニクを充分理解し、フレーズの中でそれを生かし、また応用することができる。	リリーステクニクを理解し、標準的な動きに適用できる。	リリーステクニクの理解が不十分で、標準的な動きを行うことが困難。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 授業進行についてのオリエンテーション				第9回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 応用②		
【到達目標】 今後の授業の内容と進行について理解する。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第2回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 導入				第10回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 応用③		
【到達目標】 基本エクササイズの流れを習得する。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第3回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 基礎①				第11回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 応用④		
【到達目標】 基本エクササイズの流れを習得する。具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニクと体のアライメントについて理解を深める。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第4回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 基礎②				第12回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 応用⑤		
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニクと体のアライメントについて理解を深める。				【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第5回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 基礎③				第13回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ①		
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。より長いフレーズを通して基礎テクニクの定着、向上を図る。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第6回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 基礎④				第14回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ②		
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。より長いフレーズを通して基礎テクニクの定着、向上を図る。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第7回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 基礎⑤				第15回 振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ ③		
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。				【到達目標】 より長いフレーズの中でテクニクへの理解を深める。前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。		
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)		
第8回 フロアーテクニクと体のアライメントの理解 応用①						
【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。						
【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。						
【オンライン授業の場合】 全回対面での実施を予定しているが、状況により難しい場合は、オンライン形式で、オンデマンドとライブ形式を組み合わせ授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組み、資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認はポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。						

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古泉佳代		
英文名	Sports Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR201		卒業認定方針との関連	⑤⑦	
【到達目標】							
<p>日常の食生活が体格や健康状態に影響を及ぼすこと、すなわちウェイトコントロール、骨密度の増加、貧血を予防するためには日常生活において食事をしっかり摂ることが重要であることに気付く。そして、炭水化物、脂質、たんぱく質等栄養素に関連する知識を習得し、理解する。さらに栄養を運動との関連からとらえるために、運動を効率よく行う等、身体活動量の計算方法についても理解して日常生活での実践を目指す。さらに舞踊指導者としての能力を養う。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ栄養学の基礎		基礎を理解し、自らの言葉で説明できる		基礎を理解し、教科書及び資料等を参考にして説明できる		基礎を理解できない	
ダンサーや審美系競技に適した食生活に関する事項		様々な場面でのダンサーや審美系競技に適した食生活を考え日常生活にも応用できる		ダンサーや審美系競技に適した食生活を理解し、考えることができる		ダンサーや審美系競技に適した食生活を理解できない	
スポーツ栄養学の研究的知見の活用		近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解し、自らの考えを述べるができる		近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解し、活用できる		近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス				第9回 からだづくりに関係する栄養素①ビタミンB群とビタミンC			
【到達目標】 (1)「ダンサーの食事」について考えることができる。 (2)「食」とダンサーの関係を考えることができる。				【到達目標】 (1)エネルギー代謝におけるビタミンB群の関わりを説明できる。 (2)ビタミンB群、ビタミンCの摂取について理解できる。			
【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、一日の食を見直す。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ビタミンB群、ビタミンCが多く含まれる食事を考え実践する。(4.0hr)			
第2回 栄養バランスの評価①				第10回 からだづくりに関係する栄養素②ミネラル			
【到達目標】 (1)何を、どのくらい食べるのか、客観的に評価する3つの方法を理解する。 (2)3つの評価方法の関係性を理解し、生活に生かすことができる。 (3)ダンサーの食事のアウトプットについてディスカッションできる。				【到達目標】 (1)ミネラルの種類、体内での働きを理解する。 (2)スポーツ選手の貧血について説明できる。			
【授業時間外学習】 一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書を見ながらミネラルの量を意識した献立を考える。(4.0hr)			
第3回 エネルギー摂取と体重変動				第11回 エネルギー消費量①女性アスリートの三主徴			
【到達目標】 (1)身体活動とエネルギーの関係について理解できる。 (2)体重変動、を説明できる。 (3)推定エネルギー必要量を説明できる。				【到達目標】 (1)女性アスリートの三主徴を説明できる。 (2)エネルギー摂取量と消費量の関係を体重、体脂肪率と関連させて理解できる。 (3)ダンサーの視点でエネルギーの摂取についてディスカッションできる。			
【授業時間外学習】 自分自身のエネルギー摂取量とエネルギー消費量に気をつけて生活する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教科書を見ながら自分の消費量に見合った献立を考える。(4.0hr)			
第4回 ウェイトコントロールと炭水化物①食べる量と質の目安				第12回 エネルギー消費量②エネルギー消費量の推定方法			
【到達目標】 (1)食事を質で評価することができる。 (2)炭水化物について説明することができる。 (3)炭水化物エネルギー比について理解できる。				【到達目標】 (1)エネルギー消費量の推定方法を説明できる。 (2)エネルギー消費量の強度と時間の関係を理解する。 (3)期分けや年代により、エネルギー消費量は変化することを理解する。			
【授業時間外学習】 教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分自身のエネルギー消費量を推定する。(4.0hr)			
第5回 ウェイトコントロールと炭水化物②炭水化物の代謝と食品				第13回 水分補給・サプリメント			
【到達目標】 (1)運動時の炭水化物代謝について説明できる。 (2)根拠を持って、炭水化物を摂取する、しないという選択ができる。				【到達目標】 (1)水の出納を説明できる。 (2)サプリメント、エルゴジェニックエイド、いわゆる健康食品を説明できる。 (3)健康食品について、ダンサーの視点でディスカッションできる。			
【授業時間外学習】 教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用して調べる。(4.0hr)			
第6回 ウェイトコントロールと炭水化物③炭水化物の食べ方				第14回 時間栄養学①脂質と運動			
【到達目標】 (1)炭水化物を効率良く摂取するために、食べるタイミング・種類を理解できる。 (2)炭水化物と同時に摂取する栄養素について考えることができる。				【到達目標】 (1)脂質代謝を説明できる。 (2)食事での脂質の摂取を考えることができる。			
【授業時間外学習】 炭水化物を多く含む食品、調理方法を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 脂肪酸の種類を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)			
第7回 ウェイトコントロールとたんぱく質①たんぱく質の代謝と食品				第15回 時間栄養学②運動や食事のタイミングとエネルギー代謝			
【到達目標】 (1)たんぱく質代謝を理解できる。 (2)運動時のたんぱく質代謝について、糖質と関連させて説明できる。				【到達目標】 (1)一晩絶食でのエネルギー代謝を説明できる。 (2)自分に適した食事と運動のタイミングを考えることができる。			
【授業時間外学習】 教科書や資料を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 運動と食事のタイミングを考え実践する。(4.0hr)			
第8回 ウェイトコントロールとたんぱく質②たんぱく質の食べ方							
【到達目標】 (1)たんぱく質の主な供給源となっている食品を説明できる。 (2)運動後に適した食事の献立を考えることができる。							
【授業時間外学習】 運動後の食事を考え実践する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や数値を確認しながら理解を深めていく。受講生は、授業前までにPhollyにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。 本講義を理解するためには、自分自身の食生活や運動経験を振り返ること、授業内で学生同士のディスカッションや測定、計算等を取り入れるため、自分だけでなく、他者の食生活にも興味を持ちながら受講することが大切である。 講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。							
【教科書・参考書など】							
「ビジュアルワイド食品成分表 文部科学省科学技術・学術審議会 資源調査分科会 報告 五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍 計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと。 参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は70%、毎回の理解度テストの評価を30%として、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	女性のライフステージと運動			担当者	沢井 史穂・井筒 紫乃 須永美歌子		
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門基礎・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR202	卒業認定方針との関連		④⑦	
【到達目標】							
ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について理解し、説明できるようになる。また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深め、説明できるようになる。そして、それらの学習成果を実生活に生かすことができるようになる。また、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を他者に伝えることができるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴		ライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴を理解した上で説明できる		参考資料を基にライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴を説明できる		理解が不十分で説明できない	
女性の性機能と運動の関わり		女性の性機能と運動の関わりについて理解した上で説明できる		参考資料に基づいて女性の性機能と運動の関わりを説明できる		理解が不十分で説明できない	
女性特有の健康問題と運動との関わり		女性特有の健康問題と運動との関わりを理解し説明できると共に実践につなげることができる		参考資料を基に女性特有の健康問題と運動との関わりについて説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 女性と運動（担当：沢井）				第9回 女性の性機能と運動の関わり（女性ホルモンの働きと性周期）（担当；須永）			
【到達目標】 (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動についての自分の考えを述べることができる。 【授業時間外学習】 メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。(4.0hr)				【到達目標】 (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を整理し、復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)			
第2回 女性のスポーツ参加の変遷（担当：沢井）				第10回 女性の性機能と運動の関わり（月経と運動）（担当；須永）			
【到達目標】 (1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心を持ち、参加したり観戦したりする。(4.0hr)				【到達目標】 (1)月経周期、月経前症候群（PMS）、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)			
第3回 女性のスポーツ参加の現状（担当：沢井）				第11回 女性の性機能と運動の関わり（妊娠・出産と運動）（担当；須永）			
【到達目標】 (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、説明できる。 【授業時間外学習】 スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。(4.0hr)				【到達目標】 (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解し、説明できる。 (2)妊娠期間および産褥期における運動への取り組み方について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)			
第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（乳幼児期）（担当；井筒）				第12回 女性の性機能と運動の関わり（月経周期と運動パフォーマンス）（担当；須永）			
【到達目標】 (1)乳幼児期の身体特性と運動発達との関わりについて理解し、説明できる。 (2)現代の生活環境において幼児の運動経験が健康に及ぼす影響について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				【到達目標】 (1)月経周期と運動パフォーマンスとの関係について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)			
第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（発育発達期）（担当；井筒）				第13回 女性アスリートの健康問題（担当；須永）			
【到達目標】 (1)発育発達期における女子の身体特性と運動発達の特徴について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				【到達目標】 (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題（月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等）について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)			
第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（思春期）（担当；井筒）				第14回 女性の性機能と運動の関わり（更年期障害と運動）（担当；沢井）			
【到達目標】 (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解し、説明できる。 (2)思春期の女性が抱える心の問題と運動との関わりについて理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 若い女性の身体特性や運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)				【到達目標】 (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解し、説明できる。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)			
第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（壮年期）（担当；井筒）				第15回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（老年期）（担当；沢井）			
【到達目標】 (1)壮年期女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について理解し、説明できる。 (2)肥満、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 壮年期の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)				【到達目標】 (1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解し、説明できる。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)			
第8回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差（担当；井筒）							
【到達目標】 (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 運動場で見られる性差について整理し、復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
本授業は3名の教員が5回ずつ講義を担当するオムニバス形式であり、オンデマンド方式で実施する。配信される教材は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と資料（保存・印刷可）である。予め資料を学内で受け取るか、各自でダウンロード・印刷して準備してから動画を視聴すること。配信は、毎週同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、一週間（7日目の24:00まで）掲載する。毎回の受講内容に関する理解度を確認するための小テストがあるので、必ず解答を送信すること。解答結果は直ちにフィードバックされるので、自身の理解度を確認し、復習に繋げること。また、授業に対する感想や質問の記入欄があるので、積極的に記載してほしい。コメントに応じて次の授業等で随時フィードバックを行う。出席は、各授業回で実施する確認テストの解答の送信によって確認する。オンデマンド方式であるが、受け身ではなく積極的に学習する態度で受講してほしい。全授業終了後は別途期末テスト（全範囲から出題）をオンデマンド方式で実施するので、毎回の受講資料をもちろん保管しておくこと。							
【教科書・参考書など】							
特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。							
【成績評価方法】							
各授業回の確認テストと全授業終了後に別途実施する期末テストの得点をあわせて、総合的に評価する。各授業回の確認テストの合計点50%、期末テスト50%、あわせて100%の評価を行う。合格基準は60%である。							

科目名	健康科学論			担当者	沢井史穂		
英文名	Introduction to Health Science						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		スポーツ科学科	専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE101		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解し、説明できるようになる。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解し、説明できるようになる。また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解し、説明できるようになる。これらの学習過程を通じて、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけ、実生活の中で活用できるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
現代人の健康問題の原因と予防・改善策		現代人の健康問題を理解した上で、それらの予防・改善策を具体的に講じることができる		正しい情報や資料に基づいて現代人の健康問題を理解し基本的な予防・改善策について説明できる		理解が不十分で説明できない	
ライフスタイルと健康との関わり		健康のために望ましいライフスタイルを自ら選ぶことができる		健康のために望ましいライフスタイルを理解し説明できる		理解が不十分で説明できない	
年齢や性差が健康に及ぼす影響		年齢や性の違いを考慮した健康づくり対策ができる		年齢や性差が健康に及ぼす影響を理解し説明できる		理解が不十分で年齢や性差の影響を説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 健康科学論ガイダンス 【到達目標】 (1)「健康科学論」の学習内容とねらいを理解し、説明できる。 (2)健康に関わるキーワードに対する自己の理解度を確認し、今後の学習課題を示すことができる。 (3)自己の健康観を具体的に説明することができる 【授業時間外学習】 「健康」に関するキーワードの意味を調べる。(4.0hr)			第9回 ロコモティブシンドロームの概念と予防 【到達目標】 (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、説明することができる。 (2)ロコモティブシンドロームの予防策を示すことができる。 【授業時間外学習】授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。(4.0hr)				
第2回 健康とは何か 健康観の変遷 現代における健康観 【到達目標】 (1)「健康」の定義を理解し、説明することができる。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を述べることができる。 【授業時間外学習】 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心をもち、視聴したり読んだりする。(4.0hr)			第10回 子どもの生活環境の変化と健康 【到達目標】 (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解し、説明することができる。 (2)成長に伴う身体構造と機能の変化を理解し、説明することができる。 (3)成長期における健康問題について理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)				
第3回 日本人の健康問題 人口構成の推移 疾病構造の変化 【到達目標】 (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解し、説明することができる。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習する。(4.0hr)			第11回 女性の性機能の変化と健康 【到達目標】 (1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解し、説明することができる。 (2)月経周期の正常と異常、体調の変化について理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)				
第4回 生活習慣病とは 【到達目標】 (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解し、説明することができる。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。(4.0hr)			第12回 妊娠と健康 【到達目標】 (1)睡眠の質、サイクルと健康・運動との関わりについて理解し、説明することができる。 (2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について自分の考えを示すことができる。 【授業時間外学習】 妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。(4.0hr)				
第5回 循環系疾患とライフスタイル 【到達目標】 (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。(4.0hr)			第13回 高齢者の運動と健康 【到達目標】 (1)加齢に伴う身体構造と機能の変化を理解し、説明することができる。 (2)中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)				
第6回 代謝異常とライフスタイル 【到達目標】 (1)脂質異常症とは何かを知り、脂質異常をもたらすライフスタイルを理解し、説明することができる。 (2)糖尿病とは何かを知り、糖代謝異常をもたらすライフスタイルを理解し、説明することができる。 (3)代謝異常の予防・改善策を考えることができる。 【授業時間外学習】 代謝異常の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。(4.0hr)			第14回 休養と健康 【到達目標】 (1)睡眠の質、サイクルと健康・運動との関わりについて理解し、説明することができる。 (2)休養と健康との関わりについて理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)				
第7回 メタボリックシンドローム・肥満の判定と予防 【到達目標】 (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解し、説明することができる。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を示すことができる。 (3)肥満の定義と判定基準を理解し、予防と改善策を示すことができる。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームや肥満の予防行動につなげる。(4.0hr)			第15回 メンタルヘルス 【到達目標】 (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。(4.0hr)				
第8回 骨の健康 骨粗鬆症の予防 【到達目標】 (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を理解し、説明することができる。 (2)丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための方策を考え、実践することができる。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用することで理解を深める。授業中は重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。ほぼ毎時間、授業の最後に受講した内容に関する理解度を確認するための小テストをGoogle Formを使って実施し、解答結果は直ちにフィードバックするので、自身の理解度を確認し、復習に繋げること。Google Formの中に授業に対する感想や質問の記入欄があるので、積極的に記載してほしい。コメントに応じて次の授業の中でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される教材は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と資料（保存・印刷可）である。予め資料を印刷して書き込める準備をしてから動画を視聴してほしい。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、一週間（7日目の24:00まで）掲載する。出席は、各授業回の確認テストの解答の送信によって確認する。							
【教科書・参考書など】 とくに指定はない。必要な資料をその都度配布（配信）する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各授業回における理解度確認テストの総合評価（50%）と試験期間中に別途実施する期末テスト（50%）を併せて（100%）評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 各授業回における理解度確認テストの総合評価（50%）と全授業終了後に別途実施する期末テスト（50%）を併せて（100%）評価する。合格基準は60%である。							

科目名	発育発達論			担当者	井筒紫乃		
英文名	Growth and Development						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE102		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要な運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ヒトの身体の発育や心・運動発達の過程・理論について		理論について自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
ヒトの心身の発育発達の知見に関する事項		発育発達の要点を自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
ヒトの心身の発育発達に関わる運動発達の知見に関する事項		発育発達の要点を自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 発育発達とは、心理的特徴				第9回 中学生期の発育発達			
【到達目標】 (1)発育発達の概念を理解する。 (2)身体計測の測定法を理解する。				【到達目標】 (1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。 (2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)			
第2回 地球の誕生・人類の誕生と進化				第10回 高校生期の発育発達			
【到達目標】 (1)地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。 (2)人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。				【到達目標】 (1)高校生期の身体の発育と心の発達を理解する。			
【授業時間外学習】 ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)			
第3回 赤ちゃんの発育発達				第11回 日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状			
【到達目標】 (1)出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。 (2)生物学的成熟度について理解する。				【到達目標】 (1)日本と世界の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 (2)47都道府県の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)				【授業時間外学習】 受講前に、世界の子ども肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)			
第4回 発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）				第12回 発育発達期の運動プログラム			
【到達目標】 (1)子どもの肥満の弊害について理解する。 (2)やせの問題について理解する。				【到達目標】 (1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。 (2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 子どもの運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第5回 幼児期前期（1～3歳）の発育発達				第13回 思春期の女性からだ			
【到達目標】 (1)幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。				【到達目標】 (1)思春期の女性の身体的特徴を理解する。 (2)思春期の身体の変化における心の発達を理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 思春期の女性の身体の変化の留意点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第6回 幼児期後期（4～5歳）の発育発達				第14回 女性とスポーツ			
【到達目標】 (1)幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。 (2)幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。				【到達目標】 (1)女性選手の三主徴について理解する。 (2)女性の痩せについて理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、スキヤモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 受講前に、女性アスリートを指導する際に、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第7回 小学生期の発育発達				第15回 ヒトの一生と発育発達			
【到達目標】 (1)小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。				【到達目標】 (1)ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。			
【授業時間外学習】 受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)				【授業時間外学習】 受講前に、14回目まで作成したノートまとめておくこと。(4.0hr)			
第8回 ジュニア期の運動発達							
【到達目標】 (1)ジュニア期の身体の発育と運動発達の特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。							
【授業時間外学習】 受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する理解度確認テストを行う。結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。補足資料を用い、ノートを作成していく。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の、講義内容に関する理解度確認テストを実施する。							
【教科書・参考書など】 特に指定はしない。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】各授業回の理解度確認テストを60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート課題を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	表現運動学演習 (エアロビックダンス)			担当者	岡 島 浩 美		
英文名	Seminar in Expressive Movements (Aerobic Dance)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE103		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】 エアロビックダンスエクササイズはリズムカルな有酸素性運動であるという特性を理解し、エアロビクスの基礎理論、基本構成、基本ステップ等を習得する。グループエクササイズのプログラム作成・演習を通じて、プログラム作成能力・指導力を身につける。							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
エアロビックダンスエクササイズの基本ステップについて		基本ステップを習得し正確に大きく伸び伸びと動くことができる		基本ステップを習得し動くことができる		基本ステップ名と動きが一致せず正しく動けない	
エアロビックダンスエクササイズのプログラム構成について		プログラム構成の目的と効果を正しく理解し自ら構成ができる		プログラム構成の目的と効果が説明できる		プログラム構成の目的と効果が説明できない	
エアロビックダンスエクササイズの指導技術について		動きながらタイミングよくはっきりと的確な指導ができる		動きながら声を出して指導ができる		動きながら必要な声掛け等の指導ができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 エアロビックダンスエクササイズの歴史と発展 【到達目標】 エアロビックダンスエクササイズの歴史を習い、それを十分に理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズの歴史と現状のプログラム内容の復習をする。(4.0hr)				第9回 メインエクササイズのプログラム作成① 【到達目標】 メインエクササイズのアップのプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 メインエクササイズ全体の構成を理解しアップのプログラムを作成する。(4.0hr)			
第2回 エアロビクス基礎理論 【到達目標】 フィットネス全般についてのコンセプトと注意点、及びエアロビックダンスエクササイズの基礎的要素を学び、理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスエクササイズ以外の有酸素性運動の種類を事前に調べる。(4.0hr)				第10回 メインエクササイズのプログラム作成② 【到達目標】 メインエクササイズのキープのプログラムを作成する。 【授業時間外学習】 運動強度を考慮して、メインエクササイズを作成する。(4.0hr)			
第3回 エアロビックダンスの特徴 【到達目標】 エアロビックダンスの8つの特徴を理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスの8つの特徴をまとめて復習する。(4.0hr)				第11回 メインエクササイズのプログラム作成③ 【到達目標】 メインエクササイズのダウンのプログラム作成と、全体のまとめを行う。 【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズの構成であるかチェックし、実際に動いてみる。(4.0hr)			
第4回 エアロビックダンスの構成 【到達目標】 エアロビックダンスの4つのパートの目的と構成を理解する。 【授業時間外学習】 エアロビックダンスの4つのパートをまとめて復習する。(4.0hr)				第12回 指導法(対面・背面指導)① 【到達目標】 グループエクササイズにおける指導法(対面・背面指導)について学び実践する。 【授業時間外学習】 様々な指導法を用いて声を出しながら指導する練習をする。(4.0hr)			
第5回 ウォーミングアップ 【到達目標】 ウォーミングアップの目的と構成を理解する。 【授業時間外学習】 目的に沿ったウォーミングアップを作成する。(4.0hr)				第13回 指導法(対面・背面指導)② 【到達目標】 グループエクササイズにおける効果的な指導技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 動きながら声を出しての指導を練習する。(4.0hr)			
第6回 ローインパクトステップ 【到達目標】 基本ステップ(ローインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。 【授業時間外学習】 基本のローインパクトステップの練習をする。(4.0hr)				第14回 指導法(対面・背面指導)③ 【到達目標】 対面・背面両方の指導技術を習得する。 【授業時間外学習】 明確な動きで解り易く声を出して指導ができるように練習する。(4.0hr)			
第7回 ハイインパクトステップ 【到達目標】 基本ステップ(ハイインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。 【授業時間外学習】 基本のハイインパクトステップの練習をする。(4.0hr)				第15回 筋コンディショニング・ストレッチの基本構成 【到達目標】 筋コンディショニング、ストレッチの基本構成について理解する。 【授業時間外学習】 基本の筋コンディショニングとストレッチを復習して練習する。(4.0hr)			
第8回 メインエクササイズのプログラム構成 【到達目標】 メインエクササイズのプログラム構成と目的を理解する。 【授業時間外学習】 安全で効果的なメインエクササイズのプログラム構成を復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 原則として対面形式で授業を実施する。感染予防対策を徹底し、授業中は指示に従いマスク及びフェイスシールドを特別な理由が無い限り着用すること。 【オンライン授業の場合】 コロナの感染拡大等で対面形式の授業が出来ない期間は、オンライン形式で実施する。 オンライン形式では、資料として音声入りパワーポイント又は学習内容となる技能や運動に関する動画を配信する。 パワーポイントは時間割通りの曜日の9時に本学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップするので、音声入りパワーポイントが視聴できる環境を整えておくこと。 また、実技を安全に実施できるような場所を確保する必要がある。 毎回課題を出すので、期限内にレポートを提出すること。							
【教科書・参考書など】 特に指定しない。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技テスト60%と課題のレポート提出40%の合わせて100%で評価する。 【オンライン授業の場合】 毎回の課題レポート提出を30%、期末の実技テスト動画提出とまとめのレポート提出で合わせて70%、合計100%で評価する。 ※対面とオンライン形式の両方になった場合は、実技テスト(オンラインの場合は動画提出)を重視し、課題レポート提出と合わせて総合で評価する。							

科目名	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）			担当者	松澤慶信		
英文名	Analytic Methods of Dance						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE201		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
<p>総論的考察をすすめていくが、時代を代表するあるいは作品概念を変えた作家や舞踊作品を具体的にとりあげつつも、その意味と意義をその時代の美学芸術学の思潮に丁寧に照らし合わせて検討していく、いわば思想としての舞踊を検証する講義である。舞踊作品の在り様や方をめぐる存在論的美学を基礎におきつつ舞踊作品の構造をその時代の時代精神とともに探っていきたい。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 to perform 【到達目標】 performするとはどういうことか。演奏したり、演出したり、上演したりと、テキストを立ち上げるその行為全般をいうが、オースティンが言う「パフォーマンス」な意味を芸術に適応し考える。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 マリウス・ブティバの業績 【到達目標】 現代もおバレエというダンスの表現形式は、基本的にブティバ・パラダイムにあると言っても過言ではない。われわれは彼が確立した語法と表現構造によって舞踊作品を存立させている。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 舞踊のジャンル 【到達目標】 様々な舞踊ジャンルを取り上げて、その差異とそして共通性を抽出して、舞踊とは何か、ダンシングするとはどういうことかをとりあえず捻出したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 pas de deux 【到達目標】 彼のダンスの様式の一つにpas de deuxを確立したことが挙げられるだろう。物語論的にも作品の構造論的にもまさに見せ場としてのパ・ドゥ・ドゥに着目したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 芸術としての舞踊 art/ars/テクネー 【到達目標】 芸術とは何か。その語源を探ることで、実は18世紀以前の芸術のもつ多義性(たとえばartisticとartificial)と多様性から、ダンスの存立を探る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 20世紀のバレエ改革 ディアギレフのバレエ・リュス 【到達目標】 19世紀に完成されたバレエが、もはや芸術ではなくエンターテインメント化していたのを、芸術に昇格させたのがディアギレフのバレエ・リュスに他ならない。その意味を20世紀芸術の文脈から探る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 18世紀の美学 【到達目標】 ヤスパースが言ったように、18世紀は「枢軸の時代」であり、近代的概念が一気に整備された時代だったが、美学もそして舞踊学も学としての反省を持つようになった、この時代を確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 20世紀バレエ 【到達目標】 バレエにとって20世紀とは何だったのか。フォルマリスティックなモダニスト・モダンとしての抽象バレエ、表現主義的な心理バレエ、そしてコンテンポラリー・バレエとは何か。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 18世紀「絵画の時代」とballet d'action 【到達目標】 美しい自然の模倣、物語ること、絵画的であること、イリュージョンイズム。この4つの視点が18世紀に「近代」芸術を指定する。バレエがこの時代の芸術理念のグッドモデルであることを確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 舞踊と音楽 【到達目標】 抽象バレエが明白にしたのは、パという語法がダンシングする構造だけではない。動きと音楽の関係をもさしあげたのだった。物語ることもはやダンスの本質ではない。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 17世紀バロック時代のダンス 【到達目標】 18世紀以前から始まるバレエの歴史を探ろう。1581年をバレエ元年とするが、次の17世紀の時代にはルイ14世の庇護のもと、バレエは宮廷バレエを経てコメディ・バレエという劇場芸術になる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 感情と舞踊 【到達目標】 感情の所在地、Befindlichkeitとしての情態感情、そして感情移入。感情をめぐる緒論をダンスに当てはめて、感情がダンスの特性を解明するメルクマルになることを確認したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 19世紀ロマン的なものとロマンティック・バレエ 【到達目標】 ロマンティック・バレエと呼ばれるバレエとは何か。ここにわれわれは実はロマン的なものという芸術の根幹にふれることになる。そしてこのロマン的なものが思いの外、バレエの本質であることを確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 感情と舞踊 【到達目標】 18世紀バレエは18世紀の芸術のグッドモデルであった。それからバレエは後退していく。20世紀にバレエは復権したと言われる。どうしてそう言えるのか。アーツ自体の変貌からも明らかにしたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 19世紀後半のクラシック・バレエ 【到達目標】 バレエの中心が19世紀後半にロシアに移った理由は社会学的にも幾つか挙げられるが、われわれ美学の徒には古典主義という概念を確認して、バレエのクラシシズムを押さえておきたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【学習上の留意点】							
<p>基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思う。しかし授業へのそちら側からの積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。 2年次後期開講の必修科目「舞台芸術論」の準備としても、是非受講してほしい。</p>							
【対面授業の場合】							
<p>基本的に配付資料を期限付きで毎回配るので、それをダウンロードして学習しておいて下さい。質問があるときは、教員のメルアドに送って下さい。あなたの疑問はみんなの疑問でもあるだろうから、できる限り、翌週の配付資料で、その質問に公開で答えます。</p>							
【オンライン授業の場合】							
<p>オンライン授業となった場合は、都度指示する。</p>							
【教科書・参考書など】							
<p>授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズブリス著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。</p>							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
<p>試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。</p>							
【オンライン授業の場合】							
<p>対面式の試験、あるいは提出レポートによる成績評価です。その解答内容が100%評価となります。</p>							

科目名	生涯ダンス論			担当者	八木ありさ		
英文名	Lifelong Dance						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門基礎・選択				
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE202	卒業認定方針との関連		⑥⑦	
【到達目標】							
本講義では、人間の心身発達の理論とダンスの性質とを結びつけて解説する。発達段階や文化・環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連について		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を理解し、自らまとめて説明できる。		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を、授業資料を参照しながら説明できる。		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連についての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。	
ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について		人が持っている条件との関わりで、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、自らまとめて説明できる。		ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりを、授業資料を参照しながら説明できる。		ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりについての理解が不十分で、資料を参照しても説明することができない。	
理論的な知識の、指導実践方法のなかでの活用について		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を習得しており、具体的に適切な活用方法を述べる事ができる。		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解し、授業資料をもとに具体的な活用方法を述べる事ができる。		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解しておらず、資料を参照しても活用方法を述べる事ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 「生涯ダンス」の理念①				第9回 老年期とダンス①			
【到達目標】 スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」の視点から説明できるようにするための基礎的な概念を理解する。				【到達目標】 高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。			
【授業時間外学習】 シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ADLと認知症について調べる。(4.0hr)			
第2回 「生涯ダンス」の理念②				第10回 老年期とダンス② (オンライン授業)			
【到達目標】 「ライフステージ」の概念や「わたらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。				【到達目標】 祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。			
【授業時間外学習】 ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による4つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1950～60年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。第8回の成果とともにレポートとして提出する。(4.0hr)			
第3回 子どもとダンス①				第11回 障害とダンス①			
【到達目標】 乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。				【到達目標】 「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。			
【授業時間外学習】 「子育て支援」の概念と、日本における問題点について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。(4.0hr)			
第4回 子どもとダンス② (オンライン授業)				第12回 障害とダンス② (オンライン授業)			
【到達目標】 幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。				【到達目標】 個別の「障害」を障害とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。			
【授業時間外学習】 保育園・幼稚園で行われる「表現」と関わる指導について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。(4.0hr)			
第5回 青年期とダンス①				第13回 地域とダンス①			
【到達目標】 青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。				【到達目標】 地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。			
【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。(4.0hr)				【授業時間外学習】 地域で行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。(4.0hr)			
第6回 青年期とダンス② (オンライン授業)				第14回 地域とダンス②			
【到達目標】 若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。				【到達目標】 生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べる事ができる。			
【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。①と②をまとめ、レポートとして提出する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導き出す。(4.0hr)			
第7回 壮年期とダンス①				第15回 だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために			
【到達目標】 中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。				【到達目標】 「理解度確認」の中で、「生涯ダンス」の現状についてこれを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べる事ができる。			
【授業時間外学習】 スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ダンスと関わる進路にはどのようなものがあるか調べ、それに必要な条件を検討する。(4.0hr)			
第8回 壮年期とダンス② (オンライン授業)							
【到達目標】 両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。							
【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1980～1990年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業はパワーポイント・プレゼンテーションや映像資料を用いながら進行する。授業でのディスカッションの素材を得るために、授業時間外学習において図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求めることがある。指定の授業回(合計5回)にはオンデマンド教材を事前配信する。毎回の授業終了時に理解確認のための課題の提出(GoogleForms)を求める。指定した回には、授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。社会的状況に伴って全ての回をオンデマンド方式の授業を実施することがある。社会状況の変化により授業回数が増減した場合でも、授業内容は大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の講義メモ、音声入りパワーポイント動画と、具体的例証を確認しながら理解を深めるための副教材動画である。配信は、同一曜日午前9時から5日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上に掲示する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。各授業回の復習課題提出時に質問を受け付け、次回の授業内でフィードバックを行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。							
【教科書・参考書など】							
必要に応じて印刷資料を配布する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告を含むノート作成状況(20%)、試験期間中に実施する試験の得点(60%)を併せて成績評価する。							
【オンライン授業の場合】 授業時間外学習の成果(25%)と授業内の復習課題達成度(25%)、最終的に確認された理解度の状況(50%)を併せて成績評価する。							

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子		
英文名	Hygiene and Public Health						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE203		卒業認定方針との関連	④⑤⑦⑨	
【到達目標】							
我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活の営みや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
衛生学・公衆衛生学の基礎的事項への理解（知識）		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を十分説明している。		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明している。		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明できない。	
衛生学・公衆衛生学の知識の活用（思考力・判断力・表現力）		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現している。		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。	
衛生学・公衆衛生学を学ぶ主体性（態度）		衛生学・公衆衛生学の学修に積極的に取り組もうとしている。		衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしている。		衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 健康と公衆衛生				第9回 感染症対策			
【到達目標】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。				【到達目標】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。			
【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)			
第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか				第10回 環境保健			
【到達目標】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。				【到達目標】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			
第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか				第11回 産業保健			
【到達目標】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。				【到達目標】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
第4回 ヘルスプロモーション				第12回 メンタルヘルス対策			
【到達目標】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。				【到達目標】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)			
第5回 世界と日本の健康戦略：SDGsと健康日本21に至るまで				第13回 親子保健			
【到達目標】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。				【到達目標】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第6回 健康の社会的決定要因				第14回 地域保健			
【到達目標】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。				【到達目標】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。			
【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第7回 生活の場と健康				第15回 災害時の公衆衛生			
【到達目標】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。				【到達目標】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。			
【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)			
第8回 がん対策							
【到達目標】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。							
【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】毎回の講義で、その回のキークエスションに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPhollyの併用による）によって確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
「学生のための現代公衆衛生 改訂8版」野中浩一編著（南山堂） このほかに適宜資料を配布する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施をもって評価する。各授業回の総合評価50%、確認課題の達成度50%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	スポーツマネジメント				担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Management						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE204		卒業認定方針との関連	⑦⑧	
【到達目標】							
<p>近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	スポーツマネジメントの基礎的事項（社会的要請や歴史の変遷）	基礎的事項について自らまとめて説明することができる	基礎的事項の要点について理解している	基礎的事項の要点について理解が不十分である			
	スポーツマネジメントの理論的知見に関する事項	理論的知見について自らまとめて説明することができる	理論的知見の要点について理解している	理論的知見の要点について理解が不十分である			
	スポーツマネジメントの理論的知見の活用・応用に関する事項	身近な具体的組織事例を挙げて、知見の活用・応用について論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述できない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 スポーツマネジメントの発展				第9回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅠ			
【到達目標】 (1) スポーツの様々な捉え方について理解する。 (2) スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。				【到達目標】 (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) モチベーションの内容論について理解する。			
【授業時間外学習】 経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)			
第2回 マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化				第10回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメントⅡ			
【到達目標】 (1) マネジメントの誕生（科学的管理法）について理解する。 (2) スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。				【到達目標】 (1) モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。 (2) 身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。			
【授業時間外学習】 スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 どのようにモチベーションが生じ、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)			
第3回 スポーツビジネス（企業）の目的と責任				第11回 スポーツ組織におけるリーダーシップ			
【到達目標】 (1) 企業の目的について理解する。 (2) マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。				【到達目標】 (1) リーダーシップの役割、機能について理解する。 (2) リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論・状況適合理論）を理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 優れたリーダーはどのような資質や行動特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)			
第4回 スポーツマーケティングの意義と役割				第12回 組織変革とリーダーシップ			
【到達目標】 (1) マーケティングとセリングの違いを理解する。 (2) マーケティングにおける市場細分化とターゲティングを理解する。				【到達目標】 (1) 変革型リーダーシップについて理解する。 (2) 組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。			
【授業時間外学習】 スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
第5回 マーケティング戦略とスポーツプロダクト				第13回 チーム作りとチームビルディング			
【到達目標】 (1) マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。 (2) スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。				【到達目標】 (1) チームビルディングの手法について理解する。 (2) チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。			
【授業時間外学習】 ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
第6回 スポーツ事業の経営戦略				第14回 スポーツ施設の運営と管理			
【到達目標】 (1) 代表的な環境分析の手法を理解する。 (2) 基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。				【到達目標】 (1) 我が国のスポーツ施設の現状を理解する。 (2) スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。			
【授業時間外学習】 成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)			
第7回 スポーツ組織のマネジメント				第15回 スポーツ施設のデザインとユーザビリティ			
【到達目標】 (1) 組織とは何かを理解する。 (2) 組織成立の要件を理解する。				【到達目標】 (1) ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。 (2) ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。			
【授業時間外学習】 組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)			
第8回 スポーツ組織の人間性（情緒的）側面							
【到達目標】 (1) 経営管理における人間関係論を理解する。 (2) 人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。							
【授業時間外学習】 組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面形式の場合】							
<p>パワーポイントを使用して講義をおこなう。関連資料やVTR等の補助教材も活用し、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は専用のノートを準備し、適宜板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニツペーパー（確認テスト/レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。さらに、講義形式を中心とした授業の中に、アクティブラーニングの手法を取り入れる。具体的には学生から質問、意見を求めたり、グループ討論の機会を設ける。</p>							
【e-ラーニング形式の場合】							
<p>オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と関連資料である。各資料は大学の定めた授業時間割に基づいて配信する（受講するためのURL等を送付する）。受講生は専用のノートを準備し、講義動画を視聴しながら適宜、板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。出席は、Google Formsに指定された内容を入力し、送信完了をもって出席と判断する。受講可能期間は原則、公開（配信）後、一週間である。毎回の授業後には、当該授業に関する意見交換の機会や教員に対する質問の機会等を確保する。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。</p>							
【教科書・参考書など】							
<p>教科書は特に定めない。 <参考書>「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。 ※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。</p>							
【成績評価方法】							
<p>【対面形式の場合】 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テストや課題レポート（講義内での小レポートやミニツペーパーを含む）を実施する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る評価を40%、定期試験を60%とし、あわせて100%として総合評価する。</p>							
<p>【e-ラーニング形式の場合】 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テスト（小レポート含む）をGoogle FormsまたはPhollyで実施し、毎回評価する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る評価を40%、定期試験を60%とし、あわせて100%として総合評価する。</p>							

科目名	救急処置法			担当者	夏井 裕 明		
英 文 名	First Aid						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE205		卒業認定方針との関連	⑤⑧⑨	
【到達目標】							
本講義は臨床スポーツ医学の外科系および内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
外傷各論		頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない			
スポーツ医学各論		内科的応急処置を説明できる	内科的応急処置が理解できている	内科的応急処置が理解できていない			
心肺蘇生法		心肺蘇生法を実践できる	心肺蘇生法を説明できる	心肺蘇生法が理解できていない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				第9回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節） 【 到達目標 】 膝のスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 123 を読む。(4.0hr)			
第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。(4.0hr)				第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部） 【 到達目標 】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。(4.0hr)			
第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。(4.0hr)				第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患） 【 到達目標 】 運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 163 - 171, 187 - 198 を読む。(4.0hr)			
第4回 応急処置総論 【 到達目標 】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)				第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症） 【 到達目標 】 貧血と主な感染症について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182を読む。(4.0hr)			
第5回 頭部のスポーツ外傷 【 到達目標 】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。(4.0hr)				第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症） 【 到達目標 】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。(4.0hr)			
第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【 到達目標 】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)				第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)			
第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指） 【 到達目標 】 上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 89 を読む。(4.0hr)				第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS (Basic Life Support) ができるようになる。 【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)			
第8回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部） 【 到達目標 】 頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 89 - 100 を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
本科目は選択科目ではあるが、教員免許取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。 第15回的心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド形式の授業を行う。授業当日9時までに各授業回の音声入りパワーポイント動画を本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップロードし、呼出・連絡掲示板を通じてURLと補足資料を配信する。視聴（出席）の確認は小テスト問題の解答により行い、Phollyを通じて授業開始時刻から授業6日後の23時59分まで小テスト問題の解答を受け付ける。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真		
英文名	Sport History						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE206	卒業認定方針との関連	⑦⑧		
【到達目標】							
社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解し、説明できるようになる。そして、各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの歴史を理解していくことを通じて、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	スポーツ史学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス				第9回 近代の戦争と体育・スポーツ			
【到達目標】 (1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。				【到達目標】 (1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解し、説明することができる。 (2)体育・スポーツが戦争と関係する理由について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第2回 スポーツ史を学ぶ意義				第10回 オリンピックムーブメントと世界平和			
【到達目標】 (1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解し、説明することができる。 (2)スポーツ史を学ぶ意義について理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解し、説明することができる。 (2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第3回 スポーツのルーツへのまなざし				第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法			
【到達目標】 (1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由を理解し、説明することができる。 (2)これまでのスポーツ振興政策踏まえて、今後とるべき振興政策について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第4回 各時代の社会におけるスポーツ				第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果			
【到達目標】 (1)スポーツの時代毎の変化を理解し、説明することができる。 (2)近代までのスポーツと現代のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1)スポーツの発展に貢献した「モノ」「場」「サービス」の歴史を理解し、説明することができる。 (2)スポーツの経済効果について理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第5回 スポーツ種目の誕生と変容				第13回 女性スポーツの展開と現在			
【到達目標】 (1)われわれの身近にあるスポーツ種目の誕生と変容を理解し、説明することができる。 (2)これまでのスポーツの変容を踏まえ、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1)女性にとってのスポーツの歴史を理解し、説明することができる。 (2)女性にとってスポーツが今後どのようなものとなっていくかについて自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第6回 欧米スポーツの日本への移入				第14回 スポーツとメディア			
【到達目標】 (1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解し、説明することができる。 (2)欧米スポーツが日本に普及した意義について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1)スポーツとメディアの歴史的関係を理解し、説明することができる。 (2)スポーツとメディアの今後の関係について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第7回 体操、身体教育、スポーツ教育				第15回 スポーツと環境問題			
【到達目標】 (1)古代の体操、近代の身体教育に関する理論と歴史を理解し、説明することができる。 (2)古代の体操、近代の身体教育とスポーツ教育との類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1)スポーツと環境問題の関係を理解し、説明することができる。 (2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
第8回 スポーツの技術、ルールの歴史的変容							
【到達目標】 (1)スポーツの技術やルールの歴史的変容を理解し、説明することができる。 (2)スポーツの技術やルールが今後どのように変化していくのかについて自らの考えを表明できる。							
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』(木村吉次編著、市村出版)と『スポーツの歴史と文化』(新井博／榎原浩見編著、道和本院)を講義の参考書として利用すること。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	体操			担当者	木皿久美子		
英文名	Gymnastics						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE104		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と積極的に交流ができるようにする。運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。適宜、指導法についても解説する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
	体操の基礎的な動きの習得について	見本となるデモンストレーションができる。		体操の基礎的な動きを習得することができる。		体操の基礎的な動きを習得することができない。	
	体操の基礎的な知識について	理解し自ら説明できる。		資料等を参照しながら説明することができる。		理解が不十分で説明できない。	
	体操の意義について	様々な対象者を想定して、運動プログラムを構成することができる。		他者に対して体力に応じた動きが想定できる。		他者に対して体力に応じた動きが想定できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーションと体気づき、体ほぐし 【到達目標】 体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				第9回 手具体操（短縄とび）の効果について 【到達目標】 タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第2回 ストレッチ体操：アライメントチェックとストレッチの基本 【到達目標】 体の歪みをチェックし、日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える。 【授業時間外学習】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				第10回 手具体操（短縄とび）の効果について 【到達目標】 短縄とびの特性と効果について理解し、正しく実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第3回 ストレッチ体操：2人組のストレッチ体操 【到達目標】 自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。 【授業時間外学習】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				第11回 手具体操（フープ）の特性について 【到達目標】 フープの特性を活かした運動を実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第4回 ストレッチ体操：音楽に合わせた柔軟体操 【到達目標】 音楽に合わせた一連のストレッチ運動を覚えて実施する。 【授業時間外学習】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				第12回 手具体操（フープ）の発展と方法 【到達目標】 グループになり、フープを操作する面白さを体感する。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第5回 手具体操（ボール）とトレーニング体操① 【到達目標】 ボールの特性を活かした運動を実践できる。 ボールの動きと巧みさの関係を理解する。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)				第13回 リズム体操：実技課題の実践① 【到達目標】 音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。 様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第6回 手具体操（ボール）とトレーニング体操② 【到達目標】 ボールの特性を活かした運動を実践できる。 2人組やグループになり、他者に応じたボールコントロールを体験する。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)				第14回 リズム体操：実技課題の実践② 【到達目標】 これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。 一連の動きを自然な動きで実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第7回 手具体操（長縄とび）の特性について 【到達目標】 長縄とびの特性を考え、実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)				第15回 体操の課題発表 【到達目標】 これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。 他者の動きを観察し、自己の参考にする。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)			
第8回 手具体操（長縄とび）の発展と方法 【到達目標】 長縄とびの特性と効果について理解し、正しく実践できる。 【授業時間外学習】 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたかを理解する。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 アクセサリ類や時計等、相手や自らの怪我を引き起こす危険性があるものは身につけない。 服装・身だしなみは実習にふさわしいものとする。インシューズを準備する。 自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考にして、できない動きや不慣れな動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。 毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信する内容は、音声入りパワーポイント動画と学習内容となる技能や運動に関する動画である。配信は、授業が行われる日の朝9:00に本学のPhollyにアップし、1週間後の17:00まで掲載する。出席の確認は、課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 必要に応じて、プリント教材を配布します。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 実技試験70%、レポート30%							
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出されたレポート40%、期末のレポート60%として評価する。							

科目名	器械運動			担当者	森井大樹		
英文名	Apparatus Exercise						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門基礎・選択	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE105		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階の練習方法を通して身につけていく。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
	マット運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
	とび箱運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
	鉄棒運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 マット運動の基礎技能				第9回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）④			
【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。				【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第2回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）①				第10回 とび箱運動（反転系の技の基礎技能）			
【 到達目標 】 (1) 側立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。				【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第3回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）②				第11回 とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）			
【 到達目標 】 (1) 側立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。				【 到達目標 】 (1) 閉脚とびの技能を習得する。 (2) 閉脚とびの技能テスト			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第4回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）③				第12回 とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）			
【 到達目標 】 (1) 側立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。				【 到達目標 】 (1) 閉脚とびの技能を習得する。 (2) 閉脚とびの技能テスト			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第5回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）④				第13回 鉄棒運動（支持回転系の技）①			
【 到達目標 】 (1) 側立前転の技能テスト (2) 伸膝後転の技能テスト				【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第6回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）①				第14回 鉄棒運動（支持回転系の技）②			
【 到達目標 】 (1) 側方側立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。				【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第7回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）②				第15回 課題の達成度と身体知			
【 到達目標 】 (1) 側方側立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。				【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。			
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第8回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）③							
【 到達目標 】 (1) 側方側立回転の技能テスト (2) ハンドスプリングの技能を習得する。							
【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容や成績評価方法は原則的に変更しない。課題技の基礎技能に関する学習部分のみをオンラインで実施することになる。各自ができる範囲で指定された課題に取り組むことを望む。課された運動課題に関する感覚記述、提出をもって出席確認をする。課題技の達成度に関する確認は、原則的に対面授業で実施するので、補講措置を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】							
<参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
課題技の達成度 100%							
【オンライン授業の場合】							
課題技の達成度 100%							

科目名	陸上競技			担当者	大橋 祐二・中野 美沙		
英文名	Track and Field						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門基礎・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE106		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験することと、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
陸上競技の技能について		基本的な技能だけでなく発展的な技能まで実践できる。	基本的な技能を実践できる。	基本的な技能を実践できない。			
陸上競技の理論について		理論を理解し自分の動きに応用できる。	理論を理解し説明できる。	理論の理解が不十分で説明できない。			
陸上競技の競技規則について		競技規則を理解し、正しく競技運営を行うことができる。	競技規則を理解し説明できる。	競技規則の理解が不十分で説明できない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業内容の説明（採点表）				第9回 全助走跳躍			
【 到達目標 】 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 自分にあったおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第2回 100m走の走り方：中間疾走				第10回 走り幅跳び記録測定1			
【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第3回 クラウチングスタートのしかた				第11回 走り幅跳び記録測定2			
【 到達目標 】 自分にあったクラウチングスタートの方法を身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第4回 スタート～加速のしかた				第12回 砲丸投げの基本技術とルール			
【 到達目標 】 クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第5回 スタート、加速疾走、中間疾走				第13回 メディシンボールによるつき出し			
【 到達目標 】 100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第6回 100m走記録測定				第14回 ホップ、グライドからの投げ			
【 到達目標 】 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第7回 走り幅跳びの基本技術とルール				第15回 砲丸投げ記録測定			
【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)				【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)			
第8回 短助走跳躍							
【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分にあった効果的な踏み切り技術を探り当てる。 【授業時間外学習】日頃から、陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式による陸上競技の知識に関する授業を30%、オンデマンド方式による実技課題の自習による授業を60%、リアルタイム方式の陸上競技についての講義・質疑応答を10%実施する。学習内容となる技能や運動に関する動画ならびに参考資料を配信する。資料は、各授業開始時刻から一週間閲覧できるように本学Google Drive上にアップする。出席確認は、各授業回のレポート提出によって行う。							
【教科書・参考書など】							
『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出されたレポートならびに動画を毎回評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポートを40%とし、合計100%として評価する。							

科目名	水泳			担当者	北川幸夫		
英文名	Swimming						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門基礎・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE107	卒業認定方針との関連	⑨		
【到達目標】							
水の特性に慣れることからはじめ、4種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
4泳法の泳法技能の習得		4泳法を効率的な泳ぎで25m泳ぐことができる		4泳法を規定の泳ぎで25m泳ぐことができる		近代4泳法を規定の泳ぎで25m泳ぐことができない	
長く泳ぐための泳力および泳法技能の習得		クロールと平泳ぎの効率的な泳ぎで100mを完泳することができる		クロールと平泳ぎで100mを完泳することができる		クロールと平泳ぎで100mを完泳することができない	
水泳学習における基礎知識の理解		各泳法に関する基礎的な知識を理解し、水泳学習の段階的な指導を説明できる		各泳法に関する基礎的な知識を説明できる		各泳法に関する基礎的な知識について十分に理解していない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 水慣れ 【到達目標】 水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第9回 バタフライの泳法実習 【到達目標】 バタフライの呼吸法を修得する。 バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第2回 けのび、グライダー姿勢、クロールの導入 【到達目標】 正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第10回 平泳ぎおよびバタフライのまとめ（泳法の確認） 【到達目標】 平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第3回 クロールの泳法実習 【到達目標】 クロールのキックおよびストロークを修得する。 クロールの呼吸法を修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第11回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得① 【到達目標】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第4回 クロールの泳法実習と背泳ぎの導入 【到達目標】 クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。 背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第12回 周辺技術（スタートおよびターン）の修得② 【到達目標】 水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。 クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第5回 背泳ぎの泳法実習 【到達目標】 背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。 背泳ぎの呼吸法を修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第13回 4泳法のまとめとクロールのトレーニング 【到達目標】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100mクロールに向けたトレーニングを行う。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第6回 クロールと背泳ぎのまとめ（泳法の確認） 【到達目標】 クロールおよび背泳ぎにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第14回 4泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング 【到達目標】 4泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。 100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第7回 平泳ぎの導入と泳法実習 【到達目標】 平泳ぎのキックを修得する。 あおり足とかえる足の違いを理解する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)				第15回 100mクロールおよび100m平泳ぎの確認 【到達目標】 100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)			
第8回 平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入 【到達目標】 平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。 バタフライのキックを修得する。 【授業時間外学習】書籍およびメディア等を活用して4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリ類の着用は不可とする。 水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。 新型コロナウイルスの影響により、対面授業を受講できない場合は、該当する授業の映像をオンデマンドで視聴してレポートを提出する。ただし、最終的に実技試験に合格しなければ単位認定されない。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の授業が予定されている曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学修報告書の提出（Pholly）によって行う。							
【教科書・参考書など】							
参考書：「水泳指導教本」 日本水泳連盟編、大修館書店							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 1. 泳法試験(70%)、2. クロールおよび平泳ぎの泳力試験(30%)とする。評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。 【オンライン授業の場合】 毎時間に提出してもらうレポート課題及び対面授業と同様の実技試験により評価する(100%)。実技試験は、原則的に対面授業で実施するので、補講措置を取る場合もある。							

科目名	バスケットボール			担当者	佐々木直基		
英文名	Basketball						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE108		卒業認定方針との関連	⑥⑨	
【到達目標】							
バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
知識と技能について		バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）をしっかりと説明でき、技能をゲームで十分に発揮することができる		バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明でき、技能をゲームで発揮することができる		バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明することができず、技能をゲームで発揮することができない	
思考力・判断力・表現力について		グループ活動の中で自らの意見を理解してもらえよう仲間伝えることができる		グループ活動の中で自らの意見を仲間に話すことはできる		グループ活動の中で自らの意見を仲間に十分に伝えることができない	
学びに向かう力について		授業に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる		授業に対して主体的・積極的に取り組むことができる		授業に対して主体的・積極的に取り組むことができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業のねらいと進め方				第9回 ゲーム【リーグ戦①】			
【到達目標】 1 授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 2 導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。				【到達目標】 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第2回 基礎的な個人技術 ドリブルシュート①				第10回 グループ戦術 パス&ラン			
【到達目標】 1 ワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの技術を理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの習得を目指す。				【到達目標】 1 グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解し、習得する。 2 ゲームの中でパス&ランが実践できるよう目指す。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート①				第11回 グループ戦術 ドライブ&合わせ			
【到達目標】 1 ゴール下でのワンハンドシュートの技術を理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのワンハンドシュートの習得を目指す。				【到達目標】 1 グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解し、習得する。 2 ゲームの中でドライブ&合わせが実践できるよう目指す。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第4回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ①				第12回 ゲーム【リーグ戦②】			
【到達目標】 1 ボールキャッチの技術を理解し、習得する。 2 いろいろなパスの技術を理解し、習得する。 3 試しのゲームを実践する。				【到達目標】(1) ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第5回 ゲーム				第13回 チーム戦術 5人でのセットプレー			
【到達目標】 1 バスケットボールの特性を理解し、ゲームを実践する。 2 チームの仲間と協力してゲームを実践する。				【到達目標】 1 5人でのセットプレーを理解し、習得する。 2 ゲームの中でセットプレーが実践できるよう目指す。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第6回 基礎的な個人技術 ドリブルシュート②				第14回 ゲーム【リーグ戦③】			
【到達目標】 1 ドリブルからのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートを理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのドリブルを習得する。				【到達目標】 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第7回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート②				第15回 基礎的な個人技術の総合的検証			
【到達目標】 1 動きながらのゴール下ワンハンドシュートを理解し、習得する。 2 ワンハンドシュートでのシューティングゲームを実践する。				【到達目標】 1 習得した基礎的な個人技術の習熟度を検証する。			
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
第8回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ②							
【到達目標】 1 走りながらのパスとキャッチを理解し、習得する。 2 走りながらのパスとキャッチを用いた対人ドリルを実践する。							
【授業時間外学習】 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。							
【オンライン授業の場合】 可能な範囲でオンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する資料や自習をサポートするための資料となる。資料配信の目安は、本来の各授業回が予定されている曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、原則として次の授業まで掲載する。出席の確認は、各授業回の課題の提出によって確認する。ただし、評価のための技能レベルの確認が必要な場合はオンデマンド方式であっても対面授業を要することがある。							
【教科書・参考書など】 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】平常授業での到達目標に対する到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回に提出された課題（動画や学習報告書など）の評価、さらに、全授業回終了時点でまとめたレポートを合わせて到達度として評価する。スキルテストについては可能な範囲でオンラインで実施するが、対面形式を要することがある。各授業回の到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	バレーボール			担当者	ヨコ・カリン・セッター・アント		
英文名	Volleyball						
単位数	1	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE109		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。							
【ルーブリック(学修の到達レベル)】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	バレーボール用語、ルール、成り立ちについて	用語やルールをよく理解し、説明することができる	用語、基本的なルールを理解している	用語、ルールを理解できていない			
	基本の技術の習得に関する事項	正しいフォームで行うことができる	正しいフォームに近い形で行うことができる	正しいフォームを形成できない			
	試合形式での実施に関する事項	システムを理解し、試合が行える	試合中のラリーに加わることができる	試合のシステムを理解できていない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 バレーボールの歴史と発展				第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解			
【到達目標】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。				【到達目標】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)				第10回 ゲーム実践Ⅰ			
【到達目標】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。				【到達目標】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)				第11回 個人技能の評価方法と技能修正方法			
【到達目標】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているいる方向へコントロールできる。				【到達目標】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)				第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法			
【到達目標】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。				【到達目標】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)				第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解			
【到達目標】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。				【到達目標】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術				第14回 ゲーム実践Ⅲ			
【到達目標】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。				【到達目標】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)				第15回 ゲーム実践Ⅳ			
【到達目標】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。				【到達目標】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)							
【到達目標】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。							
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更しない。全15回の授業を通じて各テーマについて理解を深め、各自が可能な範囲で技術の習得に取り組むこと。また、対面授業が可能となった際にはすみやかに実践できるように課題の自習にも取り組むこと。配信資料は、本来の対面授業が予定されている曜日の前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その1週間後まで掲載する。各課題の提出方法についてはPhollyにて行うこととし、接続トラブル等で提出が難しい場合には、メール添付にて提出も可とする。							
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。							
【オンライン授業の場合】 各回の提出されたレポートを毎回評価し、全授業終了時点で総合的に評価する(70%)。全授業終了後にまとめのレポートを実施し、評価する(30%)。							

科目名	比較舞踊学			担当者	渡 辺 碧		
英 文 名	Comparative Theory of Dance						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE301		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
世界の舞踊には様々な種類がある。舞踊といえば、西洋舞踊を思い浮かべがちであるが、果たして自国の舞踊について、皆さんはどれ程、熟知しているだろうか。この授業では特に、西洋舞踊と日本の舞踊の比較を通して、多彩な舞踊文化を持つ、日本の舞踊の重要性や必要性を理解することを目的とする。さらに民族・民俗を含め、日本の舞踊の価値を相対化させて問うことをねらいとする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	西洋舞踊史への理解	西洋舞踊史について改めて深く理解し、自らの言葉で説明できる。	西洋舞踊史について理解し、資料を参考にしながら、説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	日本の舞踊	日本の舞踊について理解し、自らの言葉で説明できる。	日本の舞踊について理解し、資料を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	西洋舞踊と日本の舞踊の比較	西洋舞踊と日本の舞踊を比較し、その違いについて理解し、自らの言葉で説明できる。	西洋舞踊と日本の舞踊を比較し、その違いについて理解し、資料を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション-舞踊の種類と形態、自国の舞踊を考える				第9回 文楽			
【 到達目標 】 この授業の目的とねらいを理解する。この世に存在する舞踊の種類と形態を把握し、日頃から身近な西洋舞踊だけでなく、様々な種類があることを理解する。				【 到達目標 】 文楽の概要を理解する。			
【授業時間外学習】 事前に舞踊の種類がどれだけあるかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の文楽の作品を鑑賞し、文楽への理解を深める。(4.0hr)			
第2回 時代ごとによる芸能様式-西洋舞踊の歴史①				第10回 民俗舞踊			
【 到達目標 】 時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史を再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。				【 到達目標 】 民俗舞踊（神楽・田楽／風流・獅子芸能）を理解する。			
【授業時間外学習】 舞踊史について、事前に復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 全国の民俗舞踊には何があるかを調べる。(4.0hr)			
第3回 時代ごとによる芸能様式-西洋舞踊の歴史②				第11回 日本舞踊			
【 到達目標 】 時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史を再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。				【 到達目標 】 日本舞踊の概要を理解する。			
【授業時間外学習】 日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事前に日本舞踊の種類と流派を調べる。(4.0hr)			
第4回 日本の伝統芸能の特性				第12回 江戸時代以降の日本の舞踊-日本への洋舞輸入			
【 到達目標 】 日本の伝統芸能の特性について理解する。日本の伝統芸能が、歴史的・文化的背景と密接に関わっていることを理解する。				【 到達目標 】 日本に存在する多彩な舞踊文化について理解し、その内容を把握する。西洋舞踊がどのように日本に受容されたかを理解する。			
【授業時間外学習】 西洋と日本の舞踊についての歴史的・文化的背景について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日本の洋舞の歴史を事前に調べる。(4.0hr)			
第5回 日本の伝統舞踊-「舞」と「踊り」、「民族」と「民俗」				第13回 日本の舞踊史と西洋舞踊史			
【 到達目標 】 「舞」とは、「踊」とは何かを理解する。西洋舞踊のそれとは、特に何が異なるかを理解する。古典舞踊（民族）と民俗舞踊との違いを理解する。世界の民族・民俗舞踊の種類、日本の民族舞踊について理解する。				【 到達目標 】 時代の流れを踏まえつつ、日本の舞踊史と西洋舞踊史を理解し、比較できる。			
【授業時間外学習】 事前に日本の古典舞踊、民族舞踊の種類には何があるかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日本舞踊史と西洋舞踊史のそれぞれの特徴、相違点を整理する。(4.0hr)			
第6回 日本の古典舞踊-舞楽				第14回 日本の舞踊の様式			
【 到達目標 】 古典舞踊の舞楽を理解する。				【 到達目標 】 日本舞踊の様式（演技・演出・音楽・装置・衣裳・化粧・かつらなど）を概観、考察し、西洋舞踊と比較する。			
【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の舞楽の作品を鑑賞し、舞楽への理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日本の舞踊の様式の特徴と西洋舞踊との相違点を整理する。(4.0hr)			
第7回 日本の古典舞踊-能楽				第15回 西洋舞踊と日本の舞踊			
【 到達目標 】 古典舞踊の能楽を理解する。				【 到達目標 】 これまでに学んだ日本に存在する舞踊について総括し、日本の舞踊と西洋舞踊を比較することが出来る。比較することにより、日本の舞踊の重要性を認識し、伝承していく意義を理解する。			
【授業時間外学習】 授業で扱ったもの以外の能楽を鑑賞し、能楽への理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で取り扱わなかった舞踊と日本の舞踊を比較する。(4.0hr)			
第8回 歌舞伎							
【 到達目標 】 歌舞伎の概要を理解する。							
【授業時間外学習】 事前に歌舞伎の作品にはどのようなものがあるかを調べる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業は、主にスライドと映像資料を用いて行う。授業で指定する回によっては、課題提出やディスカッション、口頭発表、小課題などを求めることがある。小課題については、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。また上記の他に中間レポートを課す。中間レポートの提出と理解度確認テストの両方がなされて、初めて評価（単位認定）の対象となる。いずれかを未提出・未受験の場合は、単位認定は行わない。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】							
適宜、参考資料を配付する。 「ダンス・バイブル：コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る」（乗越 たかお/河出書房新社） 「日本舞踊辞典」（郡司 正勝/東京堂出版） 「舞踊形式論 表現と可能性」（旗野 恵美/HCI PUBLICATIONS）							
【成績評価方法】							
授業内レポート、小課題など30%、中間レポート20%、理解度確認テスト50%で総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	舞踊美学			担当者	松澤慶信		
英文名	Dance Aesthetics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE302		卒業認定方針との関連	⑥⑧	
【到達目標】							
美学とは、1)対象としての美について、2)主体側の美的体験、3)芸術学、の3つの側面から考察される学問領域と方法論を有している。この考えにたてば、舞踊を対象とする舞踊美学という学問が拮定されていだろうか。あるいは舞踊を考察する思想を総括的に舞踊美学と呼んでもいい。舞踊固有の現象をどこまで浮き彫りにできるだろうか。われわれは感性的なるものの顕現としての舞踊を理性的に考察するその葛藤を真摯に受けとめたい。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 この授業では何を目指し探求するのかを概説する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 身体の全体把握 【到達目標】 身体を把握するとはどういうことか。視覚と直観と触覚的な全体把握を保証する論理は相互主観性に頼らざるをえない。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 美学とは何か 【到達目標】 美学という学問の領域と方法論を概説して、舞踊美学の可能性への準備とする。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 共振性 【到達目標】 意味論的意味のバイアスを受けずに身体が享受体験する在り方は共振性に他ならない。これが舞踊体験の本質である。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 美的なるものと感性的なるもの 【到達目標】 言語論理による悟性や理性ではない感性的なるものと、美的なるものを明らかにする。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 Gesamtkunstwerkとしての舞踊 【到達目標】 パフォーマンス・アーツとしての舞踊は本来総合芸術であった。その作品の在り様や在り方の変遷をたどる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 美的価値の体験と美的な価値体験 【到達目標】 美的価値を有する美的対象を価値判断すること、主体側の美的な価値判断はどのように交差するのか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 舞踊の溶解力 【到達目標】 意味論的意味というバイアスを避けられないなら、どのように舞踊は言葉ではない表現媒体の特性を確保するのか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 芸術という現象とその学問 【到達目標】 感性的なるものの顕現としての芸術という現象および芸術作品を対象にする学問とは何か。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 舞踊の曖昧性とロマン的なもの 【到達目標】 舞踊は意味の指示性を考えれば、言葉と違って曖昧である。この曖昧こそがむしろ舞踊の本質である。それをロマン的という。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 舞踊という現象 【到達目標】 舞踊とは何か。日常のアクションや行動と舞踊はどう違うのか。ダイレクトにその本質を探る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 自己言及的な舞踊 【到達目標】 舞踊ジャンルの特性を自己言及的に遡及していき、そのピュアな本質を探ること。そこに現れる舞踊にしか現れないものを探る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 舞踊美なるもの 【到達目標】 舞踊という現象が浮き上がらせる美的価値とはどのような性質を有するのか。その特性にせまる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 コンテンポラリー・ダンスの位相と行方 【到達目標】 現代のダンスであるコンテンポラリー・ダンスはメタ的なポストモダン・ダンスを経て、今どこに存立しているのか。ここにダンスの本質を探究する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 舞踊の芸術体験と身体論 【到達目標】 普通の美的享受体験におさまらない舞踊の芸術体験とは何か。この課題には身体をどう取り扱うという本質的問題が横たわる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 基本的に文献研究である。日本語だけでなく英語文献などの舞踊について書かれた資料を読み解いて、舞踊を思想化していきたい。熱心で積極的な受講姿勢をのぞむ。							
【オンライン授業の場合】 基本的に毎回、期限付きで配付資料を配り、さらに動画も配信するので、それを見て、逐一レポートを提出してもらいます。熱心で積極的な受講姿勢をのぞむ。							
【教科書・参考書など】 授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリヌス著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。							
【オンライン授業の場合】 上記のレポートが100%評価となります。							

科目名	舞踊創作原論			担当者	松澤慶信		
英文名	Theory of Creating Dance						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE303		卒業認定方針との関連	⑥⑧	
【到達目標】							
ダンシングするとはどういうことか、身体が時空間を分節する中でその現存をどのように開示していくのか。このような根本的な問いかけを、受講者が自覚し発見していくことができるような具体的な方法論を提示したい。身体を動かしてきた経歴を有する者が一緒になって、この究極の目的（テロス）を目指して、今一度、自らの身体を振り返って省察し直してほしいと願う。そのためにこの講義では身体を動かす契機としてのテキストを考える。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 この授業の位置づけを確認したい。構造論的方法ではなく、物語論の意味論的テキストによって、作品を作ることを確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 テキストの解釈と発表Ⅰ 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 創作のmethodology 【到達目標】 創作とはそもそもどういうことか。具体的な創作方法だけではなく、その作業手順や方法そのものを省察する方法論を検討したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 テキストの解釈と発表Ⅱ 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 具体的なmethodの模索 【到達目標】 次に具体的にどのように意味論の意味内容を動きに転換していくのかという作業を受講者各人に提案してもらおう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 テキストの解釈と発表Ⅲ 【到達目標】 受講者各人が選んだテキストの紹介発表、講評。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 作業手順の確認 【到達目標】 次に具体的な作業に入ってからの手順を具体的に模範的に想定して考えること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 illusionismとダンスⅠ 確認 【到達目標】 illusionismとは感情移入のように、登場人物に受け手側の感情を仮託して、物語の展開に一喜一憂することではない。あくまでも傍観することである。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 その作業の実践方法の確認Ⅰ 【到達目標】 ダンサーを選んで、実際にどう相手に創作意図や意味を伝え、どう相手が動くのか、そのための有効な手段や手順を模索すること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 illusionismとダンスⅡ 創作 【到達目標】 つまりパフォーマンスされたテキストを、あるいはテキストのパフォーマンスを冷静に鳥瞰することである。パントマイムによって筋が開陳されていくのではないダンシングによる表現が何かを追求する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 その作業の実践方法の確認Ⅱ 【到達目標】 相手とのコミュニケーションを詰めること。言葉だけでなく、どこまで図によって伝えられるのか、舞踏譜の可能性も探る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 illusionismとダンスⅡ 発表 【到達目標】 いかにダンシングすることでテキストを表現するのか。ダンスにとって究極の問題に取り組むことである。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 文学テキスト（詩）の選択 【到達目標】 作品の骨格にテキストを利用することの意味をまず考える。そして舞踊化するに相応しいテキストとは何か。実際にテキストを捜す。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 総括 【到達目標】 具体的な作業手順から、その原理や理念までをもう一度振り返って、実際の振付の便としてほしい。ここに半期を総括する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 文学テキスト（詩）の解釈 【到達目標】 その捜したテキストを発表する際に、テキスト作者の評伝、そのテキストが創作された時代、創作秘話、そして選者の自由な解釈、など解釈の定立化をはかる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【学習上の留意点】							
振付経験は問わない。しかし真摯に創作の方法と方法論に向き合うことが必要である。先入観をむしろ捨てさせたい。 2年次後期開講の「舞踊分析法演習」と3年次後期開講の「舞台演出論」を受講してほしい。これとの3つを受講して、創作することの原理とノウハウを自覚してほしい。							
【オンライン授業の場合】							
6月中旬頃まではオンライン・リアルタイムで行うので、受信環境を整えておいてほしい。6月下旬から、対面式で一人一人に作品を発表してもらう。							
【教科書・参考書など】							
授業中に指示する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
出席率と授業中の達成をその都度の発表で求める80%。レポート評価20%。							
【オンライン授業の場合】							
関心・意欲80%評価。それと対面式で発表する作品とレポートの評価が20%。							

科目名		ミュージカル論		担当者	鳴志田加奈		
英文名		Introduction to Musical					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE304		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
<p>本授業では19世紀後半に誕生したブロードウェイミュージカルを中心に学ぶ。代表的作品の映像鑑賞や資料を通してミュージカルの歴史を理解し、時代背景と共に変化してきたミュージカルの「年代による特徴」「芸術性」「エンターテインメント性」「社会性」について知見を深める。ミュージカルにおけるダンスについては、代表的振付家の作風や振付・演出方法に関する知識を修得し、自身のダンス観や創作観の幅を広げる事を旨とする。またミュージカルならではの表現手法である「ドラマ・ソング・ダンスの統合や調和」についての見解を理解したり、自身でも考察することができる。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
ミュージカルの歴史について		歴史について時代背景の影響を含め理解し自らまとめて説明できる。	年代による作品の特徴を資料などを参照しながら説明できる。	歴史について理解が不十分で説明できない。			
代表的振付家の作風や振付・演出方法に関する事項		自身のダンス観や創作観とすり合わせた考察を示すことができる。	作風や振付・演出方法に関して資料を参考にしながら説明できる。	作風や振付・演出方法に関して理解が不十分で説明できない。			
表現手法の「統合・調和」について		統合・調和について自らの考察を示すことができる。	統合・調和について資料などを参照しながら説明できる。	統合・調和について理解が不十分で説明できない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ミュージカルとは何か				第9回 1990年代 ブロードウェイへのディズニーの参入			
【到達目標】 (1)ミュージカルとは何かについて概要を理解する。 (2)先行芸術（オペラ、オペレッタ）からブロードウェイミュージカル誕生までの概要を理解する。				【到達目標】 「美女と野獣」「ライオン・キング」などの成功からディズニーがブロードウェイに与えた影響について理解する。作曲家 アラン・メンケンとステイヴン・シュワルツについて代表曲や作品からその特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第2回 ブロードウェイミュージカルの誕生				第10回 ブロードウェイミュージカルの復活① コメディの復活			
【到達目標】 (1)ミンストレル、ヴォードヴィル、パーレスク、レヴューなどについて理解する。 (2)「ショー・ボート」の功績とブックミュージカルの特徴について理解する。				【到達目標】 「ヘアスプレー」「ウィキッド」などの代表的作品から21世紀初頭のミュージカルの特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第3回 ブロードウェイミュージカルの繁栄① 表現手法の進化「統合・調和」				第11回 ブロードウェイミュージカルの復活② ジュークボックスミュージカルと映画			
【到達目標】 (1)「オクラホマ！」の功績であるミュージカル表現手法「統合・調和」について理解する。 (2)ジョージ・バラニンとアグネス・デ・ミルの振付について学ぶ。 (3)5大作曲家について代表曲や作品からその特徴を理解する。				【到達目標】 ジュークボックスミュージカルの特徴や21世紀におけるミュージカルと映画の関係性について理解する。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第4回 ブロードウェイミュージカルの繁栄② ミュージカルコメディ				第12回 ブロードウェイミュージカルの復活③ 近年の作品について			
【到達目標】 ミュージカルコメディについて代表的作品から理解する。				【到達目標】 オフブロードウェイ発の意欲作を始め、近年のブロードウェイミュージカル傾向を理解する。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第5回 ブロードウェイミュージカルの繁栄③ 名作の時代				第13回 日本のミュージカルの歴史と現状			
【到達目標】 (1)「ウェスト・サイド・ストーリー」などの作品からレナード・バーンスタイン（作曲）とジェローム・ロビンソン（振付）について学ぶ。 (2)「マイフェアレディ」「サウンドオブミュージック」などの作品の特徴を理解する。				【到達目標】 日本の劇団やプロダクションによる興行、レプリカプロダクション（海外からクリエイティブチームによる興行）、日本特有の進化（2.5次元ミュージカル）など日本におけるミュージカルの歴史と現状を理解する。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第6回 ブロードウェイミュージカルの繁栄④ 多様な作風とコンセプトミュージカル				第14回 演者から見るミュージカル（ダンサーとミュージカル）			
【到達目標】 代表的作品からコンセプトミュージカルの特徴について理解する。				【到達目標】 ダンサー（アンサンブルキャスト）のミュージカルにおける活躍や役割について、現場の声から学ぶ。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)			
第7回 ブロードウェイミュージカルの繁栄⑤ ポプ・フォッシー、マイケル・ベネットの功績				第15回 ミュージカル用語や人物から整理する			
【到達目標】 ダンサー・振付家・演出家としてミュージカル界に偉大な功績を残したポップ・フォッシーとマイケル・ベネットについて振付・演出の特徴を学ぶ。				【到達目標】 全15回の講義を振り返り、復習と確認をする。ミュージカルの芸術性・エンターテインメント性・社会性について改めて考察を深める。			
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 全15回の講義の中で印象に残った事について自分なりに考察しレポートを提出する。(1000字以上)(4.0hr)			
第8回 1980年代 ロンドンミュージカルの台頭							
【到達目標】 (1)アンドリュー・ロイドウェバーの作品からロンドンミュージカルの特徴を理解する。 (2)キャメロン・マッキントッシュによるメガ・ミュージカルの興行について理解する。							
【授業時間外学習】 資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
授業では映像と資料を使ってミュージカルについて理解を深めていきます。映像鑑賞の際は、教員の説明や資料と照らし合わせながら主体的に考察を深めましょう。「ミュージカルは華やかで楽しい」だけで終わらない「専門的に踏み込んだ知見」（歴史的背景と作品の関係、演出・振付・音楽の特徴の体系的理解）を得ることで、自身のダンス観や創作観の幅を広げましょう。筆記用具、資料保存用のクリアファイルなどを各自準備して下さい。							
【オンライン授業の場合】							
オンライン授業においても映像鑑賞と資料を中心に学んでいきます。留意点は上記同様です。							
【教科書・参考書など】							
教科書は特になし。適宜、テキスト、参考資料を配布。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
本講義全体への取り組み方10%、授業の理解度75%（筆記75%）、授業レポート15%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】							
本講義全体への取り組み方10%、期末レポート50%、授業レポート40%として評価する。							

科目名	学校保健			担当者	小出真奈美		
英文名	School Health						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE305		卒業認定方針との関連	④⑨	
【到達目標】 教職を志す者にとって、学校における児童生徒の健康や安全をどのように守り、また健康や安全にかかわる資質・能力をどのように育てていくかについて考え、理解することは極めて重要である。本講義では、学校における子供たちの健康や安全を保障するためのシステムや活動等について解説し、グループワークやディスカッションを通して、学校保健の領域および内容について理解し、学校に通う子供たちの健康や安全を保持増進していくためにはどうすればよいかについて考えを深めることを目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
学校保健に関する基礎的な知識		学校保健に関するシステムや活動等について理解し、説明することができる。		学校保健のシステムや活動等について、資料等を参照しながら説明することができる。		理解が不十分で説明することができない。	
児童生徒の健康の保持増進を目指した教員の役割		児童生徒の健康の保持増進のために、教員としての役割について理解し、説明することができる。		児童生徒の健康の保持増進のために、教員としての役割について資料等を参照しながら説明することができる。		教員の役割について理解が不十分で説明することができない。	
学校保健に関する研究知見の活用		学校保健に関する知見について調べ、理解し、自分の意見を示すことができる。		学校保健に関する知見を調べることができ、それらを参考にしながら、自分の意見を述べるができる。		学校保健に関する知見を調べることができず、意見を述べるることができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 学校保健の意義と目的 【到達目標】 学校保健の意義と目的について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第9回 学校給食と食物アレルギー対応 【到達目標】 学校給食の意義や食物アレルギーの対応について理解し、食育に対する考えを深める。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第2回 学校保健の領域構成と関連法規 【到達目標】 学校保健の領域構成および学校保健安全法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第10回 学校安全の意義と管理 【到達目標】 学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第3回 健康の概念と児童生徒の健康の現状 【到達目標】 健康の概念および児童生徒の健康の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第11回 児童生徒のメンタルヘルス 【到達目標】 児童生徒のメンタルヘルスおよびそのケアについて理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第4回 小児保健と学校感染症 【到達目標】 小児期に起こりやすい疾病障害および学校感染症について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第12回 不登校児童生徒の健康課題と支援 【到達目標】 不登校児童生徒の心身の健康課題について理解し、支援について考えを深める。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第5回 学校における健康観察および健康診断 【到達目標】 健康観察および健康診断の意義と方法、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第13回 障害のある児童生徒とその指導 【到達目標】 特別に配慮が必要な障害のある児童生徒への指導について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第6回 学校保健管理の領域と内容 【到達目標】 学校保健管理の領域と内容について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第14回 いじめの防止と対策 【到達目標】 学校におけるいじめの防止と対策について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第7回 学校保健教育の領域と内容 【到達目標】 学校保健教育の領域と内容について理解し、考えを深める。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)				第15回 教職員の健康 【到達目標】 教職員の健康を守るために行われている方策について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)			
第8回 性に関する指導・エイズ教育 【到達目標】 性に関する指導およびエイズ教育について理解する。 【授業時間外学習】 授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて学校保健の内容について講義形式で解説し、必要に応じて映像資料も提示する。教師になったつもりで、児童生徒や教職員の健康や安全について学び、グループワークのなかで考えを深めていくこと大切である。そのため授業への出席は大前提であり、やむを得ない遅刻以外の遅刻や無断欠席はすることのないようお願いしたい。ほぼ毎時間レスポンスカードの記入を求める。 【オンライン授業の場合】 オンデマンドで実施する。出席は毎回の課題提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 参考書は授業時に適宜紹介する。その他、資料を適宜配布する。							
【成績評価方法】							
【対面授業・オンライン授業共通】 各回のレスポンスカードの内容（30%）、試験（70%）で総合的に評価する。							

科目名	精神保健			担当者	角 田 和 也		
英文名	Mental Health of Adolescence						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3				専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE306		卒業認定方針との関連	⑦⑨	
【到達目標】							
<p>昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉が、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
学校における精神保健の基本的事項・特別な配慮を要するケースについて		基本的事項・特別な配慮を要するケースについて自らの意見を示すことができる		基本的事項・特別な配慮を要するケースについて理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
ライフサイクルと精神保健について		ライフサイクルと精神保健について日常的に活用できる		ライフサイクルと精神保健について理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
生活環境と精神保健について		生活環境と精神保健について工夫しながら日常的に活用できる		生活環境と精神保健について理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション／「精神保健」とは 【 到達目標 】 (1)「精神保健」の意義を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第9回 生活環境と精神保健② 食生活から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第2回 「精神的健康」と現代社会 【 到達目標 】 (1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第10回 生活環境と精神保健③ 住環境から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである住居の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第3回 ライフサイクルと精神保健① 出生前期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである出生前期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第11回 生活環境と精神保健④ 空気環境から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである空気環境について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第4回 ライフサイクルと精神保健② 乳児期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである乳児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第12回 生活環境と精神保健⑤ 睡眠から受ける影響① 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである睡眠の影響について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第5回 ライフサイクルと精神保健③ 幼児期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである幼児期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第13回 生活環境と精神保健⑥ 睡眠から受ける影響② 【 到達目標 】 (1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第6回 ライフサイクルと精神保健④ 学童期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである学童期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第14回 発達障がい① 【 到達目標 】 (1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第7回 ライフサイクルと精神保健⑤ 思春期に受ける影響 【 到達目標 】 (1)ライフサイクルの視点から、要因の1つである思春期の心の健康について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第15回 発達障がい② 【 到達目標 】 (1)引き続き、発達障がいの特徴を理解するとともに、発達障がい児（者）の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)			
第8回 生活環境と精神保健① 家族から受ける影響 【 到達目標 】 (1)生活環境の視点から、要因の1つである「家族」の質的变化について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。							
【教科書・参考書など】							
・対面形式で実施する場合は、1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。オンデマンド方式で実施する場合は、あらかじめテキスト（プリント）をオンライン上で配信しますので、プリントアウトして授業に臨んでください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらを参考にしてください。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。							

科目名	保健科教育法 I			担当者	助友裕子		
英文名	Teaching Methods in Health Education I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門基礎・選択				
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE306		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。							
学習指導案の作成と授業研究を通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保健科教育法の基礎的事項への理解（知識）		保健科教育法の基礎的事項を十分説明している。		保健科教育法の基礎的事項を説明している。		保健科教育法の基礎的事項を説明できない。	
保健科教育法の知識の活用（思考力・判断力・表現力）		保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。		保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを表現している。		保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。	
保健科教育法を学ぶ主体性（態度）		保健科教育法の学修に積極的に取り組もうとしている。		保健科教育法の学修に取り組もうとしている。		保健科教育法の学修に取り組もうとしていない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 保健科教育とは（概論）				第9回 教材研究Ⅱ（ICTの活用を含む）			
【到達目標】 保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。				【到達目標】 保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深める。			
【授業時間外学習】 保健体育科（保健分野）ならびに科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。（4.0hr）			
第2回 現代社会における健康問題および他教科等との関連				第10回 保健科教育のための研究方法			
【到達目標】 現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について考察し、発展的な学習内容について探求する。				【到達目標】 保健科教育における実践研究の動向や発展的な学習内容の事例を知り、現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。			
【授業時間外学習】 中央教育審議会答申を読んでおく。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第3回 保健の目標と内容				第11回 保健の系統性と小学校の保健の授業			
【到達目標】 小学校、中学校、高等学校学習指導要領における保健の目標や内容の違いを理解し、全体構造を把握する。				【到達目標】 中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容および指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第4回 保健の指導計画				第12回 中学校と高等学校の保健の授業			
【到達目標】 指導計画作成の意義、種類、作成上の基本および指導上の留意点について理解するとともに、学習指導案の構成を理解する。				【到達目標】 個人生活と社会生活における健康・安全に関する内容および指導上の留意点について説明できる。			
【授業時間外学習】 学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第5回 保健科教育の実践Ⅰ				第13回 学習指導案の作成Ⅰ			
【到達目標】 知識を活用する学習活動を通じて、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。				【到達目標】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第6回 保健科教育の実践Ⅱ				第14回 学習指導案の作成Ⅱ			
【到達目標】 ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。				【到達目標】 1時間の学習指導案を作成できるようにする。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）				【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。（4.0hr）			
第7回 保健の授業学習評価				第15回 保健の授業研究			
【到達目標】 評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。				【到達目標】 模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解するとともに、発展的な学習内容を探求したり授業設計の向上に取り組むことができる。			
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、教材研究を進める。（4.0hr）				【授業時間外学習】 授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。（4.0hr）			
第8回 教材研究Ⅰ（ICTの活用を含む）							
【到達目標】 保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、教材研究の目的、過程、方法について理解する。							
【授業時間外学習】 学習指導案の作成、副教材の作成を進める。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
おもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPhollyの併用による）によって確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
行政や公的機関等における公衆衛生学・健康教育に関する講義・講演等の活動経験のある教員が、保健科教育の具体的な指導方法、授業づくり、評価などについて、学習指導要領に基づき基礎的な知識について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
「保健科教育法（改訂版）」森良一編著（東洋館出版社）2020年、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省、中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、定期試験の結果に授業中の課題達成度（1.0～0.0）を乗じた結果を評価点とする。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施と学習指導案の提出をもって評価する。各授業回の総合評価と確認課題の達成度（0～100%）に、学習指導案の課題達成度（1.0～0.0）を乗じた結果を評価点とする。合格基準は60%である。							

科目名	保健科教育法Ⅱ			担当者	小出真奈美		
英文名	Teaching Methods in Health Education Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		科目ナンバー		専門基礎・選択		
授業形態	講義		DTE307		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】 小学校、中学校、高等学校での系統性のある保健科教育の内容について理解し、学習指導要領の内容に即した授業計画および指導案の作成、さらに児童生徒の実態に即した授業運営をすることが重要である。本科目は、保健科教育法Ⅰと既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用し、ICTや教材研究への効果的な活用、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れ模擬授業をとおして、教材づくり、授業計画、教授行為の向上にかかわる資質・能力の修得を目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	保健科教育の内容構成や系統性について	内容を理解し、説明できる	資料等を参考にしながら説明できる	理解が不十分で説明できない			
	発達段階を踏まえた教授行為、教材づくりについて	要点を理解し、説明できる	資料等を参考にしながら説明できる	理解が不十分で説明できない			
	授業の構成、授業の遂行について	授業の構成について理解できており、授業ができる	授業構成について資料を参考にしながら説明でき、授業ができる	授業構成への理解が不十分で、授業運営ができない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（授業への心構え、グループ決め） 【到達目標】 保健科教育法Ⅱの目的を理解し、模擬授業準備への見通しを立てる。 よい保健授業とは何かについて考えを深める。 【授業時間外学習】 自分自身がこれまで受けてきた保健の授業について振り返り、まとめる。(4.0hr)				第9回 学習指導要領解説（高等学校科目保健）と授業づくり 【到達目標】 高等学校科目保健の編成を確認し、授業・教材づくりの方法を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領解説を熟読し、不明な点は明らかにした上で内容を把握する。(4.0hr)			
第2回 学習指導案の作成方法 【到達目標】 学習指導案の作成方法について確認し、作成に向けた準備をする。 【授業時間外学習】 保健体育科教育法Ⅰの復習をし、学習指導案を作成する。(4.0hr)				第10回 高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)			
第3回 評価観点を踏まえた指導方法の工夫 【到達目標】 指導方法について理解し、授業づくりに活用する。 【授業時間外学習】 これまでの保健科教育の変遷についてまとめ、どのように保健で身に付ける資質・能力を高めていくかについて考える。(4.0hr)				第11回 高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)			
第4回 学習指導要領解説（小学校保健領域と中学校保健分野）と授業づくり 【到達目標】 小学校の保健領域および中学校保健分野の編成について確認し、授業づくりの要点を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領解説を熟読し、不明な点は明らかにした上で内容を把握する。(4.0hr)				第12回 高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)			
第5回 中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)				第13回 高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 作成した学習指導案・副教材を見直し、修正を行う。(4.0hr)			
第6回 中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)				第14回 模擬授業後の指導案の評価と再検討 【到達目標】 他者（仲間）が作成した学習指導案・副教材をもとに、授業改善の視点から分析・評価する。 【授業時間外学習】 作成した学習指導案・副教材を見直し、修正を行う。(4.0hr)			
第7回 中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)				第15回 保健科教育の実践研究 【到達目標】 これまでの実践研究の動向を理解し、保健科教育の課題を見つける。 【授業時間外学習】 保健科教育に関する研究を行うと仮定し、どのような研究をするか考える。(4.0hr)			
第8回 中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング） 【到達目標】 教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて保健科教育の内容について講義形式で解説し、必要に応じて映像資料も提示する。実践的な資質・能力を養うために、教材研究などの作業を取り入れ、最終的には模擬授業を実践する。したがって授業への出席は大前提であり、やむを得ない遅刻以外の遅刻や無断欠席はすることのないようお願いしたい。ほぼ毎時間レスポンスカードの記入を求める。 【オンライン授業の場合】 オンデマンドで実施する。出席は毎回の課題提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版） *H29・H30年告示の学習指導要領にもつづいた教科用図書を各自準備することが望ましい。その他、適宜資料を配布する。							
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 各回のレスポンスカード20%、学習指導案及び副教材を40%、レポート40%で総合的に評価する。							

科目名	体育科教育法 I			担当者	高橋修一		
英文名	Teaching Methods in Physical Education I						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE308		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】 本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力を高めるための体育授業の効果的な省察方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	体育科教育法の基礎的事項の理解とその活用（知識及び技能）	体育科教育法の基礎的事項を深く理解するとともに、習得した知識を模擬授業等で十分活用している。	体育科教育法の基礎的事項を理解するとともに、習得した知識を模擬授業等で活用している。	体育科教育法の基礎的事項の理解が乏しく、模擬授業等で活用できない。			
	体育科教育法で習得した知識や技能を活用して諸課題を解決する力（思考力、判断力、表現力）	習得した知識や技能を活用して思考・判断し、場面に応じて汎用的に課題を解決している。	習得した知識や技能を活用して思考・判断し、課題を解決している。	習得した知識や技能を活用できず、場当たり的に行動している。			
	体育科教育法の学修に主体的に取り組む態度（学びに向かう力）	学修に主体的に取り組み、他者と十分にコミュニケーションを図りながら深く理解しよとしている。	学修に進んで取り組み、他者とコミュニケーションを図りながら理解しよとしている。	学修に進んで取り組みことなく、他者とコミュニケーションを図りながら学ぼうとしていない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合				第9回 体育授業の学習指導方法論(2) (アクティブラーニングの視点を含む)			
【到達目標】 (1) 本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。 (2) 被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。 【授業時間外学習】 体育教育法I・IIにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。 (2) アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。 (3) 特別の支援を必要とする生徒に配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。 【授業時間外学習】 学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。(4.0hr)			
第2回 保健体育科の目標論				第10回 体育授業の観察、分析、評価			
【到達目標】 (1) 体育目標の歴史の変遷、目標構造を理解する。 【授業時間外学習】 体育目標の歴史の変遷、目標構造について予習・復習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 机間記録、相互作用行動を記録する意義や方法を理解する。 (2) テスト映像で適切に記録することができる。 【授業時間外学習】 体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。(4.0hr)			
第3回 保健体育科の教育課程論(1)：学習指導要領の内容(1)				第11回 マイクロティーチング(1)			
【到達目標】 (1) 学習指導要領の性格を理解する。 (2) 学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。 (3) 新学習指導要領の要点を理解する。 【授業時間外学習】 学習指導要領の性格について予習・復習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2) 観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3) 生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)			
第4回 保健体育科の教育課程論(2)：学習指導要領の内容(2)				第12回 マイクロティーチング(2)			
【到達目標】 (1) 中学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2) 観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3) 生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)			
第5回 保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3)				第13回 マイクロティーチング(3)			
【到達目標】 (1) 高等学校学習指導要領の内容構成を理解する。 【授業時間外学習】 高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2) 観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3) 生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)			
第6回 体育授業の教材・教具論(1) (ICTの活用を含む)				第14回 マイクロティーチング(4)			
【到達目標】 (1) 体育授業における教材・教具の果たす役割を具体的に説明できる。 (2) 体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げて説明できる。 【授業時間外学習】 素材－目標－学習内容－教材－教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2) 観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3) 生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)			
第7回 体育授業の教材・教具論(2) (ICTの活用を含む)				第15回 マイクロティーチングまとめ			
【到達目標】 (1) 体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。 (2) 体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げて説明できる。 【授業時間外学習】 効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を挙げておく。(4.0hr)				【到達目標】 (1) 効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。 (2) 自己の指導と他者の指導を比較し、よりよい教授方法を省察できる。 【授業時間外学習】 マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。(4.0hr)			
第8回 体育授業の学習指導方法論(1) (アクティブラーニングの視点を含む)							
【到達目標】 (1) 体育教師の4大教師行動について理解できる。 (2) アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について説明できる。 (3) 特別な支援を必要とする生徒に配慮した学習指導方法について理解できる。 【授業時間外学習】 体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 授業においては、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許状を取得するにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連していることから、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要となる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。 オンライン形式の場合、1～10、15時間目はオンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし約1週間掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。また、11～14時間目はリアルタイム方式の授業を実施する。事前に作成した指導案に基づきwebexを用いて模擬授業を実施する。授業は、時間割通りの曜日・時刻に実施し、出席の確認は各授業回で画面での確認及びチャット機能を用いて行う。 いずれの場合も授業資料をweb上にアップするので予習・復習に活用すること。また、メールでの質問を随時受け付けます。							
【教科書・参考書など】 岡出美則他編著『体育科教育学入門 三訂版』（2021年）大修館書店 文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房 文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房							
【成績評価方法】 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物40%、テスト60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 オンライン形式の場合、1～10時間は各授業回のレポートを毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。また、11～14時間は模擬授業の振り返りシートを評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。1～10時間の各授業回の総合評価を40%、11～14時間の振り返りシート40%、まとめのレポート評価を20%とし、あわせて100%として評価する。合格基準はいずれも60%である。							

科目名	体育科教育法Ⅱ			担当者	須甲理生		
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別		専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE309		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	学習指導要領に関する事項	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について具体的に説明できる。	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について説明できる。	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について説明できない。			
	指導方法と授業設計に関する事項	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計と指導方法を身に付けることができる。	授業場면을想定した授業設計と指導方法を身に付けることができる。	授業場면을想定した授業設計と指導方法を身に付けることができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1)				第9回 模擬授業の反省会(3)			
【到達目標】 (1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。				【到達目標】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。			
【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】eラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第2回 体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2)				第10回 模擬授業の反省会(4)			
【到達目標】 (1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。				【到達目標】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。			
【授業時間外学習】 学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】eラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第3回 体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点				第11回 模擬授業の反省会(5)			
【到達目標】 (1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。				【到達目標】 (1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。 (2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。			
【授業時間外学習】学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。(4.0hr)				【授業時間外学習】eラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)			
第4回 体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化				第12回 優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1)			
【到達目標】 (1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。				【到達目標】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。			
【授業時間外学習】 具体的な指導と評価の計画を立てる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)			
第5回 体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1)				第13回 優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2)			
【到達目標】 (1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。				【到達目標】 (1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。			
【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)			
第6回 体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2)				第14回 体育授業の存在意義			
【到達目標】 (1)グループ内で適切な計画を立てることができる。				【到達目標】 (1)体育授業の存在意義について説明できる。			
【授業時間外学習】 グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 体育授業の存在意義について考察する。(4.0hr)			
第7回 模擬授業の反省会(1)				第15回 スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業			
【到達目標】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。				【到達目標】 (1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。			
【授業時間外学習】eラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。(4.0hr)			
第8回 模擬授業の反省会(2)							
【到達目標】 (1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。							
【授業時間外学習】eラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。その場合においても、対面での授業内容から大幅に変更はしない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。授業動画・資料は、Google Drive上にアップし、そのURLをポータル配信する。出席は、各授業回の出席レポート（授業動画・資料配信日の1週間後までにGoogle Form等に必要事項を記入して送信する）にて確認する。							
【教科書・参考書など】 岡出美則 他 編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2020年） 文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房 文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の課題30%、期末の指導案等の課題70%として評価する。							

科目名	舞踊音楽演習（パーカッション）			担当者	櫻田素子		
英文名	Seminar in Dance Music (Percussion)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE207		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
舞踊と共にある音楽について、さまざまなパーカッション（打楽器）の演奏を通じて学ぶ。各種のリズムやリズム・アンサンブルを学ぶことによって、リズム表現の技術を磨き、各音楽ジャンルに固有の感覚を養うとともに、リズムの構成法、各楽器の持つ特徴、その音楽の成り立ち、リズムをアンサンブルで演奏する際に必要なコミュニケーション力について知識と理解を深め、自身の舞踊作品に反映できるようになることを目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	パーカッション演奏の基礎的技術・知見に関する事項	基礎技術を習得し、知見を自らまとめながら説明できる。	基礎技術を理解し、資料等を参照しながら説明できる。	基礎技術の習得と理解が不十分で、説明できない。			
	ダンス音楽におけるリズムの知見に関する事項	リズムの知見を自らまとめながら説明できる。	リズムの知見を資料を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	パーカッションの演奏表現の応用と実践に関する事項	演奏表現を習得し自身の作品への応用と実践ができる。	表現表現を理解し自身の作品への応用のアイデアを示すことができる。	表現に関する理解が不十分で実践できず意見も述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回	イントロダクション:様々なパーカッション、リズムの基本			第9回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(2)			
	【到達目標】 「パーカッション」と呼ばれている楽器群の種類と発音構造、奏法について理解し、リズム、拍子、テンポなどについての基本概念を学ぶ。 【授業時間外学習】 リズム、拍子、テンポなどについての基本を復習する。(4.0hr)			【到達目標】 スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループに分かれ実習し、習得する。リズム譜の読み方とそれぞれのパートのリズムを理解し、また、アンサンブル音楽としての特徴を理解する。 【授業時間外学習】 実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。(4.0hr)			
第2回	リズム・アンサンブル演奏の基本			第10回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(3)			
	【到達目標】 演奏するために必要な、リズムやフレーズを捉える感覚を、西アフリカのアンサンブルを題材に口頭伝承によって習得し、学ぶ。シェイカー、ベル、素手で叩く太鼓などの基本的な奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズム・アンサンブルの課題曲を、手や身体を用いて奏しながら復習する。(4.0hr)			【到達目標】 スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、リズムやテンポの正確な表現についての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、リズム分析をしながら聴いてみる。(4.0hr)			
第3回	西洋音楽のリズム感:拍子、アクセント、シンコペーションと応用			第11回 リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(4)			
	【到達目標】 リズムの基本形、特に拍のまとまりと分割の感覚、アクセントとシンコペーションについての概念と、それがどのようにリズムを構築しているかについて理解する。リズム表記の方法について、また、スネアドラム、タム、シンバルなどの基本的な奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習した課題のリズムについて、分析しながら復習する。(4.0hr)			【到達目標】 スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、リズムやテンポの正確な表現についての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自で調べ聴いてみる。(4.0hr)			
第4回	リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(1)			第12回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(1)			
	【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについてリズムを学ぶ。クラベス、マラカス、ボンゴ、コンガ、マリンバなどの基本的な奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 学んだリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)			【到達目標】 ブラジルのリズム・アンサンブル「サンバ」のリズムと、そのバリエーションを学ぶ。サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)			
第5回	リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(2)			第13回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(2)			
	【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションを学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)			【到達目標】 サンバのリズムのバリエーションと、その展開方法を学ぶ。サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)			
第6回	リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(3)			第14回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(3)			
	【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの復習。グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、演奏表現と集団コミュニケーション力、グルーブ感についての理解を深める。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、暗譜で演奏できるように復習する。(4.0hr)			【到達目標】 サンバのリズムに変化をつけ、展開する方法を学ぶ。グループで楽曲進行をコントロールできるようになる。 【授業時間外学習】 実習したリズムと課題曲について、暗譜し、自分でコントロールしながら演奏できるように復習する。(4.0hr)			
第7回	リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(4)			第15回 リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(4)			
	【到達目標】 中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの復習。グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、演奏表現と集団コミュニケーション力、グルーブ感についての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、聴いてみる。(4.0hr)			【到達目標】 サンバのリズムの総復習。グループごとに実技テストを行ない、集団でのリズム演奏と表現についての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を、各自調べて聴いてみる。(4.0hr)			
第8回	リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(1)						
	【到達目標】 アクセントの位置を変えずに、パートごとにその構成を変えることで新たなリズム・アンサンブルを作ることができることを学ぶ。インドネシア・バリ島のケチャのリズムとスティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」を題材とする。 【授業時間外学習】 実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】実技課題による授業を11回、パーカッション楽器とリズム、課題となる音楽の知識に関する授業を4回実施する。実技課題については、各自、あるいは各グループ毎に、授業内および授業外で練習を積み重ね、演奏に必要な能力を高めるために研鑽すること。楽器を演奏する際にはつげ爪や長い爪は邪魔になり、ケガをすることがあるので、爪の手入れをしておくこと。知識に関する授業については、パワーポイントを用いた要点の説明や視聴覚資料の提示により理解を深める。各授業回毎にレスポンスカードを用いて達成度・理解度の確認を行なう。各課題毎に授業内実技テストを行ない、また、テスト後に講評を行なう。 【オンライン授業の場合】対面方式による実技課題授業を11回、オンデマンド方式によるパーカッション楽器とリズム、音楽の知識に関する授業を4回、実施する。実技課題については各自、授業内外で練習を積み重ね、演奏に必要な能力を高めるために研鑽すること。各回毎にレスポンスカード等を用いて達成度・理解度の確認を行なう。各課題毎に授業内実技テスト及び講評を行なう。楽器を演奏する際にはつげ爪や長い爪は邪魔になり、ケガをすることもあるので、爪の手入れをしておくこと。オンデマンド方式による授業については、視聴覚資料とパワーポイントを含む音声入り動画、および補足資料を配信する。配信は、本来の授業回が予定されている週の当該曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の土曜日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業の学習報告書（所定の様式）の提出、あるいは自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出によって行なう。							
【教科書・参考書など】 授業内にプリントを配布。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 授業における課題達成度(50%)、実技テスト(授業内実施、50%)で評価する。 【オンライン授業の場合】 授業における課題達成度(50%)、実技テスト(授業内実施、50%)で評価する。							

科目名	表現運動学演習（演技）			担当者	桐山知也		
英文名	Seminar in Expressive Movements (Acting)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3				専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE307		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
自身の身体への気付きとその運用方法の基礎の習得。また、劇場表現におけるテキスト（主に戯曲）のよみ方の実践を通し作品創造の初段階を学ぶ、もしくはその初段階を学ぶことによってテキストをよむことの有効性を学ぶ。これらのことを発展させ、身体による空間認識、身体とテキストとの関係性についても学ぶ。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
劇場表現における身体運用の基礎的事項・理論について		理論を理解し自らの研究領域で実践できる		理論を理解し実践できる		理解が不十分で実践できない	
劇場表現における身体運用の研究知見について		理論を理解し要点をまとめ説明でき、自身の研究領域に関連づけられる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス「演技者にとって使える身体とは？」				第9回 テキストをよむ1			
【到達目標】 授業の目的について理解をする。 本授業の進め方について理解する。				【到達目標】 テキストの成り立ちの基礎を学ぶ。 上記について多大な影響を与えたであろう19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。			
【授業時間外学習】 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)			
第2回 意志をもった身体運用				第10回 テキストをよむ2			
【到達目標】 いくつかの歩行によって、重心、視野、目的等を意識した身体の在り方を学ぶ。				【到達目標】 前回に引き続き、19世紀末から20世紀初頭の演劇運動の概要を学ぶ。			
【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)			
第3回 自身の身体への気付き				第11回 テキストをよむ3			
【到達目標】 歩行等の身体運用によって自身の身体のクセを知る。				【到達目標】 実際にテキストを使用し、テキストの構造を読み解く方法を学ぶ。			
【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)			
第4回 他者の身体への気付き				第12回 テキストをよむ4			
【到達目標】 歩行等の身体運用によって他者の身体のクセを知る。				【到達目標】 テキストの構造を身体化する基礎的なテクニックを学ぶ。			
【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)			
第5回 身体による即興1				第13回 作品創作			
【到達目標】 自身、或いは他者の身体への気付きからキャラクターを創造する。 キャラクターを創造する過程で自身のキャラクターを再認識する。				【到達目標】 集団でテキストの構造を読み解き、創作プランを決定する。 上記作業を通し集団創作におけるテキストの有効性を学ぶ。			
【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)			
第6回 身体による即興2				第14回 作品創作			
【到達目標】 自身の創造したキャラクターによる即興の方法の基礎を学ぶ。 他者の創造したキャラクターとの即興を通して身体的特徴の有効性について学ぶ。				【到達目標】 創作プランに沿って、集団創作の実験を学ぶ。 質感の獲得によるアンサンブルの形成過程について理解する。			
【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／自身或いは他者の身体の在り様を観察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)			
第7回 身体による空間認識				第15回 作品発表と講評			
【到達目標】 自身の身体と空間の関係性について学ぶ。 表現における質感への気付き。				【到達目標】 作品発表と講評を通して、自身並びに集団の習熟度と課題を認識する。 講評を通し、自身（集団）の作品やその意図等について言語化する能力を身につける。			
【授業時間外学習】 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】多くのテキスト、実際の公演に触れておく。／課題となるテキストの熟読と熟考を求める。(4.0hr)			
第8回 身体による空間創造（アンサンブルの形成）							
【到達目標】 集団（自身と他者の身体）と空間の関係性について学ぶ。 集団表現における質感への気付き。							
【授業時間外学習】 多くのテキスト、実際の公演に触れておく。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 身体を動かすことが多くなる為、それに相応しい服装で臨むこと。本授業は集中講義であり、グループでのディスカッションや創作作業が多くある。そのことから全授業に出席することが必須である。							
【オンライン授業の場合】 リアルタイムで実施する。全授業にリアルタイムで出席し実技課題に取り組むこと。1日の授業終了時に授業内容についてのミニレポートをポータルサイトを通じて提出してもらい授業内容の理解を深めることとする。対面授業に比べ、集団での身体運用が困難となる可能性もあり、その場合は講義（座学）の内容を発展させることで、本授業の目的と狙いを達成させることとする。							
【教科書・参考書など】 教科書 特になし。 参考書 授業内で指示する（参考資料や課題は適宜配布する）。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各授業における課題の達成度（授業体への貢献含む）70%、作品創作の評価30%の割合で総合的に成績評価をする。							
【オンライン授業の場合】 各授業における課題の達成度（授業体への貢献含む）40%、ミニレポート30%、作品創作の評価30%の割合で総合的に成績評価をする。							

科目名	舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）		担当者	辛島安妃子		
英文名	Seminar in Dance Music (Voice Training)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE308	卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】 呼吸法や正しい姿勢、体のしくみを理解しながら発声法を学び、舞台上で通る歌声を習得していくことを目的とする。基礎となる声楽教本を用い、併せてオペラ、ミュージカルや世界各国の名曲を取り上げ、応用として観客に伝えるための表現法を学ぶ。授業内で発表することにより実践力も身につける。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
舞台発声における基礎知識の修得		基礎知識を理解し実践に活かすことができる。		基礎知識を理解し実践の際に活かそうと試みることができる。		基礎知識を十分理解できず実践に活かすことができない。
舞台発声における実技、実演に関する事項		身体の使い方を理解し舞台上で通じる十分な声量と表現力で発声することができる。		身体の使い方を理解し舞台上で通じる発声を試みることができる。		身体の使い方が修得できず声量も少なく舞台上で通じる発声をする事ができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 声と体のしくみについて 【到達目標】 歌は全身運動である。声と体のしくみを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)				第9回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う② 【到達目標】 こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。また、オペラとミュージカルの違いについて学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)		
第2回 発声法と発声練習について 【到達目標】 腹式呼吸や声を響かせる方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第10回 ミュージカルの名曲を歌う① 【到達目標】 ミュージカルの名曲を日本語、英語で歌う。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)		
第3回 コールユーブンゲン・コンコーネを歌う 【到達目標】 声楽教本でリズムや音程、フレーズ感について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第11回 ミュージカルの名曲を歌う② 【到達目標】 動きながら歌う方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)		
第4回 合唱・重唱（日本の名曲） 【到達目標】 合唱または重唱で日本歌曲を歌う。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第12回 発表会（本番）に向けてのプランニングについて 【到達目標】 グループごとに発表会の立案、計画、準備をする。 【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読みの練習をすること。(4.0hr)		
第5回 合唱・重唱（世界の名曲） 【到達目標】 合唱または重唱で世界各国の歌曲を歌う。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第13回 グループごとの演目準備① 【到達目標】 グループごとに発声を確認しながら練習する。 【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)		
第6回 独唱（日本・世界の名曲） 【到達目標】 発声法を踏まえ名曲の独唱を試みる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第14回 グループごとの演目準備② 【到達目標】 グループごとに作品の内容を理解し、表現工夫をする。 【授業時間外学習】 発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)		
第7回 イタリア歌曲を歌う 【到達目標】 イタリア語の読みや歌詞の意味を理解し、表現法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)				第15回 発表会 【到達目標】 観客の前で演じることで実践力を養う。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)		
第8回 映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う① 【到達目標】 こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。また、オペラとミュージカルの違いについて学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 ソーシャルディスタンス、消毒、感染を徹底し新型コロナウイルス感染防止に留意しながら対面方式で行う。歌もスポーツと同じでなるべく毎日練習し発声することで筋肉の動きを習得することができる。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。						
【教科書・参考書など】 その都度、楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業内での実技および授業内発表における演奏60%、授業における課題達成度40%で評価する。						

科目名	新体操		担当者	橋爪みすず		
英文名	Rhythmic Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE110		卒業認定方針との関連	⑦⑨
【到達目標】						
新体操は手具の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具と徒手要素の基礎について学び、身体の動きと手具操作の調和を音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に豊かな表現力や手具技術の習得を目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
新体操の身体、手具の基礎的技術内容理解		基礎的技術内容を理解し自ら実践できる。		基礎的技術内容を理解し模倣することができる。		基礎的技術内容を理解できるが実践できない。
新体操の身体、手具の基礎的技術習得方法の理解		基礎的技術内容を理解し成功までの過程を説明できる。		基礎的技術内容を習得する過程の説明を受け実践できる。		基礎的技術内容の成功までの方法を理解できず、技術が定着しない。
新体操の身体、手具の基礎的技術の発展的応用の理解		基礎的技術を生かして新体操の演技を実施できる。		基礎的技術を用いて新体操の演技の一部を実施できる。		基礎的技術内容の習得に不足があり、新体操の演技に発展できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ガイダンス			第9回 ボール：徒手要素と手具操作			
【到達目標】 授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。 新体操の概要を理解する。			【到達目標】 身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とボールの手具操作を組み合わせ実践できる。			
【授業時間外学習】 新体操に関する書籍を読み、理解を深める。(1.0hr)			【授業時間外学習】 ボールの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)			
第2回 新体操の特性			第10回 ボール：音楽との調和			
【到達目標】 新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。			【到達目標】 徒手要素とボールの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。			
【授業時間外学習】 新体操の体力トレーニングについて調べておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)			
第3回 新体操の基礎運動①			第11回 ボール：フレーズの組み立て			
【到達目標】 正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。			【到達目標】 曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。			
【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)			【授業時間外学習】 メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)			
第4回 新体操の基礎運動②			第12回 ボール：実技課題の実践①			
【到達目標】 正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーションを実践し、基礎技術を身につける。			【到達目標】 身につけたフレーズを音楽に合わせ、作品を実践できる。			
【授業時間外学習】 新体操の基礎的要素（ジャンプ・ローテーション）について理解を深める。(1.0hr)			【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)			
第5回 フープ：基本操作の実践			第13回 ボール：実技課題の実践② 学習方法の理解			
【到達目標】 回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。			【到達目標】 手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。			
【授業時間外学習】 フープの特性を調べておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)			
第6回 フープ：徒手要素と手具操作			第14回 ボール：実技課題の実践③			
【到達目標】 身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とフープの手具操作を組み合わせ実践できる。			【到達目標】 音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつながりがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。			
【授業時間外学習】 フープの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)			【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)			
第7回 フープ：音楽との調和			第15回 ボール：作品の発表			
【到達目標】 徒手要素とフープの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。			【到達目標】 作品の発表を行う。			
【授業時間外学習】 メディア等を活用し、フープの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)			【授業時間外学習】 実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。(1.0hr)			
第8回 ボール：基本操作の実践						
【到達目標】 突く、転がす、投げるなどの手具の基本操作から、ボールの特性を理解する。						
【授業時間外学習】 ボールの特性を調べておく。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、フォームの見えにくい服装は避けるようにする。（パーカー・スウェットは着用しない） 各授業回のねらいを理解できるようパワーポイントや映像を用いて具体的説明を加える。1種目の実技試験を行い、さらに授業内容に関するレポートを作成し、理解度の確認を行う。結果は授業時に解説しフィードバックを行う。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは変更せず、各自ができる範囲で課題に取り組みこととする。資料として音声入りパワーポイント動画と新体操映像を用いて配信する。配信は授業日の朝8時半に配信し、1週間掲載する。オンデマンド方式の出席確認は、各授業回ごとに課題をPhollyにて配信し、期日内の提出を以って出席とする。						
【教科書・参考書など】						
教科書の指定はなし。 必要に応じて、プリント教材を配布する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 実技試験70%、レポート30%とし、あわせて100%として評価する。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点で総合的に評価する。さらに全授業終了時点でのまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、まとめのレポート評価を30%、あわせて100%として評価する。						

科目名	フォークダンス			担当者	山梨雅枝		
英文名	Folk Dance						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3				専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE111		卒業認定方針との関連		⑦
【到達目標】							
<p>本科目では、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを通じて仲間と踊る楽しさを体得しながら、指導法も習得する。グループに分かれて新しいフォークダンスを創作し、発表する。生涯ダンスや舞踊教育の指導に役立てる。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
フォークダンスの基礎的事項・理論について		理論を理解し自らまとめて説明できる。		参考資料を参照しながら理論を説明できる。		理解が不十分で説明ができない。	
フォークダンスの基本ステップについて		ステップの指導法も含めて自ら説明できる。		資料等を参照しながら説明できる。		技術への理解が不十分で説明ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（授業展開・ねらい・評価方法・調査） 【到達目標】 授業展開、ねらい、評価方法の説明、フォークダンスの経験調査を行う。				第9回 各国のフォークダンスの習得⑥ 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第2回 フォークダンスの基本、学習指導要領の位置づけ 【到達目標】 フォークダンスの基本や学習指導要領の位置づけについて学ぶ。				第10回 各国のフォークダンスの習得⑦ 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第3回 基本的なステップの習得 【到達目標】 フォークダンスの基本的なステップを学び習得する。				第11回 フォークダンス①～⑦の復習 【到達目標】 これまで学んだフォークダンスを復習し、知識や技術を身につける。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第4回 各国のフォークダンスの習得① 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				第12回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作① 【到達目標】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第5回 各国のフォークダンスの習得② 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				第13回 グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作② 【到達目標】 グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第6回 各国のフォークダンスの習得③ 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				第14回 作品発表、みんなで踊るⅠ 【到達目標】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第7回 各国のフォークダンスの習得④ 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。				第15回 作品発表、みんなで踊るⅡ 【到達目標】 作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。			
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)			
第8回 各国のフォークダンスの習得⑤ 【到達目標】 各国のフォークダンスのステップや動きを習得する。							
【授業時間外学習】 グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 既存のフォークダンスやレクリエーションダンスは、ステップや音の取り方に注意して正確に踊れるようにする。創作フォークダンスでは、男女を意識したステップで、各グループで対象年齢を設定して創作する。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式によるフォークダンスの知識に関する授業を、単元全体の30%実施する。資料として、音声入りパワーポイント動画と資料を配信する。次に、オンデマンド方式による実技課題の自習による授業を、時間全体の60%実施する。資料として、学習内容となる技能や運動に関する動画並びに参考資料を配信する。残りの10%は、リアルタイム方式のフォークダンスについての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日17:00まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）、実技に関しては自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】							
『学校フォークダンス指導の手引き』日本フォークダンス連盟編 大修館（1990年）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 既存のフォークダンスを覚えて踊る実技試験を50%とし、ねらいに応じた創作フォークダンスの実技と授業内容記録紙を50%とする。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点でまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめたレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	ソフトボール		担当者	笹倉 清則・福家 瑠都		
英文名	Softball					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE112	卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】						
ベースボール型球技であるソフトボールは、投・打・走・捕の運動が含まれるスポーツ種目である。本授業では、ソフトボールのルールおよび基本的な技術、戦術を理解、習得することでゲームを行えるようにする。また、生徒への指導を視野に入れ、指導方法や練習方法、安全上の留意点についても身につける。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ソフトボールの基礎的な個人技能習得	基本技能を理解、習得し高いレベルで実施できる		基本技能を理解、習得し実施できる		基本技能の習得ができていない	
ルールの理解並びに守備連携の理解	ゲーム運営を理解し、進行できる		多少理解不足はあるが、ゲームを一人で進行できる		ルール理解できず、ゲーム進行ができない	
基本技能の指導方法の理解	基本技能の指導法を理解し、十分に指導できる		基本技能の指導法をおおよそ理解し指導できる		基本技能の指導法を理解できず、指導できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ガイダンス 【到達目標】 本授業の目的や評価の方法、具体的な内容、天候による実施内容の変更など授業に関わる留意点を理解する。また、ソフトボールのルールについて理解する。 【授業時間外学習】 ソフトボールについてルールや試合映像を事前に学習する。(1.0hr)			第9回 戦術的な攻撃 パントや走塁を用いた攻撃 【到達目標】 パントやヒットエンドランなどの戦術を理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習しておく。(1.0hr)			
第2回 ソフトボールの基本的な技術 投と捕 【到達目標】 ソフトボールの基本的な投げ方と安全な捕球の仕方を理解し、習得する。また、ポジションによる投動作の違いも理解する。 【授業時間外学習】 ソフトボールにおけるキャッチボールについて事前に調べておく。(1.0hr)			第10回 ゲーム実践② 初級者に合わせたルールでのミニゲーム 【到達目標】 投球位置や攻守交代のルールを調整したゲームを行い、初級者でも楽しめるゲームについて理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 初級者の置くポイントについて事前に想定しておく。(1.0hr)			
第3回 ソフトボールの基本的な技術 打撃 【到達目標】 バットの握り方、スイングの仕方について理解し、習得する。ティーバッティングなどの基本的なドリルを行い、ボールをバットの芯に当てることを習得する。 【授業時間外学習】 ソフトボールの打撃について調べ、イメージを掴んでおく。(1.0hr)			第11回 ゲーム実践③ 通常のルールでのゲーム（チーム活動） 【到達目標】 ゲーム経験を踏まえて、個人やチームの課題を検討、抽出することができるようになる。その上で、課題を克服する練習方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 ゲームにおけるポジションごとの役割について事前に学習しておく。(1.0hr)			
第4回 ソフトボールの守備 打球の捕球 【到達目標】 ゴロやフライの捕球の仕方について理解し、習得する。キャッチボールを行いながら、ゴロやフライの状況を作り出し、グラブの使い方を習得する。 【授業時間外学習】 ソフトボールではどのような打球の種類があるのかを、映像などを通して理解しておく。(1.0hr)			第12回 課題に応じた練習（チーム活動） 【到達目標】 前回の試合で出た課題について、個人やチームで練習を行い、試合に向けた準備ができるようになる。 【授業時間外学習】 個人やチームの課題に対する練習方法について検討しておく。(1.0hr)			
第5回 ソフトボールの守備 連携 【到達目標】 内外野の守備位置を理解し、打球を捕球してから送球することを実践し、習得する。ランナーの有無や打球の種類によって、アウトにする方法が選択できるようにする。 【授業時間外学習】 ソフトボールにおけるアウトの状況を事前学習し、守備の連携について理解しておく。(1.0hr)			第13回 ゲーム実践④ 通常のルールでのゲーム（チーム活動） 【到達目標】 課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。 【授業時間外学習】 個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)			
第6回 ソフトボールの攻撃 打順と攻撃の狙い 【到達目標】 攻撃における打順の意味を理解し、それぞれの場面における打撃の狙いや走塁について実践を通して理解し、習得する。 【授業時間外学習】 ソフトボールにおける攻撃の戦術について事前に学習し、理解しておく。(1.0hr)			第14回 ゲーム実践⑤ 通常のルールでのゲーム（チーム活動） 【到達目標】 課題に対して行った練習を生かしながら、ゲームを行い、さらに改善点を見つけることができる。 【授業時間外学習】 個人やチームの課題を今一度整理し、より良いゲームができるように準備しておく。(1.0hr)			
第7回 ゲーム実践① ミニゲーム 【到達目標】 ゲームを通して、攻守の作戦の立案やより良いゲームを行うための課題を理解する。 【授業時間外学習】 ソフトボールのゲームの流れを映像などを通して理解しておく。(1.0hr)			第15回 スキルチェックとまとめ 【到達目標】 授業を通して理解、習得した内容について表現することができる。 【授業時間外学習】 授業全体を通して取り組んできた内容について振り返りを行う。(1.0hr)			
第8回 集団の防御技術 内外野の連携 【到達目標】 カバーリングやベースカバーなど、守備におけるボールを持たない人の動きを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 守備位置や連携した送球の状況について事前学習し、理解しておく。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 実習が中心となるため、適した服装を準備し、アクセサリなどは身につけず安全に配慮すること。屋外での活動が多いため、体調管理を徹底し日差しや熱中症対策を各自で行うこと。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業ごとにソフトボールに関するテーマを設定するので、指定された課題に取り組むこととする。課題に対する解答や調査内容を本学のPholly上に書き込む。課題は、本来の各授業回が予定されている時間に本学ポータルサイトに提示する。毎回のPhollyの回答をもって出席とする。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 技術や戦術的な達成度50%、ルール理解や練習方法の検討について50%の割合で評価を行う。 【オンライン授業の場合】 各授業回で提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し、評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	柔道			担当者	佐藤 雄哉・瀧本 誠		
英文名	Judo						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DBE113		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】 スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
基礎知識に関する事項		柔道の成り立ちや性質を説明できる		柔道の成り立ちや性質を理解している		柔道の成り立ちや性質を理解していない	
前回り受け身に関する事項		人の前回り受け身を見て不十分な点を指摘出来る		身を護るレベルの前回り受け身が取れる		危険な前回り受け身である	
投げ技、固め技に関する事項		基礎技能を有機的に使用し、試合を楽しめる		基礎技能を身に着け、安全に試合が行える		試合を行う際に危険な状況が散見される	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（授業展開について） 【到達目標】 授業の全体像を把握する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第9回 受身試験 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第2回 柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第10回 投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第3回 受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第11回 投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取） 【到達目標】 投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第4回 受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取） 【到達目標】 正確な動作を習得し、安全確保について理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第12回 投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）I 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第5回 投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩し作りー掛け）、投げ技（膝車） 【到達目標】 基本動作を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第13回 投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）II 【到達目標】 基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第6回 投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第14回 試験（投げ技、固め技） 【到達目標】 正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)			
第7回 投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)				第15回 簡易な試合 【到達目標】 柔道全般を理解する。 【授業時間外学習】 参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。(1.0hr)			
第8回 投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取） 【到達目標】 投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。 【授業時間外学習】 参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている日程に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その後一週間掲載する。出席の確認は、毎授業の課題提出により行う。							
【教科書・参考書など】 授業に必要な資料は、その都度配布することとする。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】出席状況（60%）と試験（40%）で評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の課題提出を、授業終了時点で総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	スポーツ社会学		担当者	溝口紀子		
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE309	卒業認定方針との関連		⑦⑧⑨
【到達目標】						
スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	スポーツ社会学における基礎的知識	知識を理解し自らまとめて説明できる。	知識を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
	スポーツ社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。		
	スポーツ社会学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 カイダンス（授業の進め方 スポーツ権）			第9回 女性と身体			
【到達目標】 スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。			【到達目標】 女性の身体を社会学の視点から考察する セクシュアリティ、ダイバシティといった視点から身体を読み解く			
【授業時間外学習】 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 セクシュアリティ、DSDについて調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			
第2回 遊びとスポーツ - 「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く-			第10回 武道の国際化-文化変容とは何か-			
【到達目標】 スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。			【到達目標】 武道を例に、文化相対主義、文化変容について理解する			
【授業時間外学習】 eスポーツについて調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 海外のスポーツの流入、武道の流出に関して調べる。(4.0hr)			
第3回 スポーツの近代化と武道の誕生			第11回 障がいスポーツ			
【到達目標】 スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。			【到達目標】 障がいスポーツの基礎知識、課題について理解する			
【授業時間外学習】 武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 障がいスポーツ種目、パラスリートについて調べる(4.0hr)			
第4回 スポーツとナショナリズム			第12回 スポーツと危機管理（安全配慮義務）			
【到達目標】 スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。			【到達目標】 スポーツと事故、安全配慮について、社会的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会的観点から理解する（小レポートを実施）。			
【授業時間外学習】 スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験におけるスポーツ事故をまとめる(4.0hr)			
第5回 プロパガンダとオリンピック（美の祭典・民族の祭典）			第13回 スポーツと倫理-ドーピングの問題性とスポーツの本質			
【到達目標】 プロパガンダの作用について学習する。 民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。			【到達目標】 ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。			
【授業時間外学習】 プロパガンダの意味を調べる。プロパガンダの具体的な例を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)			
第6回 五輪とボイコット（冷戦下のスポーツ）			第14回 スポーツと体罰			
【到達目標】 スポーツが政治とどのように結びつのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。			【到達目標】 スポーツを身体、規律、訓練の視点から考察する 指導者と生徒の関係性、課外活動におけるハラスメント等も社会的観点から理解する。			
【授業時間外学習】 五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)			
第7回 子どもの健康・経済格差			第15回 1964東京五輪と東京2020			
【到達目標】 子どもの経済格差について、スポーツの環境視点から検証する			【到達目標】 1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。 2020東京のレガシーについて考察する			
【授業時間外学習】 「子どもの経済格差」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 1964年、2020年のそれぞれの東京五輪の問題点について調べる。(4.0hr)			
第8回 スポーツとジェンダー						
【到達目標】 女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができる（小レポート実施）。 人見絹枝が残したスポーツの功績を考える						
【授業時間外学習】 スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
1. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。						
2. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。						
3. 感染予防、静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。						
【オンライン授業の場合】						
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の18:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】						
教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。						
参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006、「性と柔-女子柔道史から問う」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道 フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】						
試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）、授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%、良好な出席状況は当然の前提である。						
【オンライン授業の場合】						
各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめたレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	表現運動学			担当者	宮本乙女		
英文名	Dance Movement Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR101	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧		
【到達目標】							
舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
舞踊表現における主要な技能「踊る」「創る」「観る」の特徴や構造の理解		主要な技能について特徴と構造を理解し、相互の有機的関連について説明できる。	主要な技能について特徴を理解し、資料を参照しながら説明できる。	主要な技能について、理解が不十分で、特徴や構造を説明できない。			
舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性の理解		舞踊運動の特性を身体やダイナミックイメージに触れつつ自分の知見として説明できる。	舞踊運動の特性を理解して資料を参照しながら説明できる。	舞踊運動の特性について理解が不十分で、説明できない。			
考えたこと、理解したことを文章に表したり仲間と話しあったりして思考判断表現する		自分の考えをオリジナリティーを持って記述したり、述べたりして思考を深められる。	自分の考えを記述したり、仲間と話しあうことができる。	自分の考えを記述したり、仲間に伝えたりできない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション、ダンスとは何か 【到達目標】 ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。 【授業時間外学習】 ダンスの定義について検索してみる。(4.0hr)				第9回 「ダンスの構造」その3 「群」の表現性 【到達目標】 「群」という視点で、ダンスの動きを考える。舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。(4.0hr)			
第2回 ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは 【到達目標】 ダンスの発生の歴史や種類について理解する。ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。 【授業時間外学習】 自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。(4.0hr)				第10回 「踊る・創る・観る」その1 創る…仮定期 【到達目標】 舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。創る活動の、仮定期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。(4.0hr)			
第3回 「人間発達と表現運動」その1 幼児～小学生 【到達目標】 幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)				第11回 「踊る・創る・観る」その2 創る…仮定期から探索期へ 【到達目標】 創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどのような指導の手立てが必要かを考察する。 【授業時間外学習】 教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。(4.0hr)			
第4回 「人間発達と表現運動」その2 中学生～大学生 【到達目標】 中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。学習指導との関連も理解する。 【授業時間外学習】 人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)				第12回 「踊る・創る・観る」その3 創る…探索期から達成期へ 【到達目標】 創る活動の、達成期の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 達成期としてのリハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。(4.0hr)			
第5回 表現運動と男性・女性 【到達目標】 様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているかを考察する。(4.0hr)				第13回 「踊る・創る・観る」その4 踊る…リズムを考える 【到達目標】 人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。 【授業時間外学習】 配付された文献の残りの部分を読んで考察を深める。(4.0hr)			
第6回 ダンス教育とジェンダー 【到達目標】 人間の性のとらえ方、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。 【授業時間外学習】 自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事例を考察する。(4.0hr)				第14回 「踊る・創る・観る」その5 観る…鑑賞と評価 【到達目標】 舞踊を鑑賞することと、評価することについて理解する。 【授業時間外学習】 どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。(4.0hr)			
第7回 「ダンスの構造」その1 運動の変化と連続 【到達目標】 「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。(4.0hr)				第15回 舞踊表現の特性 【到達目標】 授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。踊り手としての心構えを論じた古典に触れる。 【授業時間外学習】 15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。(4.0hr)			
第8回 「ダンスの構造」その2 運動の質と表現性 【到達目標】 舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。 【授業時間外学習】 ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どんな言葉で書かれているかを検討する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。クラス内討論や、グループ討論を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、より理解を深めていくので課題や討論などに積極的に取り組んでほしい。学習カードにより毎時間の小課題に取り組むが、次の時間に解説をしてフィードバックする。 【オンライン授業の場合】授業はオンデマンド方式の授業を行う。授業内容は、回数が減った場合でも大幅には変更しない。配信資料は各授業回の音声・動画入りパワーポイント動画及び、ワークシートである。配信は対面授業のスケジュールに従い、授業当日の9:00までにポータルサイトのGoogleドライブにアップし、4日後の9時まで掲載する。各授業回の課題レポートの提出をPhollyを用いて行い、出席の確認とする。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、舞踊表現の基礎である踊る・創る・観る、それぞれの特徴の理解と、発達段階の特性と舞踊などについて、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的に講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポート）及び授業内討論での発言内容、活動内容30%、期末試験70%として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】毎回の授業後に提出する課題レポートの達成度を総合的に評価する。合格基準は60%である。							

科目名		舞踊学原論		担当者	八木ありさ		
英文名		The Principles of Dance Study					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		専門・必修				
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR102		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
「舞踊・ダンス」は歴史的・地域的に多様な展開を示す営みであるため、全体像を捉えるためにはこれらを系統的に理解することが必要である。本講義では「舞踊・ダンス」の社会的機能、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を解説する。本講義の到達目標は、解説された事項を履修者が理解し説明できると共に、ダンス学科での自らの学修、さらには今後の「舞踊・ダンス」の姿に関する展望を持つことに学んだ内容を具体的に役立てられることである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
舞踊の歴史的展開についての基礎的事項・理論		舞踊の歴史的展開に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。		舞踊の歴史的展開について、授業資料を参照しながら説明できる。		舞踊の歴史的展開について理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。	
舞踊の社会的機能や隣接領域との関係についての基礎的事項・理論		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、授業資料を参照しながら説明できる。		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。	
知見と自己の専門的学修との関連づけ		舞踊学の理論を自らの学修と関連づけて考え、卒業までの学修計画を展望することができる。		学科のカリキュラムを理解しており、資料を見ながら説明できる。		学科のカリキュラムについての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 日常における運動表現と舞踊				第9回 近代舞踊革命とモダンダンス			
【到達目標】 日常にみられる演出や、再現、表現運動と舞踊のつながり、差異を理解する。				【到達目標】 19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方や作品、その影響を理解する。イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。			
【授業時間外学習】 ダンスの定義を考え、短文で記してみる。(4.0hr)				【授業時間外学習】19世紀末から20世紀初めに起こった新しいダンスやダンス教育の形を動画で確認し、バレエや伝統舞踊との違いを考える。(4.0hr)			
第2回 舞踊の分類（1）運動の特徴を中心に				第10回 ドイツ表現主義舞踊			
【到達目標】 舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。				【到達目標】 ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルトル、マリー・ウィグマン、グレート・バルッカらの活動とその影響を知る。			
【授業時間外学習】導入動画を視聴した上で、世界の多様な民族・地域で古来より伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】ダンス学科の教育と関わりのある二つの文章を読んで感想を書く。(4.0hr)			
第3回 舞踊の分類（2）社会的機能を中心に				第11回 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開			
【到達目標】 多様な展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。				【到達目標】 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。			
【授業時間外学習】 舞踊と信仰や交流との関わり、また政治との関わりを動画で確認する。(4.0hr)				【授業時間外学習】1920～1960年代を中心としたアメリカにおけるダンスの特徴を動画で確認し、履修者各自の専門性との関わりについて考える。(4.0hr)			
第4回 中世文化と舞踊				第12回 人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現			
【到達目標】 中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。村民と流浪民の存在、芸能集団の始まりなどについて理解する。				【到達目標】 1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。			
【授業時間外学習】 日本で生まれた芸能と大陸から入ってきた芸能の例を動画で確認する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 1960年代からのアメリカを中心としたダンスの特徴を動画で確認し、ダンスに対する考え方の変化を捉える。(4.0hr)			
第5回 宮廷文化とバレエ				第13回 日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞踏」			
【到達目標】 バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。				【到達目標】 社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。			
【授業時間外学習】 中世ヨーロッパでのダンス事情を動画で確認し、日本との共通点について考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 暗黒舞踏の例を示した動画を視聴し、その特徴を捉える。(4.0hr)			
第6回 日本の伝統芸能の成熟				第14回 「いまここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス			
【到達目標】 外来文化と在来芸能が融合して伝統芸能としての位置づけを確立してゆく経緯と、その代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。				【到達目標】 ポードレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。			
【授業時間外学習】 日本の寺院で継承されている秘儀や能・歌舞伎の表現の例を動画で確認し、その特徴について考えておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】コンテンポラリーダンスの扉を開いたとされる人々の功績を中心として、現代の多様な表現世界を動画で確認し、「未来のダンス」と題して800字程度の小論文を作成する。(4.0hr)			
第7回 バレエの革新				第15回 Dance for All			
【到達目標】 ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。				【到達目標】 「理解度確認」の中で、歴史的観点並びに行動タイプの観点から、人間・社会とダンス・舞踊の関わりについて理解し、適切な説明ができる。			
【授業時間外学習】 クラシック・バレエのレッスン風景や作品のダイジェストを動画で視聴し、その特徴について考えておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 15回の学習を経て形成された各自の「ダンスの定義」を記述する。(4.0hr)			
第8回 日本における西洋舞踊の受容							
【到達目標】 明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。							
【授業時間外学習】日本の「お稽古場」文化は独特だと言われる。例えばフランスやイギリス近代日本人が欧米のダンスと出会った頃のダンスの例を動画で視聴し、現状との違いについて考える。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業は毎回、当該回の授業時間外学習の成果と当日掲示する資料を関連づけながらグループで討議する作業により進行し、授業終了時～当日中にGoogleFormsで「学習状況確認」を実施する。履修者は、各授業回の講義ガイド、事前課題を確認し、準備を整えて出席すること。毎回の授業終了後に次回授業の講義ガイドと事前課題の配信を行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。定期試験で総合的な理解度の確認を行う。社会状況に応じてオンデマンド方式の授業を実施することがある。授業内容は、形式が変更されたり授業回数が減ったりした場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の講義ガイド、音声入りパワーポイント動画と、具体的例証を確認しながら理解を深めるための副教材動画である。最終回で総合的な理解度の確認を行う。							
【教科書・参考書など】							
適宜、資料を配布する。							
【成績評価方法】							
定期試験期間中に試験を実施する。社会状況によって対面式の定期試験を実施しない場合には、オンライン形式で試験を実施する。レポート形式で行う回の授業時間外学習の成果(25%)と授業内の復習課題達成度(25%)、定期試験等で最終的に確認された理解度の状況(50%)を併せて成績評価する。							

科目名	シアターダンステクニック			担当者	坂本 秀子		
英文名	Theater Dance Technique						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1			専門・必修			
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR103		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
劇場は、照明などで演技がくっきりと浮か出て見えるように設計されていて、日常の空間とは異なった様相を帯びている。従って、稽古場や体育館で踊る場合とは異なり、プロフェッショナルの常識のようなものが存在する。それを学ぶのが、この講座である。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
劇場に相応しいダンス表現の実施について		劇場に相応しい表現として実施できる。		やや不十分な箇所が見られるが実施できる。		劇場に相応しい表現としては未完成である。	
劇場に適したダンス作品について		劇場の特徴を把握した上で実施ができる。		劇場の把握がやや不十分だが実施はできる。		劇場の特徴が理解できないが実施はできる。	
劇場における芸術の知識・理論について		劇場の知識や理論について自ら説明できる。		劇場の知識や理論について不十分である。		劇場の知識や理論が理解できていない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 作品の説明とビデオ鑑賞（作品A） 【到達目標】 作品のおおまかなイメージをつかむ。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）				第9回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しよう② 【到達目標】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新たな課題を発見し、イメージを膨らませる。（4.0hr）			
第2回 振りを学ぶ① 【到達目標】 基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 振りの順番を確認する。（4.0hr）				第10回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品C） 【到達目標】 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）			
第3回 振りを学ぶ② 【到達目標】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 特に注意された箇所を思い出しておく。（4.0hr）				第11回 振りを学ぶ③ 【到達目標】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 振付の復習。（4.0hr）			
第4回 振りを学ぶ④ 【到達目標】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して、通し練習する。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）				第12回 振りを学ぶ④ 【到達目標】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して通し練習する。 【授業時間外学習】 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。（4.0hr）			
第5回 踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しよう① 【到達目標】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新たな課題を確認し、イメージを膨らませる。（4.0hr）				第13回 踊り込み、吟味 【到達目標】 何回も通して練習し、動きの集中力を強化していく。客席からの見え方と演者の意識の相違について考える。 【授業時間外学習】 音楽を聴きながら、舞台上の自分をイメージする。（4.0hr）			
第6回 作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品B） 【到達目標】 作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。 【授業時間外学習】 全体のイメージトレーニングを行う。（4.0hr）				第14回 踊って批評を受ける、感想を述べよう 【到達目標】 少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。 【授業時間外学習】 新しい課題を心にとどめる。（4.0hr）			
第7回 振りを学ぶ⑤ 【到達目標】 細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。 【授業時間外学習】 振付の復習。（4.0hr）				第15回 今後の課題を設定し、実現のための構想を練る 【到達目標】 今後の課題を発見し、実現するための構想を練る。 【授業時間外学習】 課題を意識した練習方法を考える。（4.0hr）			
第8回 振りを学ぶ⑥ 【到達目標】 全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。 【授業時間外学習】 全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 基礎的なテクニックを獲得し、作品を魅力的に踊り通すことができるようにしたい。そのための精神的な強さ、集中力も鍛え、自分で工夫したり練習する習慣も身につけていく。これからの4年間の基盤となる授業なので、真剣に受講して欲しい。							
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途実施する。							
【オンライン授業の場合】 毎時間のレポート40%（メール添付）、期末のレポート60%（メール添付）として評価する。							

科目名	舞踊創作・振付法			担当者	坂本 秀子		
英文名	Theory of Dance Composition and Choreography						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR201		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
舞踊作品という概念、作品成立のための諸条件等、基本的な理論を学ぶ。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
作品創作・振付に関する知識や理論について		授業で学んだ知識や理論を自ら説明できる。		授業で学んだ内容がほぼ理解できている。		授業で学んだ知識や理論が理解できていない。	
芸術作品の構成要素について		構成要素について自ら説明ができる。		構成要素についてほぼ理解できている。		構成要素について理解できていない。	
基礎知識の応用力について		基礎知識を理解し応用することができる。		基礎知識に留まり、応用することが難しい。		基礎知識の理解ができていない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 作品創作の動機について				第9回 隊形の種類、移動、変化			
【到達目標】 あらゆる例題を取り上げながら、作品創作の動機を探る。作品や作者のバックグラウンドについても、考察する。				【到達目標】 隊形の種類を把握し、作品の中での効果的な移動のしかた、変化の方法について学ぶ。			
【授業時間外学習】 作品創作の動機について考え、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 隊形の種類、移動、変化のしかたについて、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第2回 テーマ、抽象・具象について				第10回 組み合わせ、比例、均等			
【到達目標】 テーマの決定のしかた、抽象作品、具象作品などの特性を理解する。				【到達目標】 隊形の組み合わせについて考える。			
【授業時間外学習】 他の芸術分野について、テーマ、抽象、具象について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 隊形の組み合わせについて復習する。(4.0hr)			
第3回 題名について				第11回 時間構成について			
【到達目標】 題名の考え方、決め方について理解を深める。				【到達目標】 作品の時間構成について学ぶ。全体から見た理想的な時間配分について考える。			
【授業時間外学習】 他の芸術分野について、題名の考え方決め方について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 作品の時間構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第4回 作品の大きなイメージ（動き、構成）				第12回 教材VTR「作品の出来上がるまで」を見る			
【到達目標】 動きと構成の関係について理解する。作品の動きにふさわしい構成とは、どんなものかを考える。				【到達目標】 例題となる教材VTRから、作品の出来るまでを理解する。			
【授業時間外学習】 作品の動きにふさわしい構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 作品の完成するまでの流れをイメージしてみる。(4.0hr)			
第5回 作品の大きなイメージ（衣裳、照明、音響）				第13回 反復、伏線、クライマックスについて			
【到達目標】 舞台上で上演する作品は、総合芸術であることを理解し、音響、衣裳、照明のあり方について学ぶ。				【到達目標】 作品におけるクライマックスとは何か、また、その効果的なつくり方などについて考える。			
【授業時間外学習】 興味のある作品を取り上げ、衣裳、音響、照明について考察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 他の芸術分野では、クライマックスをどのように捉えているかを考察する。(4.0hr)			
第6回 モチーフ、フレーズについて				第14回 コントラスト、リズム、調和について			
【到達目標】 作品の主張の最小単位と言えるモチーフ、フレーズのとらえ方について理解する。				【到達目標】 作品のコントラスト、リズム、調和について考える。			
【授業時間外学習】 興味のある作品を取り上げ、モチーフ、フレーズについて考察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 コントラスト、リズム、調和について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)			
第7回 教材VTR「作品のモチーフ」を見る				第15回 今後の課題の設定			
【到達目標】 教材VTRによる研究・分析を行う。				【到達目標】 最も興味深いテーマを取り上げ、更に研究を深める。			
【授業時間外学習】 作品のモチーフを一つ考えてみる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分で課題を見つけ、解決のための方法を考案する。(4.0hr)			
第8回 動きの変化・発展							
【到達目標】 動きの変化・発展のしかたについて学び、実演しながら理解する。							
【授業時間外学習】 変化、発展のしかたについて復習する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業ノートを工夫して作成し、今後の舞踊活動のための資料保存版となるようにしたい。各自が自習や調査などを行い、オリジナルノートを作成することを目標とし、理解度の確認を行う。							
【オンライン授業の場合】 基本的には、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は授業回数が増えた場合でも大幅には変更しない。出席は各授業回の復習課題の内容により確認する。							
【教科書・参考書など】 適宜、プリント等配布。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 ノート提出60%、授業内レポート40%。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート40%、合わせて100%とする。							

科目名	舞踊方法学			担当者	高野美和子		
英文名	Dance Methodology						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門・必修	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR202		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
すぐれたダンサーや振付家、指導者になるための基礎として、様々な舞踊の運動特性と表現形式についての正確な理解や、身体のメカニズムに対する深い認識が必要である。この授業では、様々な舞踊作品、振付家や指導者、ダンサーに関する資料、文献などを通じて、舞踊の「運動」の種類とその特性、表現体としての身体のメカニズムとそのトレーニング方法、指導法、舞踊表現を成立させる関連事項について理論的に学ぶ。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	様々な舞踊運動や表現の特性	様々な舞踊の運動や表現の特性を理解できる。	様々な舞踊の運動や表現の特性に気づくことができる。	様々な舞踊の運動や表現の特性がわからない。			
	舞踊運動の性質の説明	舞踊運動の性質を言葉で表現し伝えることができる。	舞踊運動の性質を言葉で表現できる。	舞踊運動の性質を言葉で表現できない。			
	対象者に応じた舞踊指導の要点	対象者に応じた舞踊指導の要点を十分理解している	対象者に応じた舞踊指導の要点を理解している。	対象者に応じた舞踊指導の要点を理解できていない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション	【到達目標】 舞踊方法学で取り扱う領域と研究内容を理解する。			第9回 コンテンポラリーダンス 【到達目標】 コンテンポラリーダンスの性質を理解し、様々な現場における応用の可能性を検討する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の関連資料を探し、目を通す。(4.0hr)			【授業時間外学習】 コンテンポラリーダンスに関する資料を収集し、理解を深める。(4.0hr)			
第2回 舞踊の種類と運動の特性	【到達目標】 様々な舞踊運動の特性を理解する。			第10回 プロダンサーの仕事 【到達目標】 プロフェッショナルに活動するダンサーの仕事について理解する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、映像資料に登場する用語や舞踊家について調べる。(4.0hr)			
第3回 表現体としての身体とそのメカニズム	【到達目標】 表現体としての踊るからだのメカニズムについて理解する。			第11回 「遊び」の理論からのアプローチ 【到達目標】 舞踊の中にある「遊び」の要素を確認し、様々な現場での応用の可能性を理解する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 カイトワの「遊びと人間」を参考に、授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			
第4回 ボディ・コンディショニング	【到達目標】 踊るからだのメンテナンス、コンディショニングについて理解する。			第12回 様々なダンス指導の現場 【到達目標】 様々なダンス指導現場での検討事項を理解する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 様々なダンス指導現場でのニーズを収集する。(4.0hr)			
第5回 舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組み	【到達目標】 舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組みについて理解する。			第13回 対象者に応じた指導方法① 【到達目標】 学齢期におけるダンス指導について学び、その指導法のポイントを理解する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 学校現場での指導法の要点を整理する。(4.0hr)			
第6回 ラバン・システム	【到達目標】 ラバン(Laban)の動作分析、舞踊記譜法について理解する。			第14回 対象者に応じた指導方法② 【到達目標】 コミュニティ・ダンス、インクルーシブなダンス指導の方法を理解する。			
	【授業時間外学習】 ラバンに関する資料を基に、授業内容の要点を整理し、理解を深める。(4.0hr)			【授業時間外学習】 コミュニティダンス、インクルーシブなダンスの現状について調べる。(4.0hr)			
第7回 インプロヴィゼーション	【到達目標】 舞踊における即興について理解し、その応用の可能性を探る。			第15回 授業内容の振り返り 【到達目標】 本講義にてとりあげた内容について振り返り、レポート作成の準備をする。授業の理解度を確認する。			
	【授業時間外学習】 授業内容の要点を整理し、授業中に触れた即興に関する文献に目を通す。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、レポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 舞踊制作のプロセス	【到達目標】 様々な舞踊制作の手法を理解する。						
	【授業時間外学習】 様々な舞踊制作の手法について資料を収集する。						
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 毎回の授業中、その回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められるため、集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 基本的に対面授業を行うが、適宜オンデマンド方式の授業を行う。毎回音声入りの講義映像を送るのでそれを見ながら受講すること。毎回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められ、提出されることで出席したこととみなす。集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 毎回の授業の活動内容および授業中に提出する小レポートを70%、授業内小テストと期末に提出するレポートを30%の割合として評価する。							
【オンライン授業の場合】 すべての授業がオンラインとなる場合、毎回の提出される小レポートを70%、学期末に提出されるレポートを30%の割合として評価する。							

科目名	舞台芸術論			担当者	松澤慶信		
英文名	Performing Art Theory						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
劇場芸術としての舞踊作品を中心にとりあげて講義をすすめていくが、舞踊はもはや踊らないで、身体の「在り様（在り方）」を現前するパフォーマンス・アートとして存立するようになってから久しい。この昨今の状況に応じて、多種多様な舞踊作品を開示していきたい。その際に、舞踊作品の在り方について、20世紀の美学芸術学的な問題や概念を使って解明していく。基本的に20世紀そして21世紀へのアートとしてのダンス論である。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 パフォーマンス・アートとパフォーマンス・アート 【到達目標】 パフォーマンス・アートとしてのダンスから、パフォーマンス・アートとしてのダンスへの変遷が、この講座のαにしてΩである。この変遷の根幹の思想を半期をかけて追求していく。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 deconstructive 【到達目標】 脱構築は「内部からの解体」であることと「解体する対象が明確」であることに尽きる。思想の具体例に芸術をあげることは正しい。中でもダンスは適任だと言いたい。その好例をここでも披露する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 言葉言語と身体知 【到達目標】 述定的形容詞によるカテゴライズ論理化、ロゴスによる概念化。言葉言語による「理解」のエピステーメーではない、テクネーとしての身体知による「了解」。ダンスの核心にせまる。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 minimalism 【到達目標】 ポストモダン・ダンスとしてのミニマル・ダンスがやがて、ミニマル・ミュージックを使ったダンス全般をそう呼ぶようになった時には、そのダンスはもはやポストモダンではなくなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 20世紀ダンス 【到達目標】 21世紀に生きるわれわれは20世紀のダンスを総括しなければならない。20世紀にこそ、バレエにしてもダンスにしても、芸術舞踊としての地位は確保され、それが芸術自体を推進することにもなった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 retrospective 【到達目標】 ダンスにおける懐古主義とは何か。われわれはダンスにノスタルジーを見るのだろうか。存在のハイマートにダンスは存立するのか。安易な懐古趣味ではない存在の本質を見極めたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 modernism 【到達目標】 20世紀アートを構築する概念は二つ、formalismとexpressionismという相反する二重性にある。この二重性を追求して、モダニズムを明らかにして20世紀という時代を、そしてアートを探求したい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 contemporary dance 【到達目標】 結局コンテンポラリー・ダンスとポストモダン・ダンスとはどう違うのか。前者の美学は後者で言い尽くせると私は考える。コンテンポラリー・ダンスはまず国家的な政策であった。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 表現主義舞踊とmodern dance 【到達目標】 バレエを否定して始まったモダン・ダンスは、バレエの特性であるバを否定したというだけではない。舞踊芸術という作品構造の省察とともに表出表現のグッドモデルを提供する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 テクニク論 【到達目標】 テクニクの語源であるテクネーが経験知による身体知であることは、アリストレスの「エコマコス倫理学」にすでにある。この問題は知の本来を反省する。「技」の問題から始めよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 modernist modernとしてのformalismと抽象 【到達目標】 キング・オブ・モダニズムはモダニスト・モダンとしてのフォルマリズムである。ここから見えてくることは構造であり、グリーンバーグが言うような意味での作品の本質である。それは何か。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 21世紀ダンス 【到達目標】 21世紀のダンスとは何か。ポストモダンを経てわれわれは今どこに向かうのか。もう一度20世紀の問題を確認し、21世紀になって起こってきている問題を具体的に取り上げよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 postmodernの戦略 in dance 【到達目標】 今なおポストモダンをわれわれは問題にする。20世紀のダンスはモダニズムとポストモダニズムに集約されるからである。ポストモダンな戦略が20世紀ダンスの様相を拡大させた。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 問題の所在 【到達目標】 前回取り上げた問題は実はわれわれにとって切実な問題なのか。否定的な意味で問題なのか、次のダンスを考える上で分析対象として問題なのか。それへの取り組み方自体を検証しよう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 記号論的戯れと相対主義 【到達目標】 「舞踊の溶解力」とは意味論的意味内容の指示機能が弱いことに端を発する。舞踊は言葉言語のようによく「わからない」からこそおもしろいし、記号論的に戯れるという存在根拠を持つ。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【学習上の留意点】							
基本的に予備知識は必要ない。受講者の知的好奇心が必須条件。もちろんこちら側もその好奇心をそそるように努めたいと思う。しかし授業へのそちら側からの積極的志向性をのぞむ。ダンスを通じた美学的思考を鍛えてほしい。 2年次前期開講の必修科目「舞踊分析法」の発展としても、是非受講してほしい。							
【オンライン授業の場合】							
基本的に配付資料を期限付きで毎回配るので、それをダウンロードして学習しておいて下さい。質問があるときは、教員のメルアドに送って下さい。あなたの疑問はみんなの疑問でもあるだろうから、できる限り、翌週の配付資料で、その質問に公開で答えます。							
【教科書・参考書など】							
授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イブリース著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。							
【オンライン授業の場合】							
対面式の試験、あるいは提出レポートによる成績評価です。その解答内容が100%評価となります。							

科目名	舞踊音楽論			担当者	森 立 子		
英文名	Music for Dance						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・必修			
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR204		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
この授業では、西洋音楽の基礎的諸概念を理解し、舞踊における音楽の役割、効果について考える方法を身につけることを目標とする。授業においては、毎回、特定のトピックをとりあげ、これに関連する楽曲を紹介した上で、それが舞踊作品の中でどのように機能しているかを考察する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
西洋音楽の基礎的概念について		授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる		それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる		それぞれの概念の意味が理解できない	
舞踊における音楽の役割の分析		自分独自の方法論で分析ができる		授業で説明された分析が理解できる		授業で説明された分析が理解できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 拍と拍子（1） 【到達目標】 西洋芸術音楽における「拍」と「拍子」の概念、および拍子の種類について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第9回 ミニマル・ミュージック 【到達目標】 「ミニマル・ミュージック」の概念と、これを使用した舞踊作品について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第2回 拍と拍子（2） 【到達目標】 「変拍子」の定義と、変拍子を用いた主要な作品について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第10回 物語と音楽（1） 【到達目標】 「標題音楽」、音楽における「引用」について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第3回 和声 【到達目標】 和声の基礎知識、および時代による和声法の変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第11回 物語と音楽（2） 【到達目標】 「ライトモチーフ」の概念について学び、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第4回 変奏 【到達目標】 「変奏」の概念とその技法について、楽曲を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第12回 リトミック 【到達目標】 エミール・ジャック＝ダルクローズにおける「リトミック」観とその実践について、またダルクローズに影響を受けたダンサー、振付家について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第5回 編曲 【到達目標】 「編曲」の概念と、さまざまな編曲の手法について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第13回 行進曲 【到達目標】 行進曲の基本的な構造について理解し、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第6回 楽器とイメージ 【到達目標】 西洋においてそれぞれの楽器に伝統的に付加されてきた「イメージ」について理解し、楽曲の中でそれがどのように活用されているのかを分析する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第14回 即興 【到達目標】 西洋芸術音楽における様々な「即興」について、実例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第7回 楽音と非楽音（1） 【到達目標】 「楽音」と「非楽音」の概念について学び、「非楽音」を意図的に活用した西洋音楽の楽曲例について考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）				第15回 音楽の視覚化 【到達目標】 音楽を視覚化する試みについて、舞踊を中心とした複数の例を考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）			
第8回 楽音と非楽音（2） 【到達目標】 「ミュージック・コンクレート」の概念を作品例にあたりながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントカードの提出を求める。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。また提出されたコメントの内容を踏まえて、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、自らの知識や経験にも照らしながら課題に真摯に向き合っていくことが求められる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課し、このミニ・レポートの提出をもって出席とする。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各授業回で課すコメントカードの内容60%、学期末レポート40%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回で課すミニ・レポート60%、学期末レポート40%の割合で評価する。							

科目名	創作 I			担当者	松山善弘		
英文名	Choreography I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・必修			
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR205	卒業認定方針との関連	⑥		
【到達目標】							
舞踊の創作は多様化してきた。テーマのあるもの、趣向を見せるもの、抽象的なもの、音楽的なもの、コラボレーション、マルチメディアを使った創作など、これらの振付を学び、振付の様式を学ぶ。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ダンス創作の基礎的事項・理論について		理論を理解し自らまとめて説明できる。		理論を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
ダンス創作の研究知見に関する事項		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		研究知見を資料等を左暗誦しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明ができない。	
ダンス創作の研究知見の活用に関する事項		知見の活用に関する理解はできており、高度な作品を創作できる。		知見の活用に関する理解はできており、標準的な作品を創作できる。		知見の活用に関する理解が不十分で作品を創作できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション（DVDを使用） 【到達目標】 授業進行について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第9回 実際にソロの作品を創作する3 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）			
第2回 与えられた条件で振り付ける 【到達目標】 与えられた条件で、自由に即興できるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第10回 実際にソロの作品を創作する4 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）			
第3回 与えられた言葉を基に、グループで作品をつくってみる 【到達目標】 言葉を基に、自由に発想を広げられるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第11回 作品の発表と合評1 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。 【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。（4.0hr）			
第4回 創作に必要な過程を学ぶ（テーマ選び、モチーフ作りetc） 【到達目標】 テーマ選び、モチーフ作りについて理解し習得する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第12回 作品の発表と合評2 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。 【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。（4.0hr）			
第5回 創作に必要な過程を学ぶ（構成、音楽etc） 【到達目標】 構成方法、選曲等について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第13回 作品の発表と合評3 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。 【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。（4.0hr）			
第6回 創作に必要な過程を学ぶ（まとめ） 【到達目標】 創作に必要な過程を理解し、習得する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第14回 作品の発表と合評4 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。 【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。（4.0hr）			
第7回 実際にソロの作品を創作する1 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）				第15回 作品の発表と合評5 【到達目標】 作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。 【授業時間外学習】 発表された作品について、自分なりの評価をするとともに、自分の作品に関しても再度分析する。（4.0hr）			
第8回 実際にソロの作品を創作する2 【到達目標】 自由な発想で作品創りに臨めるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 固定観念にとらわれず、自由な発想で授業に臨んで下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、その週の金曜日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 時間毎のレポート40%、創作実習60%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	野外上演法			担当者	渡 辺 碧		
英 文 名	Outdoor Performance						
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修			
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR206		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
舞踊におけるマスケームとしての作品づくりを通して、舞台芸術としての舞踊の表現との違いを学ぶ。 マスケームの集団美、表現美を追求するとともに集団の中で個人としての責任と協調性を養う。また、将来自分が指導者となった際に、集団の指揮が取れ、指導ができるようになることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
集団美への理解		野外上演と舞台上演の違いを理解し、集団演技に適した効果的な振付・指導が出来る。	野外上演と舞台上演の違いを理解して、集団演技に適した振付・指導が理解出来る。	野外上演と舞台上演の違いへの理解が不十分である。			
大集団の中での個人の役割への理解		大集団の中での個人の役割について理解でき、自ら動くことが出来る。	大集団の中での個人の役割について理解できる。	大集団の中での個人の役割について理解が不十分である。			
大集団の中での指導者としての役割への理解		大集団の中での指導者の役割について理解でき、効果的な発言や行動が出来る。	大集団の中での指導者の役割について理解できる。	大集団の中での指導者の役割について理解が不十分である。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（グループ構成、テーマ設定、マスケーム概要など）				第9回 1部、2部の振りうっしと指導法			
【 到達目標 】 15時間の流れを理解する。マスケームの概要を理解する。テーマ設定（3部構成）をする。各グループに分かれて、お互いを理解する。				【 到達目標 】 3部構成のうちの2部の振りうっしと指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 グループでテーマについて、文献を用いて調べをする。(4.0hr)				【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。(4.0hr)			
第2回 選曲と動きのモチーフづくり①				第10回 2部の振りうっしと指導法			
【 到達目標 】 ①テーマに基づき選曲をする。 ②各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。				【 到達目標 】 3部構成のうちの2部の振りうっしと指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 選曲した曲を編集する。今までのマスケーム作品を研究する。(4.0hr)				【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。(4.0hr)			
第3回 選曲と動きのモチーフづくり②				第11回 3部の振りうっしと指導法			
【 到達目標 】 各グループでモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。				【 到達目標 】 3部構成のうちの3部の振りうっしと指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)				【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。(4.0hr)			
第4回 グループで作品づくり①				第12回 3部の振りうっし及び全体構成の見直し・調整①			
【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。				【 到達目標 】 1、2、3部の振りうっしがほぼ完成となり、各部のつなぎ部分を考案する。また、そのつなぎの部分を指導することが出来、踊りを習得することが出来る。			
【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)				【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。(4.0hr)			
第5回 グループで作品づくり②				第13回 全体構成の見直し・調整②、通し練習①			
【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。グループ作品発表に向けて、作品を踊りこむ。				【 到達目標 】 1、2、3部間の調整を行い、すべての振付を正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)				【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。調整された作品全体を見直す。(4.0hr)			
第6回 グループで作品づくり③				第14回 通し練習②			
【 到達目標 】 各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。次回のグループ作品発表に向けて、作品を完成させ、クオリティを高める。				【 到達目標 】 野外で上演することを念頭におき、出はけを含め、通して踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 次回のグループ発表に向けて練習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】野外で上演することをイメージして、全体を見直す。さらにクオリティを高めるための手段を実践する。(4.0hr)			
第7回 グループ作品発表、鑑賞、評価				第15回 野外で上演			
【 到達目標 】 ①各グループの作品を発表する。②テーマに合っている作品を選出する。③選出されたグループの作品を理解し、自分がその作品の一部となって、作品に参加することを理解する。				【 到達目標 】 実際、グラウンドにおいて、観客の中で上演することが出来る。			
【授業時間外学習】 選出されたグループは、次回からの振りうっしのスケジュールと具体的な構成プランを立て、それに伴う振付を考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 上演に関して、これまでの授業に対する反省と感想をまとめる。(4.0hr)			
第8回 1部の振りうっしと指導法							
【 到達目標 】 3部構成のうちの1部の振りうっしと指導を行う。指導する側は作業をスムーズに行う。指導を受ける側は、与えられた振付を正しく踊ることが出来る。							
【授業時間外学習】振付を復習し、振りうっし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次の授業に活かす。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業形態は対面授業を基本とする。必修科目のため110名近くが一同に受講する。決して人任せにせず、全員が作品づくりに積極的に参加すること。また舞台上演法とは異なり、野外で上演することを常に意識し、理解する（上演場所の大きさ・出演人数・観客層・演出・振付内容・作品構成など）。第7回の「グループ作品発表」、第15回「野外で上演」では、口頭で作品およびこれまでの創作過程についてのフィードバックを行う。作品が固まる時期には、衣裳・メイク考案も同時進行で行う。多くの受講者は野外での上演が初の試みとなるため、その状況をよく把握して発表に挑むこと。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、対面形式の中にオンライン形式を取り入れたハイブリッド方式で授業を行うこともある。その場合、授業内容を一部変更する場合がある。							
【教科書・参考書など】							
必要に応じて適宜配付します。							
【成績評価方法】							
授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品への貢献度40%、レポート30%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	タップダンス			担当者	安達雄基		
英文名	Tap Dance						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME101		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
音楽の歴史と共に進化し続けるタップダンス。 特殊技能という点に留まらず、広く様々な種類の音楽の一部として奏でられるリズムの世界。 実技を中心にダンスのmovementと楽器としてのアンサンブル、個性豊かに踊れるタップダンスを通して、将来への感性を磨き学ぶ。							
【ループリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 タップダンス Entry 【到達目標】 タップダンスの歴史の背景、また、ダンスという観点だけでなく、楽器としての音楽的見地を理解する。 【授業時間外学習】 タップダンスへの興味。ダンスとしてとらえる。タップダンスに注目する。(1.0hr)				第9回 タップダンス Intermediate 1 【到達目標】 ステップを組み合わせコンビネーションを作り、リズム全体の流れや打楽器として聴かせる音色について、聴覚として理解できる。 【授業時間外学習】 コンビネーションの復習。(1.0hr)			
第2回 タップダンス Basic 1 【到達目標】 基礎的ステップの習得をはじめ、基本的な身体の使い方、体重移動、バランス体幹を鍛える。 【授業時間外学習】 基礎ステップの復習。(1.0hr)				第10回 タップダンス Intermediate 2 【到達目標】 テクニックに触れインテンポ、また速さにも慣れていく。実際に曲に合わせて習得する。 【授業時間外学習】 ステップを音楽に合わせる復習、テンポについての理解を深める。(1.0hr)			
第3回 タップダンス Basic 2 【到達目標】 更なる基礎ステップと共に具体的に足、腰、膝、身体の引き上げについて動きをマスターする。 【授業時間外学習】 タップにおける体の使い方の復習。(1.0hr)				第11回 タップダンス Advance 1 【到達目標】 更なるテクニックを駆使して、曲に合わせコンビネーションを習得する。 【授業時間外学習】 音楽に合わせたコンビネーションの復習。(1.0hr)			
第4回 タップダンス Basic 3 【到達目標】 基本ステップを繋ぎ、応用ステップへのアプローチ。リズムを変形させていくなど、swingリズムとevenリズムを習得する。 【授業時間外学習】 応用ステップの復習、リズムへの理解を深める。(1.0hr)				第12回 タップダンス Advance 2 【到達目標】 コンビネーションを具体的振り付けとして、流れを理解し音色やスタイルを通じてタップダンスを全体的観点から感じる。 【授業時間外学習】 上半身、下半身、全身での表現の復習。(1.0hr)			
第5回 タップダンス Basic 4 【到達目標】 更なる応用ステップを習得する。またコンビネーションの基となるビート感に、触れていく。 【授業時間外学習】 応用ステップの復習。(1.0hr)				第13回 タップダンス Advance 3 【到達目標】 歴史あるタップダンスの大きな2つの流れ、シアタータップとリズムタップを組み合わせ踊ってみる。現代的なタップダンスへの変化に触れる。 【授業時間外学習】 スタイル別のタップダンスの復習。(1.0hr)			
第6回 タップダンス Basic 5 【到達目標】 リズムアンサンブルのバリエーションを習得する。基本ステップいくつかパターン毎に組み合わせ、ひとつのリズム体を作成する。 【授業時間外学習】 基礎ステップの復習をしてリズムへアンサンブルへ繋げる。(1.0hr)				第14回 エンターテインメントにおけるタップダンスの世界 【到達目標】 メロディアスにとるリズム、パーカッション的にとるリズム、歴史上の映画や具体的映像を題材に応用化されたエンターテインメントの世界を感じる。 【授業時間外学習】 ミュージカル映画等を通して、鑑賞レポートにより、タップダンスの理解を深める。(1.0hr)			
第7回 タップダンス Beginner 1 【到達目標】 ダンスとしての動き方、上半身を含めたmovement について習得する。 【授業時間外学習】 ステップとアームスの連動の復習。(1.0hr)				第15回 個性として生み出されるタップダンスの世界 【到達目標】 最終的に個性として踊れる様own style、自身としての音色作りの作成方法、またリズムの流れにおいて起承転結が作れるようになる。今までの様々なリズムを個人で組み合わせ、発表する。 【授業時間外学習】 鑑賞レポート「タップダンスと私」を提出し、自己表現の一つとしてのタップダンスを理解していく。(1.0hr)			
第8回 タップダンス Beginner 2 【到達目標】 応用ステップを組み合わせ、movementと共にgroove感を理解する。 【授業時間外学習】 grooveへの理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 タップダンスの基礎用語とともにしっかり身につける。タップシューズで実技を学ぶことでタップダンスに必要な体の使い方を習得し、しっかり音が出てくる事を体感、実感できる。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】							
DVD、ミュージカル映画・舞台ビデオ、等を習得資料としていく。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。 【オンライン授業の場合】 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。							

科目名	コンタクト・ワーク			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Contact Work						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1				専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME102		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
<p>重力の法則など、様々な物理的な法則と身体の仕組みとの関係性を理解、応用し、パートナーとコンタクト(接する) ことにより生み出すことが出来る新しい動きの感覚を体験、またその技術を習得することにより、新たな身体感覚、表現やコミュニケーションの可能性、既成の舞踊概念にとらわれない創造性を身につける。</p>							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	コンタクトの基礎的な法則を理解する	ローリング、スライド、ピボット等の基礎的技術を理解し、自由に利用できる	ローリング、スライド、ピボット等、コンタクトワークに必要な基礎的技術を理解し、体現できる	コンタクトワークに必要な技術についての理解が不足し、体現することが難しい			
	コンタクトインプロの理解	コンタクトワークの基礎的な知識を習得し、その法則から即興として自由に発展することができる	コンタクトワークの基礎的な知識を習得し、即興への発展の方法を理解できている。	コンタクトインプロに対する理解が不足し、即興として発展することが難しい			
	パートナーワークの理解	コンタクトワークに必要な技術を習得し、振付フレーズを滑らかに行うことが出来る	コンタクトワークに必要な技術を習得し、標準的な振付フレーズを行うことができる	コンタクトワークに必要な技術の習得が難しく、標準的なフレーズを行うことが困難である			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す1 【 到達目標 】 コンタクト・ワークの法則について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第9回 空間を360度方位で使いきる1 【 到達目標 】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第2回 身体間のコンタクトポイントを変化させて動きを生み出す2 【 到達目標 】 人と組むことによってコンタクト・ワークの法則をより深く理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第10回 空間を360度方位で使いきる2 【 到達目標 】 より広い範囲で空間を感じ取れるようになり、その範囲の中を自由に動けるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第3回 皮膚を通して感じる1 【 到達目標 】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第11回 弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する1 【 到達目標 】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第4回 皮膚を通して感じる2 【 到達目標 】 体の表面で感じた事をそのまま動きに変える事が出来るようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第12回 弾みをつけて動き、体重と動きの流れを重視する2 【 到達目標 】 弾みをつけて効率よく動いていく事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第5回 身体全体を使って転がる1 【 到達目標 】 身体全体で転がる事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第13回 あるがままに自由にダンスをうまらせる1 【 到達目標 】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第6回 身体全体を使って転がる2 【 到達目標 】 身体全体で転がる事をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第14回 あるがままに自由にダンスをうまらせる2 【 到達目標 】 人、あるいは物とコンタクトしながら連続したフレーズを作れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第7回 内側から動きを体験する1 【 到達目標 】 表面からだけではなく、内側から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第15回 あるがままに自由にダンスをうまらせる3 【 到達目標 】 人、あるいは物とコンタクトしながら一つの作品を作れるようになる。 【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、コンタクト・ワークについて理解する。(1.0hr)			
第8回 内側から動きを体験する2 【 到達目標 】 表面からだけではなく、内側から浮かんでくる感覚を感じ取れるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 人、あるいは物と接触しながら動きを作り出していくので、自分がコンタクトしているものに対して、細心の注意をはらいながら動く事を忘れないようにして下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画(15分程度)の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】							
「コンタクト・インプロヴィゼーション-交感する身体」 シンシア・J. ノヴァック フィルムアート社							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 レポート30%、演習作品70%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	ボディ・コンディショニング		担当者	今田康二郎		
英文名	Body Conditioning					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME201	卒業認定方針との関連		⑥⑦⑧
【到達目標】						
<p>身体に対する、外側(=形)からのアプローチではなく、身体内側からのコーディネーション、分析、そして動きを研究、習得する。同時にそのメンテナンスと能力向上方法を体験し、その重要性と実践方法を考える。また呼吸がいかに身体、身体運動、さらにはダンスに対しての影響を認識するのか、その重要性と活用法を考察、実践する。そして、全身の関節を活性化すること、つまりは普段あまりアクティブではない関節を動かしてあげるにより、身体ムーブメントのポキアプラシーを広げ、かつ、動かしてやることにより筋力と、全身コーディネーションを構築する。以上の点を踏まえ、これらの知識をいかにダンスに反映させるかという点について重点を置く。</p>						
【ルーブリック (学修の到達レベル)】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	解剖学を理解と反映について	ダンスに必要な解剖学と身体運動のシステムを理解し、ダンスに高度に反映できる。	ダンスに必要な解剖学と身体運動のシステムを理解し、それをダンスに反映しようとする意思や意識を持つ。	解剖学と運動システムの理解が不足し、ダンスに反映できない。		
	身体メンテナンスの必要性の理解と実践について	身体メンテナンスの方法と必要性を理解し、かつケガ防止のための理解と知識を持ち、かつ実践できる。	身体メンテナンスの方法と必要性を理解した上で、ケガ防止のための実践に対して今後反映させていこうとする意思や意識を持つ。	身体メンテナンスの理解と必要性を理解せず、ケガ防止のための意思と意識に欠ける。		
	解剖学と芸術性の両立について	解剖学的理解からムーブメントを作り出し、かつ自身がすでに体得しているダンス知識やテクニック等と適合させ、身体表現としての芸術的反映ができる。	解剖学的理解からムーブメントを作り出すことができ、それを今後自身のダンス活動に反映させ、発展させていくための知識と意識を持つ。	解剖学的理解と知識が十分に習得しておらず、ムーブメントに反映することができない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 身体を内側から観察し、問題意識を高める。 【到達目標】 様々な呼吸パターンを含むエクササイズを実際に体験し、そのコーディネーションを体験する。その後、ワークグループに分かれ、それらがどのような影響を身体にもたらしたかを研究する。 【授業時間外学習】 授業前後に自己の身体を観察し、その身体の変化を書き出す。(4.0hr)			第9回 呼吸と身体運動のシンクロナイゼーション 【到達目標】 前回の内容を踏まえ、いかに呼吸と運動を関連づけるかについてワークグループごとに研究、実践する。 【授業時間外学習】 実際のダンスレッスンを通して、呼吸法という観点からムーブメントを最適化する。(4.0hr)			
第2回 ダンスムーブメントにおける筋肉、骨の役割と運動 【到達目標】 ダンスにおいて、最低限知っておくべき解剖学に触れ、自身の内側からの身体認識を高める。 【授業時間外学習】 実際のダンスレッスンにおいて、特に大腰筋に注目し、腰椎、骨盤と股関節、大腿骨との関係を考える。(4.0hr)			第10回 アクティブ・ストレッチングの概念と重要性 【到達目標】 アクティブ・ストレッチングとパッシブ・ストレッチングの概念を理解し、なぜ、前者がダンサーやスポーツ選手にとって必要なかを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 普段各自が行っているストレッチを10種類程度あげ、アクティブ・ストレッチングかパッシブ・ストレッチングの二つに分類する。(4.0hr)			
第3回 脊椎の基本運動 【到達目標】 脊椎の基本運動について学び、積極的にそれらを実践する。普段慣れているムーブメントを脊椎の基本運動という点から分析、観察する。 【授業時間外学習】 日常生活における脊椎の運動を脊椎の基本運動からの視点で観察する。(4.0hr)			第11回 リニア(2D)なムーブメントと三次元的(3D)ムーブメント 【到達目標】 リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントを比較し、その概念がどのように全身のムーブメントに影響を与えるかについて理解する。 【授業時間外学習】 リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントをそれぞれ10種類以上あげ、一覧にする。映像でも可。(4.0hr)			
第4回 肩帯、脊椎、骨盤の関係性 【到達目標】 肩帯と骨盤の関係性を脊椎を通して分析、認識する。さらには、それぞれに連なる四肢の運動との関連性について観察、研究する。 【授業時間外学習】 日常生活における腰椎の運動を肩帯及び骨盤の関係から観察する。(4.0hr)			第12回 ムーブメントにおける全身コーディネーションの重要性について 【到達目標】 全身コーディネーションについて十分に理解し、それがどのようにムーブメントに影響し、結果的には身体の強さやコントロールを導くことができるか理解する。 【授業時間外学習】 全身コーディネーションによるムーブメントとアイソレーションによるムーブメントをそれぞれ30秒程度で実際に作ってみる。(4.0hr)			
第5回 肩帯の構造とその運動 【到達目標】 肩帯について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえた上で、肩帯にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)			第13回 ダンサーに多くみられる身体的故障とその対策 【到達目標】 ダンサーのけがには理解不足からくるものも多い。それを理解し、さらにどのようにしてそういったものを避けていくのかについて理解する。 【授業時間外学習】 過去に経験したけがを再発させないためには、どのような取り組みをすればいいのかを考察する。(4.0hr)			
第6回 骨盤の構造とその運動 【到達目標】 骨盤について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえた上で、骨盤にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(4.0hr)			第14回 ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント 【到達目標】 これまでの内容を振り返り、それらをダンスに反映させるためのエクササイズを体験かつ、実践し、理解をする。その後、ワークグループごとにそのダンスにおける活用法について研究、議論する。 【授業時間外学習】 それぞれがすでに踊った経験のある振り付けから、30秒程度を抜き出し、それを評価。そして、身体に負担になる部分をいかに改善できるか考察する。(4.0hr)			
第7回 呼吸の重要性と呼吸法の種類 【到達目標】 人間活動の原点である呼吸について学び、いろいろな種類の呼吸法をワークグループごとに研究、体験する。 【授業時間外学習】 日常生活のなかで、どのような状況の時にどのような呼吸をしているのか観察、認識する。呼吸という普段無意識におこなう運動に対して、発見をする。(4.0hr)			第15回 実践とフィードバック 【到達目標】 5-6人程度のグループに分かれる。授業時間外学習で用いた振り付けをそれぞれが発表し、それについて改善点や、問題点をグループディスカッション、フィードバックする。 【授業時間外学習】 毎日の授業、レッスン、リハーサルにこれまでの知識を反映させる。(4.0hr)			
第8回 運動と呼吸の関連性および循環器系について 【到達目標】 異なる呼吸法がいかに異なる影響を身体に及ぼすかについてワークグループごとに体験し、観察をする。 【授業時間外学習】 前回の授業時間外学習を踏まえ、普段の生活における様々な状況を20個書き出し、それぞれの際にどのような呼吸をしているのか一覧にする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 自分や他者の身体に触れること(他者が自分の体に触れること=ハンズオン)もある。配慮が必要な場合には、授業開始前に申し出ること。上記のようにワークグループに分かれてのディスカッションや実践研究を多く含む。積極的に自身の意見や観点を伝えること、かつ他の学生の主張を尊重し、それを踏まえた上で実践研究することが求められる。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。また、実践課題としての短いビデオの提出が必要。GYROTONIC®及びGYROKINESIS®方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission. 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は原則的には変更はないものの、ワークグループに分かれての学習は制限され、授業ビデオを各自で観ながら、実践をしていく形とする。ビデオは予定されている日程の午前9時にGoogle Drive上に公開され、1週間閲覧可能。予定の日程通りに実践するのが望ましいが、状況に応じてそれぞれの判断で学習すること。ただし、ビデオの公開期限があることに注意すること。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。また、実践課題としての短いビデオの提出が必要。GYROTONIC®及びGYROKINESIS®方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission.						
【教科書・参考書など】						
各自ヨガマットと、大型のバスタオルを持参のこと。また、ヨガベルト、柔道・空手等の帯、伸縮性のある包帯、ダンスベルトなど带状な物も持参のこと。日常的に使用するベルトよりも、きつく締められる状態であることが必要条件。						
【成績評価方法】						
【対面・オンライン授業共通】						
上記のレポート課題を40%、ビデオ課題による実技試験60%として評価する。なお、課題が未提出、不完全な場合は評価は無しとする。						

科目名	舞踊分析法演習			担当者	松澤慶信		
英文名	Seminar in Analytic Methods of Dance						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門・選択				
授業形態	演習	科目ナンバー	DME202	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧		
【到達目標】 representationあるいは感情表出が舞踊表現だと考えるような、意味論的意味に今もなお従属させられている舞踊作品の在り方に疑義を呈し、その呪縛を果敢に断ち切ることが、この授業の目的である。 この挑戦の可能性を根底から支える理念は、舞踊の存在理由に関わる、身体と空間、身体と音楽との関係、つまりどのような時間分節と空間分節をもって、身体はそれらと相見えるのかを見極めることにある。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 この授業の位置づけを確認したい。物語論的意味論的意味から作品を作るのではなく、あくまでもフォルマリストティックな構造論的契機から作品を作ることを確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 chance operation I 【到達目標】 床空間を同じ面積の四角形で16分割してナンバリングする。ペーパー上で1分間に移動するルールを作る。その作成された時間・空間の分節にそって、実際にその床空間を移動する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 動きの言葉の採集 【到達目標】 動くことを同定する動きに関する言葉を採集する。しかしそれをシャッフルして、単に動くための契機として扱う。動きのヴォキャブラリーを捜すためである。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 chance operation II 【到達目標】 チャンス・オペレーションとして機能させるために、床空間のナンバリングを作成図を終えてからする、あるいはその作成図を無作為に選んだ第三者に渡して空間を移動するようにする。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 動きの言葉からの実践 【到達目標】 上記した言葉の言葉から動きの言葉へと転換して、その動きの言葉を使ってシークエンスを作る。そしてその並べ方をどうすれば全体が現れてくるのかを見る。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 total cordination I 【到達目標】 上記のチャンス・オペレーションによって移動するフォーメーションが、グルーピングしたダンサーによって、どう変わってくるか。その集団による群舞を確認すること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 構成 振り移し 【到達目標】 上記した全体的構造を意識して作った振付を、今度は第三者に振り移す作業に入る。どうやって相手に伝えるか。身体の動きのキャッチボールを反省する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 total cordination II 【到達目標】 チャンス・オペレーションによって作成されたフォーメーションを、無作為に選ばれたグループが動く中に、しかし何らかの全体性統一性が現れてくることの確認をしたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 カノンとヴァリエーション 【到達目標】 動きの構成であるフォーメーションを、動きを繰り返すカノンと、一つの動きから少しずつ変形させていくヴァリエーションとによって展開する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 作品発表 I 【到達目標】 この授業で取り組んできた、動きの採集、言葉作り、構成、フォーメーション作業を各人が有効に利用して、作品を作ること。どの方法に重きを置いて作業するかも各人の自由。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 音合わせ 【到達目標】 音楽というよりも音そのものに合わせて動く訓練。音楽の時間分節と動きの時間分節を呼応させる作業であり、動きの時間分節の自立性を阻止して音にあえて従属させる作業である。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 作品発表 II 【到達目標】 作品発表を行う。鑑賞されることを前提に創作すること。観客の視線が作品を鑑賞する。見る・見られることを通じて、作品の完成度を高めることと、見ることの自覚を持つこと。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 身体部位コンタクト・ワーク 【到達目標】 身体の部位を表と裏に分けて、全部で25ほどのポイントをそこに刻印して、無作為に選んだその番号にそってデュエットの二人が交互に接触するようにする。その上で流れを作ること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 講評 【到達目標】 各人の作品の講評を全員で行って、方法だけでなく、その作業手順、方法論そのものを振り返る。創作するとは結局どういうことか。身体の営為を広くとらえたい。それもダンスなのだ。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 空間配置と幾何学的formation 【到達目標】 基本的にはまずオーソドックスな幾何学的な図形、線や円の中心による対称形を確認することから始める。その上で少しずつそれをずらしていき、やがては自由な空間を獲得すること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【学習上の留意点】 振付経験は問わない。むしろ無垢な身体がここでの方法に立ち向かうことをのぞむ。3年次前期開講の「舞踊創作原論」と3年次後期開講の「舞台演出論」と両方とも履修して、全体でダンスを創作することが身体の営為であることを自覚してほしい。 【対面授業の場合】 途中、舞踊作品の鑑賞レポートを3回提出すること。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、都度指示する。							
【教科書・参考書など】 授業中に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各項目での達成度をその都度見て考慮するが基本、出席日数と、3回のレポート評価50%で評価する。基本的に、全出席は当然の前提である。 【オンライン授業の場合】 参加回数と関心・意欲度70%評価、3回のレポート評価20%、そして各項目での達成度をその都度見て考慮し10%評価とする。基本的に、全出席は当然の前提である。							

科目名	舞踊音楽制作			担当者	浅野 淳		
英文名	Accompaniment and Composition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】 舞踊と音楽は、無音も含めて切り離せない関係を持つといえるだろう。モダンからコンテンポラリーまで、実際の作品を例として取り上げながら、その表現における多様性、可能性を探ることによって、舞踊と音楽の関係性についての知識と理解を深めるとともに、音楽の選曲、編集、そして音楽材を使用しての音楽の構成を、実際に体験することによって、舞踊創作及び音楽の創作における発想力と表現力を養うことを目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ダンスと音楽の関係性について		要点を理解し、自ら解説できる。		資料を参照して解説ができる。		理解が不十分で説明できない。	
音楽ソフトの基礎的使用について		基礎的な使用法を理解し、ソフトを活用できる。		資料を参照してソフトの基本的な活用ができる。		理解が不十分でソフトが活用できない。	
音楽ソフトの習熟について		使用法を理解し、自身で工夫を凝らしてソフトを活用できる。		資料を参照して、工夫を凝らしてソフトを活用できる。		理解が不十分でソフトで工夫を凝らすことができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 音楽とダンスについて：無音と音楽 【到達目標】 無音、静寂、音の始まりと終わり、曲間等について。音の与える影響について理解を深める。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第9回 実習3：音楽編集の実践2 【到達目標】 前回の続き。エフェクト等の使用法も含めた実習。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第2回 ダンスと音楽編曲、編集、効果について 【到達目標】 作品や実例を通しての理解。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第10回 実習4：音楽編集の仕上げとファイルの提出 【到達目標】 編集した音源ファイルの仕上げと提出。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第3回 ダンスと音楽の多様性1（効果、エフェクト） 【到達目標】 音楽材に効果＝エフェクトをかけた実例を通して、その与える影響を学ぶ。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第11回 実習5：音楽構成の実践1 【到達目標】 用意された短い音（断片や効果音）を使用して、ダンスのための音楽として構成する。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第4回 ダンスと音楽の多様性2（ミニマル・ミュージック他） 【到達目標】 ダンスで比較的頻繁に使用される、ミニマル・ミュージックと呼ばれる音楽の構造や理念、実際の使用例を通して理解を深める。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第12回 実習6：音楽構成の実践2 【到達目標】 前回の続き。様々な手法にのっとった模索、試行錯誤をしてもらい、音楽としての仕上げを目指す。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第5回 ダンスと音楽の多様性3（ミニマル・ミュージック以降） 【到達目標】 前回からの続き、より多様な表現を探る。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第13回 実習7：音楽構成の実践3 【到達目標】 前回の続き。音楽をどのように構成して仕上げるか、方針を固める。場合によっては別の音源での構成も目指す。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第6回 ダンスと音楽の多様性4（ノイズ、インダストリアル他） 【到達目標】 雑音や効果音を音として使用した作品をみてゆく。 【授業時間外学習】 講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)				第14回 実習8：音楽構成の仕上げとファイルの提出 【到達目標】 構成した音源ファイルの仕上げと提出を目指す。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第7回 実習1：音楽ソフトの使用法、実践 【到達目標】 実際にPCで音楽ソフトを使用して操作法を学ぶ。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)				第15回 実習9：提出ファイルの検証 【到達目標】 提出された2種のファイルの中から具体的な音源をいくつか聴いて、どのように出来上がったのかを検証し、全体のまとめとする。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)			
第8回 実習2：音楽編集の実践1 【到達目標】 用意された音楽素材を利用しての編集の実習。 【授業時間外学習】 最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。また、2回目以降は各自、目を通していただくことが望ましい。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 PCで音楽ソフトを使用する実習なので、最低、PCで文字（全角及び半角）を打てる程度にはPCに慣れていただくことが望ましい。また、前半の講義で実習のための効果等についての説明も随時加えるので、各自、積極的にノートやメモを取ることを望ましい。毎回、講義の最後に講義の内容に関するミニ・レポートを提出していただき、理解度を確認、次回に補足の解説を行う。また、後半の実習において情報処理室で使用するPCの台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合、前期学期末にレポートを提出していただき受講者数の調整を行なうこととするので予め留意しておいてほしい。 【オンライン授業の場合】 e-ラーニングでオンデマンド方式の授業を実施する。各授業/実習回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組みを行う。配布及び配信される資料は、動画と自習をサポートするための資料である。動画及び資料は、本来の各授業回が予定されている授業日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌週の平日まで掲載する。出席の確認は、各授業回についてのミニ・レポートの提出によって行う。また、実習については、対面と同様、PC/Macで音声ファイルを作成、Google Driveに共有～提出していただく。最初の授業前にPC/Macの所持率のアンケートを取る。また、所持していない場合は、大学でPCを使用する実習になるので、前期でなるべくPCの基本的な操作に慣れていただくことが望ましい。							
【教科書・参考書など】 【教科書・参考書など】 実習の際、配布する音楽ソフトの使用法についてのプリント （実習時に適宜参照していただくので毎回忘れずに持ってくる。）							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の2種）：70%、講義時に提出するミニ・レポート：30% 【オンライン授業の場合】 実習で制作する音楽ファイル（編集と構成の2種）：70%、実習時の画面を撮影した画像ファイル：10%、講義時に提出するミニ・レポート：20%							

科目名	ダンスカレント		担当者	青木タクヘイ・宇野 敦子		
英文名	Lighting and Sound for Dance					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME204	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】 この授業では作品を実際に公演するための制作的に大きな枠組み作りをし、それともなう実践的な技術（照明・舞台装置などの舞台技術のノウハウ）の習得を目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
作品上演に必要な照明・音響・舞台機構などの基礎知識		照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解し、自らまとめて説明できる。		照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解し、資料を参照しながら説明できる。		照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
照明・音響・舞台機構などの操作方法		自ら音響・照明機材を操作して、演出上の適切な効果を得ることができる。		指示された通りに音響・照明機材を操作して、演出上の効果を得ることができる。		指示された通りに音響・照明機材を操作することができない。
公演を前提とした準備計画と運営実践について		自ら作品に応じた音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができる。		指定された音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができる。		指定された音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 音響機材の取り扱い方の習得① 【到達目標】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第9回 音響効果の確認③ 【到達目標】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第2回 音響機材の取り扱い方の習得② 【到達目標】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第10回 照明効果の確認① 【到達目標】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第3回 音響機材の取り扱い方の習得③ 【到達目標】 音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第11回 照明効果の確認② 【到達目標】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第4回 照明機材の取り扱い方の習得① 【到達目標】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第12回 照明効果の確認③ 【到達目標】 具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第5回 照明機材の取り扱い方の習得② 【到達目標】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第13回 グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる① 【到達目標】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第6回 照明機材の取り扱い方の習得③ 【到達目標】 照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第14回 グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる② 【到達目標】 具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第7回 音響効果の確認① 【到達目標】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				第15回 作品発表と反省 【到達目標】 いよいよ作品の発表である。そのためにリハーサルをして本番に臨むことにする。そして上演後に各人が反省点を自覚して公表できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)		
第8回 音響効果の確認② 【到達目標】 具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 集中講義で行う。グループワークとなるので、ある一定の学生だけが動くのではなく、学生全員が動くように注意する。他のグループの発表の際には、しっかりとメモを取り、記入する。 【オンライン授業の場合】 形式（オンデマンド方式またはリアルタイム方式）の内容や詳細については授業開始前に指示する。課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求めることがある。						
【実務経験のある教員による授業科目】 舞踊舞台の演出における音響および照明に関する実務経験のある教員が、実際に舞踊公演を実施するために必要な舞台技術について指導する。						
【教科書・参考書など】 授業中に指示する。						
【成績評価方法】 授業内の実践課題と計画発表及び発表作品の成果を合わせて総合的に評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求める。報告書を50%、動画による実技評価を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	モダンダンスⅢ			担当者	中村 恩 恵		
英文名	Modern Dance Ⅲ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME205		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】 今日の舞踊表現には多様なテクニックが複合的に含まれている。先人たちが作り上げてきた舞踊メソッドを幅広く学ぶことで、今日的な舞踊をより包括的に理解することが可能となる。本講義では、リモン・テクニックをベースとし、モダンダンスの基本的なスキルを段階的に学習する。各講義はボディーワークの実施、モダンダンスの基礎の学習、発展的なコンビネーションの実演の3要素で構成される。各自が自分自身の身体的特性を把握し適切なボディーワークを実施できる力、また基礎を正しく理解し、基礎とコンビネーションとの関連性について観察力をもってアナライズできる力を身につけることを目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ボディーワーク		主体的に自らに必要なボディーワークを行い、求める効果につなげることができる。		講師からのアドバイスのもとにボディーワークを行い、効果につなげることができる。		効果的なボディーワークを実施できない。	
モダンダンス基礎		基礎を正しく理解し、自ら実践することができる。		講師のアドバイスに従い、基礎を正しく実践することができる。		正しい基礎を実施することができない。	
コンビネーション		質の高いダンス表現を主体的に実現することができる。		講師のアドバイスのもと、質の高いダンス表現を実現することができる。		質の高いダンス表現を実現することができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーションとボディーワーク 【到達目標】 授業の進め方およびボディーワークの必要性と実施の方法について理解する 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施(1.0hr)				第9回 主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションの続きを学ぶ 【到達目標】 複雑な技を正確に理解し噛み砕いて練習できる。 【授業時間外学習】 ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)			
第2回 ボディーワーク実施の後、モダンダンスの基本的要素を学ぶ 【到達目標】 モダンダンスの基礎を学び、ボディーワークとダンスの関連性を理解する 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施(1.0hr)				第10回 主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションを終わりで学ぶ 【到達目標】 質の高いダンスを実現するための探求を主体的に行うことができる 【授業時間外学習】 ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)			
第3回 ボディーワーク実施の後、モダンダンスの基本的ムーブメントを学ぶ 【到達目標】 モダンダンスの基礎を正しく理解し、基本ムーブメントを実施することができる 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施(1.0hr)				第11回 ボディーワークの再検証 【到達目標】 パフォーマンスを高めるために必要となる身体トレーニングを最適化できる 【授業時間外学習】 ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)			
第4回 ボディーワーク実施の後、モダンダンスのより発展的なムーブメントを学ぶ 【到達目標】 発展的なムーブメントを実施する際、ボディーワークの効果を自ら検証することができる 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施と見直し(1.0hr)				第12回 基礎とコンビネーションの関連性についてアナライズする 【到達目標】 複雑な技を自らアナライズし、噛み砕いて練習できる。 【授業時間外学習】 ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)			
第5回 ボディーワークを再検証し新しいメニューを導入。ターンやフロアワーク等の高度な技を学ぶ 【到達目標】 高度な技を実施するために、必要となるボディーワークを自らデザインする 【授業時間外学習】 ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)				第13回 主体的にボディーワークを実施。コンビネーションのポリッシングを行う 【到達目標】 コンビネーションの細部を詰め、質を高めることができる 【授業時間外学習】 ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)			
第6回 主体的にボディーワークを実施する。空間全体を使うダイナミックな技を学ぶ。 【到達目標】 ランやジャンプなどダイナミックなムーブメントを力強く実施することができる。 【授業時間外学習】 ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)				第14回 主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションの総仕上げを行う 【到達目標】 コンビネーションを完全に理解し、質の高いパフォーマンスを行うことができる 【授業時間外学習】 ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)			
第7回 主体的にボディーワークを実施する。これまで学んだモダンダンスの基礎を振り返り理解を深める。 【到達目標】 それぞれのムーブメントや技を正しく理解し、高い質で実施することができる。 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施(1.0hr)				第15回 主体的にボディーワークを実施。その後、少人数でコンビネーションを実演する。 【到達目標】 自らフィードバックを行い、自分の課題と向き合うことができる 【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、モダンダンスについてさらに理解を深める。(1.0hr)			
第8回 基本的な技を複合的に組み合わせたコンビネーションに着手 【到達目標】 複雑な技を正確に理解し再現することができる。 【授業時間外学習】 ボディーワークの実施(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 本講義は実技の授業となります。ダンスのトレーニングウェアで受講してください。足元は靴下か裸足となります。ボディーワークに関しては、各々が、自らの心身を最適化するためのクリアなビジョンと観察力をもって取り組む必要があります。最終回では各自のトレーニングプログラムを提出して頂きます。 モダンテクニックの基礎とコンビネーションに関しては、授業内で受講生の理解度に合わせたフィードバックを適時、出させていただきます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上アップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部的様子を撮影した動画(15分程度)の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】 特にありません。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 提出課題25%、実技試験75%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	モダンダンスⅣ			担当者	坂本 秀子	
英文名	Modern Dance Ⅳ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME206		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】						
「モダンダンスⅢ」を更に進めたテクニックを学ぶ。専門家の作品を踊ることで高度なテクニックを習得し、作品全体に流れる精神を掌握することで、表現力を高めていく。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
作品のテーマの理解度について		テーマを理解して高度な表現が実施できる。		希薄になる箇所があり、一貫性には欠ける。		テーマが理解できず、浅い表現になる。
タイプの異なる作品表現の実施について		タイプの異なる作品表現に十分対応できる。		タイプの異なる作品表現はやや不安定である。		タイプの異なる作品表現には対応できない。
高度な身体テクニックの到達レベルについて		高度な身体テクニックが実施できる。		未完成ではあるが、ほぼ実施できる。		かなり未完成ではあるが実施できる。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材A） 【到達目標】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。 【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)				第9回 振りを学ぶ① 【到達目標】 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。 【授業時間外学習】 全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)		
第2回 振りを学ぶ① 【到達目標】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。 【授業時間外学習】 振りの復習をする。(1.0hr)				第10回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう② 【到達目標】 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。 【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)		
第3回 振りを学ぶ② 【到達目標】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。 【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)				第11回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材C）、振りを学ぶ③ 【到達目標】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。 【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)		
第4回 振りを学ぶ③ 【到達目標】 踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。 【授業時間外学習】 全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)				第12回 振りを学ぶ④ 【到達目標】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。 【授業時間外学習】 振りの復習をする。(1.0hr)		
第5回 踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう① 【到達目標】 踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。 【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)				第13回 振りを学ぶ④ 【到達目標】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。 【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)		
第6回 作品の説明とビデオ鑑賞（教材B）、振りを学ぶ④ 【到達目標】 創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。 【授業時間外学習】 作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)				第14回 フィーリングやアクセントなど踊り方の吟味 【到達目標】 作品を踊り込んでいく過程で、重要な事柄について学ぶ。 【授業時間外学習】 自分らしさを加えて、作品の完成度を高められるように考える。(1.0hr)		
第7回 振りを学ぶ④ 【到達目標】 振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。 【授業時間外学習】 振りの復習をする。(1.0hr)				第15回 踊って批評を受ける、今後の課題を発見 【到達目標】 踊って批評を受ける。学んだ事柄をもとに新たに課題を発見する。 【授業時間外学習】 課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)		
第8回 振りを学ぶ⑤ 【到達目標】 次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。 【授業時間外学習】 振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 タイプの異なる3つの作品を教材として取り上げ、細やかに進めていく。振りを覚えることに加えて、各自が作品のイメージをとらえて、より深みのある個性的な世界を構築して欲しい。そのための練習方法やポイントなどについても探っていく。そして、踊ることだけにとどまらず、書物や絵画、詩集などで、作品のイメージを増幅し、どんなことにも興味を持って取り組んで欲しい。 【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途行う。 【オンライン授業の場合】 毎時間のレポート40%（メール添付）、期末のレポート60%（メール添付）として評価する。						

科目名	クラシックバレエⅢ			担当者	渡辺 碧・曹 叡永		
英文名	Classical Ballet Ⅲ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DME207		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
1年生で身に付けた基礎基盤のバレエよりも、さらに高度なテクニックに挑み、技術力と表現力の両方を高めていくことを目的とする。改めて正しい身体配置・身体使いについて学ぶことにより、怪我の少ない身体づくり方を体得する。また、ポアント技法についても理解し、特に足の骨の身体配置についても体得する。最終的には、ポアントを履いた状態での正しい身体の使い方を体得すること、または理解することを目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	基礎技法の再認識と継続性	基礎技法の重要性を再認識・再確認し、いかなる動作においても継続して実施できる。	基礎技法の重要性を再認識・再確認し、継続して実施できる。	基礎技法の重要性についての理解が不十分である。			
	高度なテクニックの実施	高度なテクニックにおいても、基礎技法を正しく理解し、継続して実施することが出来る。	高度なテクニックにおいても、基礎技法を理解し、実施することが出来る。	高度なテクニックにおける基礎技法への理解が不十分で、高度なテクニックが実施できない。			
	ポアント技法について	ポアント技法の解剖学的仕組み、足先の正しい身体配置について正しく理解でき、説明できる。	ポアント技法の仕組み、足先の正しい身体配置について理解できる。	ポアント技法の仕組み、足先の正しい身体配置についての理解が不十分である。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（目標設定）				第9回 ポアントのエクササイズ(応用)①			
【 到達目標 】 昨年度、1年間を振り返り、自分の受講するレベルを決定できる。この授業における目標設定が出来る。				【 到達目標 】 簡単なコンビネーションが実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。			
【授業時間外学習】 クラシックバレエⅠ、Ⅱで学んだこと（バレエ用語の意味を含む）を復習する。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ(基礎)①				第10回 ポアントのエクササイズ(応用)②			
【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて、改めて正しい身体配置を確認する。特に骨盤の正しい配置を意識して踊ることが出来る。				【 到達目標 】 前回に引き続き、さらに内容を発展させて実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第3回 エクササイズ(基礎)②				第11回 練習課題と反復練習①			
【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねて改めてアーン・ドゥオール（ターン・アウト）を確認する。特に骨盤の正しい配置と、骨盤周辺の筋肉の使い方を意識して踊ることが出来る。				【 到達目標 】 半期のまとめである練習課題を習い、覚える。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第4回 エクササイズ(基礎)③				第12回 練習課題と反復練習②			
【 到達目標 】 1年生の復習を兼ねてアプロン、エレベーションについて確認する。背骨、コア（インナーマッスル）の正しい使い方を意識して踊ることが出来る。				【 到達目標 】 練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第5回 ポアント技法の説明、ポアントのエクササイズ(基礎)①				第13回 練習課題と反復練習③			
【 到達目標 】 ポアントの選び方、履き方を理解し、ポアント技法の特徴を理解できる。足の骨の構造、筋肉の仕組みについて理解できる。これまでの学習を踏まえ、ポアントの基礎として、アテール、ドゥミ・ポアント、ポアントが理解できる。				【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第6回 ポアントのエクササイズ(基礎)②				第14回 練習課題と反復練習④			
【 到達目標 】 ポアントの基礎としてアテール、ドゥミ・ポアント、ポアントの区別が実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。				【 到達目標 】 練習課題を正しく踊ることが出来、さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第7回 ポアントのエクササイズ(基礎)③				第15回 課題発表、自己評価、フィードバック			
【 到達目標 】 ポアントの基礎としてプリエ、アテール、ドゥミ・ポアント、ルルベ、ジャンプの区別が付き、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。				【 到達目標 】 練習課題を発表し、第1回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかが理解できる。教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。			
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				【授業時間外学習】 教員からのフィードバックに対する具体的な対策を練り、実践する。(1.0hr)			
第8回 ポアントのエクササイズ(基礎)④							
【 到達目標 】 ポアントの基礎としてビケ・ポアントとタンルベ・ルルベの区別が付き、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。							
【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかり認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレエ表現への理解と足先の正しい使い方・プレースメントについての知識を深めるようにする。 受講クラスは、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員による調整を行う。1年次よりも一クラスあたりの受講人数が増えるため、ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第15回の「課題の発表、自己評価、フィードバック」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】							
ポアントシューズについてのプリントなどを適宜配付。							
【成績評価方法】							
実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	クラシックバレエⅣ			担当者	渡辺 碧・曹 叡永		
英文名	Classical Ballet Ⅳ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DME208		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
クラシックバレエⅢを更に発展させるために、テクニック、表現のそれぞれの質を上げ、既存の古典ヴァリエーションに挑戦する。この授業を受講することにより、これまでのクラシックバレエの基礎を復習・確認するとともに、それが実践できるようになることを目的とする。特に上半身と下半身の動きのコーディネーション力を高めることに焦点を当て、正しい身体配置でヴァリエーションの役割を理解した表現力豊かな踊りが実践出来るようになることを目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	テクニック、表現力の向上	基礎技法を踏まえ、より難度の高いテクニックを 実施出来、表現力豊かに踊ることが出来る。	難度の高いテクニックに挑戦出来、表現力豊かに 踊る努力が出来る。	難度の高いテクニックに挑戦出来ない。または、 表現する意が見られない。			
	コーディネーション力の向上	正しいコーディネーションを理解し、美しく踊る ことが出来る。	コーディネーションを理解し、踊ることが出来る 。	コーディネーションへの理解が不十分で、上手く 踊ることが出来ない。			
	古典作品への理解	バレエにおける古典作品を理解し、役になりきっ て、作品を踊ることが出来る。	バレエにおける古典作品を理解でき、役になりき って、作品を踊る努力が出来る。	バレエにおける古典作品への理解が不十分で、役 になりきって、作品を踊ることが出来ない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 最後のクラシックバレエ実技科目となるため、自身の「これまで」、そして「これから」の バレエとの向き合い方を検討すると共に、それぞれの目標を確認し、この授業での目標設定が 出来る。自分に合った受講クラスを決定できる。 【授業時間外学習】 クラシックバレエⅠ～Ⅲで学んだことを復習する。(1.0hr)				第9回 ヴァリエーションの反復練習① 【到達目標】 ヴァリエーションの空間使いを覚えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ(基礎)① 【到達目標】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて身体配置を確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第10回 ヴァリエーションの反復練習② 【到達目標】 ヴァリエーションの音楽を正確に捉えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第3回 エクササイズ(基礎)② 【到達目標】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アン・ドゥオール（ターン・アウト）を中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第11回 ヴァリエーションの反復練習③ 【到達目標】 ヴァリエーションの振付を正確に踊ることができる。特に音楽性と空間使いを意識して 踊ることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第4回 エクササイズ(基礎)③ 【到達目標】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、アプロンを中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第12回 ヴァリエーションの反復練習④ 【到達目標】 ヴァリエーションの役割をしっかりと理解し、求める表現性をしっかりと踊りの中に取り込む ことができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第5回 エクササイズ(基礎)④ 【到達目標】 クラシックバレエⅠ～Ⅲの復習を兼ねて、エレベーションを中心に確認する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第13回 ヴァリエーションの発表にむけた模擬練習 【到達目標】 少人数で、ヴァリエーションを踊ることが出来る。1人でも踊ることが出来るよう、 自分が苦手とする部分を理解できる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)			
第6回 エクササイズ(応用)① 【到達目標】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。 特に正しい上半身使いを意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第14回 ヴァリエーションの発表 【到達目標】 これまでの授業を踏まえ、ヴァリエーションを一人で踊ることが出来る。 ヴァリエーションに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う(1.0hr)			
第7回 エクササイズ(応用)② 【到達目標】 あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。 特に上半身と下半身のコーディネーションを意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)				第15回 これまでの理解度の確認と今後の検討 【到達目標】 オリエンテーション時に立てた目標に対して、自分がこの授業においてどれだけ達成できたか を検討する。これまでに得た知識を再度確認し、整理することができる。これまで学んできた 知識を確認するため、「身体の使い方チェックシート」を間違いないで回答できる。 【授業時間外学習】 これまでの授業を振り返り、自分とバレエとの今後の関わり方を検討する。(1.0hr)			
第8回 ヴァリエーション 【到達目標】 古典ヴァリエーションの振付を覚えることができる。 【授業時間外学習】 本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみの着用として、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整え る。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。「クラシックバレエⅢ」と同様、ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレ エ表現への理解と足先の正しい使い方・プレースメントについての知識を深めるようにする。 受講クラスは「クラシックバレエⅢ」と同様、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員に よる調整を行う。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第14回「ヴァリエーションの発表」、第15回「これまでの 理解度の確認と今後の検討」では、フィードバックを求める受講者一人一人に口頭でフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】 適宜、授業内で示します。							
【成績評価方法】 実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	ジャズダンスⅢ			担当者	港 ゆ り か	
英文名	Jazz Dance Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2				専門・選択	
授業形態	実技	科目ナンバー	DME209		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】						
ジャズダンス、ヒップホップダンスのダウンビートのリズム感を身につけ、ジャズダンスに必要な基礎技法を習得する。身体表現の意識を高め、表現者としての感性を養い、可能性を広げていく。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	パラレルターンテクニックの習得	正しいポジションキープしたままダブルターン出来る	正しいポジションキープしたままシングルターン出来る	正しいポジションを理解出来ない		
	ウォーミングアップの習得	踊りに必要な筋肉の使い方を理解し、踊りながら使い分けができる	踊りに必要な筋肉の使い方を理解し、踊りながら意識することができる	踊りに必要な筋肉の使い方を理解出来ない		
	振付の習得	確実なテクニックと豊かな表現力でダイナミックに踊ることができる	振付の意図を理解し、覚えることができる	振付の意図を理解出来ず、覚えられない		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション				第9回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(3×8)スローテンポ		
【 到達目標 】 さまざまなジャンルの中のジャズダンスとは、今の時代に求められている表現法などを理解する。				【 到達目標 】 クロスフロアのバリエーション(2) 短い振付の中でダブルターン+シェネが確実に出来る。		
【授業時間外学習】 各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第2回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)リズム重視				第10回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(4×8)スローテンポ、到達度の確認		
【 到達目標 】 パラレルポジションをキープしたパラレルターンを理解し、シングルターンが出来るようになる。				【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、確実なテクニックと、豊かな表現力で踊ることが出来る。スローテンポの到達度の確認。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第3回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)リズム重視				第11回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(2×8)ミディアムスロー		
【 到達目標 】 パラレルターンをシングルからダブルへ。				【 到達目標 】 インサイドターンを理解し、繰り返し回ることが出来る。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第4回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)リズム重視、到達度の確認				第12回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(3×8)ミディアムスロー		
【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、さまざまなリズムを使い分けて踊ることが出来る。リズム重視の到達度の確認。				【 到達目標 】 短い振付とインサイドターンの組み合わせを、ぶれない軸で踊ることが出来る。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第5回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)ライン重視				第13回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(4×8)ミディアムスロー、到達度の確認		
【 到達目標 】 パラレルターン(シングル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。				【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、ダイナミックにぶれない軸で踊ることが出来る。ミディアムスローの到達度の確認。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第6回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)ライン重視				第14回 振付(ロングコンビネーション)1		
【 到達目標 】 パラレルターン(ダブル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。				【 到達目標 】 振付の中で、曲を理解し、自分なりの表現法を見付けることが出来る。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第7回 ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)ライン重視、到達度の確認				第15回 振付(ロングコンビネーション)2		
【 到達目標 】 振付したコンビネーションを、音の中で正しいラインへ確実に入り、表現することが出来る。ライン重視の到達度の確認。				【 到達目標 】 リズム、ライン、スローテンポ、ミディアムスローの確実なテクニックはもちろん、コンビネーションの表現法として個性を出しながら、豊かに魅せ、伝えることが出来る。		
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)				【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)		
第8回 ウォーミングアップ/クロスフロア/振付(2×8)スローテンポ						
【 到達目標 】 クロスフロアのバリエーション(1) 短い振付の中でダブルターンが確実に出来る。						
【授業時間外学習】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
週1回の授業ではクセも取れず、頭では理解していても、実践出来るレベルになるのは難しい。ジャンルによって、体の使い方に違いがあることを繰り返し説明し、必ず「見る」という方法の重要性を伝えていき、自分を客観視出来るレベルまで上げていく必要がある。						
【対面授業の場合】 対面の場合は感染予防対策を徹底し、通常通りの授業開講。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイムではなく、オンデマンド対応となる。講師があらかじめ作成した動画を事前に共有し、学生はオンデマンド受講→講師に動画を提出することで出席扱いとなる。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 授業内での実践40%、到達度の確認テストの結果60%として評価する。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド受講後の動画提出40%、テスト課題映像提出の結果60%として評価する。						

科目名	シアタージャズダンス			担当者	畔柳小枝子		
英文名	Theater Jazz Dance						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME210		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
<p>欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用。各自のスキルアップが目標である。 この授業では、ダンスの基礎トレーニング、ジャズダンスに大切なリズム感を養いパフォーマーとして洗練された動きを身につける。 心身ともにコントロールし、踊る事を通して感受性豊かな表現力を磨く。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
基本的基礎の事項		ダンス全般における基本が身につく動きや踊りに活かされている。		基礎的な知識はあり、一応できるが動きに活かされている部分が少なくも足りない。		基礎知識がなく動きが雑でスムーズではない。	
技術的事項		ステップ、ジャンプ、ターン、ポーズ、表現、音楽に対する技術レベルが高い。		要求されたステップ、ジャンプ、ターン、ポーズが一応でき、リズム感がある。		ステップ、ジャンプ、ターン、ポーズの要求されたことができず、音にのれていない。	
振付・表現者の基本的な事項		決められた中での表現で音、振付に合った表現ができる。		決められた中で自分なりの表現ができる。		決められたことしかできない、又はできない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション① 【到達目標】 ストレッチエクササイズを正しく行うことができる。コンビネーションの練習。 【授業時間外学習】 ストレッチエクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)				第9回 トレーニング。コンビネーション② 【到達目標】 立ち姿・脚さばき・手の表情に気を配る事ができる。 【授業時間外学習】 脚さばき、アームスの使い方を意識し、美しいポーズに注意してコンビネーション②の復習。(1.0hr)			
第2回 エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション① 【到達目標】 正しい身体の使い方を意識してストレッチエクササイズを行うことができる。 【授業時間外学習】 エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)				第10回 コンビネーション②重視 【到達目標】 コンビネーション②を各自の訓練・研究成果も出し、踊ることができる。 【授業時間外学習】 表現方法を考えながら、コンビネーション②の練習。(1.0hr)			
第3回 基礎トレーニング・ステップ、ターン、ジャンプの練習。コンビネーション① 【到達目標】 基礎トレーニング。リズムやアクセントを意識して踊ることができる。 【授業時間外学習】 授業中の注意を確認し、トレーニングを行う。コンビネーション①の復習。(1.0hr)				第11回 トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③ 【到達目標】 できる限り全身を使って表現する。動きと表現方法のコントロールについて考えながら行うことができる。 【授業時間外学習】 全身の動く幅を広げ、柔軟性・筋トレを行う。コンビネーション③の練習。(1.0hr)			
第4回 基礎トレーニング・ステップ、ターン、ジャンプの練習。コンビネーション① 【到達目標】 自分自身の筋力・柔軟性を知り、やり方や使い方を見直し、更にトレーニングを行うことができる。 【授業時間外学習】 コンビネーション①の復習及び特別。(1.0hr)				第12回 トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③ 【到達目標】 パフォーマーとして必要な技術を考え、各自の課題を見つけることができる。 【授業時間外学習】 クロスフロアー・コンビネーション③の復習・練習。(1.0hr)			
第5回 コンビネーション①重視 【到達目標】 コンビネーション①の音に合わせて細かく分析し、表現方法を考え見せることができる。 【授業時間外学習】 コンビネーション①の各自の注意点を確認し、反省点を認識する。(1.0hr)				第13回 トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③重視 【到達目標】 変拍子のとり方が実践できる。コンビネーション③の練習。 【授業時間外学習】 クロスフロアー・コンビネーション③の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)			
第6回 トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション② 【到達目標】 クロスフロアーの際、身体の使い方注意し行うことができる。コンビネーション②の練習。 【授業時間外学習】 クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)				第14回 音に合わせて表現。コンビネーション③重視 【到達目標】 音色に合わせて踊り、表現する事ができる。コンビネーション③の練習。 【授業時間外学習】 クロスフロアー・コンビネーション③の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)			
第7回 基礎トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション② 【到達目標】 ステップ・ターン・ジャンプをスムーズに繋ぐ事ができる。コンビネーションの練習。 【授業時間外学習】 クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)				第15回 コンビネーション④重視 【到達目標】 振付を正確に覚え、自分の表現も生かし踊ることができる。 【授業時間外学習】 各自の不得手な点に注意しトレーニングを行う。(1.0hr)			
第8回 トレーニング・リズムとアクセント コンビネーション② 【到達目標】 アクセント・リズムを意識して踊ることができる。コンビネーションの練習。 【授業時間外学習】 アクセントに注意し表現方法を考え、コンビネーション②の復習。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 ＊稽古着を着用。 ＊テクニック・表現方法のレベル向上、上達の目標もあるので各自練習、振付の復習を必要とする。 ＊授業以外にも基礎トレーニング・柔軟・筋力トレーニングを行うこと。 【オンライン授業の場合】 ＊オンデマンド方式の授業を実施します。配信は対面授業と同時に本学ポータルサイトのGoogle Driveにて動画配信・指示を行いますので、必ず確認すること。 課題を行う際は各自が出来る範囲で行って下さい。 出席確認は毎回課題に対する返信（メール又は撮影した動画）で行う。指示する期日までに提出すること。 ＊課題に対するフィードバックは、対面授業の際は授業の前後・オンラインの際は返信の際のメール又は、Gmailにて対応します。							
【教科書・参考書など】							
特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 実技試験で評価60％ ・ 授業内での実践・技能での評価40％ 【オンライン授業の場合】 提出された動画・返信にて評価70％ ・ 授業終了時点のレポートで評価30％							

科目名	コンテンポラリーダンスⅢ			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Contemporary Dance Ⅲ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2				専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME211		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
コンテンポラリーダンスⅠ、Ⅱで養った技術、知識を基礎として、更に発展させたテクニックについての理解と習得を行う。特にリリーステクニック、フロアテクニックを基礎とし、体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、重心と空間認識などについての応用的な理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	フロアテクニックの応用	フロアテクニックのシステムについて十分に理解し、応用的な動きにも自由に対応できる	フロアテクニックについてのシステムについて充分理解し、標準的な動きを行うことができる	フロアテクニックの理解、習得が充分でなく、標準的な動きが出来ない。			
	身体のアライメントの応用	身体のアライメントの構造や性質を充分理解し、それを用いて発展的な動きに自由に対応できる	身体のアライメントの構造や性質を理解し、標準的な動きにおいて身体を制御できる	身体のアライメントの構造や性質への理解が十分でなく、標準的なレベルの動きが体現出来ない。			
	リリーステクニックの応用	リリーステクニックを充分理解し、フレーズの中でそれを生かし、自由に应用することができる	リリーステクニックを理解し、標準的なフレーズに対応できる	リリーステクニックの理解が不十分で、標準的なフレーズを動きを行うことが困難。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション				第9回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得⑤			
【到達目標】 コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。				【到達目標】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習する。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第2回 基本エクササイズの復習				第10回 動きの流れ、ダイナミクス①			
【到達目標】 基本エクササイズの流れを習得する。				【到達目標】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習する。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第3回 基本エクササイズの復習				第11回 動きの流れ、ダイナミクス②			
【到達目標】 エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアテクニックと体のアライメントについて理解を深める。				【到達目標】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第5回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得				第12回 動きの流れ、ダイナミクス③			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアテクニックと体のアライメント、フォールとリカパーについて理解を深める。				【到達目標】 フロアへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカパーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。 様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第5回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得②				第13回 動きの応用①			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。				【到達目標】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第6回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得③				第14回 動きの応用②			
【到達目標】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。				【到達目標】 様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)			
第7回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得④				第15回 動きの応用③			
【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。				【到達目標】 様々な要素の入った一連のフレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。またこれまでの授業内容で扱ったテクニックや知識を総括し、今後の個々の課題を明確にする。			
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 授業で扱った技術、知識を復習し、レポートにまとめる。(1.0hr)			
第8回 フォール&リカパー、フロアテクニックの習得④							
【到達目標】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。							
【授業時間外学習】 エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。							
【オンライン形式】 全回対面での実施を予定しているが、状況により難しい場合は、オンライン形式で、オンデマンドとライブ形式を組み合わせ授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科目名	インプロヴィゼーション			担当者	高野美和子		
英文名	Improvisation						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME212		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】							
ダンサーとして自己の動きの発展、拡大を図るのみならず、創作・振付のために重視されている即興をまなび、体得する。自分自身の動きの特徴や癖などを認識し、さらに、新しい動きの探求・拡大を図ることを目的とする。また、創作や振付の上でも重要となる、空間、時間、力性などに関する感覚を養い、新しい創作の糧となる材料を追求することを旨とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
動きのボキャブラリーの拡大		あらゆる状況で新たな動きの探究ができる		新たな動きの探究にチャレンジしている		自分の動きのボキャブラリーに留まっている	
その場の状況や相手を感じて踊ること		毎回その場の状況を感じて踊ることができる		その場の状況や相手を感じて踊ろうとしている		周りを感ぜずに毎回同じように踊っている	
創作につながる即興の手法		創作につながる即興の手法を理解し、利用できる		創作につながる即興の手法を理解している		創作につながる即興の手法を理解できていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション インプロヴィゼーションとは 【到達目標】 舞踊における即興の特徴、概念を理解し、自分自身の即興の解釈を説明できる。 【授業時間外学習】 授業で学習した内容をまとめ、関連資料等を収集する。(1.0hr)				第9回 チャンス・オペレーション 【到達目標】 チャンス・オペレーションの特徴を理解し、実践できる。 【授業時間外学習】 チャンス・オペレーションの概念を文献等で理解しておく。(1.0hr)			
第2回 時間の知覚、把握 【到達目標】 即興時の時間の感覚、間のとおり方、意識とからだのあり方を体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第10回 イメージとのかかわり 【到達目標】 視覚、言葉などのイメージと動き・ダンスがどうかわるのか、可能性を探求し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第3回 空間の知覚、把握 【到達目標】 即興時の空間の感覚、方向や軌跡の認識、意識とからだのあり方を体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第11回 音とのかかわり 【到達目標】 音や曲と動き・ダンスが即興的にどう関わるのか、可能性を探求し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第4回 キネスフィアの理解 【到達目標】 キネスフィア (kinesphere) を理解し即興を通じて体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第12回 物、装置とのかかわり 【到達目標】 物、装置と動き・ダンスがどう関わるのか、可能性を探求し、実践できる。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)			
第5回 動きの質感① 【到達目標】 動きの質感を明確にしなが、ソロ、デュオで即興的に対話しながら踊る。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第13回 構成、枠組みのなかでの即興① 【到達目標】 グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践できる。 【授業時間外学習】 グループでおこなう即興の設定を考え、記述しておく。(1.0hr)			
第6回 動きの質感② 【到達目標】 いくつかの質感の異なる動きを取り入れながら、即興の可能性を追求する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)				第14回 構成、枠組みのなかでの即興② 【到達目標】 グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践、改良しまとめ、説明することができる。 【授業時間外学習】 授業で実践した即興の設定を記述し、レポートの準備を始める。(1.0hr)			
第7回 コンタクト・インプロヴィゼーション① 【到達目標】 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、いくつかのコンタクトの方法を体感する。 【授業時間外学習】 コンタクト・インプロヴィゼーションに関する参考文献を読む。(1.0hr)				第15回 授業内容の振り返り 【到達目標】 各回の実践、体得したことを振り返り、理解したことを言語化（レポート作成）することができる。 【授業時間外学習】 全授業で取り組んだ内容を振り返り、レポートを作成する。(1.0hr)			
第8回 コンタクト・インプロヴィゼーション② 【到達目標】 床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、即興的にコンタクトを導入して踊ることを体得する。 【授業時間外学習】 授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 全授業対面で行う。インプロヴィゼーションは個々の主体的な姿勢が重要であるとともに、自身のからだと他者のからだ、その場で起こっている現象を注意深く観察する姿勢が大切である。個々の集中力が授業全体の集中力につながるため、毎時間、気力と体力を万全にして臨むこと。各時間の中でからだを感じた様々な感覚を振り返りつつ、ノートにまとめるなど言語化する作業を行うことが望ましい。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】 参考書：「インプロヴィゼーション」、Bailey, Derek著、竹田賢一訳（1981）工作舎 「The Moment of Movement」、Lynne Anne Blom and L. Tarin Chaplin（1988）University of Pittsburg Press 「コンタクト・インプロヴィゼーション」、Novack, Synthia J 著、立木輝子・菊池淳子訳（2000）フィルムアート社							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 毎回の授業課題の理解、達成度を80%、レポート課題を20%として評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科目名	舞台演出論			担当者	松澤慶信		
英文名	Theory of Stage Directing						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	専門・選択	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	DME301		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
舞踊作品であれ演劇作品であれ、観客が住まう日常空間とは異なる虚構の物語空間をいかに舞台上に現出させるのか。しかしその物語的空間は、もはや必ずしも従来の大きな「物語」や「筋」を物語るトボスである必要はない。そこに日常性を介入させつつ、日常性を戦略にした、またその日常性を異化効果としてとりこみ、日常の背後に隠れ潜む「非日常」を浮き彫りにする。そのような虚構の物語空間を実際に現出させるための方法と方法論的反省を、絵画や音楽という表現媒体との比較芸術学からこころみたい。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 ここで展開する授業内容の紹介。ダンシングでもなく振付でもなく、演出するとはどういうことか。パフォーマンス・アーツではなくパフォーマンス・アーツを現前させる営為を問う。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第9回 絵画の発表Ⅲ 【到達目標】 実際にみんなの前で発表してもらい、表現媒体に固有の形成法則とは何か、つまり舞踊が表現するのはいったい何かという究極の問題に迫ってみたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第2回 作業手順の確認 【到達目標】 実際に演出するにあたって何が必要か、何をやるのかを、確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第10回 音楽との関係の模索 【到達目標】 視覚的要素によってではなく、今度は聴覚的要素が作品内容をどう規制しました助成するのか。その可能性を模索する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第3回 様々な感情の確認 【到達目標】 感情とはどのようなものがあるのか。感情をどう処理するのか。そして感情はどうやって表現するのか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第11回 歌詞のある音楽の調査Ⅰ 【到達目標】 歌詞のある歌は、音楽固有のメロディやリズムという時間的分節が舞踊の構造を決定するのはない。歌詞の意味が作品を同定してしまう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第4回 テキストの作成 【到達目標】 感情を表現するためのテキストを考える。物語の筋を考えても良いし、情景や雰囲気重視しても良い。意味論的意味内容の諸相を確認すること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第12回 歌詞のある音楽の調査Ⅱ 【到達目標】 どのような音楽が舞踊には適しているのか。そもそも適しているとはどういうことか。音楽に合うことが良い作品の条件なのか。作品に合うとはどういうことか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第5回 テキストのパフォーマンス化 【到達目標】 上記でできたテキストを、それではどうやってパフォーマンスにするのか。具体的な作業手順を想定すること。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第13回 歌詞のある音楽の調査Ⅲ 【到達目標】 音楽を発表してもらって検討していきたい。単純に踊りやすい曲探しは楽しいことだろう。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第6回 visualテキストの探索 【到達目標】 言葉によるテキストではなく、visualな表現媒体によるテキストはどうだろうか。ダンスも見ることによって存立する視覚芸術である。このような作品存立に共通な視点は役に立つのだろうか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第14回 歴史的考察 【到達目標】 舞踊と音楽との関係でコペルニクス的転回をしたのはダンカンの試みである。彼女の舞踊に対する姿勢と考えを、彼女の言説からたどってみたい。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第7回 絵画の発表Ⅰ 【到達目標】 たとえば絵画の静止したフォルムと、ダンスの動くフォルム、つまり時間的経過が加わるダンスはこのフォルムを時間分節のフォルムに適応できないだろうか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				第15回 総括 【到達目標】 テキストとは何か、テキストをパフォーマンスするのが演出であったことを忘れてはならない。そのテキストが物語なのか、絵画なのか、音楽なのか。ダンスを構成する主要要素を確認する。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)			
第8回 絵画の発表Ⅱ 【到達目標】 実際に絵画を選出して、その絵画の持つ内容を確認する。形や色が何を表しているのか。この絵画は物語や筋を表しているのか。その形式の位相がこの絵画の魅力ではないのか。 【授業時間外学習】 講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)				※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。			
【学習上の留意点】							
ダンスを創作することの根本を問う。基本的に予備知識や経験は必要ない。それを誇ることはむしろ弊害である。2年次後期開講の「舞踊分析法演習」と3年次前期開講の「舞踊創作原論」と両方ともに受講することをのぞむ。							
【オンライン授業の場合】							
12月上旬頃まではオンライン・リアルタイムで行うので、受信環境を整えておいてほしい。12月中旬から、対面式で一人一人に作品を発表してもらう。							
【教科書・参考書など】							
授業中に指示する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
出席率と授業中の達成をその都度の発表で求める80%。レポート評価20%。							
【オンライン授業の場合】							
関心・意欲80%評価。それと対面式で発表する作品とレポートの評価が20%。							

科目名	現代の舞踊論		担当者	古泉 佳代・小海 隆樹・沢井 史穂 永野 康治・星川 佳広・牧 琢弥 松澤 慶信・勝川 史憲		
英文名	Dance Theory of Today					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DME302		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【到達目標】						
本講座はダンスを科学的に分析することを目的とする「ダンス・サイエンス」である。本学ではダンス学科が体育学部の中にあるので、ダンス学科の学生も1学年時に必修で専門基礎教育科目として、スポーツ運動学、スポーツ生理学、機能解剖学などを履修する。したがってこの領域の基礎は学んでいるが、それをダンス領域に特化して学ぶ内容とした。さらに下記の講義も加えて、ダンスを美的判断の対象にした芸術学や、教育目標にそって展開する教育学なども違う、ダンスの営為を物象化しデータ化して、科学的な分析を加えて考察する講義内容としたい。それを受講学生が日頃のダンシングする実践に活かしてほしいのは当然だが、この学問領域への関心を持ってさらに探求しようとする学生が輩出することを願うものである。本学が体育大学なので、その領域の教師がダンシングすることを様々な科学的視点から切り込めるのは本学ならではであり、日本では他にない取り組みである。						
【ループリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ダンス・サイエンス序説（松澤）			第9回 ダンスの栄養学Ⅰ（古泉）			
【到達目標】 ダンス・サイエンスを開講する趣旨と意義について確認する。ダンスをサイエンスするとは何か？ダンスを価値判断による美学芸術学からではなく、事実学としての科学から分析することの意味を論じる。 【授業時間外学習】 明確にされた問題について、関連する資料を調べるなどして考察を深めておく。(4.0hr)			【到達目標】 ダンサーとして動ける身体を維持できる体重管理について、3大栄養素の代謝を理解する。1食のエネルギー及び栄養素の摂取方法を、栄養素レベル及び食事レベルで説明できる。 【授業時間外学習】 自らの食事を量と質の考え方で評価し、改善点を考え実践する。(4.0hr)			
第2回 ダンスの運動学（石塚）			第10回 ダンスの栄養学Ⅱ（古泉）			
【到達目標】 ダンスの動きは、学習で得られる形式知に縛られ過ぎないことが、新たな主体の発見や世界を知る契機となる可能性を持つ。環境世界で対峙しながら自ら動こうとする主体は、バトスの世界で苦悩する。これらは、ダンスにもスポーツにも通底すること理解する。 【授業時間外学習】1年次に購入した「教師のための運動学」「12. ダンスの考え方、踊り方」を熟読のこと。(4.0hr)			【到達目標】 練習や発表といったダンサーとしての身体活動と食事のタイミングが、パフォーマンスや身体に与える影響を理解し、パフォーマンスを最大限に発揮したり、体重管理の面から、1日や1年間のスケジュールに適した食事とその食事の摂取タイミングを考えることができる。 【授業時間外学習】 自らのスケジュールと食事内容、摂取タイミングをまとめる。(4.0hr)			
第3回 ダンスと重力（牧）			第11回 ダンスの外傷・障害とリハビリテーションⅠ（永野）			
【到達目標】 ダンスとくにバレエにおいて重力に抗するように見せるテクニックを力学的に利用して、ダンス・テクニックを高める指針としたい。映像を見てダンスする身体の動きを物理的に説明するので、自分の重心や角速度などをコントロールする術を確認してほしい。 【授業時間外学習】 授業内容を、実際に自ら動いて確認する。(4.0hr)			【到達目標】 ダンスに好発する外傷・障害について解説する。外傷・障害のメカニズムや原因とそうなりうる動作について理解し、説明できることを到達目標とする。 【授業時間外学習】 ダンス活動に伴う外傷・障害をまとめ、原因を考察する。(4.0hr)			
第4回 ダンスと技能評価（小海）			第12回 ダンスの外傷・障害とリハビリテーションⅡ（永野）			
【到達目標】 採点競技系種目では、審判員の観察による採点が行われる。観察による評価基準となるのは何か。その評価基準は、果たしてダンスに適用できるのか。できないなら、それは何故なのか。評価基準の本質的違いを探る。 【授業時間外学習】 運動技能の評価と芸術的判断との違いは何かを復習しておくこと。(4.0hr)			【到達目標】 ダンスに好発する外傷・障害のリハビリテーション法について解説する。使用されるリハビリテーションの手法およびその注意点について理解し、説明できることを目指す。 【授業時間外学習】 リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)			
第5回 ダンスの体力トレーニングⅠ（星川）			第13回 ダンスと解剖学Ⅰ：体幹・頸部（勝川）			
【到達目標】 トレーニングの原理やダンスの運動特性を理解したうえで、レジスタンストレーニング、有酸素性トレーニングを実施することができる。各種トレーニングの意味を理解し、ダンスのパフォーマンス向上につなげることができる。 【授業時間外学習】 自身が持っている体力トレーニングについて省察する。(4.0hr)			【到達目標】 身体の構造が、クラシックバレエを中心としたダンス・テクニックにどのように関係するか、機能解剖学の観点から理解する。体幹・頸部の構造を理解することで、安定した動作、障害予防、表現の向上（とくに頸部）をめざす。 【授業時間外学習】 配布資料の文献にあたり、自身の分野のダンスと解剖学的構造の関係を考察する。(4.0hr)			
第6回 ダンスの体力トレーニングⅡ（星川）			第14回 ダンスと解剖学Ⅱ：股関節・下肢・足関節（勝川）			
【到達目標】 形態と体力の発育発達およびその性差についてと、成長にあわせた適切な体力トレーニングの実施法について理解し、ダンスのパフォーマンス向上につなげることができる。 【授業時間外学習】 自身がこれまでに受けてきた練習、トレーニングについて省察する。(4.0hr)			【到達目標】 身体の構造が、クラシックバレエを中心としたダンス・テクニックにどのように関係するか、機能解剖学の観点から理解する。股関節、下肢、足関節の構造を理解することで、テクニックの向上と外傷・障害予防をめざす。 【授業時間外学習】 配布資料の文献にあたり、自身の分野のダンスと解剖学的構造の関係を考察する。(4.0hr)			
第7回 ダンスの生理学Ⅰ（沢井）			第15回 ダンスと解剖学Ⅲ：肩甲骨・上肢（勝川）			
【到達目標】 動きが複雑で変化に富んでいるダンス運動の強度や難易度、筋活動量などを運動生理学的に評価する方法とその意義について学習する。 【授業時間外学習】 提起された課題について、関連する文献や資料を調べて考察を深めておく。(4.0hr)			【到達目標】 身体の構造が、クラシックバレエを中心としたダンス・テクニックにどのように関係するか、機能解剖学の観点から理解する。肩甲骨・上肢の構造を理解することで、構造上無理のない安定した上肢の表現が可能となることをめざす。 【授業時間外学習】 配布資料の文献にあたり、自身の分野のダンスと解剖学的構造の関係を考察する。(4.0hr)			
第8回 ダンスの生理学Ⅱ（沢井）						
【到達目標】 動きが複雑で変化に富んでいるダンス運動の強度や難易度、筋活動量などを運動生理学的に評価したデータに基づいて、対象者特性に合わせた運動プログラムを構成する考え方について学ぶ。 【授業時間外学習】 学習成果を生かして、自身で運動プログラムを構成してみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
基本講義形式だが、講義によっては、体を動かすこともあるので、動ける軽装がのぞましい。						
【オンライン授業の場合】 授業実施方法の詳細（オンデマンドかオンライン）は、都度指示する。						
【教科書・参考書など】 各講義の教員が指示する。						
【成績評価方法】 関心・意欲（80%）、提出するレポートによる評価（20%）。						

科目名	ダンスセラピー論			担当者	八木ありさ		
英文名	Theory and Method of Dance Therapy						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DME303		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】 心理療法の一手法としてのダンス・セラピー（ダンス／ムーブメント・セラピー）を成立させている、ダンスや身体活動と心理学や臨床心理学理論の関係を理解する。ダンス・セラピーの手法として頻繁に用いられるダンスや身体活動の中での心身の経験を批判的・分析的にとらえ、自分自身や対人関係への感じ方の変容のプロセスを体験的に理解する。また、適切な言語化によるフィードバックを可能にするための要点を理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	ダンス・セラピーを支えるダンスや身体活動と心理学・臨床心理学の理論	ダンスや身体活動と心理学・臨床心理学理論の関係を理解し、自らまとめて説明できる。	ダンスや身体活動と心理学・臨床心理学理論の関係を理解し、授業資料を参照しながら説明できる。	ダンスや身体活動と心理学・臨床心理学理論の関係についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。			
	ダンス・セラピーの中で頻繁に用いられるダンスや身体活動、言語化の手法	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴を理解し、自らの心身の変化と関連づけて説明できる。	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴を理解し、資料に基づき説明することができる。	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。			
	ダンス・セラピーの観点からの課題に対応したダンス・身体活動の活用	ダンス・セラピーの観点から課題を見つけ、適切なダンス・身体活動の提案をすることができる。	ダンス・セラピーの観点から提示された課題に対して、具体的なダンス・身体活動の例を資料の中に見つけることができる。	ダンス・セラピーの観点から提示された課題に対して、具体的なダンス・身体活動の例を資料の中に見つけることができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ダンス・セラピーの理論的背景① ダンスセラピーの成立史 【到達目標】 「ダンス・セラピー」の考え方が生まれた経緯を、社会的背景とともに学び、ダンス・セラピーの定義について理解する。 【授業時間外学習】19世紀末～20世紀初頭の欧米文化の発展とモダンダンスの出現の経緯について概観する。(4.0hr)				第9回 絵とダンス 【到達目標】 非言語表現の1つである「絵」をとりあげ、その特性を学ぶと共に、描画に表れるダンス前後の心的変化を体験的に理解する。また、全身を描く実習を通じて、身体感覚と視覚的イメージの関わりを理解する。 【授業時間外学習】 「芸術療法」の種類を調べ、それぞれの特徴を理解する。(4.0hr)			
第2回 模倣の働き 【到達目標】 模倣が交流をもたらす可能性を持つことを理解し、模倣を超えて共通の体験が生み出される瞬間を体得する。 【授業時間外学習】 社会脳あるいはミラーニューロンについて調べ、その働きについて理解する。(4.0hr)				第10回 パーソナリティの仕組みとダンス 【到達目標】 パーソナリティの考え方について学び、「なる」ことを通じて生じる感情の解放を体験的に理解する。 【授業時間外学習】 学校体育の枠組みの中で実践された「仮面のダンス」（資料配布）の目当てと効果を理解する。			
第3回 空間と距離の働き 【到達目標】 私たちが基本的に持っている空間の感覚が集団や社会のなかでどのような働きをするかを学び、「距離感」の働きを理解する。 【授業時間外学習】 エドワード T. ホールによる「プロクセミクス」について調べ、理論を理解する。(4.0hr)				第11回 熱狂的なダンス 【到達目標】 熱狂を生み出す要素を知り、熱狂的なダンスを通じた感情解放の構造を理解する。 【授業時間外学習】 「カタルシス」の概念について調べ、スポーツ、演劇、音楽などとの関わりを理解する。(4.0hr)			
第4回 運動の質を捉える① 【到達目標】 基本科目で学んできたラバンの運動理論を参考に、動きの外観と内観について比較し、多様な運動質を反映できるようにする。また、これらの運動質が特定のイメージと結びつくことを理解する。 【授業時間外学習】1年次必修講義「舞踊学原論」で学んだドルフ・フォン・ラバンの運動理論「エフォートシステム」について改めて調べ、その構造を理解する。(4.0hr)				第12回 民族舞踊の機能 【到達目標】 文化ごとに育まれた舞踊の違い、人間文化と舞踊の関わりについて理解を深める。隊形やリズムがもたらす気分の違いを体験的に理解する。 【授業時間外学習】 「感情」の成り立ちを調べ、多様な感情の種類と生活上の問題とを結びつけて理解する。(4.0hr)			
第5回 運動の質を捉える② 【到達目標】 身体各部の持つ機能や動きの特性と生命体としての合理、そうした身体部位にもたらされているイメージとの関連について学び、身体表現の多義性を理解する。 【授業時間外学習】 人体の構造（解剖学）を復習し、主要各部の機能を理解する。(4.0hr)				第13回 ダンス・セラピーの理論的背景③ コミュニケーション論の基礎 【到達目標】 対面コミュニケーションの構造を、場面や情報の種類を中心に理解する。コミュニケーションに影響を与える可能性のある知覚と認識の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 非言語コミュニケーションのチャンネルをリストアップし、それぞれの特徴を概観する。(4.0hr)			
第6回 系統発生・個体発生と身体の動き 【到達目標】 身体の成り立ちを系統発生と個体発生の両面から捉え、身体各部の持つ機能や動きの特性と身体表現の関わりを理解する。 【授業時間外学習】 人体の構造（解剖学）を復習し、主要各部の機能を理解する。(4.0hr)				第14回 ダンスセラピーと言語 【到達目標】 マイクロ・カウンセリングの理論をもとに、これまで学んできたDTの仕組みと技術を理解する。非言語的活動を支える言語の役割を学ぶ。また、適切な言葉がけの要点を理解する。 【授業時間外学習】 「マイクロ・カウンセリング」について調べ、構造を知る。(4.0hr)			
第7回 身体（の動き）の象徴性 【到達目標】 身体各部の持つ機能や動きの特性と生命体としての合理、そうした身体各部や部位同士の関係に対して育まれてきた一般的なイメージについて学び、身体表現の多義性を理解する。 【授業時間外学習】 「象徴」の仕組みと機能について理解し、発育発達との関わりを理解する。(4.0hr)				第15回 ダンス・セラピーの可能性と限界 【到達目標】 授業全体を振り返り、ダンス・セラピーが効果を発揮するのはどのような場合か、また避けることとなるらどのような場合かを説明できる。授業で学んだDTの考え方や技術が、実際の場面でどのように機能するか体験的に理解する。 【授業時間外学習】 15回の授業全体を振り返り、各自の理解の程度と学習内容に関する疑問点を整理する。(4.0hr)			
第8回 ダンス・セラピーの理論的背景④ ダンスがもたらす心理的効果 【到達目標】 ダンスを通じて得られる心理的効果についての先行研究を外観し、ダンス・セラピーの効果や、授業での体験と関係づけて理解する。また、心理的効果の測定方法について理解する。 【授業時間外学習】 「自己概念」の概念について調べ、自己有効感や自尊感情の機能を理解する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 対面形式の授業形態を基本とし、第1、8、13回に予定される内容についてはオンライン（オンデマンド）形式の授業を実施する。ダンス学科事業との関係で、授業回と内容の関係が前後することがある。オンライン授業で配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と講義ガイドPDFである。配信は対面授業実施予定日の9:00から5日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上に掲載する。オンライン（オンデマンド）形式の場合の出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。 対面形式授業の回では講義と体験学習を併せて行なうので、動きやすい服装で臨むこと。授業の趣旨はダンス・セラピーの理論と方法論を理解することであって「セラピー」そのものの実践ではない。しかし、演習の中では自分や他の参加者の内面に触れる場面もあるので、その時々々の思いや体験を互いに大切にできるよう、誠意を持って取り組んでほしい。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求め、提出内容にコメントを加えて返却する。 社会的状況に伴って授業形態が変化した場合でも、授業内容は大幅には変更しない。また、状況に応じて単元の進行が前後することがある。 なお、この科目は日本ダンス・セラピー協会認定「ダンスセラピー・リーダー」の資格取得を目指す学生には必修科目である。							
【教科書・参考書など】 対面授業の回には、適宜、印刷資料を配布する。							
【成績評価方法】 授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（70%）と、第15回授業時間外学習で課する個人レポートの得点（30%）を併せて成績評価する。							

科目名	マルチメディア・パフォーマンス			担当者	高野美和子		
英文名	Multimedia Performance						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME304	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧		
【到達目標】							
マルチメディア・パフォーマンスは、音や映像など様々なメディアとともに上演されている。この授業では、様々なメディア（主に映像や音）の特徴や効果およびPCによる編集、加工処理方法を学び、どのようにそれらをダンスのなかに取り込むことができるのか、その可能性を探りつつ、マルチメディア・パフォーマンスが成立していく過程を、実践を通じて学んでいく。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
映像編集の技術		表現したい映像を創る技術が十分ある		表現したい映像を創る技術がある		表現したい映像を創る技術が不十分	
映像、音響、照明、ダンスを融合させた創作		映像・照明・ダンスを融合させた創作が十分できる		映像・照明・ダンスを融合させた創作ができる		映像・照明・ダンスを融合させた創作が不十分	
マルチメディア・パフォーマンスの上演		計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演ができる		計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演にチャレンジしている		計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演できていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション（マルチメディア・パフォーマンスとは）				第9回 グループ別による映像、音、振付制作活動③			
【到達目標】 過去の作品を観ながら、マルチメディア・パフォーマンスの概要と背景、授業でとりあげる内容について理解する。				【到達目標】 8回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。			
【授業時間外学習】 授業の要点をまとめ、第5回に提出する映像作品のアウトラインを考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 グループ制作を行う。(4.0hr)			
第2回 ビデオ撮影、映像編集の方法				第10回 グループ別による映像、音、振付制作活動④			
【到達目標】 映像作品制作のためのビデオ撮影およびPCによる映像編集の方法を理解する。				【到達目標】 9回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。			
【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 グループ制作を行う。(4.0hr)			
第3回 ビデオ撮影、映像編集の方法と実践				第11回 グループ別による映像、音、振付制作活動⑤			
【到達目標】 2回目に引き続き映像撮影編集の方法を実践を通じて理解する。				【到達目標】 作品の中の各メディアのバランスを調整しながら、作品全体をまとめ上げることができる。			
【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を練る。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表に向けた照明、音響、映像、振付等の調整を行う。(4.0hr)			
第4回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作）				第12回 発表スペースでのグループ作品制作①			
【到達目標】 映像編集と並行して、録音、音編集の方法を学び、短い映像作品を制作する。				【到達目標】 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。			
【授業時間外学習】 授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の手直しを行う。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表用の各メディアの準備を進める。(4.0hr)			
第5回 映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作、提出）				第13回 発表スペースでのグループ作品制作②			
【到達目標】 映像、音編集の実践を通じて制作した映像作品を提出する。				【到達目標】 発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。			
【授業時間外学習】 第6回のグループ制作の構想を考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表作品の練習を行う。(4.0hr)			
第6回 グループ別によるコンセプト、テーマの話し合い				第14回 発表スペースでのグループ作品制作・準備			
【到達目標】 グループ毎にマルチメディア・パフォーマンス作品のコンセプトやテーマについて話し合い、グループ作品の方向性を理解、説明できる。				【到達目標】 次週のグループ作品発表に向けて、機材・片づけも含め、協力しながら作品リハーサルを実践できる。			
【授業時間外学習】 グループ制作に必要な材料を準備する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 発表作品の練習を行う。(4.0hr)			
第7回 グループ別による映像、音、振付制作活動①				第15回 グループ作品発表、感想、講評			
【到達目標】 グループ作品のコンセプトに沿って、映像、音、照明、振付等のプランを立て、役割分担しながら、計画的に制作を進める。				【到達目標】 グループ作品を発表するとともに、各グループの発表を鑑賞し、作品について振り返り、合評しあうことができる。			
【授業時間外学習】 グループ制作で担当する作業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 グループ発表の振り返りと他グループの感想をまとめる。(4.0hr)			
第8回 グループ別による映像、音、振付制作活動②							
【到達目標】 7回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。							
【授業時間外学習】 グループ制作を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 全授業を対面で行う。短い時間の中で多くの機材を使用しながら授業をしていくため、機材の取り扱いをきちんとしながら、計画的に毎時間の課題を進めていくことが求められる。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 個々の映像作品およびグループ作品の達成度を80%、各メディア機材の使用法理解度を20%の割合として評価する。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科目名	レパートリー研究			担当者	石川 浩子		
英文名	Repertory Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3				専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
ジャズダンスは年々、海外アーティストやメディア等が生む流行の影響などもあり、従来のバレエのテクニックを取り入れた、俗にシアター系と言われるオーソドックスなスタイルだけでなく、ヒップホップ等のストリート系を取り入れたものや、ミュージカル風のものなど、多様なスタイルが生まれ、形にとらわれずに個性豊かに表現できるダンスとして進化し続けている。学生には、自信が研究したいジャズダンスのスタイルを選び、研究し、ジャズダンスへの理解をより深めることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ジャズダンス歴史		理解し、自ら説明できる		理解しているが説明できない		理解できていない	
作品創作		選択したスタイルで100%作品創作ができています		選択したスタイルを50%以下しか表現できていない		選択したスタイルから外れて創作する	
作品研究		選択したスタイルの作品について自ら説明できる		選択したスタイルの作品について資料をみながら説明できる		選択したスタイルの理解が不十分で、説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 授業の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 自分が知っている限りのジャズダンスの種類を調べてくる。(4.0hr)				第9回 創作④ 【到達目標】 各グループごとに、作品を創作する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)			
第2回 多様化したジャズダンスの研究 【到達目標】 現在のジャズダンスの種類を話し合い、自分が研究したジャズダンスのスタイルを考える。 【授業時間外学習】 次回研究することを決めてくる。(4.0hr)				第10回 創作⑤ 【到達目標】 各グループごとに、作品を創作する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)			
第3回 研究グループ（ジャズダンスのスタイル）の決定 【到達目標】 研究するグループを決め、また、各グループで研究したいジャズダンスのスタイルを決めて話し合う。 【授業時間外学習】 研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)				第11回 作品中間発表 【到達目標】 各グループの作品を発表、全員で合評する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)			
第4回 研究① 【到達目標】 自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて、各グループで話し合い、レポートにまとめる。 【授業時間外学習】 研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)				第12回 作品創作⑥ 【到達目標】 各グループごとに、作品を創作する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)			
第5回 研究② 【到達目標】 前回に続き、自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて各グループで話し合い、レポートにまとめる。 【授業時間外学習】 研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)				第13回 作品創作⑦ 【到達目標】 各グループごとに、作品を創作する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)			
第6回 創作① 【到達目標】 各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などについて話し合う。 【授業時間外学習】 使用したい曲を探してくる。(4.0hr)				第14回 作品創作発表（評価対象とする） 【到達目標】 最終練習後、発表し、全員で合評する。 【授業時間外学習】 創作した作品のレポート提出のための資料をそろえる。(4.0hr)			
第7回 創作② 【到達目標】 各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などを決定する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)				第15回 最終確認 レポート作成 【到達目標】 選んだジャズダンスのスタイルと作品創作について、各グループで話し合い、最後にレポートにまとめる。 【授業時間外学習】 創作した作品のレポートをまとめる。(4.0hr)			
第8回 創作③ 【到達目標】 各グループごとに、作品を創作する。 【授業時間外学習】 創作する作品について研究する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】（コロナウイルス感染拡大による授業携帯変更の場合のみ） オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。 オンライン方式での授業参加のみ、授業終了後から次の授業前までにレポート（授業内容）を提出する。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 基本的に対面授業のみ行う。 【対面授業の場合】 出席、授業への取り組み方40%、レポート20%、作品発表40%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】（コロナウイルス感染拡大による授業携帯変更の場合のみ） 出席、授業への取り組み方(画面での授業参加) 40%、レポート20%、作品発表40%の割合で総合的に評価する。							

科目名	レパトリー研究			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Repertory Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
舞踊の歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実際に振り起しをし、踊ることにより実践的に学ぶ。また文献や動画鑑賞によって作品や技術の研究、分析を行い、コンテンポラリーダンス作品に対する技術、振付、歴史的背景などについて総合的に理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	選択作品の理解とプレゼンテーション	選択した作品、振付家について、その背景について充分理解し、自分の解釈を加えて説明できる	選択した作品、振付家について、その背景について充分理解し、説明できる	選択作品についての学習、理解が不足し、説明できない			
	選択作品の実践でのプレゼンテーション	選択作品、振付家について理解し、技術や表現の特性を完全にプレゼンテーションできる。	選択作品、振付家について理解し、技術や表現の特性を概ねプレゼンテーションできる。	選択作品、振付家について理解が不足し、技術や表現の特性を実技として示すことが難しい。			
	レパトリーを上演することに関しての理解	著作権等の作品創作や上演に必要な事象について理解を深め、自分にあてはめて考えられる。	著作権や版権等、作品創作や上演に必要な様々な事象があることを認識、理解できる	著作権や版権等、作品創作や上演に必要な様々な事象があることを認識、理解できない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション				第9回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-④			
【到達目標】 レパトリー作品という概念及び授業の進行について理解する。				【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。			
【授業時間外学習】過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第2回 コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-①				第10回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑤			
【到達目標】 モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。				【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。			
【授業時間外学習】過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第3回 コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-②				第11回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑥			
【到達目標】 モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。				【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行い、オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。			
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第4回 ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-①				第12回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑦			
【到達目標】 文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。				【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。			
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第5回 ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-②				第13回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑧			
【到達目標】 文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。				【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。 選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。			
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第6回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-①				第14回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑨			
【到達目標】 学びたい作品を選択する。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。				【到達目標】 作品の分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。 前回の発表から得たフィードバックをもとに、作品の振り起こし、分析の精度を高める。			
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)			
第7回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-②				第15回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-⑩			
【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。				【到達目標】 選択した作品の特徴を身体的、論理的に理解し、表現できるようにする。 グループごとに、選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各レパトリー作品の特徴について分析し、理解を深める。			
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)				【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う(4.0hr)			
第8回 著名な振付家のレパトリー作品を学ぶ 3-③							
【到達目標】 選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。 ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパトリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。							
【授業時間外学習】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 国内外の著名な振付家のレパトリー作品を学ぶことを通して、振りを覚えるだけでなく、その背景となっている作家の思想等にも目をむけて、より深くレパトリーを研究する。本授業は作品分析、振り起こし等、授業時間外での個々の復習や研究作業が必要である。							
【オンライン授業の場合】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況により、オンデマンドとライブ形式を組み合わせたオンライン形式で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 「コンテンポラリーダンス徹底ガイド」乗越たかお著（作品社） 「ダンス・バイブル」乗越たかお著（河出書房出版社） 「ダンスは冒険である」石井達朗著（論創社）など							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科目名	レパートリー研究			担当者	渡辺 碧		
英文名	Repertory Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3				専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連		⑥⑦⑧
【到達目標】							
<p>チャイコフスキー三大バレエの一つであり、クラシックバレエの代表作品でもある、『白鳥の湖』を取り上げる。本授業では、世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の中から、マリウス・ブティバ版、ウラジミール・ブルメイステル版、ユーリ・グリゴロヴィチ版を扱う。各版のメソッドや振付・演出などを、文献と映像を元に分析し比較することで、それぞれの作品の真髄を追求することを目的とする。グループワークで研究を行うことにより、共同研究の方法・在り方を学び、コミュニケーション能力を高める。また口頭発表およびプレゼンテーション（以下、プレゼンとする）の能力をつけることをねらいとする。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
リサーチおよびプレゼン能力		文献などによる事前リサーチを行い、パワーポイントなどを用いて効果的にプレゼンが出来る。		文献などによる事前リサーチを行い、プレゼンが出来る。		文献などによる事前リサーチを行うが、プレゼンが上手く出来ない。	
グループワーク		仲間と協力して、計画性をもって、計画通りにグループワークを遂行出来る。		仲間と協力して、グループワークを遂行出来る。		仲間と協力することが出来ず、グループワークが出来ない。	
作品分析		事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析でき、自らの考えを発表出来る。		事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析できる。		事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析することができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 この授業の目的を理解する。各版を理解し、グループ分けをする。今後の予定の確認し、計画を立てる。 【授業時間外学習】 世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の種類を調べる。(4.0hr)				第9回 マリウス・ブティバ版第2幕、隊形分析と発表 【到達目標】 マリウス・ブティバ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第10回の発表の準備をする。(4.0hr)			
第2回 『白鳥の湖』の歴史 【到達目標】 バレエの歴史において、『白鳥の湖』の位置づけを理解出来る。どのようにして『白鳥の湖』が生まれたのかを理解する。 【授業時間外学習】 バレエの歴史を再度学び、復習する。第3回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)				第10回 ウラジミール・ブルメイステル版第2幕、隊形分析と発表 【到達目標】 ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第11回の発表の準備をする。(4.0hr)			
第3回 マリウス・ブティバについて 【到達目標】 振付家マリウス・ブティバについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 マリウス・ブティバが活躍した当時のバレエ史を復習する。第4回の準備をする。(4.0hr)				第11回 ユーリ・グリゴロヴィチ版第2幕、隊形分析と発表 【到達目標】 ユーリ・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第12回の発表の準備をする。(4.0hr)			
第4回 ウラジミール・ブルメイステルについて 【到達目標】 振付家ウラジミール・ブルメイステルについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 ウラジミール・ブルメイステルが活躍した当時のバレエ史を復習する。第5回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)				第12回 マリウス・ブティバ版第4幕、隊形分析と発表 【到達目標】 マリウス・ブティバ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第13回の発表の準備をする。(4.0hr)			
第5回 ユーリ・グリゴロヴィチについて 【到達目標】 振付家ユーリ・グリゴロヴィチについて理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 ユーリ・グリゴロヴィチが活躍した当時のバレエ史を復習する。第6回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)				第13回 ウラジミール・ブルメイステル版第4幕、隊形分析と発表 【到達目標】 ウラジミール・ブルメイステル版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 第14回の発表の準備をする。(4.0hr)			
第6回 マリウス・ブティバ版のストーリーと演出 【到達目標】 マリウス・ブティバ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第7回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)				第14回 ユーリ・グリゴロヴィチ版第4幕、隊形分析と発表 【到達目標】 ユーリ・グリゴロヴィチ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。 【授業時間外学習】 これまでの各版の『白鳥の湖』を振り返り、まとめる。(4.0hr)			
第7回 ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出 【到達目標】 ウラジミール・ブルメイステル版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第8回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)				第15回 他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞・考察 【到達目標】 各版の『白鳥の湖』の特徴を考察、比較し説明することが出来る。また他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞し、作品の奥深さを理解する。 【授業時間外学習】 15回の授業を振り返り、授業の反省・感想をまとめる。(4.0hr)			
第8回 ユーリ・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出 【到達目標】 ユーリ・グリゴロヴィチ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。 【授業時間外学習】 第9回の発表の準備をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
<p>授業形態は対面授業を基本とする。この演習はグループワークが主であり、資料作成・プレゼンの準備などを受講者が積極的に協力して、全員で行えるようにする事。プレゼンの際には、資料作成、映像上映、パワーポイントの使用、板書などを駆使し、受講者の理解度を高められるよう努める。毎回の資料や、プレゼンの内容が事前に準備されていないと授業が進行しないという事を受講者全員が理解し、与えられた課題に責任を持って取り組むこと。作品模倣は、DVDに登場する出演人数よりも縮小版に作り替えて発表するため、事前準備を徹底して行い、発表当日は衣装を着て行ってもよい。身だしなみはきちんとすること。毎回、リアクションペーパーを記入し、各版との比較を行う。プレゼン内容、リアクションペーパーについては、適宜、解説ならびにフィードバックを行う。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。</p>							
【教科書・参考書など】							
適宜、参考資料を配付する。 「永遠の白鳥の湖」（森田 稔／新書館） 「踊る世紀」（鈴木 晶／新書館）							
【成績評価方法】							
授業における課題達成度、リアクションペーパー、学習意欲・関心・積極性など60%、レポート40%を総合的に評価します。オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）		担当者	玉田光子		
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for Instructors and Adults)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME213		卒業認定方針との関連	⑦
【到達目標】						
舞踊指導の意義と目的を理解する。指導において必要とされるスキルを学び、指導体験をすることで実践的に指導方法を習得する。さらに舞踊家と一般成人の指導時の違いや留意点を理解することで、対象者に向けた指導方法を考察する。履修者は舞踊指導者として求められるスキルを理解すると共に、模擬レッスンを通じて具体的に舞踊指導を演習し、実践に役立てることができる。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	舞踊指導の基礎的知見について	基礎的事項を理解し、自ら指導実践ができる。	基礎的事項を資料を参照しながら指導実践ができる。	理解が不十分で実践できない。		
	舞踊家と一般成人の指導の違いに関する事項	舞踊家と一般成人の指導の違いを理解し、自ら指導実践ができる。	舞踊家と一般成人の指導の違いを資料を参照しながら指導実践ができる。	違いの理解が不十分で実践できない。		
	舞踊指導の実践	自ら指導内容を考え実践することができる。	提示された指導内容を実践することができる。	指導実践をすることができない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 指導者として求められるスキル			第9回 舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（一般成人）			
【到達目標】 舞踊指導者として求められるスキルを理解し、本授業における目的を明確にする。			【到達目標】 舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学ぶ。一般成人を対象としたインプロヴィゼーションの指導内容を自ら考え、指導実践する。			
【授業時間外学習】 自分自身が舞踊指導をされた経験を振り返り、舞踊とは何を教えるものかを考察する(4.0hr)			【授業時間外学習】 一般成人を対象とした創作活動及びインプロヴィゼーションのヴァリエーション研究する。(4.0hr)			
第2回 ウォーミングアップとクールダウン			第10回 舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（舞踊家）			
【到達目標】 ウォーミングアップとクールダウンの必要性を学ぶ。レッスンに取り入れる効果的な方法を理解し、指導実践する。			【到達目標】 舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学ぶ。舞踊家を対象としたインプロヴィゼーションの指導内容を自ら考え、指導実践する。			
【授業時間外学習】 ウォーミングアップとクールダウンの効果を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 舞踊家を対象とした創作活動及びインプロヴィゼーションのヴァリエーション研究する。(4.0hr)			
第3回 基礎的な動きの指導（一般成人）			第11回 グループ演習とディスカッション			
【到達目標】 一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学ぶ。一般成人を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。			【到達目標】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)			
第4回 基礎的な動きの指導（舞踊家）			第12回 グループ演習とディスカッション			
【到達目標】 舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学ぶ。舞踊家を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。			【到達目標】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)			
第5回 テクニックの指導（一般成人）			第13回 グループ演習とディスカッション			
【到達目標】 舞踊テクニクに必要な身体の動きを的確に指導する方法を学ぶ。一般成人を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。			【到達目標】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 一般成人のための舞踊のテクニクを研究する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)			
第6回 テクニックの指導（舞踊家）			第14回 グループ演習とディスカッション			
【到達目標】 舞踊テクニクに必要な身体の動きを的確に指導する方法を学ぶ。舞踊家を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。			【到達目標】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 舞踊家のための舞踊のテクニクを研究する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)			
第7回 コンビネーションの指導（一般成人）			第15回 グループ演習とディスカッション			
【到達目標】 コンビネーションを創作し、一般成人を対象にした際の振付の伝え方や指導方法を学ぶ。一般成人を対象としたコンビネーションを自ら考え、指導実践する。			【到達目標】 4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、指導グループと受講者として、ディスカッションをする。			
【授業時間外学習】 一般成人のためのコンビネーションを研究する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)			
第8回 コンビネーションの指導（舞踊家）						
【到達目標】 コンビネーションを創作し、舞踊家を対象にした際の振付の伝え方や指導方法を学ぶ。舞踊家を対象としたコンビネーションを自ら考え、指導実践する。						
【授業時間外学習】 舞踊家のためのコンビネーションを研究する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 各授業においてテーマに即した指導方法を例示した後、グループに分かれて演習を行う。実践を通じて舞踊方法を習得していく為、積極的な授業参加を望む。テーマごとに、指導法における気づきや実践を通じて学んだことを小レポートにて提出することで、理解度を確認する。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は概ね変更しない。授業時間は時間割通りの曜日・時間に実施する。出席の確認は授業開始時、冒頭に行う。						
【教科書・参考書など】						
特に使用しない。必要に応じて資料は配布する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 各授業の演習での指導実技の評価60%、レポート40%。						
【オンライン授業の場合】 授業毎に提出する小レポート50%、各授業毎の総合評価30%、授業における課題に対する理解度・積極性・意欲を総合的に評価する。						

科目名	創作Ⅱ			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Choreography Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME306	卒業認定方針との関連	⑥		
【到達目標】							
舞踊作品の創作に必要な様々な手法についての知識を得るとともに、オリジナリティのある固有のダンス語彙を生み出していく方法について、ソロ、デュオ、グループ作品について実践的に学ぶ。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	創作に必要な手法の理解(運動的アプローチ)	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法を理解し、自由に利用できる	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法を理解し、利用できる	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法の理解が不足し、利用できない			
	創作に必要な手法の理解(テーマ、音楽から)	テーマや音の構造の理解が不足し、場面創造や動きの発見が困難	テーマや音の構造を理解し、場面創造や動きの発見をし、作品創作ができる	テーマに沿った場面創造や動きの発見、掘り下げが困難			
	自由創作（総合的な創作力）	ダンスの創作に必要な要素を総合的に理解し、設定に応じた独創性のある創作ができる	ダンスの創作に必要な要素を総合的に理解し、創作することができる	ダンスの創作に必要な要素の総合的な理解が不足し、創作が困難			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業進行についてのオリエンテーション				第9回 テーマからの創作法 -絵からのアプローチ②			
【到達目標】 舞踊作品の創作についての概念を学び、今後の授業の進行について理解する。				【到達目標】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第2回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの理解				第10回 テーマからの創作法 -音楽からのアプローチ①			
【到達目標】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解する。ネガティブスペース、ポジティブスペースの考え方について理解し、短いフレーズを題材に創作を行う。				【到達目標】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第3回 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用				第11回 テーマからの創作法 -音楽からのアプローチ②			
【到達目標】 ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用方法について学ぶ。ネガティブスペース、ポジティブスペースの応用について、パートナーがいる状態とない状態の差異等を学ぶ。				【到達目標】 音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第4回 9ポイントの理解と応用				第12回 自由創作①			
【到達目標】 9ポイントの考え方とその応用方法について理解する。ラバンの9ポイントの考え方を理解し、基本となる短いフレーズを創作し、基本フレーズをもとに、ダイナミクス、空間の変化を加え、その応用方法について学ぶ。				【到達目標】 テーマの設定と具体的なアプローチの決定を行う。これまで授業で扱ってきた様々な手法をもとに、グループごとでテーマを設定し、作品への具体的なアプローチの仕方を決める。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第5回 トランスフォーメーションの理解と応用				第13回 自由創作②			
【到達目標】 トランスフォーメーションの考え方を理解する。短いフレーズをもとに、体軸、空間、体の部位を変化させることによりフレーズの応用の可能性を探る。				【到達目標】 ラフスケッチからより具体的な作品に立ち上げる。前回設定したテーマやアプローチの仕方をもとに創作を進める。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第6回 テーマからの創作法 -言葉からのアプローチ①				第14回 自由創作③ -推敲と踊りこみ-			
【到達目標】 言葉を場面創造に置き換える手法について学ぶ。詩をもとに、そこから得たインスピレーションをインスタントコンポジションの手法を用い、作品の場面創造に利用する方法について学ぶ。				【到達目標】 完成度を高める。作品を推敲し、踊りこみを行い完成度を高める。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第7回 テーマからの創作法 -言葉からのアプローチ②				第15回 自由創作 -発表と総括-			
【到達目標】 言葉を動きの語彙の創出に生かす手法について学ぶ。詩をもとに短いソロを創作する。言葉からのインスピレーションを個の動きのボキャブラリーに利用する方法について学ぶ。				【到達目標】 作品を発表レベルにまで高める。グループごとに作品の実演発表を行い、作品の立ち上げ→創作(作品化)→発表を経験し、舞踊作品の創作について総合的に理解を深める。			
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)			
第8回 テーマからの創作法 -絵からのアプローチ①							
【到達目標】 絵をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。静止画をもとに、その絵がもつテーマ、特徴を読み取り、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。							
【授業時間外学習】 創作法についての理解を文献等で深める(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業の内容は個やグループによる創作活動が主になるため、自己の体調、スケジュール管理をしっかり行い、主体的に取り組む姿勢が求められる。							
【オンライン形式】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況により、オンデマンドとライブ形式を組み合わせたオンライン形式で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。資料として技能や知識に関する動画及び参考資料を配信する。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhol1yへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 授業中に参考資料を配布。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時にまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科目名	テクニック&レパートリー			担当者	中村 恩 恵		
英文名	Technique & Repertory						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DME307	卒業認定方針との関連	⑥		
【到達目標】 現在、最も注目されている内外のアーティストの振付作品を実際に学ぶ。単に踊るだけでなく、振付が行われる過程、作品のコンセプト、意図などについて、振付家本人から直接学び、また、踊る側のダンサーとして、これらをさらに掘り下げる作業を通して、よりプロフェッショナルな世界に触れることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
作品理解を深める		作品を深く理解し、高い質で再現できる。		作品を理解し、正しく再現することができる。		作品理解に至らず、作品を正しく再現することができない。	
作品を実演するための技術を身につける		作品を実演するための高い技術を身につけている		作品を実演するための技術を身につけている		技術不足で、作品を実演することができない	
プロフェッショナルな世界で求められるパフォーマーとしての振る舞いを理解する		パフォーマーとして、自立的に振る舞うことができる。		講師のリードのもと、パフォーマーとしてふさわしく振る舞うことができる		プロフェッショナルな世界で求められるパフォーマーとしての振る舞いを理解することができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業の進め方を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第9回 作品理解と表現の深化2 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第2回 技術習得実技1 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第10回 作品理解と表現の深化3 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第3回 技術習得実技2 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第11回 作品理解と表現の深化4 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第4回 技術習得実技3 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第12回 作品理解と表現の深化5 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第5回 技術習得実技4 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第13回 作品理解と表現の深化6 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第6回 技術習得実技5 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第14回 作品理解と表現の深化7 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第7回 技術習得実技6 【 到達目標 】 実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				第15回 課題作品の実演 【 到達目標 】 学んできたことを総合的に理解し課題作品の実演に繋げる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第8回 作品理解と表現の深化1 【 到達目標 】 作品の背景について理解し、表現を深める。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 内容の詳細については授業中に指示する。 【オンライン授業の場合】 形式（オンデマンド方式またはリアルタイム方式）の内容や詳細については授業開始前に指示する。課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求めることがある。							
【教科書・参考書など】 その都度指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 作品の理解度50%、実技の技術面を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 課題に基づく動画並びに学習報告書の提出を求める。報告書を50%、動画による実技評価を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	スペイン舞踊			担当者	東陽子		
英文名	Spanish Dance						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DME103		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】 フラメンコ特有の変拍子と音楽との一体感を習得し、舞踊表現に発展させる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
フラメンコのリズム(コンパス)の理解		サバテアード(足)、バルマ(手拍子)でノリをつかんでコンパス正確に奏でられる		サバテアード(足)、バルマ(手拍子)でコンパスをつなげられる		サバテアード(足)、バルマ(手拍子)でコンパスをつなげられない	
他のダンスとの相違点を理解		身体と言葉で伝えられる		言葉で伝えられる		パソ（ステップ）しか理解していない	
音楽との関係性への理解		振り付けを通して音楽との一体感が感じられる踊りである		振り付けの重要なポイントは表現出来ている		振り付けの理解が曖昧	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 コンパス(リズム)の習得① 【到達目標】 サバテアード(足)の種類を知り、コンパス(リズム)を打つ。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)				第9回 振付け④ 【到達目標】 パソ（ステップ）特徴を理解して踊る。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第2回 コンパス(リズム)の習得② 【到達目標】 バルマ(手拍子)でコンパス(リズム)を打つ。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)				第10回 振付け⑤ 【到達目標】 カンテ（歌）、ギターのリズム（リズム）を理解する。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第3回 身体の使い方の習得① 【到達目標】 ブラソ(腕)、マノ(手)の動きを習得する。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)				第11回 振付け⑥ 【到達目標】 カンテ（歌）、ギターのノリをつかんで踊る。 【授業時間外学習】 課題曲を聴く。(1.0hr)			
第4回 身体の使い方の習得② 【到達目標】 サバテアード（足）にブラソ(腕)、マノ(手)の動きをのせる。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)				第12回 振付け⑦ 【到達目標】 流れに意識を持つ事ができるようにする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第5回 身体の使い方の習得③ 【到達目標】 重心の重さを身につける。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴く。(1.0hr)				第13回 振付け⑧ 【到達目標】 振付けを明確にする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第6回 振付け① 【到達目標】 バルマ(手拍子)、ハレオ(掛声)にのって踊り合う。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)				第14回 振付け⑨ 【到達目標】 自身の一曲にする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第7回 振付け② 【到達目標】 コンパス(リズム)を全身で表現する。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)				第15回 一曲を完成 【到達目標】 一人で表現できるようにする。 【授業時間外学習】 課題曲を聴き、コンパス(リズム)の流れをつかむ。(1.0hr)			
第8回 振付け③ 【到達目標】 テンポを変えてリズム感良く踊る。 【授業時間外学習】 フラメンコ音楽を聴き、コンパス(リズム)を明確に感じる。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面・オンライン授業共通】 授業内で提示される重要ポイントを理解し、自身の身体で表現できるように深める。授業内での講師のデモンストレーション後に各自同じポイントを表現してもらい解説によるフィードバックを行う為、意欲的に授業に出席し授業最終日の実技試験につなげる。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 フラメンコの理解度：60%、振付けの完成度：40% 【オンライン授業の場合】 フラメンコの理解度70%、振付けの完成度：30%							

科目名	日本舞踊		担当者	西川 箕乃助		
英文名	Nihonbuyo (Japanese Classical Dance)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME104		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】						
まず最初に着物（浴衣でも可）の正しい着方、お辞儀の他、和装の時の正しい立ち居振る舞いを身につけたい。その後、日本舞踊の歩き方、扇の扱い方などの基本動作を習得した上で、女踊り「潮来出島」「藤娘」の踊り地、男踊り「雨の五郎」の踊り地、「玉や」の踊り地を習得する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
振付技能の修得		振付をしっかり身に付け、日本舞踊独特な腰を入れた動きになっていること		振付をしっかり身に付けていること		振付を身に付けていない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 日本舞踊の基本動作、立ち居振る舞いの説明と実践 【到達目標】 日本舞踊の基本動作と立ち居振る舞いについて理解し、習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第9回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第2回 女踊り「潮来出島」の振りの習得 【到達目標】 女踊り「潮来出島」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第10回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第3回 女踊り「潮来出島」の振りの習得 【到達目標】 女踊り「潮来出島」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第11回 「藤娘」の習熟度チェックのための実技発表 【到達目標】 「藤娘」の実技発表を通して習熟度を確認し、「藤娘」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第4回 「潮来出島」の習熟度チェックのための実技発表 【到達目標】 「潮来出島」の実技発表を通して習熟度を確認し、「潮来出島」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第12回 男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第5回 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第13回 男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第6回 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第14回 「玉や」のび習熟度チェックのための実技発表 【到達目標】 「玉や」の実技発表を通して習熟度を確認し、「玉や」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第7回 「雨の五郎」の習熟度チェックのための実技発表 【到達目標】 「雨の五郎」の実技発表を通して習熟度を確認し、「雨の五郎」の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			第15回 日本舞踊と洋舞の比較を討議 【到達目標】 授業で学んだ日本舞踊について理解することができる。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)			
第8回 女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得 【到達目標】 女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。 【授業時間外学習】 授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 ・受講の際は必ず着物（浴衣でも可）を着ること。時計、指輪、ネックレスなどの貴金属の着用は不可。 ・授業に出席することが大前提である。 【オンライン授業の場合】 映像を通してこちらの肉体的表現を真似ることは難しいと思いますが、出来る限り細部に拘り真似てみてください。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。 【オンライン授業の場合】 こちらが送った映像を見て動きを会得して映像を送り返してください。それを出席とします。						

科目名	学校教育ダンス			担当者	宮本乙女		
英文名	Dance Teaching Method in School						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		専門・選択				
授業形態	実技	科目ナンバー	DME214	卒業認定方針との関連		⑦⑧	
【到達目標】 学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
学校体育におけるダンスの内容についての理解		理論を理解し、自らまとめて説明できる。		学習指導要領や参考書に基づいて説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
学校体育におけるダンスの指導計画		学習した知見を生かし、自分自身の特性を生かしたダンスの指導計画を作成できる。		学習指導要領や参考書に基づいて指導計画を立てられる。		計画を立てることができない。	
学校体育におけるダンス指導技能		確かな指導言語を用い、十分な示範ができ、生徒の動きを最大限に引き出す指導ができる。		適切な指導言語を用い、示範を行い、生徒の動きを引き出す指導ができる。		指導言語や、示範が不十分で、生徒の動きを引き出すことができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション、フォークダンス①② 【到達目標】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第9回 即興を生かしたイメージから広げるダンス・題材③ 【到達目標】 人と関わり、お互いの力を生かしあいながら、即興的に踊る体験と、簡単なクラス作品作りの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)			
第2回 オリエンテーション、導入のしかた・題材①、リズムの示範実習 【到達目標】 授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。 導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第10回 フォークダンス③、外国のフォークダンスの指導方法 【到達目標】 外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。 示範と声かけの仕方を実習する。 指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。指導DVDを視聴する。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(1.0hr)			
第3回 創作ダンス・題材②、ひと流れの動きを引き出す示範実習 【到達目標】 ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。 ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第11回 創作ダンス・題材④ 【到達目標】 絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。 グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。 指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。 【授業時間外学習】 指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(1.0hr)			
第4回 創作ダンス・題材③、極限を引き出す示範実習 【到達目標】 対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 極限を引き出す示範方法を実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第12回 グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動 【到達目標】 簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。 自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。 指導法実習のシミュレーションを行う。 【授業時間外学習】 指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(1.0hr)			
第5回 創作ダンス・題材④、リズム太鼓の使い方実習 【到達目標】 群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。 リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用法について実習する。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第13回 指導法実習① 【到達目標】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)			
第6回 創作ダンス・題材⑤、授業内発表会の持ち方 【到達目標】 身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第14回 指導法実習② 【到達目標】 作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。 【授業時間外学習】 教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)			
第7回 作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥ 【到達目標】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。 作品の鑑賞と評価法について学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)				第15回 指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント 【到達目標】 指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(1.0hr)			
第8回 現代的なリズムのダンス・題材⑦、発表会のバリエーション 【到達目標】 リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。マイクロティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。舞踊専攻学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、A4版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくこと。 【オンライン授業の場合】授業録画を視聴するオンデマンド方式とする。各授業回の学修内容は変更しない。できる限り実技を行いながら参加すること。オンデマンド授業動画は授業日の翌日にGoogleドライブにアップする。Googleフォームにより毎回の課題レポートと、自身の課題動画を録画してアップすることで出席とする。毎回の配布資料はPholly参考資料からダウンロードして印刷し、授業ノートに貼り、ノートには授業中の板書の記録もしておくこと。							
【実務経験のある教員による授業科目】 中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価方法等について、実技を中心に指導を行う。							
【教科書・参考書など】 教科書として「明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】課題達成度（授業における実技の課題達成度、指導法実習等）70%、知識理解（学習カード・授業ノート・指導法実習指導案）30%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回に提出された課題動画と報告書を毎回評価する。また、授業後半に提出する授業ノート（郵送など）、指導法実習の指導案と実習実技動画を評価する。授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の課題動画50%・指導法実技動画20%・授業報告書10%・授業ノート10%・実習指導案10%、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	舞踊史学			担当者	松澤慶信		
英文名	Dance History						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4	／選択の区別		専門・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DME308		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
英語文献を講読・輪読して進める。毎回受講者全員に翻訳してきてもらい、それを発表した後に、徹底的にその解釈と和訳に検討を加えて、完成とする。それができない人は受講を控えること。その上で芸術史学としての舞踊史学そのものを問う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 翻訳するということ 【到達目標】 英文をこれだけしか読めないという読み方で読むためのルールが文法だが、そのように読んで内容を理解した後に、その内容を正確に第三者にもわかる日本語に書き直す作業が翻訳である。 【授業時間外学習】 配布プリントを読む。(4.0hr)				第9回 作品史 【到達目標】 芸術史が究極、美的受容体験の様式史ではあるが、もちろん作品そのものをないがしろにはいけない。作品にどう接するか。作品を前にしてわれわれはそこからささやかれる声を聞くこと。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第2回 芸術思想と芸術現象 【到達目標】 芸術思想とは、芸術現象（具体的な作品も含めて）をどう読むかという読み方を方法論的に検討するための思想に他ならない。したがって芸術が思想を同定していくこともある。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第10回 人物伝 【到達目標】 絵画が基本的に人物を描く物語画であったように、人間への関心が芸術学の対象であることは否めない。ヴァザーリの列伝は今も芸術学資料の基本である。人間学としての芸術学を目指す。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第3回 美的受容体験の様式史としての舞踊史学 【到達目標】 舞踊作品が残存しないのに、舞踊史学は存立するのか。この問題の解決策は、作品そのものに重きを置く制作論ではなく、受容側の受けとめ方を様式化する作業に他ならない。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第11回 20世紀のキーパーソン 【到達目標】 20世紀という時代を探るにあたって人物を中心にみることは具体的作業手順として有効であろう。われわれはまだ同時代に生きる息吹を、体臭を感じ得るからだ。歴史は空気である。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第4回 歴史におけるターニング・ポイント 【到達目標】 それ以前と以降で明らかに歴史が変わったというターニング・ポイントは必ずある。しかし何をもって歴史が変わったと考えるのか。ここにその人の歴史観がある。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第12回 思想史としての舞踊史 【到達目標】 芸術は時代を映す鏡である。ヘーゲルはこのことを時代精神と言った。われわれはこの時代精神を概念化して、それを思想と呼ばねばならない。思想にまで昇華させて時代を見据えなければならぬ。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第5回 パラダイム 【到達目標】 パラダイムとは流布している代表的な考え方である。しかしそれは価値論的には通俗的で凡庸になるが、学問的にはまずこの通説を押さえるべきである。その上で新しい地帯を開拓せよ。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第13回 方法的反省 【到達目標】 $y = f(x)$ の変数 x を変えて導入して y 値を求めるといふ、関数 f そのものを反省しないのは考察に値しない。単なる手の運動である。屋上屋を架すという。芸術学は事実学ではないのである。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)			
第6回 辺境変革説 【到達目標】 ターニング・ポイントであれパラダイム・チェンジであれ、新しい波は実はパラダイムが中心となっているトボスではなく、その周辺から一気に起こってくる。「田舎者」の力を見くびらないこと。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第14回 演劇史 【到達目標】 周辺の類似学として参照する学問に演劇史を特化して挙げておきたい。この演劇学には古典的な意味での演劇はもちろんだが、しかし演劇そのものをメタ的に考察するパフォーマンスの美学を含む。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。予習のための資料は授業時に配布予定。(4.0hr)			
第7回 天才 【到達目標】 大胆な歴史の変革はパラダイムの中心ではなくむしろ周辺にいるアマチュアから起こると考えられているが、それは得てして体系化されず単発で終わる。しかし一気に完成させるのが天才である。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)				第15回 舞踊史学再考 【到達目標】 舞踊史学をめぐる様々な問題提起を整理したい。芸術史学の一つとしての舞踊史学ではなく、舞踊史学が今までの芸術史学に再構成を促すような視点や方法論を提出する気概を持ちたい。 【授業時間外学習】 これまでの輪読部分の翻訳（決定稿）を、各自で完成させる。(4.0hr)			
第8回 物語と歴史 【到達目標】 historyであれGeschichteであれ、歴史とは物語である。客観的事実の羅列ではない。そもそも資料の採集の時点ですでに歴史家の視点というバイアスががかかっていることを忘れてはならない。 【授業時間外学習】 次回授業のための予習を行うこと。講読部分については授業時に指示する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
毎回翻訳して和訳までしてきて授業にのぞむこと。何も準備せずに予習もしないで参加する者は出席とは認めません。英語の理解力のレベルは様々でしょうから、それは考慮しますが、自分でとことんまで調べてくること。そして自分なりの歴史観をもってほしい。							
【オンライン授業の場合】							
オンライン・リアルタイムで行うので、とにかく受信環境を各自で整えておいて下さい。毎回、全員に当てます。5月に入ったらノート提出も課します。まじめに取り組む者のみが履修して下さい。							
【教科書・参考書など】							
授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』アニエス・イズリヌ著 慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』ナンシー・レイノルズ他著 慶應義塾大学出版会をあげる。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 毎回の出席に際して、予習をどこまでやってきているかによって採点する。予習の度合いによる評価100%。 【オンライン授業の場合】 毎回の出席に際して全員に当てて、予習をどこまでやってきているかという予習の出来具合を見ます。その出席率と予習の出来具合で50%。また途中でノートを提出してもらいますが、そこから見られる予習復習の出来具合でも判断し20%評価、最後に授業で進んだところまでの全訳のレポート提出でその評価30%とします。全体の出席率、その都度ごとに当てて判断する予習の出来具合、そして期間途中で提出するノート、最後に提出してもらった英文和訳の全訳の出来具合で総合的に判定します。							

科目名	ダンス制作論			担当者	松山善弘		
英文名	Theory of Dance Production						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4				専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME309		卒業認定方針との関連	⑧	
【到達目標】							
ダンス制作は、踊ったり振付をしりする作業とは違うが、実はcreativeな仕事である。演目、振付家の選定、スタッフの確定などproduceをすることや、助成金の申請、劇場予約、出演交渉、宣伝・切符の配布から当日パンフレットの制作まで、サービス業に関わる広範囲な業務を含む。この授業では、自分たちで実際に公演を打つことをシミュレートして実体験できるようにもする。しかし今のダンスに問題意識を持つこと。これがすべてである。制作を学ぶことによって、実際に舞台に立つにあたって、実は大勢のスタッフに支えられている公演であることを自覚できれば、それだけでも十分に意味があると言えるだろうが、受講者の中から実際に制作の道に出てくる者がいれば、それこそは望外の幸せである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	ダンス制作の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	ダンス制作の研究知見に関する事項	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	研究知見を資料等を左暗誦しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明ができない。			
	ダンス制作の研究知見の活用に関する事項	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 プロデュースとは何か				第9回 助成金の申請方法			
【到達目標】 制作ではなく制作と記すプロデュースとは何か。作品を作る環境や条件を整備して、作家の王国を作ることである。制作という営為をなぜ大学で学ぶのかを理解する。				【到達目標】 具体的に助成金の申請をシミュレートしてみる。申請書に書かれている項目はかかって自分たちの公演の意味や位置づけを反省させてくれる。今後の実践にも役立てる。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第2回 現代のダンス状況の調査と展望を踏まえた制作				第10回 宣伝戦略			
【到達目標】 プロデュースとは公演を打つことを言うだけではない。どのような公演を打ち、それがダンス界にどういう意味と影響を持つか、その方向性を見定めるcreativeな営為であるという事を理解する。				【到達目標】 結局、観客動員が予算においても、評価においても、公演を決定づける要因である。それはパフォーマーの志気にも影響する。そのためにはどうやって観客を動員するのかの宣伝方法を確認する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第3回 振付家、ダンサーの選出・交渉 作品の方向性の確認				第11回 当日パンフレットの作成			
【到達目標】 誰にどのようにどこでどうやって、などの具体的な戦略をたてなければならない。これが制作の一番重要な問題である。制作とは事務レベルの仕事だけではないという事を理解する。				【到達目標】 公演の顔に当たるものがチラシであり当日パンフレットである。しかもこれら紙媒体は記録としても残るので、その意味は思いの外に大きい。当日パンフレットの作成には細心の注意が必要であるという事を理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第4回 会場の選定				第12回 切符の管理と販売、当日業務の確認			
【到達目標】 会場設定が重要なことは、その公演のイメージや売りという意味だけでなく、切実に会計に影響してくる問題だからである。客入りを見越してプランをたてなければならないという事を理解する。				【到達目標】 当日業務の中心はやはりチケットの処理にある。狭いロビーだとその混み具合によって開演時間にも影響する。しかし他にもスタッフへのケイタリング、会場との連絡など、やることは一杯ある。このことについて理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第5回 スタッフの確認				第13回 舞踊批評の批評			
【到達目標】 スタッフとは舞台の進行を全体的にチェックする舞台監督、照明を担当する照明係、音を担当する音響係、という舞台を運営して行く者たちを言う。したがってこのスタッフ選びが作品に影響を及ぼすという事を理解する。				【到達目標】 批評とは何か。そして舞踊の批評とは何か。作家やパフォーマーは作品を正しくわかってののだろうか。そもそも正しい理解や解釈とは何か。観る側の論理があっている。それを確認する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第6回 マネージメントとは何か				第14回 舞踊批評を書く			
【到達目標】 マネージメントとプロデュースとはほとんど同意だが、ここでは事務レベルの仕事を目指すことと考える。creativeな作業というよりも、どう進行していくかをチェックする営業の仕事であるという事を理解する。				【到達目標】 実際に舞踊批評を書いてみよう。書くことで、作り手には見えていなかったことが発見できるかもしれない。見ることは実は作品を作ることと同じほどにcreativeな作業であることを理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第7回 予算の設定				第15回 卒業公演について			
【到達目標】 すべての根幹はやはり予算にある。チケット収入だけで公演が成立しないなら、どこから助成金を引き出すのか、ノルマ制にするのか。支出は何か。具体的な内容について理解する。				【到達目標】 実際に創作し鑑賞したわれわれの卒業公演を、創作に対する批評だけでなく、制作の視点からも反省してみたい。観客の立場から見てみることも、制作にとっては必要な視点だということを理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第8回 メセナと助成団体							
【到達目標】 助成とは何か。そういう助成をするメセナはどういう仕事であり、そのためにはどういう倫理や規範を持つてのぞむのか。助成基金を出す団体組織について理解する。							
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 毎時間ごとに、架空の公演を想定したレポートを作成してもらいます。そのレポートを通じて制作についてさらに理解を深めて下さい。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのPho1ly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 授業中に指示する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】授業ごとのレポート40%、ダンス制作に関する総合的なレポート60%の割合で総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出されたレポート、学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	舞台上演法			担当者	石川 浩子		
英文名	Performance and Theater Workshop						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】 舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
舞台制作		舞台を制作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる		舞台を制作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
作品創作		作品を創作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる		作品を創作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
舞台上演		舞台を上演する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる		舞台を上演する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第9回 作品づくり5 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第2回 制作について 【到達目標】 制作の仕事について理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第10回 作品づくり6 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方 【到達目標】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第11回 中間発表 【到達目標】 作品を発表しあうことによって、舞台上で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるということを理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第4回 作品づくり1 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第12回 作品づくり7 【到達目標】 実際の舞台上で上演する作品として仕上げていく方法を、作品づくりを通してマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第5回 作品づくり2 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第13回 公演準備1 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第6回 作品づくり3 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第14回 公演準備2 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)			
第7回 作品づくり4 【到達目標】 実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)				第15回 公演準備3 【到達目標】 舞台上演に必要なことを、あらゆる方向から理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習する。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【到達目標】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。 【授業時間外学習】 舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 対面方式での授業参加の場合は、時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。 【オンライン授業の場合】(コロナウイルス感染拡大による授業携帯変更のみ) オンライン方式での授業参加の場合は、時間通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に画面を通じて行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】 基本的に対面授業のみ行う。 【対面授業の場合】 出席、レポート20%、授業への取り組み方60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】(コロナウイルス感染拡大による授業携帯変更の場合のみ) 出席、レポート20%、授業への取り組み方(画面での授業)60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。							

科目名	舞台上演法			担当者	岩淵多喜子		
英文名	Performance and Theater Workshop						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
この授業では作品創作の実践を通して、テクニカル的な要素（照明、音響、舞台美術等）、制作的な作業を含めた総合芸術としての舞踊作品を成立させるために必要なプロセス、要素を検証し、総合芸術としての舞踊作品を上演するために必要な職業的知見を獲得することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
作品創作		テーマ、ジャンルの特性を生かした独創性、また完成度の高い作品を創作することができる	テーマ、ジャンルの特性を生かした作品創作ができる	テーマ、ジャンルの特性の理解が不足し、作品創作が困難			
上演にまつわる技術的なことに対する理解		舞踊作品の上演について必要な要素について理解し、総合的かつ独自性を生かした創作ができる。	舞踊作品の上演について必要な要素について理解し、総合的な視点から組み立てられる	舞踊作品の上演について必要な要素についての理解が不足し、総合的な視点からの創作が困難			
ダンサーとしての上演技術		作品を理解し、身体を通して完成度高いプレゼンテーションができる	作品を理解し、身体を通してプレゼンテーションができる	作品を理解し、身体を通してプレゼンテーションすることが困難			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション				第9回 作品づくり4			
【到達目標】 授業の目的について理解する。 舞台上演法の授業の進め方について理解する。				【到達目標】 作品をよりよく推敲するための今後の課題とアプローチについて検証する。 前回の検証をもとに、作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第2回 テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)				第10回 作品づくり5			
【到達目標】 テクニカルシートの書き方を理解する。 テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)について理解、習得する。				【到達目標】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第3回 制作について				第11回 中間発表2			
【到達目標】 制作の役割について理解する。 舞台を上演するための制作的な仕事、マネージメント、プロデューサー、広報、現場での役割等について理解、習得する。				【到達目標】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品の途中経過を発表し、より完成度を高めるための修正点を明らかにする。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第4回 作品づくり1				第12回 作品づくり6			
【到達目標】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 作品を推敲し、完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第5回 作品づくり2				第13回 公演準備1			
【到達目標】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第6回 作品づくり3				第14回 公演準備2			
【到達目標】 作品の核となるテーマや手法について定める。 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。 作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第7回 中間発表1				第15回 公演準備3			
【到達目標】 作品の創作過程を人に見せることにより客観的に把握する。 途中経過を上演し、作品の核となるアイデア、モチーフ、構成の基礎が成りたっているかどうか検証する。				【到達目標】 最終的な推敲、踊りこみを行い完成度の高い作品に仕上げる。 舞台上演において必要な事を、あらゆる方向から理解、実践する。			
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考							
【到達目標】 様々な作品を見ることで、作品を鑑賞し、評価する力を養う。 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。							
【授業時間外学習】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献、実践を通して理解を深める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 4年間の学習の総まとめとしてグループでの作品創作を行い、実際の舞台上で上演する事を目的とする。計画的なりハーサルススケジュールの管理、体調管理、また衣装、音楽、舞台装置、照明などを総合的に具現化していくためのコミュニケーションの力、様々な調整力が必要となる。グループ活動を円滑に進めるために、個々の責任ある行動及び活動に自覚性を求める。また、毎回の授業の参加が必須である。							
【オンライン授業の場合】 本授業は対面での実施を予定しているが、状況によりオンデマンドやライブ形式を組み合わせたオンライン形式で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に取り組む。オンデマンド形式の授業の出席確認は、ポータルやPhollyへの課題提出及び自習した動画の提出等によって行う。							
【教科書・参考書など】 特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出された授業報告書、動画を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の総合評価を70%、レポート課題を30%とし、総合的に評価する。							

科目名	舞台上演法		担当者	坂本秀子		
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】						
舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
群舞作品の創作手順の理解度について		手順を理解し合理的に実践に導ける。		およそ手順通りに実践ができる。		作品創作の手順が理解できていない。
仲間とのコミュニケーション能力について		仲間の意見を取り入れながら進行できる。		およそ仲間の意見も聞きながら進行できる。		仲間との意見交換が行われていない。
装置、衣装、照明などの演出について		作品に最も適した演出を考案できる。		作品に適した演出になんとか到達できる。		作品に最も適した演出に到達できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。(4.0hr)			第9回 作品づくり5 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第2回 制作について 【到達目標】 制作の仕事について理解する。 【授業時間外学習】 制作の仕事について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)			第10回 作品づくり6 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方 【到達目標】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。 【授業時間外学習】 照明プランの立て方、照明シートの書き方について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)			第11回 中間発表 【到達目標】 作品を互いに発表し、それぞれが全公演の中の1作品であるという意識を高め、衣裳や内容に重複や不足がないかをチェックする。 【授業時間外学習】 総合芸術であることの認識を持ち、全体を振り返り課題を見つける。(4.0hr)			
第4回 作品づくり1 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			第12回 作品づくり7 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			
第5回 作品づくり2 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			第13回 公演準備1 【到達目標】 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。 【授業時間外学習】 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)			
第6回 作品づくり3 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			第14回 公演準備2 【到達目標】 公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。 【授業時間外学習】 制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)			
第7回 作品づくり4 【到達目標】 実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。 【授業時間外学習】 作品創作の復習。(4.0hr)			第15回 発表、評価を得る。他のグループ作品の鑑賞 【到達目標】 互いに発表し、評価を得る。また、他のグループ作品も鑑賞する。 【授業時間外学習】 総合学習、まとめ。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【到達目標】 有志作品の選考に全員が参加し、上演作品を客観的に見ることの大切さを会得する。 【授業時間外学習】 作品鑑賞を通して、自己の作品を振り返る。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。 【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容はおおよそ変更しない。授業は時間通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は各回の冒頭に画面を通じて行う。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎時間のレポート40%（メール添付）、期末のレポート60%（メール添付）として評価する。						

科目名	舞台上演法			担当者	高野美和子		
英文名	Performance and Theater Workshop						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4			専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
この授業では、4年間の総まとめとして、大舞台でのダンス公演を目的とした舞踊作品創作とその練習、舞台制作について学び、舞台上演までの様々な知識について実践的に体得することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
主題に沿った構成・動きの探究		積極的に主題に沿った構成・動きの探究ができる	主題に沿った構成・動きの探究ができる	主題に沿った構成・動きの探究が不十分			
作品を踊る技術		作品を踊る技術を習得し表現できている	作品を踊る技術を習得できている	作品を踊る技術が習得できていない			
メンバーとの共同創作		積極的にメンバーと協力して創作活動ができる	メンバーと協力して創作活動ができる	メンバーと協力して創作活動ができない			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 作品発表までの見通しを立て、計画する。(4.0hr)				第9回 作品づくり⑥ 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)			
第2回 制作について 【到達目標】 制作の仕事について理解する。 【授業時間外学習】 公演に必要な制作の仕事を具体的に検討する。(4.0hr)				第10回 作品づくり⑦ 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方 【到達目標】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。 【授業時間外学習】 作品に必要な照明案を具体的に検討する。(4.0hr)				第11回 中間発表 【到達目標】 作品を発表しあう事によって、舞台上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。 【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)			
第4回 作品づくり① 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)				第12回 作品づくり⑧ 【到達目標】 実際の舞台上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。 【授業時間外学習】 ランスルーを重ねる。(4.0hr)			
第5回 作品づくり② 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)				第13回 公演準備① 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 ランスルーを重ね、公演当日の場当たりのシミュレーションを行う。(4.0hr)			
第6回 作品づくり③ 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)				第14回 公演準備② 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。 【授業時間外学習】 公演当日のスケジュールを立てる。(4.0hr)			
第7回 作品づくり④ 【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。 【授業時間外学習】 作品制作を行う。(4.0hr)				第15回 まとめ 【到達目標】 舞台上演に必要な事を、あらゆる方向から理解する。 【授業時間外学習】 公演を振り返り、反省点をまとめる。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【到達目標】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。 【授業時間外学習】 指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 全授業を対面で行う。毎時間必ず出席し、公演までのグループ・ワークに積極的に参加することが条件である。毎回、授業最後に個人カード（授業の振り返り）の記入を行い、次回までに教員がチェックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に都度指示する。							
【教科書・参考書など】							
特になし。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、授業前に指示する。							

科目名	舞台上演法			担当者	松山善弘		
英文名	Performance and Theater Workshop						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4				専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
舞台制作			舞台を制作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。		舞台を制作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。
作品創作			作品を創作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。		作品を創作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。
舞台上演			舞台を上演する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。		舞台を上演する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション				第9回 作品づくり5			
【到達目標】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。				【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第2回 制作について				第10回 作品づくり6			
【到達目標】 制作の仕事について理解する。				【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第3回 照明シートの書き方				第11回 中間発表			
【到達目標】 照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。				【到達目標】 作品を発表しあう事によって、舞台上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第4回 作品づくり1				第12回 作品づくり7			
【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 実際の舞台上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第5回 作品づくり2				第13回 公演準備1			
【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第6回 作品づくり3				第14回 公演準備2			
【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)			
第7回 作品づくり4				第15回 舞台上演に関する必要事項の確認			
【到達目標】 実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。				【到達目標】 舞台上演に必要な事を、あらゆる方向から理解する。			
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをし、舞台で作品を上演する方法について理解を深める。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考							
【到達目標】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。							
【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上アップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
【教科書・参考書など】 特ありません。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】レポート20%、授業内での活動成果60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	舞台上演法			担当者	渡辺 碧		
英文名	Performance and Theater Workshop						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		スポーツ科学科	専門・選択			
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
【到達目標】							
この授業では、大学生活の4年間の集大成として、大きな劇場で公演を開催することを念頭に、舞踊作品の振付・創作とそれに伴うリハーサル、そして舞台制作など、舞踊作品上演に関する様々な技術と知識について実践的に学び、これらを体得することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
大劇場で上演する作品の振付・演出		大劇場で上演する作品をトータル・コーディネートして創る、踊る、指導することが出来る。		大劇場で上演する作品に必要な振付・演出について、理解し、指導出来る。		大劇場で上演する作品に必要な振付・演出についての理解が不十分である。	
作品づくり		作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力し、積極的にグループのために貢献できる。		作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力できる。		作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力することができない。	
作品づくりに伴うマネジメント		舞台上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）のマネジメント管理が出来る。		舞台上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）が出来る。		舞台上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）が出来ない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 舞台上演法の授業の進め方について理解する。 【授業時間外学習】 授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールを立てる。(4.0hr)				第9回 作品づくり6 【到達目標】 作品を創り上げ、より良くするための今後の課題を検討する。衣装の製作に取りかかる。舞台装置および小道具の製作に取り掛かる。 【授業時間外学習】 明らかとなった今後の課題の対策を検討し、実践する。衣装や舞台装置などを準備する。(4.0hr)			
第2回 制作について 【到達目標】 舞台を上演する上で必要な制作の仕事を理解する。 【授業時間外学習】 舞台制作に関わる文献を参考に、制作に関する情報を集める。(4.0hr)				第10回 作品づくり7 【到達目標】 作品の完成度を高める。舞台で上演することを念頭に置きながら、作品を仕上げていく手法を体得する。照明プランを考える。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 さらに完成度を高めるための手法について検討する。(4.0hr)			
第3回 プレインストーミング（作品づくり1） 【到達目標】 自分たちが創りたいと思う作品のテーマなどについて話し合いを行う。 【授業時間外学習】 様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)				第11回 中間発表 【到達目標】 作品を発表しあう事によって、舞台上演する作品としての課題を明らかにする。 【授業時間外学習】 フィードバックを踏まえて、さらに作品の質を高めるための工夫を検討する。(4.0hr)			
第4回 作品づくり2 【到達目標】 テーマについてさらに検討し、テーマを表現するための手法（全体的なイメージ）について話し合う。 【授業時間外学習】 様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)				第12回 作品づくり8 【到達目標】 実際の舞台上で上演する作品として、作品を仕上げる。本番の舞台を想定した場取りで、作品練習を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 舞台の実寸を調べ、練習においても舞台のサイズで出来るように工夫する。(4.0hr)			
第5回 作品づくり3 【到達目標】 作品テーマを決定し、衣装、装置、音楽などのグランドデザインを検討する。 【授業時間外学習】 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)				第13回 公演準備1 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日に行う場当たりのシュミレーションを行い、その練習をする。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 互いに作品を見合い、また第三者にも作品を見てもらい、さらに作品の質を高める。(4.0hr)			
第6回 作品づくり4 【到達目標】 舞台で上演することを念頭に、表現したいテーマに沿って創作・振付を行う。使用する音楽を決定する。音楽著作権・著作隣接権について理解する。 【授業時間外学習】 作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)				第14回 公演準備2 【到達目標】 公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。本番当日の流れを確認する。公演全体の通し稽古を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。 【授業時間外学習】 不測の事態に備え、不足なものがないか検討する。(4.0hr)			
第7回 作品づくり5 【到達目標】 創作・振付をグループごとに行い、互いにこれを見せ合うことが出来る。実際に創作・振付を複数グループで行うことにより、自分たちが表現したいことが形となっているかを確認する。 【授業時間外学習】 成果発表に対する反省をし、今後の課題を明らかにする。(4.0hr)				第15回 舞台上演について 【到達目標】 実際の舞台上演をふりかえり、反省点・検討事項についてディスカッションを行う。 【授業時間外学習】 反省点・検討事項を次の公演に活かす。(4.0hr)			
第8回 有志作品選考 【到達目標】 有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。作品を鑑賞することにより、作品を評価する力を体得する。 【授業時間外学習】 フィードバックを踏まえて、さらに作品に改良を加える。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 授業形態は対面授業を基本とする。4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台上で公演する事を目的とするため、毎時間参加を必須条件とする。第8回「有志作品選考」、第11回「中間発表」、第14回「舞台上演について」、その他、作品についてフィードバックが必要な場面では、口頭によるフィードバックを行う。 新型コロナウイルスの感染状況や社会情勢によっては、オンライン授業の対応を取る場合もある。							
【教科書・参考書など】 適宜配付します。							
【成績評価方法】 授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品へ貢献度50%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。 オンライン形式で授業が行われた場合は、出欠確認の際に提出される課題も、評価の対象となる。							

科目名	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）			担当者	八木ありさ		
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for the Elderly and People with Disabilities)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4				専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME310		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
高齢者や障がいのある人にとって、楽しみながら、身体や動きの能力と自己認識を高め、社会性や情緒表現、コミュニケーションを促進することができる機会を提供するためのダンス活動に必要な基礎知識を解説する。また、高齢者や障がいの特性を理解する手立てや、対象者に応じたダンスプログラムの組み立て方、基礎的な指導やファシリテーション技術を習得する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
	高齢者や障がいの生活について	高齢者や障がいの生活について理解し、自らまとめて説明できる。		高齢者や障がいの生活について理解し、授業資料を参照しながら説明できる。		高齢者や障がいの生活についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。	
	多様な機会を提供するためのダンス活動の特性と活用方法について	機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、いくつかの主題で仲間と共にファシリテートすることができる。		機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、指定された主題で部分的にファシリテートすることができる。		機会を提供するためのダンス活動についての理解が不十分で、指定された主題でファシリテートすることができない。	
	当事者の課題に対応したダンス活動活用の実践	当事者のニーズを見つけ、これに対して適切なダンス活動の提案をすることができる。		提示された課題に対して、適切なダンス活動の提案をすることができる。		提示された課題に対して、具体的なダンス活動の例を資料の中に見つけることができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 高齢者がおかれている状況（オンライン形式）				第9回 車椅子使用者とダンス①			
【到達目標】 高齢者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。				【到達目標】 車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者に対する指導方法の基礎を理解する。			
【授業時間外学習】 私の町の高齢者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 身体障害の原因や種別・区分を調べる。(4.0hr)			
第2回 障がい者がおかれている状況（オンライン形式）				第10回 車椅子使用者とダンス②			
【到達目標】 障害者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。				【到達目標】 車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者に対する指導方法の基礎を理解する。			
【授業時間外学習】 私の町の障がい者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)				【授業時間外学習】日本では、身体障害者への支援がどのように整備されるべきと考えられているか調べる。(4.0hr)			
第3回 高齢者・障がい者とダンス（オンライン形式）				第11回 その他の障害とダンス			
【到達目標】 高齢者や障がい者が取り組むQOL向上のためのダンス活動の広がりを知り、ダンスの取り入れやすさと、難しさを理解する。				【到達目標】 知的障害や精神障害の特性に応じたダンス活動の内容について考え、指導方法の基礎を理解する。			
【授業時間外学習】第1～2回の授業時間外学習をもとに、立場によって異なる可能性のある「暮らしやすさ」について考察し、レポートを書く。(4.0hr)				【授業時間外学習】 高次脳機能障害と統合失調症の特徴を調べる。(4.0hr)			
第4回 型のあるダンスと型のないダンス				第12回 高齢者とダンス①			
【到達目標】 定型なダンスと非定型なダンスについて理解し、説明できるようになる。 柔軟な指導の流れづくりについて学び、必要に応じて素材を組み合わせる方法を理解する。				【到達目標】 高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動の内容を理解する。			
【授業時間外学習】 定型なダンスにおいて実現できる自己表現について考察する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日常生活動作ADLについて調べる。(4.0hr)			
第5回 視覚障害とダンス①				第13回 高齢者とダンス②			
【到達目標】 視覚障害の特性とニーズを理解し、視覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。				【到達目標】 高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動指導方法の基礎を理解する。			
【授業時間外学習】 視覚障害の原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 認知症の特性と支援方法の基礎について調べる。(4.0hr)			
第6回 視覚障害とダンス②				第14回 テーマ別グループ演習①			
【到達目標】 視覚障害の特性とニーズを理解し、視覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。				【到達目標】 グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、授業参加者を対象に実習する。 討論、相互評価を通じて、理解を深める。			
【授業時間外学習】 視覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。(4.0hr)			
第7回 聴覚障害とダンス①				第15回 テーマ別グループ演習②			
【到達目標】 聴覚障害の特性とニーズを理解し、聴覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。				【到達目標】 グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、授業参加者を対象に実習する。 討論、相互評価を通じて、理解を深める。			
【授業時間外学習】 聴覚障害の原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 参加者からのフィードバックも参考に、実習の成果を報告書にまとめる。(4.0hr)			
第8回 聴覚障害とダンス②							
【到達目標】 聴覚障害の特性とニーズを理解し、聴覚障害を持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。							
【授業時間外学習】 聴覚障害者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
対面形式の授業を基本とし、第1回～第3回ではオンライン（オンデマンド）形式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。第4回目以降では、学習イメージをより明確にするために、アイマスク・車椅子など障がい疑似体験の用具を使用する回がある。また、状況に応じて単元の進行が前後することがある。履修者同士の意見交換から課題の理解が深まることも多いので、活動を積極的に創り出してゆく姿勢で臨んでほしい。用具等の都合により、内容が前後することがある。オンライン（オンデマンド）形式の授業では、復習課題の提出をもって出席の確認をする。オンライン授業で配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と講義ガイドPDFで、本学ポータルサイトのGoogle Drive上に掲載する。 全ての授業回の授業形態をオンライン（オンデマンド）形式へと変更することがある。この場合でも、授業内容は大幅には変更しない。 なお、この科目は日本ダンス・セラピー協会認定「ダンスセラピー・リーダー」の資格取得を目指す学生には必修科目である。							
【教科書・参考書など】							
テキスト：『体や動きで表現するために』全国身体障害者福祉センター発行 その他、必要に応じて印刷資料を配布する。							
【成績評価方法】							
授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（60％）と、第3回、第15回授業時間外学習レポート課題の達成度（40％）を併せて成績評価する。							

科目名	スポーツ・舞踊活動特別実習		担当者	八木ありさ		
英文名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単位数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3			専門・選択		
授業形態	実習	科目ナンバー	DME311	卒業認定方針との関連		⑥⑦⑧
【目的とねらい】						
各自のダンス専門キャリア形成を念頭に、授業のみならず、課外活動（舞踊に関する部活動含む）や自主活動を計画し、これらを通じて各種コンクール、発表会、イベント等に参加して優れた実績を残す。また各自の活動実践を客観的に捉えて評価し、次の期の実践に役立てることができる。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	ダンスキャリアと関わる課外活動並びに自主活動の積極的推進	部活動を積極的に推進し、キャリア形成に役立つそれ以外のトレーニング等も自ら計画して十分に実践することができる。	部活動や自主トレーニング等を継続的に実践することができる。	部活動や自主トレーニング等を継続的に実践することができない。		
	ダンスキャリアと関わる技能の向上	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベント等で優良な成果を残すことができる。	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベントで成果を残すことができる。	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベントに参加することができない。		
	ダンスキャリアと関わる活動の評価と目標設定	自ら部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を整理した上で評価し、次の期の活動計画に反映させることができる。	部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を客観的に整理して報告できる。	部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を整理して報告することができない。		
【授業内容】						
1, 1年次4月：ガイダンスを受ける事によってスポーツ・舞踊活動特別実習の内容を理解する。						
2, 1年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。						
3, 2年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。						
4, 3年次における「活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「4年次に向けての目標および計画」として、これまで3年間の舞踊活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。						
【到達目標】						
1, 1年次における「活動実績」をまとめる事によって、1年次の自分の実績を把握する。「活動内容」をまとめる事によって、1年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。						
2, 2年次における「活動実績」をまとめる事によって、2年次の自分の実績を把握する。「活動内容」をまとめる事によって、2年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。						
3, 3年次における「活動実績」をまとめる事によって、3年次の自分の実績を把握する。「活動内容」をまとめる事によって、3年次の活動内容を確認し、来年度への目標を立てる目安とする事ができる。						
4, 3年次における「4年次に向けての目標および計画」を立てる事によって、これまで3年間の舞踊活動を踏まえて、卒業するまでの明確な目標を把握する事ができる。						
【授業時間外学習】						
毎回の活動を記録する事により、より明確な活動目標をたてていく。						
【学習上の留意点】						
大学で舞踊活動を実施する学生が、さらにその舞踊活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、舞踊活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は1年ごとに実施した舞踊活動の内容について報告書を提出する。						
【教科書・参考書など】						
特に使用しない。						
【成績評価方法】						
3年間を通じた実績に関するレポート50%、活動報告書50%の割合で総合的に評価を行う。						

科目名		卒業研究			担当者	
英文名		Graduation Thesis				
単位数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME402		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【目的とねらい】						
<p><論文作成> ダンス学科で展開されるカリキュラムの中から、舞踊学、体育・スポーツに関わる領域や分野を選び、問題を整理してテーマを設定し、文献からの参照・フィールドワーク・実験研究など具体的な研究手法の実践を通して論理的な物の見方・考え方を身につける。この成果を論文の形式にまとめて提出および発表することを通じて、舞踊学、体育・スポーツについて研究する専門的な能力を高める。</p> <p><作品制作> 舞踊作品の創作、演出、上演という一連の「制作」過程の発展的学びを実践し、これらの過程での問題点と成果について、観点を決めて客観的な考察を加えることにより総合芸術としての舞踊について理解を深め、またこれを他者に説明する力を身につける。</p>						
【ループリック（学修の到達レベル）】						
<論文作成> 学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
ダンス学（舞踊学）の基礎理論と現在の研究動向に関する事項		先行研究を十分に渉猟し、ダンス学（舞踊学）理論の理解に基づいた研究上の問いについて整理して述べるができる。		資料等を参照しながらダンス学（舞踊学）の理論を説明できる。		ダンス学（舞踊学）の理論について、理解が不十分で説明や実践ができない。
主題の設定や研究方法に関する事項		研究方法論を理解し、主題に適した研究方法を選択して自ら実践できる。		主題と関連して提示された方法を用いて研究を実施し、結果を導き出すことができる。		研究の方法についての理解が不十分で、主題に適した方法を実施することができない。
論文の作成に関する事項		学術論文の形式を理解し、過不足なく作成することができる。		学術論文の形式を理解し、資料を参照しながら作成することができる。		理解が不十分で、論文の体裁を整えることができない。
<作品制作> 学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
舞踊作品制作の土台となる振付、音楽、空間、演出効果等に関する基礎理論		舞踊作品制作の基礎理論を理解し自らまとめて説明や実践ができる。		舞踊作品制作の基礎理論を資料等を参照しながら説明や実践ができる。		舞踊作品制作の基礎理論の理解が不十分で説明や実践ができない。
作品制作と上演に関する事項		大群舞作品、小群舞作品、ソロ作品をそれぞれ制作して、効果的な上演を実施することができる。		大群舞作品、小群舞作品、ソロ作品の中から制作・上演を実施することができる。		舞踊作品の制作・上演ができない。
制作過程での問題点と成果の分析的検討に関する事項		自ら設定した観点によって制作過程を振り返ることができ、成果と課題の客観的分析と考察、これらをまとめた報告書の作成ができる。		決められた観点で制作過程を振り返ることができ、成果と課題の分析とそれらをまとめた報告書の作成ができる。		制作の成果と課題の分析・報告ができない。
【授業内容】						
<p><論文作成> I-① 舞踊の基礎理論 -② 舞踊の研究・研究方法について -③ 研究内容・計画の検討 -④ 調査 -⑤ 資料の処理 II 論文作成 III 論文完成 IV 論文発表</p>			<p><作品制作> I-① 舞踊作品が成立するための基礎理論 -② 作品創作法研究 -③ 主題・構成・展開の検討 -④ 演出の研究 II-① ソロ作品創作 -② アンサンブル創作（小群舞） -③ アンサンブル創作（大群舞） III 制作発表と制作レポート提出</p>			
【到達目標】						
<p><論文作成> I-① 論文の土台となる基礎理論について学び、正しく理解し、大まかな方向性をたてることができる。 -② ①の方向性に基づき、舞踊に関する文献をリサーチし、テーマを絞る。 -③ テーマに基づき、今後の大まかな計画を作成する。 -④ 文献、フィールドワーク、アンケート調査などの調査方法を正しく理解し、実践することができる。 -⑤ それまでに収集した数々のデータを分析し、執筆のための準備をする。 II データに基づき、概念化したものを考察し、論理的な整理をしたうえで執筆をする。 III 執筆したものを再検討し、内容的・文法的に論文としてふさわしいものへと推敲する。 IV 抄録原稿を作成し、口頭発表をする。</p> <p><作品制作> I-① 舞踊作品制作の土台となる基礎理論を正しく理解することができる。 -② 過去の作品の振付・様式・演出を研究し、そこから制作テーマを決定する。また、それに基づき文献、映像、ムーブメントなどの調査を行う。 -③ 作品構築のために、主題・構成・展開といったことから全体像を定め、それに基づき方向性を明確にすることができる。 -④ 形式にとらわれずにさまざまな演出方法の可能性をリサーチし、分析、考察する。 II-① これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、ソロの作品を制作する。 ② これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、小群舞作品を制作する。 ③ これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、大群舞作品を制作する。 III IIの①②③で制作をした作品を発表、それに基づくレポートを提出する。</p>						
【授業時間外学習】						
自身の卒業研究のテーマに沿ってたてられる工程を理解し、工程毎に指定される資料の収集や実験（的思考）・調査の計画と実施などを積み重ね、研究を続けていく。						
【学習上の留意点】						
<p><論文作成> 論文を書くことは学問的手続きをきちんと踏めるかにかかっている。したがって、①問いのたて方とその追求方法に破綻はないか、②参考文献は正確に書かれているか、③提出資料は適切に作成されているか、④ひとりよがりの自由作文ではないか、といったことに留意し、取り組む。 【オンライン形式となった場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。授業は、時間制通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は、各授業回の冒頭に画面を通じて行う。</p> <p><作品制作> 制作にあたり積極的に、日々の生活の中においても感受性を高めて題材を見極め、その題材を芸術作品に昇華していくために創造力を豊かにすることが必要である。また感覚的な思考だけに頼らず、舞踊作品を構成する要素についての多角的な視点を持って、一貫した作品を完成させることが求められる。 【オンライン形式となった場合】 リアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。授業は、時間制通りの曜日・時刻に実施する。出席の確認は、各授業回の冒頭に画面を通じて行う。</p>						
【教科書・参考書など】						
適宜配付。						
【成績評価方法】						
2年間にわたる、論文作成・作品制作の成果および過程全体を総合的に評価する。学習過程の総合評価を60%、成果物ならびに成果発表の評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	教職論				担当者	青木 純一	
英文名	Study of Teaching Profession						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE101・DTE101・HTE101		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】 教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解を深めることが第1の課題である。その上で、履修学生一人ひとりが、教員免許取得を目指すかどうかを判断する機会を提供することも、課題としている。教師の主たる仕事である、授業や生徒指導等の理解を深めるとともに、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	教職論の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	教職論の研究知見に関する事項について	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	教職論の研究知見の活用に関する事項について	知見の活用の際し意見を述べるができる。	知見の活用の際し、資料などを参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 教師という仕事 【到達目標】 オリエンテーション。教師の仕事の特徴を理解し、本科目履修の意思を確認する。 【授業時間外学習】 最近の教職がおかれている状況について学ぶ。(4.0hr)				第9回 教師の研修—教職に就いてから 【到達目標】 教師は教職に就いた後も様々な研修を受ける機会が保障されており、専門性を高めることが期待されていることを理解する。 【授業時間外学習】 教員にとって重要な研修について、法的根拠や制度の背景について学ぶ。(4.0hr)			
第2回 「私が出会った教師」を思い出す 【到達目標】 履修学生自身がこれまでに出会った教師について振り返り、教職免許取得にあたっての出発点とする。 【授業時間外学習】 過去に出会った教師についてそれぞれの個性や特徴を振り返る。(4.0hr)				第10回 教師の仕事とジェンダー 【到達目標】 学校は女性にとって働きやすい職場だといわれるが、その学校においても、性別役割分業が存在していることを理解する。 【授業時間外学習】 とくに女性教員に焦点を当て、最近の教員の実態や問題点をジェンダーの視点から学ぶ。(4.0hr)			
第3回 授業をつくる 【到達目標】 教師が果たす仕事のうち、多くの比重を占めている授業実践について考察し、理解する。 【授業時間外学習】 授業づくりをする際の留意点について学ぶ。(4.0hr)				第11回 教師の身分と職務 【到達目標】 教師が職務上有している種々の権利や責任について、およびそれらを適切に行使することが必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 教員の身分や職務について、実態を法律と絡めて学ぶ。(4.0hr)			
第4回 特別活動と生徒指導 【到達目標】 授業実践だけでなく、特別活動や生徒指導も教師の仕事として重要であることを理解する。 【授業時間外学習】 特別活動や生徒指導における留意点について学ぶ。(4.0hr)				第12回 教師像の探求 【到達目標】 時代とともに数多くの理想的教師像がつけられてきたことを、具体的な例とともに理解する。 【授業時間外学習】 明治以降の学校や社会がどのような「教師像」を求めていたかを学ぶ。(4.0hr)			
第5回 校務分掌や学校組織 【到達目標】 学校の業務は校務分掌など組織全体を考慮して円滑に運営することで大切である。また、スクールカウンセラーや学校司書といった外部スタッフとの連携・協力が今後ますます必要になることを理解する。 【授業時間外学習】 学校における校務分掌の在り方や運営する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)				第13回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（1） 【到達目標】 近年の教育改革・学校改革の動向についての理解を深め、新たに期待される教師の在り方について関心を持つ。 【授業時間外学習】 戦後の教育改革について、とくに教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)			
第6回 同僚性と教師文化 【到達目標】 同じ職場で働く同僚との協力によって、学校運営が円滑となり、児童生徒のよりよい成長が促されることを理解する。 【授業時間外学習】 学校という組織において教師の同僚性がいかに大切か、事例をもとに学ぶ。(4.0hr)				第14回 教育改革・学校改革の動向と教師の役割（2） 【到達目標】 前回の続き。 【授業時間外学習】 とくに21世紀に入ってから教育改革について、教員政策を中心に学ぶ。(4.0hr)			
第7回 教員養成制度—教職に就くまで 【到達目標】 「専門職」としての教師を養成する制度である教員養成制度、とりわけ大学における教員養成のシステムを理解する。 【授業時間外学習】 養成、採用、研修を一体化した教員養成制度の在り方について学ぶ。(4.0hr)				第15回 現代の教職をめぐる課題 【到達目標】 これまでの授業をもとに、各自現代の教職をめぐる課題を整理し、自らがめざす教師像をまとめる。 【授業時間外学習】 今日の教員に求められている資質・能力とはなにかについて学ぶ。(4.0hr)			
第8回 教師の資格と任用、採用試験の動向—教職に就くとき 【到達目標】 免許制度と実際の学校に任用される採用試験制度を理解する。また、近年の採用試験の動向を理解する。 【授業時間外学習】 最近の教育採用の実態と特徴について学ぶ。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席するにとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。 【オンライン授業の場合】 以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。							
【教科書・参考書など】 教科書：樋口修資著『第3版 教育の制度と経営』明星大学出版部。 参考書：適宜授業で指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業出席2/3を満たした学生に対し試験（100%）を実施する。 【オンライン授業の場合】 小レポート（50%）と課題レポート（50%）から総合的に評価する。							

科目名	教育原論(教育課程を含む)		担当者	小堀 哲郎・瀬川 大		
英文名	Theory of Education (Theory of Curriculum)					
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE201・DTE201・HTE201		卒業認定方針との関連	⑨
【到達目標】						
教育の基本的概念や理念、教育に関する歴史や思想、教育課程の意義や編成原理、カリキュラムマネジメント等を学ぶ科目である。教育の歴史や思想の中で、教育の概念や理念がどのように変化、発展してきたかを考察し、現代の教育課題を理解する。また、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に即してカリキュラム・マネジメントを行うことの意義も理解できるようにする。						
【ルーブリック(学修の到達レベル)】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
教育の基本的概念や教育の歴史・思想		教育の基本概念や教育の歴史・思想について十分に理解し、その内容や現代的意義を説明することができる。	教育の基本概念や教育の歴史・思想について理解し、その内容を説明することができる。	教育の基本概念や教育の歴史・思想について理解し、その内容を説明できない。		
現代社会における教育の課題		社会の変化に伴う教育のあり方の歴史の変遷について、学習指導要領の変遷を押さながら理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができる。	社会の変化に伴う教育のあり方の歴史の変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができる。	社会の変化に伴う教育のあり方の歴史の変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができない。		
教科横断的なカリキュラム編成		教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示し、その意義を説明することができる。	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 教育の基本的概念 (担当:小堀哲郎)			第9回 教育課程の編成原理 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 教育の基本的概念や理念、教育の目的などについて理解する。			【到達目標】 教育課程の編成原理にはいくつかある。ここでは、それらのうち代表的なものとして、「経験中心主義」と「学問中心主義」について理解する。			
【授業時間外学習】 教育の基本的概念についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「経験中心主義」と「学問中心主義」についての文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第2回 教育の歴史 (担当:小堀哲郎)			第10回 教育課程編成と学習指導要領 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 教育の歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。			【到達目標】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。			
【授業時間外学習】 教育の歴史についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第3回 教育の思想—ヨーロッパ (担当:小堀哲郎)			第11回 学習指導要領の変遷 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 ヨーロッパの代表的な教育思想を学び、教育の思想と実際の教育や学校とのかかわりについて理解する。			【到達目標】 学習指導要領の改訂の変遷および改訂内容並びにその社会的背景を理解している。			
【授業時間外学習】 ヨーロッパの代表的な教育思想家の著作を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 学習指導要領の改訂の変遷に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第4回 教育の思想—日本古代から近世 (担当:小堀哲郎)			第12回 学力問題 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 日本の古代から近世までの教育思想について学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。			【到達目標】 近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。			
【授業時間外学習】 近世までの日本の教育思想についての理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第5回 学校の形成 (担当:小堀哲郎)			第13回 教科横断的なカリキュラム編成 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 学校の成立過程について、古代から近世までを範囲として理解し、日本と諸外国の違いについて学ぶ。			【到達目標】 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。			
【授業時間外学習】 学校の成立過程について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 教科横断的なカリキュラム編成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第6回 近代教育制度の成立と展開 (担当:小堀哲郎)			第14回 新学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」 (担当:瀬川大)			
【到達目標】 近代の教育制度、学校制度の成立と現代にいたる教育と学校の変遷について理解する。			【到達目標】 今回行われた学習指導要領の改訂の中で、とりわけ重要視されている「主体的・対話的で深い学び」について、その内容と長期的な指導計画に組み入れる必要性について、理解する。			
【授業時間外学習】 近代教育制度、学校制度について理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第7回 地域社会と学校 (担当:小堀哲郎)			第15回 カリキュラムをどう評価するか (担当:瀬川大)			
【到達目標】 地域社会と学校、家族と学校とのかかわりについて、歴史的経緯を踏まえて理解する。			【到達目標】 教育課程を実践する際には評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。			
【授業時間外学習】 地域社会や家族と学校とのかかわりについて理解を深めるために関連文献を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			
第8回 現代社会における教育の課題 (担当:小堀哲郎)						
【到達目標】 社会の変化に伴う教育のあり方の歴史の変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉える。						
【授業時間外学習】 現代社会における教育の課題について、新聞等を読み多角的に理解する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。レポート等の提出物については、後の授業回でフィードバックを行う。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信する資料は、各授業回の学習内容資料、学習内容についての解説資料、補足資料、などである。詳細は各担当教員からの説明を確認すること。配信は対面授業のスケジュールに従い、同一曜日9:00に本学ポータルサイトのPho1ly上にアップする。出席は、各授業回に指示する課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 ・教科書:授業の初回に指示する。 ・参考書:文部科学省『高等学校学習指導要領』(最新版)						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 グループ討論、発表、小レポートなど(30%)、試験(70%)により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出課題(45%)、さらに全授業終了時点でまとめのレポート(55%)により評価する。						

科目名	教育心理学			担当者	三好 昭子		
英文名	Educational Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE202・DTE202・HTE202	卒業認定方針との関連	⑨		
【到達目標】							
本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが求められる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考え実践することができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する心理学について		自分の言葉で説明できる。		ノートや参考書を参考にしながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
学習の際に児童・生徒が示す問題への対処法について		自ら考え対処法を提案できる。		ノートや参考書を参考にすれば自分で対処法を考え提案できる。		問題に対する理解が不十分で対処法を検討・提案できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 教育とは何か 【到達目標】 (1)教育心理学の考え方を理解し説明することができる。 (2)発達段階、発達課題について説明することができる。 【授業時間外学習】 教育心理学や発達という概念に関する課題を行う。(4.0hr)				第9回 記憶の仕組み 【到達目標】 (1)記憶のメカニズムについて理解し説明することができる。 (2)系列位置効果を説明することができる。 【授業時間外学習】 記憶の仕組みに関する課題を行う。(4.0hr)			
第2回 認知発達 【到達目標】 (1)認知発達について理解し説明することができる。 (2)ピアジェの発達理論を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 認知発達に関する課題を行う。(4.0hr)				第10回 知識・スキルを獲得する 【到達目標】 (1)記憶や知識の種類やその性質について理解し説明することができる。 (2)問題解決力を高める方法を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 知識・スキルの獲得に関する課題を行う。(4.0hr)			
第3回 対人関係の発達 【到達目標】 (1)対人関係の基礎・愛着形成について理解し説明することができる。 (2)友人関係の特徴や変化について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 対人関係・友人関係に関する課題を行う。(4.0hr)				第11回 個に応じた教育 【到達目標】 (1)個人差に応じた教授法について理解し説明することができる。 (2)教育における期待の効果を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 個に応じた教育に関する課題を行う。(4.0hr)			
第4回 青年期におけるアイデンティティ発達 【到達目標】 (1)エリクソンの発達理論について理解し説明することができる。 (2)青年期におけるアイデンティティ発達について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 青年期におけるアイデンティティ発達に関する課題を行う。(4.0hr)				第12回 授業 【到達目標】 (1)授業のあり方の変化について理解し説明することができる。 (2)教えて考えさせる授業について理解しそれを立案することができる。 【授業時間外学習】 授業のあり方に関する課題を行う。(4.0hr)			
第5回 学習のメカニズム 【到達目標】 (1)古典的条件づけについて理解し説明することができる。 (2)オペラント条件づけ・観察学習について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 学習理論に関する課題を行う。(4.0hr)				第13回 教育評価 【到達目標】 (1)評価の目的・基準について理解し説明することができる。 (2)学力・知能・性格の測定について理解し測定する立場で実際に測定を立案することができる。 削除 【授業時間外学習】 教育評価に関する課題を行う。(4.0hr)			
第6回 内発的動機・外発的動機 【到達目標】 (1)基本的な動機について理解し説明することができる。 (2)内発的動機・外発的動機について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 動機に関する課題を行う。(4.0hr)				第14回 発達障害 【到達目標】 (1)発達障害の分類について理解し説明することができる。 (2)障害特性の理解と支援について理解し対処法を提案できる。 【授業時間外学習】 発達障害の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第7回 動機づけの理論 【到達目標】 (1)内発的動機づけを活用した学習法について具体的に提案することができる。 (2)動機づけの理論について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 動機づけの理論に関する課題を行う。(4.0hr)				第15回 適応支援 【到達目標】 (1)適応支援について理解し説明することができる。 (2)“自己肯定感を育む”ための基本的な対応を説明することができる。 【授業時間外学習】 適応支援に関する課題を行う。(4.0hr)			
第8回 学習動機 【到達目標】 (1)学習動機について理解し説明することができる。 (2)意欲を高める方法について具体的に提案することができる。 【授業時間外学習】 学習動機に関する課題を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなったり、グループワークをおこなう。教員として専門の授業を運営するだけでなく、担任として、部活動の指導者として、教育心理学の知識をどのように活用していくかを常に考えながら受講することが求められる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業動画は授業日の前日に、本学ポータルサイトの Google Drive 上にアップロードし、ポータルサイトから配信する。資料は授業の前日まではPhollyの「参考資料」にアップロードする。資料をプリントアウトし、実際の教室での授業のように、ノートを作ることができる体勢で受講すること。出席は、Phollyの「アンケート課題」の提出によって確認する。次回の授業動画で「アンケート課題」の解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し、自己分析をおこなう。教員として専門の授業を運営するだけでなく、担任として、部活動の指導者として、教育心理学の知識をどのように活用していくかを常に考えながら受講することが求められる。							
【教科書・参考書など】							
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：市川 伸一・著『学習と教育の心理学 増補版（現代心理学入門3）』岩波書店(2011年)、高坂康雅・池田幸恭・三好昭子・編著『レクチャー 青年心理学-学んでほしい、教えてほしい青年心理学の15のテーマ』風間書房							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名		道徳教育の理論と方法				担当者	瀬川大	
英文名		Moral Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科		
履修年次	2		教科科目	教科科目	教科科目			
授業形態	講義	科目ナンバー	STE301・DTE301・HTE301		卒業認定方針との関連	⑨		
【到達目標】								
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることをねらいとする。								
【ルーブリック（学修の到達レベル）】								
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル			
学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性		学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、思春期の特徴を踏まえながら説明することができる。	学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、説明することができる。		学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、説明することができない。			
「特別の教科 道徳」の特徴		「特別の教科 道徳」の特徴について、「道徳の時間」と比較しながら説明することができる。	「特別の教科 道徳」の特徴について、説明することができる。		「特別の教科 道徳」の特徴について、説明することができない。			
学習指導案の作成		授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。	道徳科の学習指導案を作成することができる。		道徳科の学習指導案を作成することができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】								
第1回 はじめに—道徳とは何か				第9回 道徳教育の領域①—主として人と人の関わりに関すること				
【到達目標】 道徳ということばが持つ意味や、他の類似概念との違いなどを、自分なりに理解し、説明することができる。				【到達目標】 道徳科の内容項目を「B.主として人と人の関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。				
【授業時間外学習】 「道徳」や類似概念に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 「B.主として人と人の関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第2回 自らの道徳教育経験を振り返る				第10回 道徳教育の領域②—主として集団や社会とのかかわりに関すること				
【到達目標】 学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。それらをもとに、自分自身が受けてきた道徳教育を意味づけることができる。				【到達目標】 道徳科の内容項目を「C.主として集団や社会との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。				
【授業時間外学習】 学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 「C.主として集団や社会との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第3回 思春期①—その発達課題				第11回 道徳教育の領域③—主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること				
【到達目標】 中学校、高等学校の生徒は思春期を生きていることを理解し、特有の発達課題を考えることができる。				【到達目標】 道徳科の内容項目を「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。				
【授業時間外学習】 思春期における発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第4回 思春期②—仲間集団				第12回 学習指導案の作成				
【到達目標】 思春期における成長には仲間集団の存在が必要であることを理解する。また集団の特徴をとらえることができる。				【到達目標】 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。				
【授業時間外学習】 思春期における仲間集団に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 道徳科の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第5回 学校教育活動全体を通じた道徳教育				第13回 模擬授業と振り返り—読み物教材を用いた授業				
【到達目標】 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。特に本学は体育大学であることから、保健体育科や部活動における道徳教育について自分なりに説明できる。				【到達目標】 読み物教材を用いた模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。				
【授業時間外学習】 学校における教育活動全体を通じた道徳教育に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 読み物教材を用いた道徳科の授業実践に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第6回 道徳教育の歴史				第14回 多様な教材と指導方法				
【到達目標】 道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。				【到達目標】 道徳科には多様な教材や指導方法があることを理解し、それらの特徴を踏まえた授業設計を行うことができる。特に、「考え、議論する道徳」を意識して授業を設計することができる。				
【授業時間外学習】 道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 道徳科の教材や指導方法に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第7回 「特別の教科 道徳」の誕生				第15回 道徳科の学習評価				
【到達目標】 小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から登場した「特別の教科 道徳」について、その特徴と、従来の「道徳の時間」との相違点について説明できる。				【到達目標】 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。				
【授業時間外学習】 「特別の教科 道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 道徳科の学習評価に関連する文献を図書館等で探して読む。教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				
第8回 道徳教育の領域④—主として自分自身に関すること								
【到達目標】 道徳科の内容項目を、4つの視点から理解する。本時では「A.主として自分自身に関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について説明できる。								
【授業時間外学習】 「A.主として自分自身に関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)								
【学習上の留意点】								
【対面授業の場合】 各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。レポート等の提出物については、後の授業回でフィードバックを行う。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。								
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信する資料は、各授業回の学習内容資料、学習内容についての解説資料、補足資料、などである。詳細は説明を確認すること。配信は対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップする。出席は、各授業回に指示する課題の提出によって確認する。								
【教科書・参考書など】 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（最新版）								
【成績評価方法】								
【対面授業の場合】 小レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。								
【オンライン授業の場合】 各授業回の提出課題（45%）、さらに全授業終了時点でまとめのレポート（55%）により評価する。								

科目名	教育の方法と技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）			担当者	須 甲 理 生		
英文名	Methodology of Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の區別	教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE203・DTE203・HTE203		卒業認定方針との関連		⑨
【到達目標】							
本講義では、学習指導要領で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な、教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。具体的には、教育の方法として、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法、学習成果を確実に上げるための基礎的条件と内容的条件、目標に準拠した評価や指導と評価の一体化等に関する学習評価について理解していく。また、教育の技術として、授業中の子供たちに対する相互作用行動（言葉かけ）、学習指導案の作成方法について理解していく。さらに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術の効果的な活用の意義と方法、情報通信技術を活用した学習指導や校務の推進の在り方、子供たちに情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法についても身に付けることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	教育の方法に関する事項	理論を踏まえて、教育の方法について具体的に説明できる。	教育の方法について説明できる。	教育の方法について説明できない。			
	教育の技術に関する事項	理論を踏まえて、教育の技術について具体的に説明できる。	教育の技術について説明できる。	教育の技術について説明できない。			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する事項	理論を踏まえて、情報通信技術の活用について具体的に説明できる。	情報通信技術の活用について説明できる。	情報通信技術の活用について説明できない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 学習指導要領で求められる資質・能力と保健体育科における見方・考え方				第9回 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術の効果的な活用			
【到達目標】 教育方法の基礎的理論と実践について理解すると共に、学習指導要領で求められる資質・能力の各要素と要素間の関係性について保健体育科という教科の特性の視点から理解する。また、保健体育科における見方・考え方について説明できるようにする。 【授業時間外学習】学習指導要領解説における教科の目標とその解説を読んで、資質・能力と見方・考え方についてまとめる。(4.0hr)				【到達目標】 保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術活用の意義と在り方について、具体的な授業事例を通して理解する。また、特別に支援を要する生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点について説明できる。 【授業時間外学習】学習指導案例を基に、目育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について小レポートをまとめる。(4.0hr)			
第2回 授業の基礎的条件と内容的条件				第10回 保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（1）			
【到達目標】 教育方法の基礎的理論である授業の基礎的条件（学習規律の確立等）と内容的条件（目標・内容・教材、教具・方法の一貫性等）について、説明できるようにする。また、学級・生徒・教員・教室・教材・ICTなど授業を構成する基礎的な要件を理解する。 【授業時間外学習】 基礎的条件と内容的条件について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)				【到達目標】 「体育分野」や「科目体育」の実技の授業において、反転学習や授業内で活用できるデジタル教材の作成方法を理解する。また、デジタル教材を作成・活用する際には、運動領域の特性、単元の位置、生徒の実態、育成を目指す資質・能力、学習場面等の要因を複眼的に捉える必要性について理解する。 【授業時間外学習】 具体的な学習場面等を想定した実技授業用のデジタル教材を作成する。(4.0hr)			
第3回 授業における教師の効果的な指導方略と指導技術（1）				第11回 保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（2）			
【到達目標】 教師による発問、肯定的・矯正的な言葉かけ、励まし等の行い方について、授業場면을想定して、具体的な挙げながら説明できるようにする。また、基礎的な板書、掲示物の示し方、ICTを活用したインスタレーションの仕方等の技術を身に付ける。体育授業における四大教師行動について理解する。 【授業時間外学習】 指導技術について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)				【到達目標】 作成した実技授業用のデジタル教材をグループに分かれて発表・討議し、各発表事例から情報通信技術の効果的な活用方法や基礎的な指導法を身に付ける。また、情報活用力（情報モラルを含む）について、保健体育科の実技授業の特性に応じた基礎的な指導法を身に付ける。 【授業時間外学習】 実技授業において情報通信技術を活用する効果的な指導法、情報活用力（情報モラルを含む）を育成するための効果的な指導法について小レポートをまとめる。(4.0hr)			
第4回 授業における教師の効果的な指導方略と指導技術（2）				第12回 保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（3）			
【到達目標】 「デモンストレーション・説明・掲示物・ICTの活用・発問等の言葉かけ・指導内容の単純化やキーワード化、学習形態」等の授業計画段階で設定・選択する指導方略について理解する。 【授業時間外学習】 具体的な授業例を想定した指導技術や指導方略について小レポートをまとめる。(4.0hr)				【到達目標】 「保健分野」、「科目保健」、「体育理論」の座学の授業において、反転学習や授業内で活用できるデジタル教材の作成方法を理解する。また、その際には、単元の特性、単元の位置、生徒の実態、育成を目指す資質・能力、学習場面等の諸要因を複眼的に捉える必要があることについて理解する。 【授業時間外学習】 具体的な学習場面等を想定した座学授業用のデジタル教材を作成する。(4.0hr)			
第5回 授業の目標・指導内容の設定と教材・教具の開発・適用				第13回 保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（4）			
【到達目標】 学習指導要領を踏まえた授業の目標や指導内容の設定、目標の達成や指導内容の習得を促す教材・教具（ICTの活用含む）の開発・適用について、具体例を挙げながら説明できるようにする。また、単元教材と単元教材の関係性と教材配列についても理解する。 【授業時間外学習】 目標・指導内容、教材・教具の設定について具体例を挙げながら小レポートを作成する。(4.0hr)				【到達目標】 作成した座学授業用のデジタル教材をグループに分かれて発表・討議し、各発表事例から情報通信技術の効果的な活用方法や基礎的な指導法を身に付ける。また、情報活用力（情報モラルを含む）について、保健体育科の座学授業の特性に応じた基礎的な指導法を身に付ける。 【授業時間外学習】 座学授業において情報通信技術を活用する効果的な指導法、情報活用力（情報モラルを含む）を育成するための効果的な指導法について小レポートをまとめる。(4.0hr)			
第6回 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現				第14回 情報通信技術に関わる学校内外の環境と教師の働き方の変容（1）			
【到達目標】 主体的・対話的で深い学びとは何か、また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法について、具体的な授業研究の成果や授業映像から理解する。 【授業時間外学習】 主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を作成する。(4.0hr)				【到達目標】 ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方について、事例を通して理解する。また、情報通信技術を指導や学習評価に効果的に活用することで教師の働き方が変容してきていることについて、事例を通して理解する。 【授業時間外学習】 学習評価に活用できる情報通信技術を活用した学習カードを作成する。(4.0hr)			
第7回 学習指導案の作成方法（1）：学習評価の基礎的な考え方				第15回 情報通信技術に関わる学校内外の環境と教師の働き方の変容（2）			
【到達目標】 学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について理解する。また、目標に準拠した評価、指導と評価の一体化、観点別学習状況の評価の考え方について説明できるようにする。目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性を有する授業の設計方法について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について、また、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性につまとめる。(4.0hr)				【到達目標】 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用方法について理解する。また、 総合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進が教師の働き方の変容に及ぼす影響について理解する。 最後に、学校や教員自身の情報セキュリティや生徒に対する情報活用力（情報モラルを含む）を教員横断的に育成していくことの意義や方法について事例を通して理解する。 【授業時間外学習】 上記の授業内容に関するレポートを作成する。			
第8回 学習指導案の作成方法（2）：学習場面に応じた情報通信技術の効果的な活用							
【到達目標】 学習指導案例に基づき、育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について理解する。 【授業時間外学習】 学習指導案例を基に、目育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について小レポートをまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 教育実習において、学校現場の生徒に大きな影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているため、講義内容について集中してノートを取り、予習・復習を行っていくことが必要になる。デジタル教材作成やレポート等の課題、テストにも積極的に取り組むことが大切である。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。その場合においても、対面での授業内容から大幅に変更はしない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。授業動画・資料は、Google Drive上にアップし、そのURLをポータル配信する。出席は、各授業回の出席レポート（授業動画・資料配信日の1週間後までにGoogle Form等に必要事項を記入して送信する）にて確認する。							
【教科書・参考書など】 文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2018年）東山書房 文部科学省『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（2019年）東山書房 岡出美則 他 編著『体育科教育入門 三訂版』大修館書店（2020年）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 デジタル教材や小レポート等の課題（50%）及び試験（50%）にて評価する。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の場合は、各授業回の課題30%、期末のデジタル教材やレポート等の課題70%として評価する。							

科目名	特別支援教育入門				担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Introduction to Special Needs Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教科科目	教科科目	教科科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE204・DTE204・HTE204		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
特別支援教育の入門編として、様々な障害のある子どもとともに、障害はないが特別的教育的ニーズのある子どもも含め、特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別的教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための基礎的知識や支援方法を理解することを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性と心身の発達について		障害の特性と心身の発達について十分理解し、説明できる		障害の特性と心身の発達について理解し、資料を参照しながら説明できる		障害の特性と心身の発達について理解が不十分で、説明できない	
特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育課程や支援の方法について		教育課程や支援方法について十分理解し、的確な説明と実践的思考ができる		教育課程や支援方法について理解し、的確に説明できる		教育課程や支援方法の理解が不十分で、的確に説明できない	
特別的教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上・生活上の困難とその対応について		学習上・生活上の困難とその対応について十分理解し、的確な説明と実践的思考ができる		学習上・生活上の困難とその対応について理解し、的確に説明できる		学習上・生活上の困難とその対応について理解が不十分で、的確に説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 特別支援教育を支える理念				第9回 貧困、虐待、DV、社会的養護等の理解と支援			
【到達目標】 (1)障害の概念、特別支援教育の歴史的変遷について理解する。 (2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。 (3)合理的配慮の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)貧困、虐待、DV、社会的養護等により、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難について理解し、対応のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第2回 視覚・聴覚・言語障害のある子どもの理解と支援				第10回 特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画・支援計画			
【到達目標】 (1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。 (2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)特別支援教育に関する教育課程について理解する。 (2)特別支援教育課程に基づいた、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。 (3)「通級による指導」「自立活動」について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第3回 知的障害のある子どもの理解と支援				第11回 教員間の連携・協働			
【到達目標】 (1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)クラス内の人的配置、学校内の連携体制を理解する。 (2)情報の共有と守秘義務について理解する。 (3)特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第4回 肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児の理解と支援				第12回 家庭への理解と支援			
【到達目標】 (1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (3)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。 (2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。 (3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第5回 発達障害(LD、ADHD)のある子どもの理解と支援				第13回 地域における自治体・関係機関の連携・協働			
【到達目標】 (1)LD・学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)ADHD・注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)障害児支援の制度政策について理解する。 (2)特別支援学校、教育委員会、医療機関等の連携・協働について理解する。 (3)地域における支援の場の広がりとながりを理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第6回 発達障害(ASD)のある子どもの理解と支援				第14回 特別の支援を必要とする子どもの現状と課題(1)保健・医療			
【到達目標】 (1)ASD・自閉症スペクトラム障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				【到達目標】 (1)保健をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。 (2)医療をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第7回 発達障害(DCD)、運動の苦手な子どもの理解と支援				第15回 特別の支援を必要とする子どもの現状と課題(2)福祉・教育			
【到達目標】 (1)DCD・発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)運動の苦手な子どもの発達を支援するための理論と実際を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)				【到達目標】 (1)福祉をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。 (2)教育をめぐる特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第8回 LGBT、母国語の違い等の理解と支援							
【到達目標】 (1)LGBTについて理解し、支援の在り方を説明できる。 (2)母国語の違い等、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上について理解し、対応のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 実際に特別支援学校・特別支援学級の児童とかかわる機会を持ちながら学習し、理論と実際を結び付けて理解を深めていくことを勧める。貧困や虐待問題等、社会の動向にも目を向け、家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など幅広い視点を学習し、自らが主体的に子どもの育ちの支援にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にURLをポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合には出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。 参考書：「教員になりたい学生のためのテキスト特別支援教育」京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床実践センター 監修(クリエイツかもがわ)「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)」(文部科学省 最新版)							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。期末に試験を行う。							
【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	教育社会学			担当者	小堀哲郎		
英文名	Sociology of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE302・DTE302・HTE302	卒業認定方針との関連	⑨		
【到達目標】							
教育や学校に関する事項について社会的な視点で学ぶ科目である。現代社会の状況の変化がもたらす学校教育への影響ならびに、現代の子どもたちの生活の変化に伴って生じる指導上の課題を理解する。また、日本のみならず諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することに加え、近年重要性を増している、学校と地域との連携に関する意義や方法を理解し、学校管理下で生じる事件や事故等に対応するために学校安全に関する基礎的知識を身につけることも目標とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	現代社会の状況の変化ならびに現代の子どもたちの生活の変化がもたらす学校教育への影響	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解し、その対策について考えることができる。	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解することができる。	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解することができない。			
	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解し、今後の教育のありかたについて考えることができる。	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することができる。	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することができない。			
	学校と地域の連携や学校安全	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を備え、実践方法を考えることができる。	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を身につけることができる。	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を身につけることができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 学校を取り巻く状況の変化 【到達目標】 グローバル化・情報化・少子化などの社会の変化に伴う学校のありかたについて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第9回 インターネット社会と若者 【到達目標】 インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第2回 ライフコース 【到達目標】 急速に変化している日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第10回 学習指導要領改訂の理念 【到達目標】 「主体的・対話的で深い学び」を中心に、新しい学習指導要領の理念を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第3回 少子社会の家族と子ども 【到達目標】 少子社会における家族と子どものありようについて、虐待等を事例に理解を深める。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第11回 学び続ける教師 【到達目標】 教員に要求される役割と専門的資質・能力について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第4回 子どもの人間関係 【到達目標】 子どもたちの人間関係の変化について、仲間意識や友だちづくりの点から理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第12回 諸外国の教育事情と教育改革 【到達目標】 アメリカ・イギリス・韓国・フィンランドなどの諸外国の教育事情について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第5回 子どもの学力と体力 【到達目標】 子どもの学力と体力がどのように変化してきているかを理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第13回 学校と地域の連携 【到達目標】 地域との連携による学校教育活動の意義を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第6回 学力と意欲の階層差 【到達目標】 格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第14回 開かれた学校づくりへの課題 【到達目標】 学校と地域の連携や協働による「開かれた学校づくり」の経緯を踏まえ、今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第7回 いじめ・不登校 【到達目標】 教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)				第15回 学校安全への対応 【到達目標】 学校管理下で起こる事件や事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全について理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)			
第8回 資格社会と就職 【到達目標】 日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。 【授業時間外学習】 配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、各回授業日の6時までにGoogle Drive上にアップし、次回授業前日まで掲載する。出席は、各回の授業課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。 参考書等については授業時に紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各回の授業課題（45％）、期末レポート課題（55％）。 【オンライン授業の場合】各回の授業課題（45％）、期末レポート課題（55％）。							

科目名		教育相談		担当者	角田和也		
英文名		Educational Counseling					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE303・DTE303・HTE303		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 本授業では、特に生徒を中心とした子ども発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
教育相談の基本的事項・理論について		基本的事項・理論について理解し自らまとめて説明ができる		基本的事項・理論について理解している		理解が不十分で説明できない	
生徒理解に必要な相談技術とカウンセリングマインドについて		相談技術・カウンセリングマインドについて工夫しながら日常的に活用できる		相談技術・カウンセリングマインドについて理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
教育相談の展開について		既出の知見を基に展開の方法・問題点について自らの意見を示すことができる		展開の方法・問題点について既出の知見を理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション／教育相談とは何？ 【到達目標】 (1)自分の理解している「教育相談」とは何かを説明できる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第9回 生徒理解の方法④ 「話す」ことについて① 【到達目標】 (1)生徒理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。 (2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第2回 教育相談の実践 【到達目標】 (1)教育相談の実践について、正しい認識をもつことができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第10回 生徒理解の方法④ 「話す」ことについて② 【到達目標】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第3回 学校における教育相談の意義 【到達目標】 (1)教員を目指す学生が教育相談を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第11回 生徒理解の方法⑤ 「みる」ことについて① 【到達目標】 (1)生徒理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。 (2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第4回 教育相談の基本的事項① 実践のための基本的な理論・概念① 【到達目標】 (1)教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第12回 生徒理解の方法⑥ 「みる」ことについて② 【到達目標】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第5回 教育相談の基本的事項② 実践のための基本的な理論・概念② 【到達目標】 (1)前回の授業内容を踏まえ、教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第13回 教育相談の展開① 「私」が教育相談を行うために 【到達目標】 (1)テーマに沿って、実際に教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第6回 教育相談の基本的事項③ カウンセリングマインドの必要性 【到達目標】 (1)教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第14回 教育相談の展開② 連携の必要性について 【到達目標】 (1)実際に教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第7回 生徒理解の方法① 「きく」ことについて① 【到達目標】 (1)生徒理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。 (2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				第15回 教育相談の展開③ 組織的な取り組みの必要性について 【到達目標】 (1)教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)			
第8回 生徒理解の方法② 「きく」ことについて② 【到達目標】 (1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけでなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。							
【教科書・参考書など】							
・対面形式で実施する場合は、1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。オンデマンド方式で実施する場合は、あらかじめテキスト（プリント）をオンライン上で配信しますので、プリントアウトをして授業に臨んでください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文庫を示してありますので、そちらも参考にしてください。 ・参考書：文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。							

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	稲垣孝章		
英文名	Special Activities & Integrated Learning						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE304・DTE304・HTE304		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
生徒の全人的成長を促すための教育活動としての特質を有し、キャリア教育の要として教育課程に位置付けられている特別活動について、学級担任・ホームルーム担任として指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解し、望ましい集団・個別指導の在り方を研究するとともに、実践活動を基に特別活動の教育的意義について考える。また、各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく総合的な学習(探究)の時間の教育的意義や特質を踏まえ、実社会・実生活の課題について往還的な探究学習としての学びを実現するため、カリキュラム編成、指導計画の作成等に必要知識・理論及び指導方法を具体的な実践事例を通して理解する。							
【ルーブリック(学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
特別活動における基本的な理論及び具体的な指導方法について		特別活動の理論を理解し、自らまとめて具体的な指導方法を説明できる。		特別活動の理論を参考資料等を活用しながら説明できる。		特別活動の理解が不十分で説明できない。	
総合的な学習(探究)の時間における基本的な理論及び具体的な指導方法について		総合学習の理論を理解し、自らまとめて具体的な指導方法を説明できる。		総合学習の理論を参考資料等を活用しながら説明できる。		総合学習の理解が不十分で説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 特別活動の歴史的な変遷と特別活動の目標				第9回 総合的な学習の時間の創設と目標及び特質			
【到達目標】 教育課程における特別活動の位置付けや特別活動の目標について理解する。また、特別活動の歴史的な変遷を踏まえ、改訂の視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」について理解し、学級経営との関連を踏まえ、レスポンスシートを活用して特別活動を考える。 【授業時間外学習】 学習指導要領解説編を通読し、全体の構成を把握する。(4.0hr)				【到達目標】 生活科と総合的な学習の時間の創設の経緯及び総合的な学習の時間の目標と内容について理解するとともに、横断的・総合的な学習の意義について理解する。また、探究的な学習を推進する教師の在り方についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 出身中学校の総合的な学習の時間のカリキュラムについて調べる。(4.0hr)			
第2回 現代の子供の現状と教育課程における特別活動の役割				第10回 総合的な学習の時間の指導計画の作成と育てたい資質・能力			
【到達目標】 現代の子供の現状を踏まえ、教育課程における特別活動の役割を理解する。また、いじめ問題の現状と課題を把握し、生徒指導との関連を図り、いじめの根絶に向けた特別活動の実践の重要性についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 いじめ問題の現状と課題について検討する。(4.0hr)				【到達目標】 学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、総合的な学習の時間で育てたい資質・能力を踏まえ、具体的な実践上の課題についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 総合的な学習の時間の特質と実施上の課題についてまとめる。(4.0hr)			
第3回 社会の変化と学級活動・ホームルーム活動(1)の目標と内容				第11回 総合的な学習の時間の多様な学習方法と指導計画の作成			
【到達目標】 社会の変化や動向を把握し、学級活動、ホームルーム活動の目標と活動内容について理解する。また、生徒による自発的・自治的な活動の中核となる学級活動(1)の学習過程を具体的な実践例を通してレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 学級活動・ホームルーム活動(1)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)				【到達目標】 総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメントをもとに、全体計画・単元計画の作成について理解するとともに、ジグソー学習法など多様な学習方法と考えるための技法(思考ツール)の具体的な活用方法についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 考えるための技法(思考ツール)の種類と活用方法についてまとめる。(4.0hr)			
第4回 学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と内容				第12回 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の整理			
【到達目標】 生徒指導の機能を具現化する時間である学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と活動内容について理解する。また、具体的な学習過程を踏まえ、集団思考による個人目標の意思決定の望ましい指導方法についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)				【到達目標】 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の視点として、思考力・判断力・表現力と学びに向かう力・人間性等について、具体的な学習過程や能力に分けて捉え、小学校から高等学校までの系統的な学びをレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力についてまとめる。(4.0hr)			
第5回 学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と内容				第13回 総合的な学習の時間の授業づくりのポイント			
【到達目標】 キャリア形成と自己実現を特質とする学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と活動内容について理解する。また、具体的な学習過程を踏まえ、なりたい自分に向けた指導方法とキャリアパスポートの活用についてレスポンスシートを用いて理解する。 【授業時間外学習】 学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)				【到達目標】 総合的な学習の時間の探究課題における生徒の興味・関心に基づく課題をもとに、授業づくりのポイントを理解するとともに、属性変換法やパネルディスカッションなどの多様な学習形態についてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 総合的な学習の時間における多様な学習方法についてまとめる。(4.0hr)			
第6回 児童会・生徒会活動、クラブ活動(小学校のみ)の特質と学級担任の役割				第14回 総合的な学習の時間と社会に開かれた教育課程の実現			
【到達目標】 生徒会活動の目標と内容について理解するとともに、系統的な指導として児童会活動の目標と内容及び小学校のクラブ活動についても理解する。また、生徒会活動の具体的な実践事例をもとに集団活動における合意形成などについてレスポンスシートを活用して理解する。 【授業時間外学習】 生徒総会の指導計画を立案する。(4.0hr)				【到達目標】 総合的な学習の時間の探究課題における地域や学校の特色に応じた課題に基づく課題をもとに、適切な指導計画の作成について理解するとともに、「社会に開かれた教育課程の実現」を目指した特色ある実践事例をレスポンスシートを活用して検討する。 【授業時間外学習】 地域との連携を踏まえた総合的な学習の時間指導計画について確認する。(4.0hr)			
第7回 学校行事の目標と内容(儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事)				第15回 総合的な学習の時間の学習効果を高める教師の在り方			
【到達目標】 五つの学校行事の目標と内容について理解するとともに、特に健康安全・体育的指導について、運動会・体育祭の指導計画の実例を検討し、よりよい指導計画の在り方などについてレスポンスシートを活用して具体的に理解する。 【授業時間外学習】 体育祭の指導計画を立案する。(4.0hr)				【到達目標】 生徒の探究学習を推進し、自己の生き方につながる総合的な学習の時間の学習活動を展開するために求められる教師の在り方についての理解を深めるとともに、改めて教育課程における総合的な学習の時間の教育的意義についてレスポンスシートを活用して確認する。 【授業時間外学習】 改めて学習指導要領解説編を読み、課題にそって自分の理解をまとめる。(4.0hr)			
第8回 学校行事の目標と内容(旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事)							
【到達目標】 旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事について理解するとともに、中学校における修学旅行の実例について検討し、望ましい集団活動の在り方についてレスポンスシートを活用して考える。また、修学旅行の指導計画を立案する。 【授業時間外学習】 修学旅行の指導計画を立案する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 特別活動と総合的な学習(探究)の時間が学校教育で教育課程に位置付く役割は大きい。授業では、パワーポイントを用いて授業内容の要点や学習指導要領の内容を示しながら、具体的な事例をもとに理解を深めていく。教職科目の授業として、教師の指導計画、指導方法、評価等の教育指導における実践力を身に付けるため、教育実践へのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように積極的な学習参加に努めること。学習指導要領の解説書をよく読み込むとともに、教師としての業務など実践事例を踏まえ、レスポンスシートを通して、実践的な指導力を身につけてもらいたい。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業となった場合は、毎回のレポート提出を行うことを基本とし、具体的な内容についてはその都度指示する。							
【教科書・参考書など】							
「1年間で学級・学校経営が劇的に変わる教師の一般教養」稲垣孝章著(文溪堂・定価1,500+税)を教科書とし、パワーポイントの資料などを使用する。なお、文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』(各最新版)を参考資料とする。							
【成績評価方法】							
【対面授業・オンライン授業共通】 毎回のレスポンスカードの提出を75%(各回5点満点で評価×1.5回)と確認レポート作成25%(100点満点を25点に換算)で評価する。							

科目名	生徒指導法(進路指導を含む)			担当者	三好昭子		
英文名	Guidance Services in School (Career Counseling)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	講義	科目ナンバー	STE305・DTE305・HTE305	卒業認定方針との関連	⑨		
【到達目標】							
生徒指導・進路指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導・進路指導上の重要な課題であり、児童生徒の将来、すなわち生き方やキャリア形成につながっていく。本講義は、生徒指導・進路指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深め実践できるようになることを目的とする。生徒指導・進路指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。							
【ルーブリック(学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
生徒指導・進路指導の基本的な内容について		自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
今後も継続的に自己研鑽を積むための基礎知識		自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
今日的な課題に対する対応について		自ら考え対応を提案できる。	ノートや参考書を参考にすれば自分で対応を考え提案できる。	課題に対する理解が不十分で対応を検討・提案できない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 生徒指導の目的と必要性(意義) 【到達目標】 (1)生徒指導の目的とその必要性(意義)について理解し説明することができる。 (2)教育課程における生徒指導の位置付けを理解し説明することができる。 (3)各教科や特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 生徒指導の目的と必要性(意義)についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第9回 専門家や関係機関との連携 【到達目標】 (1)生徒指導における校内の連携について理解し説明することができる。 (2)生徒指導における外部機関との連携について理解し説明することができる。 (3)生徒指導における専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。 【授業時間外学習】 専門家や関係機関との連携について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第2回 学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組 【到達目標】 (1)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解し説明することができる。 (2)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組を通してのアイデンティティ形成について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第10回 非行・性非行・暴力行為 【到達目標】 (1)喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解し説明することができる。 (2)非行・性非行・暴力行為の背景について理解し説明することができる。 (3)非行・性非行・暴力行為への対応の基本について理解し実際に提案することができる。 【授業時間外学習】 非行・性非行・暴力行為について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第3回 基本的信頼感の発達 【到達目標】 (1)基本的信頼感の発達について理解し説明することができる。 (2)愛の本質的特徴である無条件性と相互性について理解し説明することができる。 (3)「人格を尊重する」ということを理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 基本的信頼感の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第11回 いじめ(インターネット含む)・不登校 【到達目標】 (1)いじめ(インターネット含む)の実態、要因について理解し説明することができる。 (2)いじめ防止対策推進法について理解し説明することができる。 (3)不登校の実態・要因、およびその対応について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 いじめ(インターネット含む)・不登校について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第4回 自律性の発達 【到達目標】 (1)自律性の発達について理解し説明することができる。 (2)基礎的な生活習慣の確立のための日々の生徒指導の在り方を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 自律性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第12回 生徒指導に関する法令 【到達目標】 (1)校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解し説明することができる。 (2)児童虐待への対応を理解し実際に提案することができる。 【授業時間外学習】 生徒指導に関する法令や児童虐待について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第5回 主導性の発達 【到達目標】 (1)主導性の発達と役割実験について理解し説明することができる。 (2)規範意識醸成のための日々の生徒指導の在り方を理解し実際に提案することができる。 【授業時間外学習】 主導性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第13回 進路指導・キャリア教育の意義と原理 【到達目標】 (1)教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し説明することができる。 (2)学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点の在り方を例示することができる。 (3)進路指導における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 進路指導・キャリア教育の意義と原理について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第6回 否定的アイデンティティ「どうせ私は～」の心理 【到達目標】 (1)否定的アイデンティティについて理解し説明することができる。 (2)児童生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。 【授業時間外学習】 否定的アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)				第14回 全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法 【到達目標】 (1)職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解し説明することができる。 (2)ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解し説明することができる。 【授業時間外学習】全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第7回 生産性の発達と進路への自覚 【到達目標】 (1)生産性と劣等感について理解し説明することができる。 (2)自己効力感について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 生産性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)				第15回 個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法 【到達目標】 (1)生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し説明することができる。 (2)ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。 (3)キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明し、提案することができる。 【授業時間外学習】個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)			
第8回 集団指導・個別指導 【到達目標】 (1)集団指導について理解し説明することができる。 (2)個別指導について理解し説明することができる。 (3)生徒指導体制と教育相談体制について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 集団指導と個別指導について理解を深める課題を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなったり、グループワークをおこなう。生徒指導に関しては教員としてのあり方というよりも、もっと根本的な、人としてのあり方が問われるため、自分に真摯に向き合い、常に自己研鑽につながるよう受講することが求められる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業動画は授業日の前日に、本学ポータルサイトの Google Drive 上にアップロードし、ポータルサイトから配信する。資料は授業の前日まではPhollyの「参考資料」にアップロードする。資料をプリントアウトし、実際の教室での授業のように、ノートを作ることができる体勢で受講すること。出席は、Phollyの「アンケート課題」の提出によって確認する。次回の授業動画で「アンケート課題」の解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し、自己分析をおこなう。生徒指導に関しては教員としてのあり方というよりも、もっと根本的な、人としてのあり方が問われるため、自分に真摯に向き合い、常に自己研鑽につながるよう受講することが求められる。							
【教科書・参考書など】							
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：日本青年心理学会企画『君の悩みに答えよう：青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント』 『心のなかはどうなっているの？ 高校生の「なぜ」に答える心理学』福村出版 文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』(最新版)、文部科学省『生徒指導提要』(最新版)							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果(試験は試験期間中に別途実施)を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	須甲 理生・大塚 雅一・小堀 哲郎・助友 裕子 高橋 修一・宮本 乙女・瀬川 大・高野美和子		
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4	／選択の別	教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	演習	科目ナンバー	STE401・DTE401・HTE401	卒業認定方針との関連		⑨	
【到達目標】 この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
教職課程における学修の省察に関する事項		教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を的確に説明することができる。		教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を説明することができる。		自身の教員としての課題を説明することができない。	
学習指導及び学級経営に関する事項		教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に効果的に応用することができる。		教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することができる。		教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することができない。	
教職への意識と目指すべき教師像に関する事項		教職への意識を高め、「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、明確な目指すべき教師像を確立することができる。		「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、目指すべき教師像を確立することができる。		目指すべき教師像を確立することができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認 【到達目標】 教科指導、生徒指導、特別活動、部活動指導等の視点から教育実習について振り返ることができる。 【授業時間外学習】 教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。(4.0hr)				第9回 教科外における生徒指導について「学校生活改善プロジェクト」の実践② 【到達目標】 プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 プロジェクトを継続して行い、問題点を記録しておく。(4.0hr)			
第2回 保健体育科教員の使命と責任（講話） 【到達目標】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解する。 【授業時間外学習】 今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。(4.0hr)				第10回 特別活動・部活動指導から学んだこと 【到達目標】 部活動指導に関する事例に基づきグループ討論を行う。上記の活動を通して、効果的な部活動指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。(4.0hr)			
第3回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）① 【到達目標】 保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、体育授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)				第11回 自己の学修課題の確認と研究活動 【到達目標】 第3回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補充に向けて各自研究活動を進める。この活動を通して、自身の教員としての課題を理解する。 【授業時間外学習】 これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。(4.0hr)			
第4回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）② 【到達目標】 保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、保健授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。 【授業時間外学習】 保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)				第12回 教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話） 【到達目標】 現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められる教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。 【授業時間外学習】 教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。(4.0hr)			
第5回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③ 【到達目標】 保健体育科の年間指導計画の事例検討を通して、年間指導計画作成上の留意点を理解する。 【授業時間外学習】 保健体育科の年間指導計画を作成する。(4.0hr)				第13回 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話） 【到達目標】 現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。 【授業時間外学習】 教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。(4.0hr)			
第6回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）④ 【到達目標】 教育実習における研究授業の指導案分析を通して、改善点を適切に抽出し、適切な評価規準を設定し直すことができる。 【授業時間外学習】 学習指導案の改善点の抽出、評価規準の設定を行う。(4.0hr)				第14回 各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価 【到達目標】 第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。この活動を通して、自身の教員としての課題点を補うための学びの視点を深めることができる。 【授業時間外学習】 各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。(4.0hr)			
第7回 授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）⑤ 【到達目標】 教科指導におけるICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びを取り入れる方法について理解する。 【授業時間外学習】 ICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びの具体例について検討する。(4.0hr)				第15回 魅力ある教員をめざして一まとめレポートの作成と意見交換ー 【到達目標】 教員としての資質能力（技術・知識・教職の適性）を確認し、学び続ける教員像に向けた今後の教員としての成長課題を理解する。 【授業時間外学習】 教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。(4.0hr)			
第8回 教科外における生徒指導について「学校生活改善プロジェクト」の実践① 【到達目標】 あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでいく内容を決定する。上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。 【授業時間外学習】 各自プロジェクト内容を考案して行く。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 夏季休業期間中に、6月に行った教育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。なお、教職実践演習は、グループでのディスカッション、ポスター作成、事例研究等のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業スタイルで進められる。そのため、受講生には、主体的に学修に取り組む態度が求められる。また、授業の中、あるいは、課題として作成される学習指導案、ポスター、事例研究のディスカッション内容等については、担当教員から適宜フィードバックされる。 対面方式で授業が実施できない場合には、第1、7、8、9、10、11、14回の授業回についてはリアルタイム型のメディアを活用した授業方式で実施する。その他の授業回については、オンデマンド方式の授業形態で実施する。その場合においても、対面での授業内容から大幅に変更はしない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。授業動画・資料は、Google Drive上にアップし、そのURLをポータル配信する。出席は、各授業回の出席レポート（授業動画・資料配信日の1週間後までにGoogle Form等に必要事項を記入して送信する）にて確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】 高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習をふまえて自己課題を明確にし、教員としての専門性と学級経営等について理解できるように演習を行う。							
【教科書・参考書など】 テキスト：学習指導要領、「体育教育学入門 三訂版」（大修館）、中・高体育科教育法（建邦社）、体育授業の副読本 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 / 【オンライン授業の場合】 対面・オンラインいずれの場合においても成績評価方法に変更はない。各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第2回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%） 本授業の欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教職実践演習」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・修学担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出すると共に、後日、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとみなす。							

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	須甲 理生・大塚 雅一・小堀 哲郎・高橋 修一 宮本 乙女・瀬川 大・高野美和子・湯澤 芳貴		
英文名	Teaching Practice						
単位数	5	科目区分・必修 ／ 選択の別	スポーツ学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目		
授業形態	実習	科目ナンバー	STE402・DTE402・HTE402		卒業認定方針との関連	⑨	
【到達目標】							
「教育実習」は、大学内で行う「事前・事後指導」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「事前・事後指導」は2年次後期から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力を向上させていくことを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	事前指導・事後指導に関する事項	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。また、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることができず、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察することができない。			
	教育実習校の理解に関する事項	生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた具体的な学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。	生徒や学習環境等に対して観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。	教育実習校の学校経営及び教育活動の特色について理解することができない。			
	学習指導及び学級経営に関する事項	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で効果的に実践することができる。	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができる。	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができない。			
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 教員養成と免許法について、授業日程、介護体験について（2年次）				第9回 授業研究5（模擬授業の実践3）			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。 (2)学び続ける教員像について理解できる。				(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
自身の目指すべき教員像について考察する。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第2回 本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次）				第10回 授業研究6（模擬授業の実践4）			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。				(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
本学の教員養成の特色について復習する。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第3回 保健体育教師の使命、内諾手続きについて				第11回 授業研究7（模擬授業の実践5）			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)保健体育教師の使命について理解する。 (2)正式な内諾手続きについて理解する。				(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第4回 4年生の教育実習体験報告				第12回 外部講師による講話（中学校教員）			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。				(1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第5回 授業研究1（模擬授業の意義と進め方について）				第13回 外部講師による講話（高等学校教員）			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)模擬授業の意義と進め方について理解する。 (2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。 (3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。				(1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育科教員としての在り方を理解する。 (2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。 (3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第6回 授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得）				第14回 教育実習直前の諸注意			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。				(1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。				【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。			
第7回 授業研究3（模擬授業の実践1）				《教育実習校実習 3週間》			
【到達目標】				これまでの教職課程や事前指導で身に付けた力量を教育実習で発揮し、実践と省察の往還を通して、教員としての実践的力を身に付けることができる。			
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。							
【授業時間外学習】							
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。							
第8回 授業研究4（模擬授業の実践2）				第15回 教育実習の報告会			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。 (2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。 (3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。 【授業時間外学習】教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。				(1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。 上記の活動を通して、自身の教育実習の成果と課題を理解する。 【授業時間外学習】 教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。			
【授業時間外学習】				【授業時間外学習】			
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。				教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。			
【学習上の留意点】							
教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次後期から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で臨んで欲しい。なお、本授業の第6回～11回については、模擬授業設計・実施・省察のサイクルをグループで行っていく。教育実習において主体的・対話的で深い学びを実現するための手続きについて、受講生自ら対話的な学びを通して学んでいくため、積極的な態度で授業に臨むこと。また、グループで作成する学習指導案や個人で作成する模擬授業の振り返りシートについては、提出後、担当教員からフィードバックされる。対面方式で授業が実施できない場合には、第1回～5回、第12～14回の計8回についてはオンデマンド方式の授業形態で実施する。その場合においても、対面での授業内容から大幅に変更はしない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。授業動画・資料は、Google Drive上にアップし、そのURLをポータル配信する。出席は、各授業回の出席レポート（授業動画・資料配信日の1週間後までにGoogle Form等に必要事項を記入して送信する）にて確認する。また、対面方式で授業ができない場合、第6～11回、第15回については、リアルタイム型のメディアを活用した授業方式で実施する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習に関する個別の事前・事後指導および実習校巡回指導を行う。							
【教科書・参考書など】							
「教育実習の手引き」 白旗和也他編著「中学校・高等学校 体育科教育法」建帛社（2021年）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】／【オンライン授業の場合】対面・オンラインいずれの場合においても成績評価方法に変更はない。「事前・事後指導」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。 本授業における事前・事後指導の中での欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教育実習（事前・事後指導を含む）」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・学修担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出する必要がある。また、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとしてみなす。							